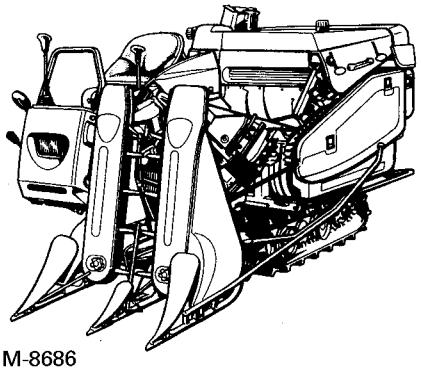
クボタコンバイン

取扱説明書

スカイロード ジョイカム

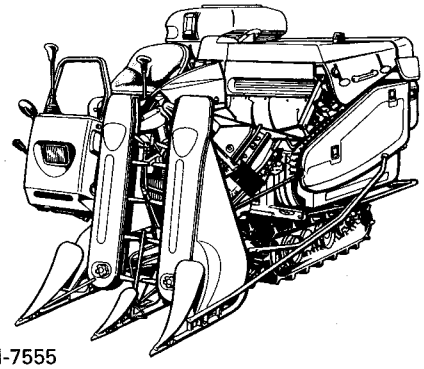
ジョイカム Jr.

SR-J1



M-8686

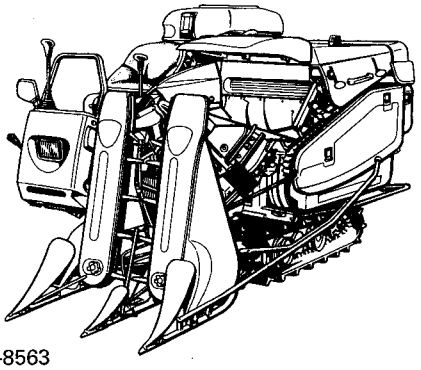
SR-J2・J3・J4・J5・R216s



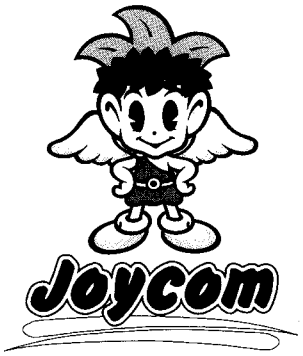
M-7555

ジョイカム キャプテン

SR-J6



M-8563



ご使用前に必ずお読みください
いつまでも大切に保管してください

操作装置のシンボルマーク

運転操作及び保守管理のために，操作装置のシンボルマークが使用されています。シンボルマークの意味は下記のとおりですのでよく理解して戴き誤操作のないようご注意ください。

ホーン

エンジン回転数低速

エンジン回転数高速

ウインカランプの
操作方向

ヘッドランプ

ヘッドランプと作業灯

ウインカランプの作動を
点滅で示す案内ランプ

エンジン停止

燃料

専門用語の説明

- パワーステアリングレバー …… 油圧式の操向操作レバーと刈取部昇降レバー
- デバイダ …… こくかんを分けすくい上げる部分
- ドレーン(プラグ) …… エンジンオイル・トランスミッションオイルの排油栓，ラジエータの水を抜く栓
- スローブローヒューズ …… バッテリ近くに設けたメイン回路保護のためのヒューズ
- ホッパ …… 精選されたこく粒を袋詰めするまで一時貯蔵するもみタンク
- １番スクリュ …… 精選されたこく粒を横搬送するスクリュコンベア
- ２番スクリュ …… 粗選されたこく粒やわらくずを横搬送するスクリュコンベア
- チャフシーブ(選別板) …… こく粒を粗選する桟状の板
- トウミ …… 選別風を発生させるファン
- こぎ胴 …… 脱こくするドラム
- フィードチェーン …… 稲を狭持搬送するチェーンコンベア
- 縦スクリュ …… 精選されたこく粒を縦搬送するスクリュコンベア
- こぎ胴オープン …… こぎ胴を上に上げる機構
- 揺動板(シーブケース) …… 揺動運動してこく粒を選別する装置

はじめに

このたびはクボタ製品をお買上げいただきありがとうございました。
この取扱説明書は本製品の正しい取扱い方法，簡単な点検及び手入れについて説明しています。ご使用前によくお読みいただいてじゅうぶん理解され，お買上げの製品がすぐれた性能を発揮し，かつ安全で快適な作業をするためこの冊子をご活用ください。
また，お読みになったあとも製品に近接して保存し，わからないことがあったときには取出してお読みください。なお，品質・性能向上あるいは安全上，使用部品の変更を行なうことがあります。その際には，お買上げの製品とこの説明書の内容が一致しない場合がありますので，あらかじめご了承ください。

⚠ 安全第一

本書に記載した注意事項や機械に貼られた⚠の表示があるラベルは，人身事故の危険が考えられる重要な項目です。よく読んで必ず守ってください。
なお，⚠表示ラベルが汚損したり，はがれた場合はお買上げの販売店に注文し，必ず所定の位置に貼ってください。

5H235-8542-5

■注意表示について

本取扱説明書では，特に重要と考えられる取扱い上の注意事項について，次のように表示しています。

⚠ **危険**：注意事項を守らないと，死亡又は重傷を負うことになるものを示します。

⚠ **警告**：注意事項を守らないと，死亡又は重傷を負う危険性があるものを示します。

⚠ **注意**：注意事項を守らないと，ケガを負うおそれのあるものを示します。

重要：注意事項を守らないと，機械の損傷や故障のおそれのあるものを示します。

補足：その他，使用上役立つ補足説明を示します。

本製品の使用目的について

本製品は，稲・麦の刈取・収穫用の作業機としてご使用ください。
使用目的以外の作業や改造はしないでください。
使用目的以外の作業や改造をした場合は，保証の対象になりませんのでご注意ください。（詳細は保証書をご覧ください。）

仕様について

この取扱説明書では，仕様の異なる製品を下記のように表示していますので，お買上げの製品の仕様をお確かめのうえ，お間違いのないようお願いいたします。

なお，説明は**“SR-J5HDLW仕様”**を基本とし，**“SR-J5HDLW仕様”**と取扱いが異なる場合はそのつど追加説明してあります。従って，機種及び仕様区分によっては付いていない装置の説明もあります。

【例】　SR- J5 HD LW N

①　②　③　④

①エンジン出力(PS)によって …
- “SR-J1” “SR-J2”
- “SR-J3” “SR-J4”
- “SR-J5” “SR-J6”

②諸装置の仕様によって ……（別表参照）

- SR-J1
  - “K仕様”（スタンダード）
- SR-J2
  - “K仕様”（スタンダード）
  - “D仕様”（デラックス）
- SR-J3 / SR-J4 / SR-J5 / SR-J6
  - “D仕様”（デラックス）
  - “HD仕様”（ハイデラックス）

諸装置＼仕様		J1	J2		J3·J4·J5		J3·J5	J6	
		K	K	D	D	HD	SLW	D	HD
自動化装置	自動こぎ深さ制御	○	○	○	○	○	○	○	○
	自動方向制御	—	—	○	—	○	—	—	○
	自動エンジン停止	○	○	○	○	○	○	○	○
スライドヘッダ(電動)〔刈取スライド装置〕		—	—	—	○	○	○	○	○
集中注油装置(手動)		—	—	—	○	○	○	○	○
防じんカバー		—	—	—	—	—	—	○	○

③クローラによって
- ●標準クローラ …… 表示なし
- ●330ワイドクローラ …… “W仕様”
- ●330ロングワイドクローラ …… “LW仕様”
- ●400超ロングワイドクローラ … “LW２仕様”
- ●400スーパーワイドクローラ … “SLW仕様”

④結束機搭載仕様
（この仕様以外は結束機を装着できません。）

コンバインを安全にしかも上手にご使用していただくため，この取扱説明書は次の手順で構成されていますので，基本操作から刈取作業まで順番に理解体得してください。

まずは安全確保をしましょう

1．⚠**安全作業をするために：**安全作業をしていただくために基本的注意事項や警告ラベル・注意ラベルの機械への貼付け位置と警告・注意事項を解説していますのでよく読んで理解し，必ず守ってください。

動かす前に走行装置を理解しましょう

2．**走行装置の名称と取扱い：**走行装置のはたらきをまず理解し，基本操作を体得してください。

作業装置でコンバインの性能を最大に発揮させましょう

3．**作業装置の名称と取扱い：**作業装置のはたらきと基本操作を体得してください。

動かす前に機械の健康診断をしましょう

4．**運転前の点検：**作業中のトラブル防止のため，毎作業前の点検内容を理解し，必ず実施してください。

エンジンの安全基本操作・コンバインの安全走行のための基本操作を体得しましょう

5．**移動走行と輸送：**

(1)機体の急発進を防止するため，エンジンの始動と停止の手順を体得してください。

(2)機体の前・後進や停車の基本操作を体得してください。

(3)コンバインをほ場へ安全に移動させるため，安全装置の取付けや各装置の脱着や固定作業，トラックへの安全な積込み・積降しと輸送方法を理解し，必ず守ってください。

では実際にほ場で刈取作業を始めてみましょう

6．**収穫作業のしかた：**作業前の各装置の取付け，作物とほ場条件に合わせた調整，安全で正しい刈取り作業を体得してください。

良く働いた機械をいたわりましょう

7．**メンテナンス：**機械を長持ちさせるために，刈取りシーズン前・後及び長期格納時の注意事項や定期点検の要領を理解・実施し，来シーズンに備えてください。

コンバインがもしもの不調のときは

8．**コンバインの不調と処置：**異常や故障かな？と思われたとき，現象に応じて，処置をしてください。

目　次

⚠安全に作業するために … ⚠-1

1. 安全作業するための注意事項 … ⚠-1
2. 安全作業するための
⚠表示ラベル …… ⚠-18
3. ⚠表示ラベルの手入れ …… ⚠-25

サービスと保証について …… 1
ご相談窓口 …… 1
補修用部品の供給年限について …… 1

小型特殊自動車について …… 3
小型特殊自動車取得の届出と
標識(ナンバプレート)の取付け …… 3
運転免許証の携帯 …… 3

走行装置の名称と取扱い …… 4
機体方向説明と走行装置の名称 …… 4
各部の名称とはたらき …… 6
メインスイッチ …… 6
アクセルレバー …… 6
非常エンジン停止レバー …… 7
主変速レバー …… 7
副変速レバー …… 7
ブレーキペダル …… 8
駐車ブレーキレバー …… 8
パワーステアリングレバー …… 8
刈取下降ロックレバー …… 8
高速後進ロックつまみ …… 9
運転席(シート) …… 9
メータユニット …… 9
コンビネーションスイッチ …… 10

作業装置の名称と取扱い …… 11
作業装置の名称 …… 11
各部の名称とはたらき …… 13
自動方向制御装置
【J2D，J3・J4・J5・J6各HD仕様】 … 13
刈取クラッチレバー …… 14
刈取変速レバー**【J4・J5・J6】** …… 14
刈取スライドスイッチ
【J3・J4・J5・J6・R216S】 …… 14
自動こぎ深さ制御装置 …… 15
脱こくクラッチレバー …… 16
エンジン停止スイッチ …… 16
メータユニット …… 16

運転前の点検 …… 17
日常点検項目 …… 18

移動走行と輸送 …… 19
新車時の扱いかた …… 19
ならし運転について …… 19
エンジンの始動と停止のしかた …… 19
始動のしかた …… 19
停止のしかた …… 21
移動走行について …… 22
走行前の準備 …… 22
発進のしかた …… 24
旋回のしかた …… 25
停車のしかた …… 25
道路走行について …… 26
輸送について …… 26
トラックとあゆみ板の準備 …… 26
コンバインの準備 …… 26
コンバインの積込み・積降しのしかた 27
トラック上での処置 …… 28

収穫作業のしかた …… 29
作物とほ場の条件 …… 29
作物の条件 …… 29
ほ場の条件 …… 29
ほ場の準備 …… 30
ほ場の準備 …… 30
コンバインの準備 …… 30
準備のしかた …… 30
刈取作業のしかた …… 32
ほ場の出入りのしかた …… 32
刈取作業の手順 …… 33
ほ場の刈りかたと旋回のしかた …… 35

刈取スライドの使いかた
【J3・J4・J5・J6・R216S】…… 38
湿田作業のしかた …… 39
作物に合わせた変速の選びかた …… 39
もみの排出のしかた …… 40
手刈り(枕刈り)脱こくのしかた …… 42
作業に合わせた各部の調節のしかた … 43
メータユニットによる異常と処置 …… 47

メンテナンス …… 49
各部のオープン(開閉)と脱着のしかた … 49
エンジンルームオープン …… 49
こぎ胴オープン …… 50
カッタオープン …… 51
シーブケースの脱着 …… 52
受あみの脱着 …… 54
各部の掃除と注油のしかた …… 55
掃除のしかた …… 55
注油のしかた …… 58
定期点検 …… 60
オイル・フィルタ類の交換とチェーン・ベルト・クローラの張り調整 …… 60
使用済廃棄物の処分について …… 60
使用者が行なってはいけない修理 …… 60
定期点検一覧表 …… 61
給・注油(水)点検一覧表 …… 64
燃料・オイル・グリースの点検・補給・交換 …… 65
ラジエータ冷却水の点検・交換 …… 68
エアクリーナの点検・掃除・交換 …… 69
ファン駆動ベルトの点検・調整・交換 …… 70
パイプ・ホース類の点検・交換 …… 70
防じんあみ，ラジエータフィンの掃除 …… 71
フューエルフィルタアッシの交換 …… 72
エンジンオイルフィルタカートリッジの交換 …… 72
ミッションオイルフィルタの交換 …… 73
各部ワイヤの点検・調整 …… 73
各部ベルトの点検・調整 …… 75
各部チェーンの点検・調整 …… 79
刈刃の点検・調整 …… 81
わら切刃の点検・交換 …… 83
カッタ部の点検・調整・交換 …… 85
バッテリの点検・交換 …… 88
電気配線とヒューズの点検・交換 …… 91
ランプ(電球)の点検・交換 …… 92
反射器の点検・交換 …… 92
パッカのトルクリミッタの調整 …… 92
刈取スライドの点検・注油
【J3・J4・J5・J6・R216S】…… 93
スライドガイドの点検・注油
【J2・J3・J4・J5・J6・R216S】… 93
クローラの点検・調整 …… 93
吐出口ブーツの点検・交換 …… 94
刈取作業の手入れ …… 95
毎日の作業後 …… 95
長期格納時 …… 95

コンバインの不調と処置 …… 97

付表 …… 104
主要諸元 …… 104
付属部品 …… 116
オプション(別売品) …… 117
消耗部品 …… 118
クボタ純オイル …… 126

⚠ 安全に作業するために

必ず読んで
ください。

この黄色ページは，安全に作業していただくため，ぜひ守っていただきたい注意事項と⚠表示ラベルの内容・貼付位置を記載しています。また，本文中でも取扱い上の注意事項をそのつど⚠危険・⚠警告・⚠注意・重要・補足 として取上げていますので本機をご使用になる前に，これらの注意事項をよく読んで理解してください。

目　　次

1．安全作業するための注意事項

ページ

◆一般的な注意事項 …… ⚠-2 ～ ⚠-3

◆作業前の注意事項 …… ⚠-4 ～ ⚠-5

◆移動走行・ほ場の出入り・駐車時の注意事項 …… ⚠-6 ～ ⚠-7

◆作業時の注意事項 …… ⚠-8 ～ ⚠-9

◆作業後・格納時の注意事項 …… ⚠-10 ～ ⚠-11

◆点検整備時の注意事項 …… ⚠-12 ～ ⚠-15

◆運搬時の注意事項 …… ⚠-16 ～ ⚠-17

2．安全作業するための⚠表示ラベル

◆⚠表示ラベルの内容・貼付位置 …… ⚠-18 ～ ⚠-24

◆⚠表示ラベルの手入れ …… ⚠-25

⚠ 安全に作業するために

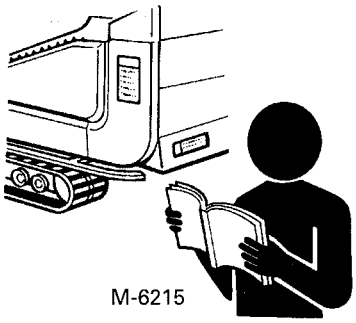
1．安全作業するための注意事項

◆一般的な注意事項

⚠取扱説明書及び機械に貼付けている⚠表示ラベルをよく読み，正しい運転，作業方法を覚える。

●本書記載事項以外についても，安全には細心の注意を払ってください。

【守らないと】
死亡又は傷害を負うおそれがあります。


M-6215

⚠体の状態が悪いときには運転操作をしない。

●運転操作には的確な判断が必要です。下記状態の方は，機械の運転操作を行わないでください。

- お酒を飲んでる方
- 睡眠不足の方
- 妊娠中のご婦人
- 過労，病気の方
- 16歳未満の方

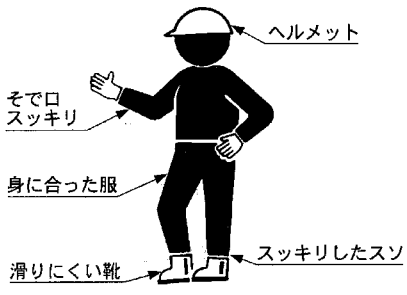
【守らないと】
思わぬ事故の原因になります。

M-6216

⚠運転者，補助者とも作業に適した服を着用する。

●だぶついた服は着用しない。
●そで口はきっちりと止める。
●はち巻き，首巻き，腰タオルは着用しない。
●サンダル，スリッパなどの履物は着用しない。

【守らないと】
レバーや作動部に引っかかったり，滑ったりして，傷害を負うおそれがあります。



M-6219

⚠取扱説明書及び⚠表示ラベルの内容が理解できない人や子供には絶対運転させない。

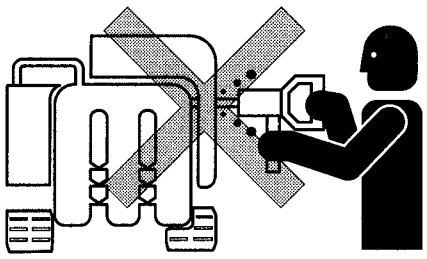
●機械を他人に貸すとき，運転させるときは，取扱説明書を読ませるとともに，取扱方法や安全な使いかたを説明して，安全な作業ができるよう指導する。

【守らないと】
死亡又は傷害をまねくおそれがあります。

F-8822

⚠機械を改造しない。

【守らないと】
安全性をそこない，思わぬ事故の原因になります。


M-8657

⚠運転者以外は機械に乗らない。

- 動いている機械に飛び乗ったり，飛び降りたりしない。

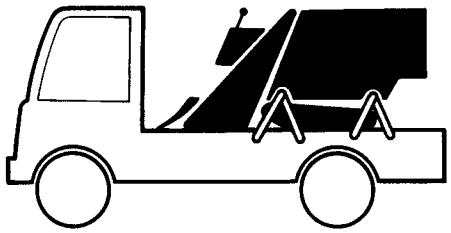
【守らないと】
振り落とされたり，ひかれたりして，死亡又は傷害を負うおそれがあります。

M-6231

⚠公道を走行するときは交通法規や安全ルールを守る。

- 公道を走行する場合は，所定の手続きと運転免許証が必要です。
- 公道を走行できない機械は，トラックで運搬する。

【守らないと】
交通事故をまねき，死亡又は傷害を負うおそれがあります。


M-6218

⚠夜間の作業や移動走行は避ける。

- やむをえず夜間作業を行なうときは，ヘッドランプや作業灯を必ず点灯する。
- やむをえず夜間に移動走行するときは，必ずヘッドランプを点灯し，作業灯は消灯させる。

【守らないと】
交通事故や転倒・転落をまねき，死亡又は傷害を負うおそれがあります。

M-8658

▲ 安全に作業するために

◆作業前の注意事項

▲屋内で運転するときは，排気ガスに注意して適切な換気をする。

- 排気管を屋外に延長するか，ドアや窓を開け外気がじゅうぶん入るようにする。

【守らないと】
エンジンの排気ガスは有毒です。中毒を起こし死亡事故にいたるおそれがあります。

F-8842

▲燃料補給中は火気厳禁。くわえタバコや裸火照明は近づけない。

- 燃料補給するときはエンジンを必ず止めて，キーを抜く。
- 燃料やオイルをこぼしたときは，きれいにふきとる。

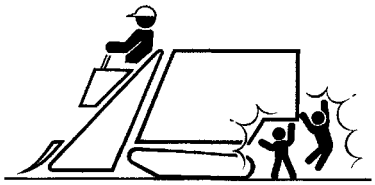
【守らないと】
火災の原因になります。

B-1499

▲機械を動かすときは周囲の安全に気をつける。

■エンジンを始動するときは，運転席に座って，変速レバーを“中立”位置にし，各クラッチを“切”位置にして，ホーンを鳴らすなどの合図をする。
■機械を発進するときや各クラッチを入れるときは，ホーンを鳴らすなど合図してから行なう。

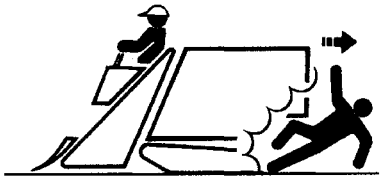
【守らないと】
回転物に巻込まれたり，挟まれて重大な傷害を負うおそれがあります。



M-6217

■初めて運転する人は，操作になれるまで低速で運転する。

【守らないと】
思わぬ事故の原因となります。



M-6236

⚠作業前点検（日常点検）を実施する。

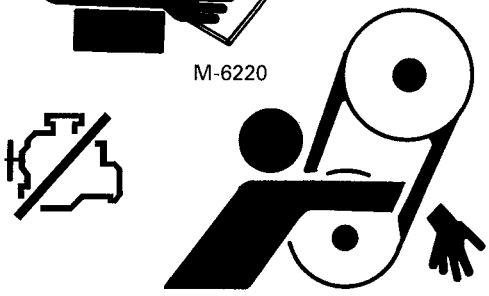
■運転の前には点検項目（“日常点検項目”の項参照）の点検を行なう。異常があれば整備してから運転する。

【守らないと】
整備不良による事故で傷害を負うおそれがあります。

M-6220

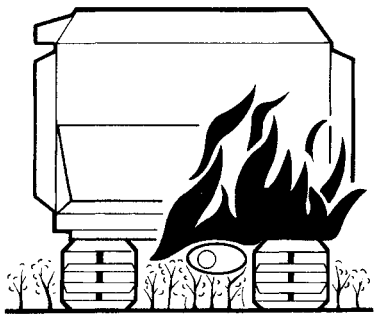
■点検・整備・掃除・給油するときは，エンジンを必ず止めて，キーを抜く。
■取外した安全カバー，保護カバーは必ずもとどおりに取付けて作業する。

【守らないと】
回動部に巻込まれて傷害を負うおそれがあります。


N-0676

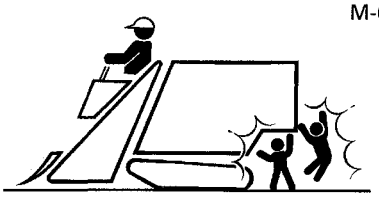
■マフラ周辺部，ベルトカバー内，バッテリ周辺にたまっているわらくずはきれいに取除く。

【守らないと】
火災の原因になります。


M-6238

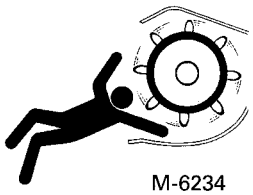
■点検整備中及び作業中は機械に子供を近づけない。

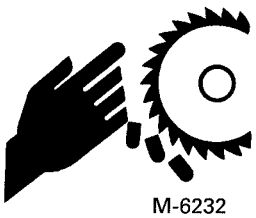
【守らないと】
回転物に巻込まれたり，挟まれて重大な傷害を負うおそれがあります。


M-6217

⚠こぎ胴，カッタ，結束機，エンジンルームをオープンするときは，エンジンを必ず止めて，キーを抜く。

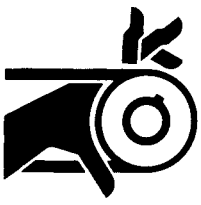
- オープンは平たんな場所で行なう。
- こぎ胴，カッタ，結束機をオープンしたときは，ストッパを掛ける。
- オープンしたままエンジンを始動しない。


M-6234


M-6232

【守らないと】
内部の回転物に接触したり，巻込まれて重大な傷害を負うおそれがあります。

B-1505

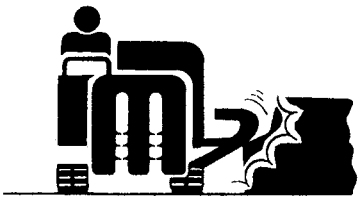

B-1506

▲ 安全に作業するために

◆移動走行・ほ場の出入り・駐車時の注意事項

▲ 移動走行するときは，次の事項を守る。

- 各作業クラッチを**“切”**位置にし，運転者以外に人を乗せない。
- もみはすべて降ろす。
- 刈取部の先にデバイダカバーを取付ける。
- 補助デッキ，左分草かんを収納して，機体幅をせまくする。
- 刈取部を上昇させて，刈取部下降ロックを掛けて下降防止をする。



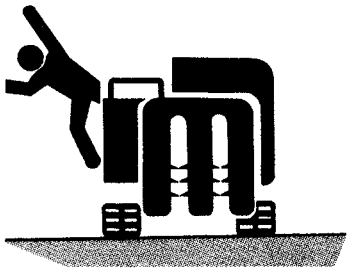
M-6241

【守らないと】

人や物を傷つけたり，機体のバランスをくずして転倒するおそれがあります。

▲ 高速走行時は急旋回をしない。

- 方向を変えるときは，走行速度を落として（低速にして），パワーステアリングレバーをゆっくり倒して旋回する。



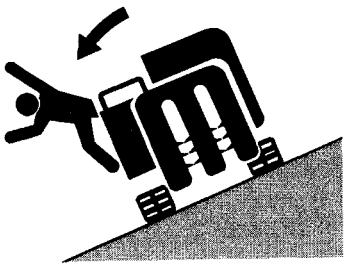
M-6228改

【守らないと】

機械から振り落とされたり，転倒するおそれがあります。

▲ 坂道（傾斜地）では走行速度を落とす。

- 坂道（傾斜地）では，パワーステアリングレバー，副変速レバー，駐車ブレーキを操作しない。
- 坂道（傾斜地）では，斜め走行や旋回はしない。



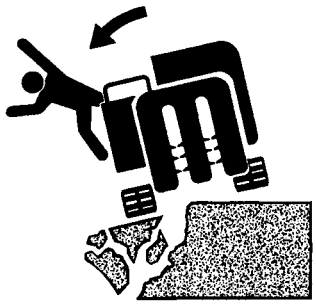
M-6228

【守らないと】

暴走したり，転倒するおそれがあります。

⚠道幅に余裕がなく高所にある道路（土手）は，走行しない。

- 溝のある農道や，両側が傾斜している農道は路肩に注意する。
- 溝，穴，土手の近くは走行しない。
- 水溜まりや草のおい茂ったところなど，地面のよく見えないときは，事前に降車してよく確かめる。



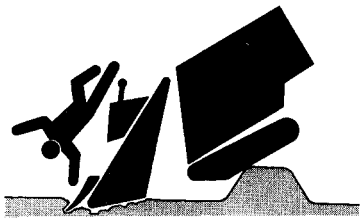
M-6227

【守らないと】

機体のバランスをくずして転倒・転落するおそれがあります。

⚠ほ場の出入りで，段差のあるところではあゆみ板を使う。

- 10cm以上の段差のあるところでは，段差の４倍以上の長さで基準に合ったあゆみ板を使う。
- あゆみ板は段差に直角に置く。
- もみはすべて降ろす。



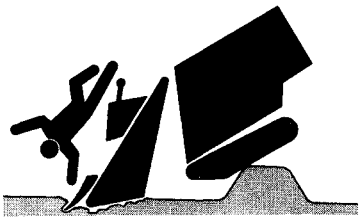
M-6229

【守らないと】

機体のバランスをくずして転倒するおそれがあります。

⚠あぜの乗り越えは低速で直角に進入する。

- 10cm以上のあぜ，又はコンクリートのあぜは，段差の４倍以上の長さで基準に合ったあゆみ板を使う。
- もみはすべて降ろす。



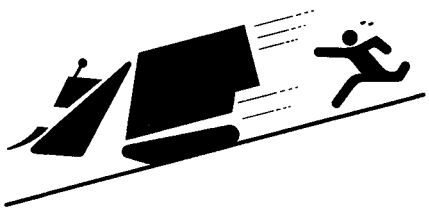
M-6229

【守らないと】

機体のバランスをくずして転倒するおそれがあります。

⚠駐車するときや運転席を離れるときは，平たんな場所に止め，副変速レバーを中立以外の変速段にし，駐車ブレーキを掛け，刈取部を地面に当たるまで降ろして，エンジンを必ず止めて，キーを抜く。

- やむをえず坂道（傾斜地）で駐車するときは，さらに木片などで確実に車止めをする。



M-8661

【守らないと】

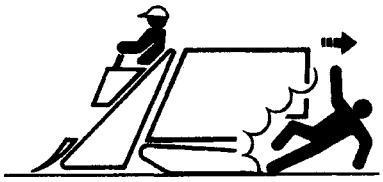
機械が暴走し，思わぬ事故のおそれがあります。

▲ 安全に作業するために

◆作業時の注意事項

▲共同作業するときは，ホーンなどで合図を行なう。

- エンジン始動時，及び各作業のクラッチやスイッチを入れるときは，ホーンなどで合図し，補助者のOKをもらう。
- 補助者が機械に近づくときは，運転者に知らせることを徹底させる。



M-6236

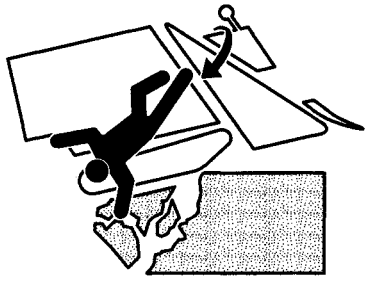
【守らないと】

補助者は運転席からみえにくい位置にいることがあり，思わぬ事故を起こすおそれがあります。

▲すみ刈りを行なうときは後方をじゅうぶん確認する。

【守らないと】

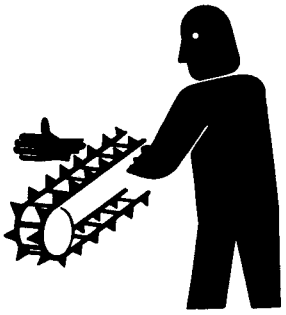
後退し過ぎると，転倒・転落するおそれがあります。



M-8662

⚠手こぎ作業するときは，手や腕の位置を必ずチェーンの外側にして，少量ずつ供給する。

- 機械は平たんな場所に止めて，刈取部を止め，駐車ブレーキをかける。
- そで口はきっちり止めて，手袋・はち巻き・首巻き・腰タオルは着用しない。
- 脱こく部入り口にたまった，わらやもみなどを脱こく部に押し込むときは，チェーンに手や腕が巻込まれないように，わらなどを使って少量ずつ押し込む。
- 防じんカバー付きの機械は，防じんカバーを開ける。



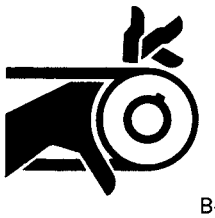
M-6235

【守らないと】

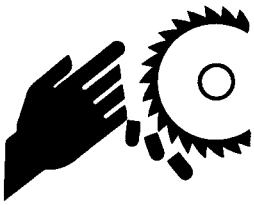
チェーンに巻込まれて重大な傷害を負うおそれがあります。

⚠異常に気づいたら，すぐエンジンを必ず止めて，キーを抜く。

- わらの巻付きや詰まりを取除くときや，もみの点検・掃除をするときは，各作業クラッチレバーを**"切"**位置にし，エンジンを必ず止めて処置する。
- カッタに詰まったわらなどを取除くときは，厚手の手袋を着用して少しずつ取除く。
- 素手で刃先には触らない。



B-1506



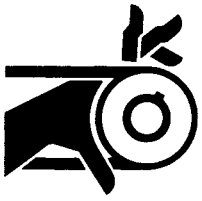
M-6232

【守らないと】

カッタ刃やチェーンなどの作動部に接触したり，巻込まれて重大な傷害を負うおそれがあります。

⚠点検や掃除で外したカバーは，必ず取付けること。

- ベルトやチェーンのカバー，及び掃除口や点検窓のカバーなどを外したままで運転しない。



B-1506

【守らないと】

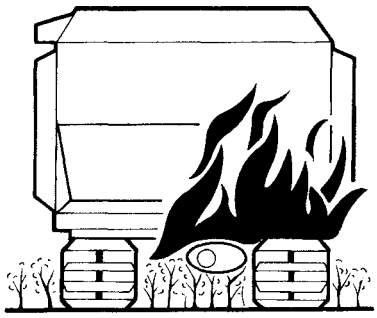
内部の回転物に接触したり，巻込まれて重大な傷害を負うおそれがあります。

▲ 安全に作業するために

◆作業後・格納時の注意事項

▲わらくずや枯れた雑草の上に機械を止めない。

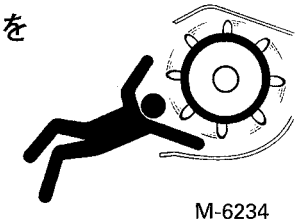
【守らないと】
わらくずや枯れた雑草は燃えやすく，火災が発生するおそれがあります。



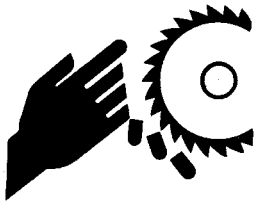
M-6238

▲点検・掃除する前に，エンジンを必ず止めて，キーを抜く。

【守らないと】
機械に巻込まれて重大な傷害を負うおそれがあります。



M-6234



M-6232

B-1505

B-1506

▲点検・掃除は，エンジン停止後，各部が冷えてから行なう。

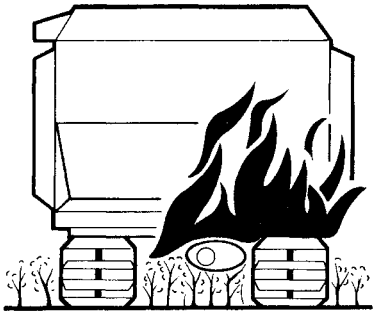
- エンジン本体，マフラ，排気管は，停止直後は触れない。

【守らないと】
やけどを負うおそれがあります。

B-1502

▲エンジン本体，マフラ周辺，ベルトカバー内配線部，バッテリ周辺のわらくずを点検し，きれいに取除く。

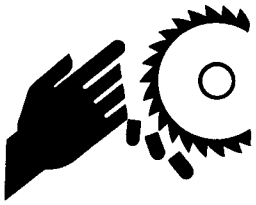
【守らないと】
火災が発生するおそれがあります。



M-6238

⚠掃除するときは，刈刃やカッタの刃先に触らない。

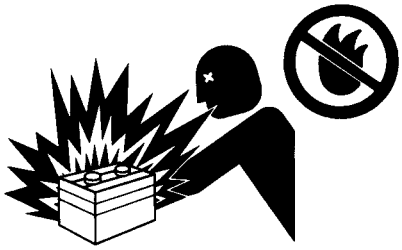
【守らないと】
刃先で傷害を負うおそれがあります。



M-6232

⚠バッテリの近くに裸火（マッチ，ライタ，タバコの火など）を近づけたり，ケーブルをショートさせない。

【守らないと】
バッテリからは水素ガスの発生があり，引火爆発のおそれがあります。



F-8836

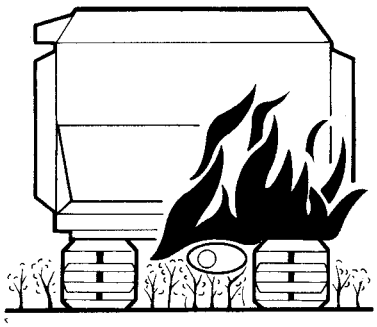
⚠ワイヤハーネスやバッテリコードなど電気配線に被覆の破れや，挟み込みがないか点検する。

【守らないと】
ショートによる火災発生のおそれがあります。

B-1500

⚠機体にカバー（おおい）をかけるときは，エンジン，マフラが冷えてから掛ける。

【守らないと】
火災が発生するおそれがあります。



M-6238

⚠ 安全に作業するために

◆点検整備時の注意事項

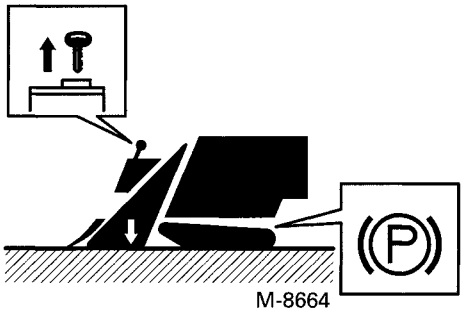
⚠定期点検整備を行ない，各部の保守をする。

【守らないと】
整備不良による事故で傷害を負うおそれがあります。

M-6220

⚠各部の点検・整備・交換・掃除を行なうときは，平たんな場所で，エンジンを必ず止めて，キーを抜き，各クラッチレバーを“切”位置にして，駐車ブレーキを掛ける。

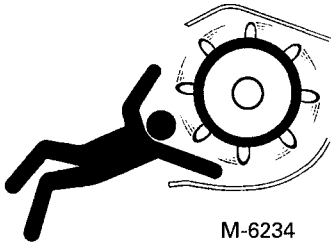
【守らないと】
機械に挟まれたり，巻込まれて傷害を負うおそれがあります。



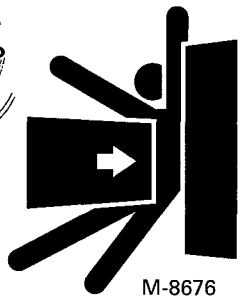
M-8664

⚠こぎ胴，カッタ，結束機をオープンしたときは，ストッパで固定する。

【守らないと】
機械に挟まれて傷害を負うおそれがあります。



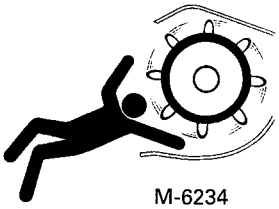
M-6234



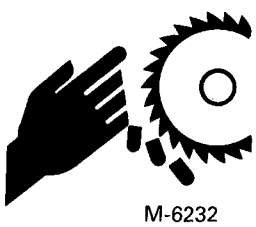
M-8676

⚠こぎ胴，カッタ，結束機，エンジンルームをオープンしたままエンジンを回さない。

【守らないと】
内部の回転物に接触したり，巻込まれて重大な傷害を負うおそれがあります。

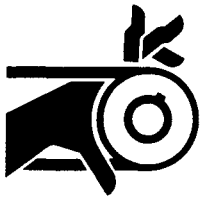


M-6234



M-6232

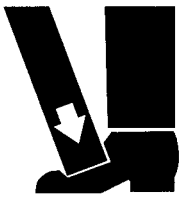
B-1505



B-1506

⚠ シーブケースやカッタ，結束機など重量物の脱着作業は，２人以上で行なう。

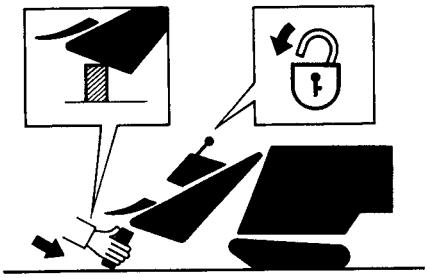
【守らないと】
不意の落下により，傷害を負うおそれがあります。

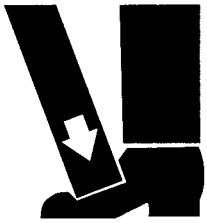

M-8659

⚠ 刈取部を上げて点検・整備・掃除するときは，刈取部をロックするとともに，落下防止の歯止めをする。

- 作業前に，エンジンを必ず止めて，駐車ブレーキを掛ける。
- 刈取部の下へもぐったり，足や手をつっこんだりしない。

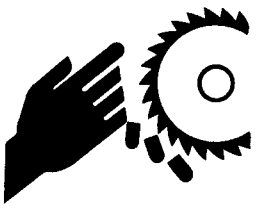
【守らないと】
機械にはさまれて，傷害を負うおそれがあります。


M-6237


M-8659

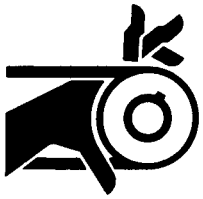
⚠ 刈刃，カッタ刃，ワラ切刃を調整・交換するときは，手袋を着用し，直接刃先に触らない。

【守らないと】
刃先で傷害を負うおそれがあります。


M-6232

⚠ 取外したカバー類は，必ず取付ける。

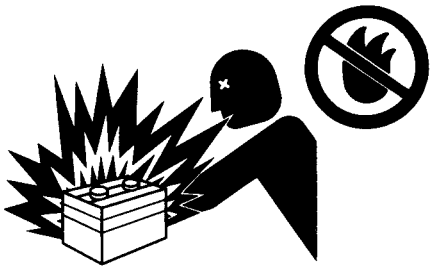
【守らないと】
内部の回転物に接触したり，巻込まれて重大な傷害を負うおそれがあります。


B-1506

▲ 安全に作業するために

▲バッテリを取外すときは，最初にマイナス⊖側のケーブルを取外す。

- バッテリの近くに裸火（マッチ，ライタ，タバコの火など）を近づけたり，ケーブルをショートさせない。
- バッテリを取付けるときは，最初にプラス⊕側のケーブルをプラス⊕側の端子に取付ける。



F-8836

【守らないと】
ヤケドや発火爆発のおそれがあります。

▲バッテリは液面がLOWER（最低液面線）以下になったままで使用や充電をしない。

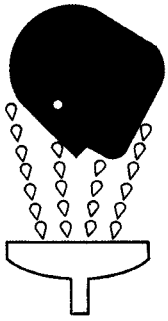
- バッテリ液が不足していれば，すぐにUPPER LEVEL（上限）とLOWER LEVEL（下限）の間に補水する。
- 充電は機械から取外して行なう。
- 充電は風通しのよい所で行なう。
- 放電したバッテリにブースタケーブルなどを接続して始動するときは，取扱方法をよく読みそれに従う。

F-8836

【守らないと】
LOWER（下限）以下で使用や充電を続けると，バッテリの寿命を縮めるばかりでなく，爆発の原因となることがあります。

▲バッテリ液（希硫酸）を体に付着させない。

- 目に入ったときや飲込んだときは，すぐ水でよく洗った後，医師の治療を受ける。
- 皮ふ，衣服についたときは，すぐ水でよく洗う。

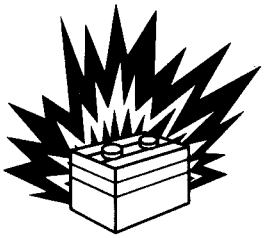


F-8837

【守らないと】
失明やヤケドのおそれがあります。

▲指定外のバッテリは使わない。

- 取扱説明書で指定しているバッテリを使用する。



F-8836改

M-6465

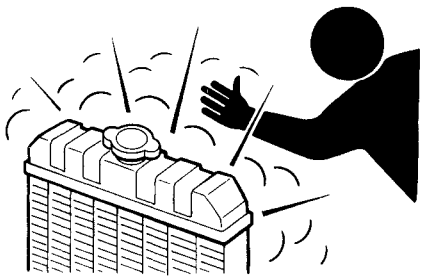
【守らないと】
思わぬ事故が発生するおそれがあります。

⚠ ラジエータの圧力キャップやリザーブタンクは，エンジンが冷えてから開ける。

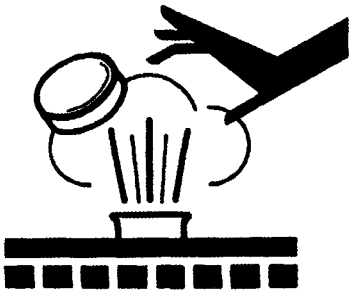
- エンジン停止後，３０分以上経過してからエンジンルームを開け，ラジエータの圧力キャップを徐々にゆるめて蒸気の圧力を抜いてから開ける。

【守らないと】

熱湯や蒸気が吹き出して，ヤケドや傷害を負うおそれがあります。



B-1503



F-8846

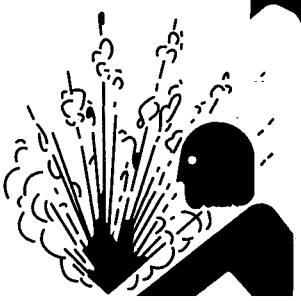
⚠ フューエルパイプ，ラジエータホース，オイルドレーンホースは，２年ごとに交換する。

- ゴム類は時間がたつと劣化するので，定期的に交換する。

【守らないと】

燃料や熱湯がもれて，火災やヤケドを負うおそれがあります。

M-8665



M-8666

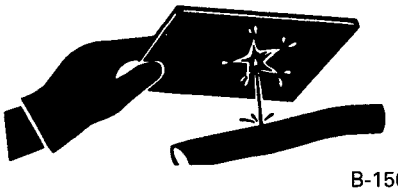
⚠ 燃料噴射管や油圧パイプなどからの高圧油のもれは，厚紙や板などを使って点検する。

- 高圧噴油に直接手を触れない。もし，触れた場合は，直ちに医者の診断を受ける。

【守らないと】

油が皮ふに侵入して，えそにかかるおそれがあります。

F-8847



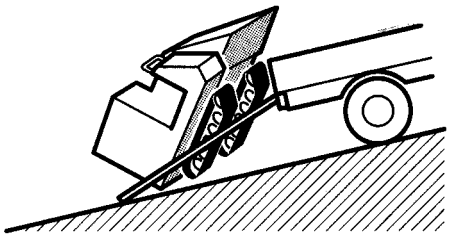
B-1504

⚠ 安全に作業するために

◆運搬時の注意事項

⚠ トラックへの積込み・積降しは平たん地で行なう。

- 機械の重量であゆみ板が傾いたりしない場所を選ぶ。
- トラックの駐車ブレーキをしっかり掛ける。
- できるだけ助手の立ち会い誘導のもとに行なう。
- 周囲に人を近づけない。



M-8672

【守らないと】

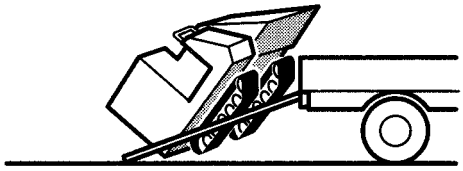
あゆみ板がずれたり，トラックが動いたりして機械が落下するおそれがあります。

⚠ 積込み・積降しには基準に合ったあゆみ板を使う。

- あゆみ板の基準

長　　さ	トラックの荷台の高さの４倍以上
幅	45cm以上
数　　量	２枚
強　　度	１枚が700kg以上に耐えうる

- あゆみ板はフック，すべり止めがついているものを使う。
- あゆみ板はトラックの荷台に平行に確実に掛ける。



M-8673

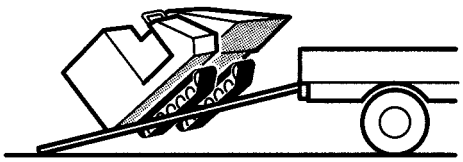
【守らないと】

あゆみ板がずれたり，外れたりして機械が落下するおそれがあります。

⚠ 積込み・積降し前に，もみはすべて降ろす。

【守らないと】

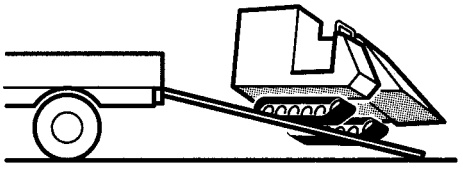
バランスがくずれて，転倒・転落するおそれがあります。



M-8674

⚠ トラックへの積込み・積降しは最低速で行なう。

- 積込みは前進で，積降しは後進で行なう。
- 結束機付きの場合は，積込みは後進で，積降しは前進で行なう。



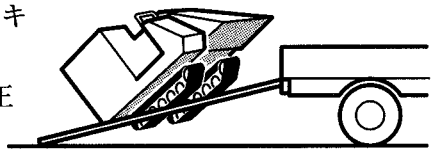
M-8675

【守らないと】

バランスがくずれて，転倒・転落するおそれがあります。

⚠ あゆみ板の上では方向修正しない。

- あゆみ板を走行するときは，機体から降りる。
- あゆみ板の上では，パワーステアリング・副変速レバー・駐車ブレーキレバーは操作しない。
- 方向を変えるときは，いったん地上，又は荷台にもどって方向を修正し，再度やり直す。



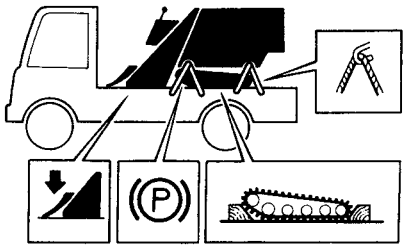
M-8674

【守らないと】

急旋回したり，暴走して落下するおそれがあります。

⚠ トラックの上では，刈取部を床に当たるまで降ろして，駐車ブレーキを掛ける。

- 副変速レバーを中立以外の変速段にする。
- 所定の**“ロープ掛けフック（4カ所）”**にロープを掛けてしっかり床に固定する。
- 車止めをする。



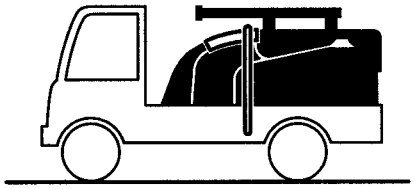
M-6224

【守らないと】

機械が動き，思わぬ事故のおそれがあります。

⚠ トラックに積んだときは，機体の各カバーを固定する。

- 樹脂カバー，着脱の簡単なカバー，折りたたみ部品などは，ロープで確実に固定するか，外して荷台に置く。
- 防じんカバーは閉じる。**【防じんカバー付き】**

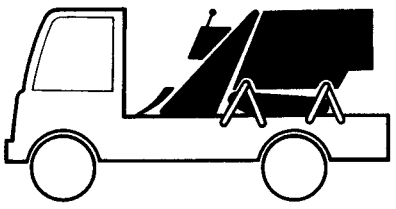


M-8671

【守らないと】

輸送中に風圧で破損，脱落のおそれがあります。

⚠ 輸送中の急発進，急ブレーキ，急旋回は避ける。



M-6218

【守らないと】

輸送中に機械が動き，思わぬ事故のおそれがあります。

⚠ 安全に作業するために

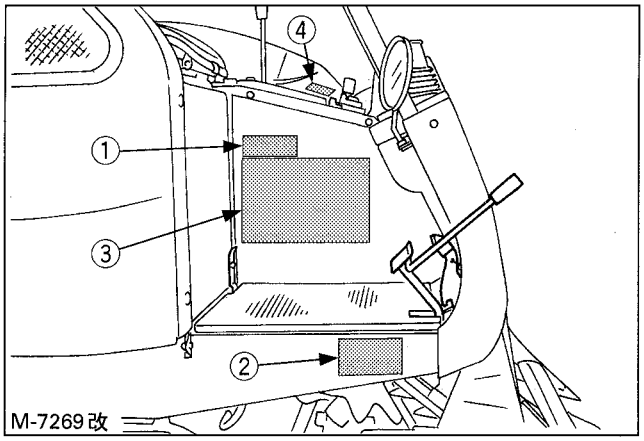
2. 安全作業するための⚠表示ラベル

◆⚠表示ラベルの内容・貼付位置

① 品番 53981-6432-1

⚠ 注　　意

中に回転物がありケガをするので、
点検・調整時はエンジンを必ず止めること。
点検・調整後はカバーを必ず取付けること。

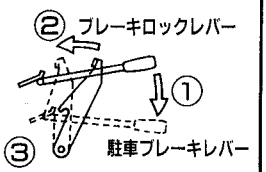


② 品番 5H215-3158-1

⚠ 注　　意

傾斜地での暴走を防ぐため必ず下記を守ること。
1．駐車ブレーキをかけるときは、すみやかにいっぱい下げること。
2．車止めをすること。

駐車ブレーキのかけ方
①駐車ブレーキレバーを下げる。
②ブレーキロックレバーを引く。
③レバーをフックに引っ掛ける。



④ 品番 5H215-4261-2

⚠ 注　　意

刈取部を上げたとき、手を挟まれケガをするおそれがあるので、このパネルのラベル部の裏側に手を入れないこと。

③ 品番 5H215-3243-3

⚠ 注　　意

	マフラ・ハイキカン・エンジンなどの高温部に触れるとヤケドをするので、高温部に絶対に触れないこと。	エンジンを始動するときは、駐車ブレーキをかけて、脱こくクラッチを「切」に、グレンタンク仕様はモミ排出クラッチも「切」にすること。	刈取部が不意に下降してはさまれる危険があるので、刈取部を上げて点検・調整するときはロック金具を必ずロックすること。

⚠ 注　　意

作業前
1.安全に作業するために、取扱説明書を読んで機械の使い方を覚えること。
2.屋内は排気ガスが溜まりやすくガス中毒のおそれがあるので、換気をすること。
3.ケガをするおそれがあるので、掃除・点検・調整のときは各クラッチを切りエンジンを必ず止めること。

移動・作業中
1.発進するとき・脱こく部・刈取部を作動するときは、周囲の安全を確かめ合図して、機械に人を近付けないこと。
2.転倒・転落事故の危険があるので、傾斜地・路肩の軟弱な道路がけぎわなどは走行しないこと。
3.緊急停止が必要なときは、ブレーキペダルをすみやかに、いっぱい踏み込むこと。
4.刈取作業時以外（特に、あぜ越え時・移動走行時・運搬時・格納時）は『もみ』はすべて排出、あるいは降ろすこと。

積込み・積降し・あぜ越え
1.車への積込みやあぜ越えは前進で、車から降すときは後進で、運転席から降りて低速で移動すること。あゆみ板は段差の4倍以上の長さですべり止めがある基準に合ったものを使うこと。
2.車への積降しの途中で、ブレーキペダルやパワーステアリングレバーを操作しないこと。方向を変えるときは、必ずいったん地上又は荷台に戻って向きを正し、再度やり直すこと。

駐・停車
1.火災のおそれがあるので、機械を停止するときは切りわらや雑草の上に止めないこと。
2.機械から離れるときは、エンジンを止めて「始動キー」を抜き駐車ブレーキを必ずロックすること。また、坂道で駐車するときは車止めをして暴走を防ぐこと。

エンジンオイルの取扱注意
1.クボタ純正オイル（ディーゼルエンジン用）を使用してください。
2.オイルは気温により次のように使い分けてください。
15°Cをこえるとき　D30又はD10W30
15°C以下のとき　D10W30
3.特に冬期はD10W30を必ず使用してください。メーカーの異なるオイルは混合しないでください。
4.オイルの交換は新車（新品エンジン）運転で35時間目以後は取扱説明書をごらんください。

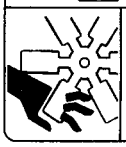
冷却水の点検・補給
1.冷却水は必ず作業前に点検補給してください。
（リザーブタンク水面がLOW以下の場合はラジエータとリザーブタンクに真水を補給してください。）
2.炎天下で連続使用する場合には早目に冷却水の点検補給をしてください。
3.工場出荷時には不凍液（ロングライフクーラント）を入れています。
冬期不凍液を入れない場合凍結割れが生じますので長期格納時は必ずドレーンコックより排水してください。

ラジエータの点検・清掃
1.ラジエータの目にゴミが附着したまま作業を続けるとオーバーヒートの原因となりますのでときどき清掃点検してください。
2.イージーチェッカの水温ランプが点灯した時はエンジンを止めてラジエータコア一面を清掃してください。
3.取扱注意事項の詳細については取扱説明書をごらんください。

エアクリーナの取扱注意
1.エアクリーナの定期点検は、少なくとも50時間ごとに行ってください。
2.エレメントの清掃は、エアクリーナに指示してある通りにしてください。

① 品番 5H215-3515-1

⚠ 注 意

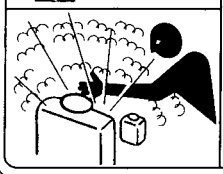


エンジンを回転したままエンジンルームを開けるとファンやベルトでケガをするおそれがあるのでエンジンルームを開けるときは、エンジンを必ず止めること。

⚠ 注 意

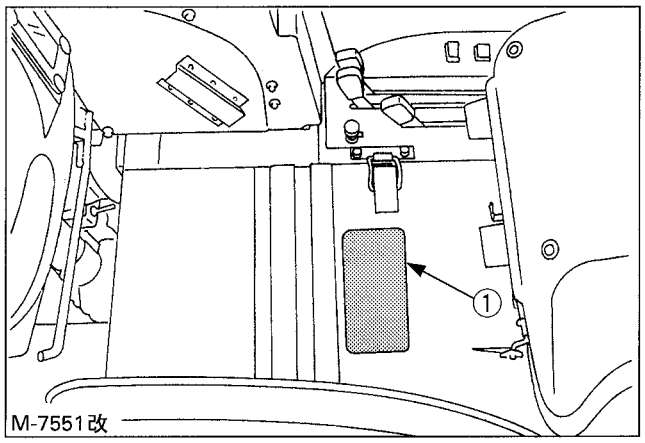
エンジンルームをオープンし点検調整後は、必ず「クランプ」で確実にロックすること。ロックしないと走行中に不意にオープンすることがあり危険です。

⚠ 注 意



オーバヒートでエンジンルームを開けて点検整備するときは、次の手順を守ること。
1. エンジンを止める。
2. 必ず停止後30分以上経過してから、エンジンルームを開けること。

エンジンが冷えていないときは、ラジエータ部・リザーブタンク部より熱湯が吹き出し、ヤケドをするおそれがある。



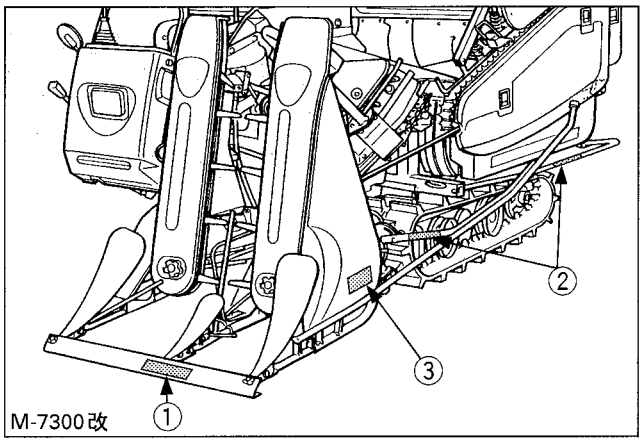
M-7551改

① 品番 59700-4332-2

⚠注意 デバイダ先端に当たるとけがをするおそれがあるので、移動するときは必ず本品を取り付けること。

② 品番 59700-2136-2

⚠注意 人に当たりケガをさせるおそれがあるので、移動するときは必ず収納すること。

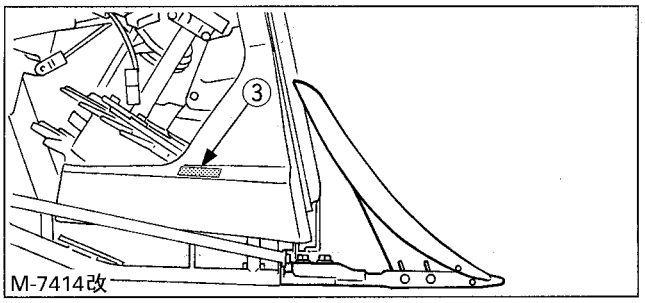


M-7300改

③ 品番 53981-6432-1

⚠ 注 意

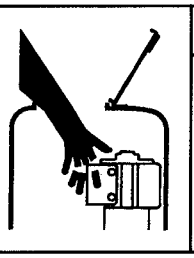
中に回転物がありケガをするので、
点検・調整時はエンジンを必ず止めること。
点検・調整後はカバーを必ず取付けること。



M-7414改

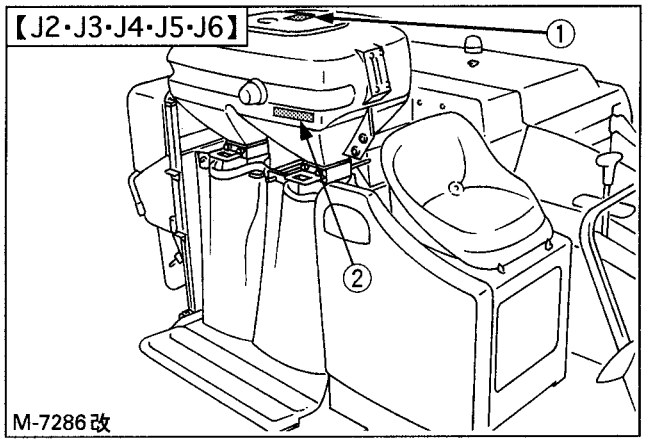
▲ 安全に作業するために

① 品番 53696-5338-1【J2・J3・J4・J5・J6】



▲ 警　告

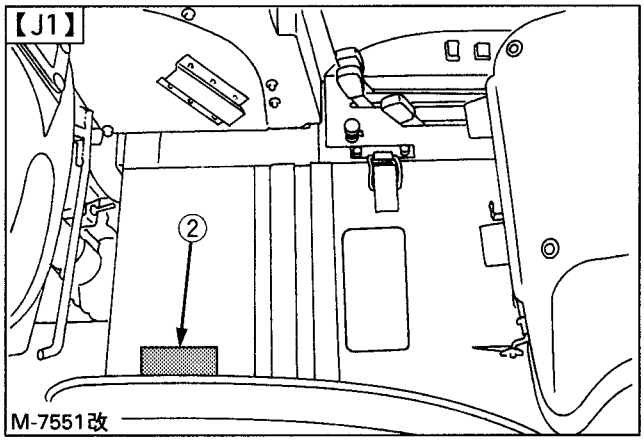
1. ホッパの中に回転物がありケガをするおそれがあるので、運転中は絶対に手を入れないこと。
2. 手を入れるときは必ずエンジンを停止すること。
3. ホッパの上に物を載せないこと。



② 品番 52166-2119-3

▲注意

1. 転落のおそれがあるのでもみ受けデッキ、補助デッキには乗らないこと。
2. 移動するときは、人に当たってケガをさせるおそれがあるので、補助デッキを必ず収納すること。

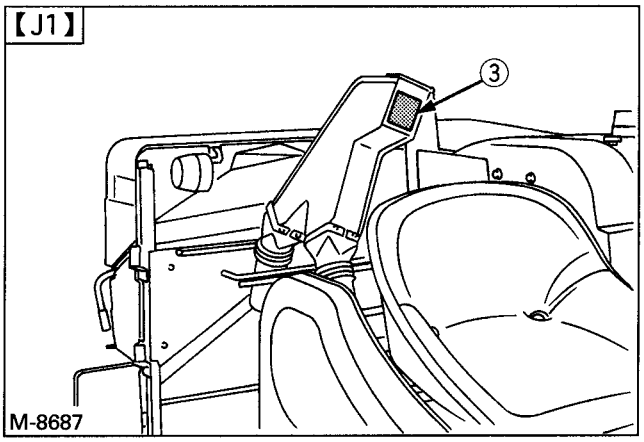


③ 品番 53694-5517-1【J1】

▲ 注　意

中に回転物がありケガをするおそれがあるので、運転中は絶対に手を入れないこと。

もみ満杯ブザーが鳴ると直ちに刈取り作業を中止し、もみ袋を交換してください。

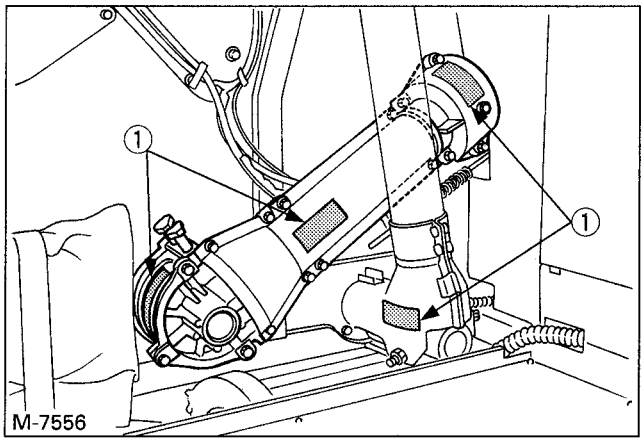


① 品番 53981-6434-1

⚠ 注意

掃 除 口

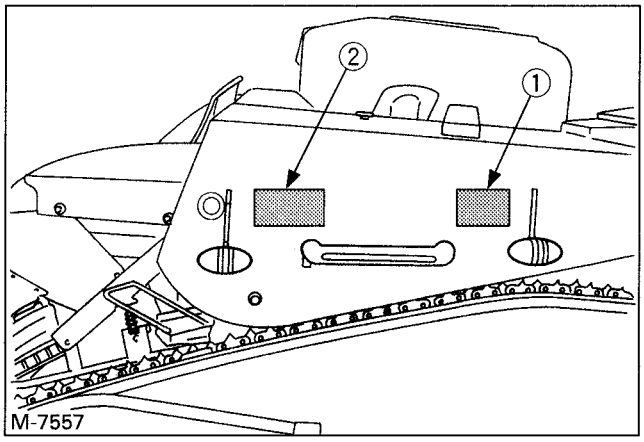
中に回転物がありケガをするので、清掃時はエンジンを必ず止めること。清掃後はフタを必ず閉じること。



① 品番 53982-6431-1

⚠ 警 告

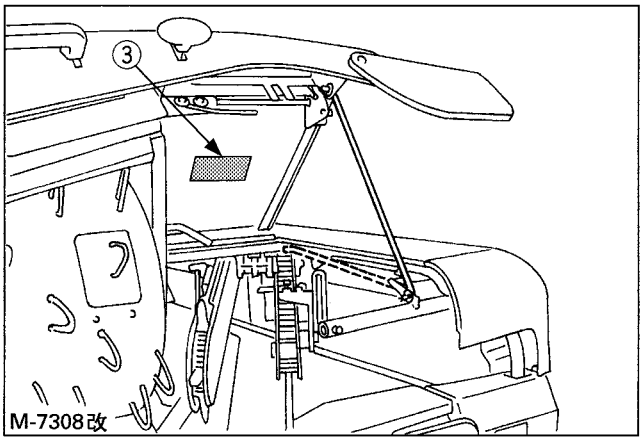
中で扱歯が高速で回転しているので、接触するとケガをします。扱胴オープンするときにはエンジンを必ず止めること。



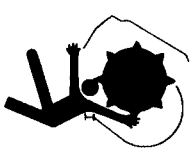
② 品番 53981-6435-2

⚠ 警 告

1. わら等の巻付き・詰まり除去のときは、エンジンを必ず止めること。
2. 手こぎ作業で手・腕をチェーンにはさまれてけがをするおそれがあるので、下記を守ること。
   - 平坦な所で走行部・刈取部を止めること。
   - 手・腕をチェーンの外側に位置させ、わらを少しづつ送り込むこと。

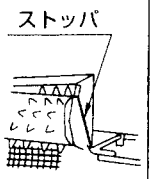


③ 品番 53981-6416-2



⚠ 警 告

1. 扱胴オープンした状態で脱こく機を回転させると非常に危険です。エンジンは、絶対に始動しないこと。
2. 扱胴をオープンして、受網の脱着や扱室の掃除をするときは扱胴が落下して身体がはさまれることがあるので、ストッパで必ず固定すること。



▲ 安全に作業するために

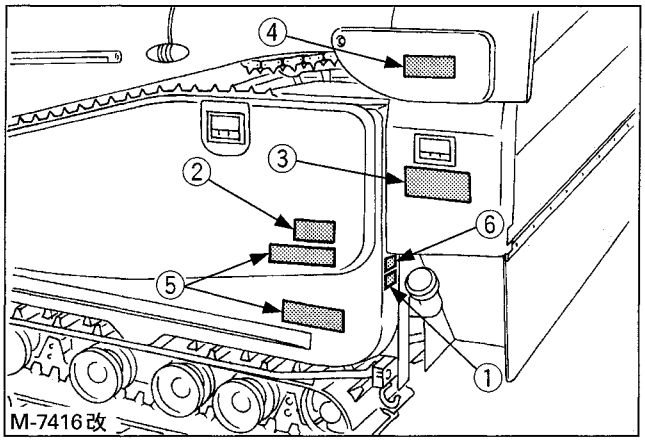
① 品番 52166-2575-1

▲ 注 意

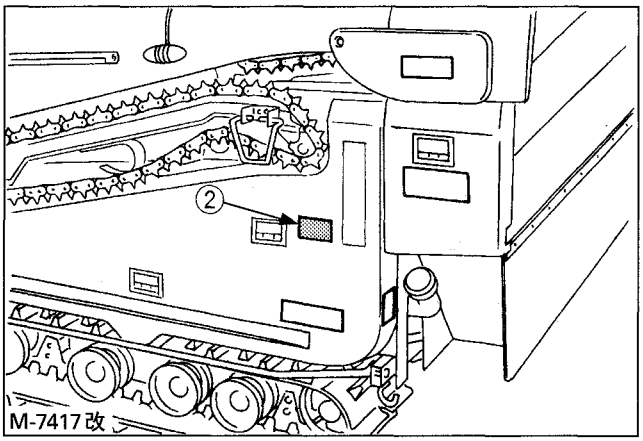
火気厳禁

・火災のおそれがあるので給油するときはエンジンを止めること。

ディーゼル軽油



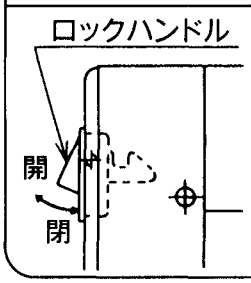
M-7416改



M-7417改

② 品番 57745-5319-1

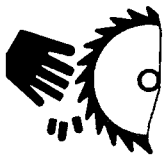
▲注意



1. このカバーを閉じる場合、ロックハンドルを必ず閉位置にすること。
2. ロックが確実にされていないと、落下し危険です。

③ 品番 57745-5314-2

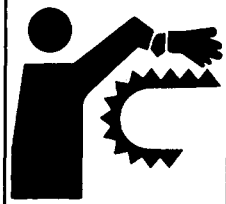
▲ 警告



1. カッタの刃に接触すると手・指を切断するおそれがあるので，手を絶対に入れないこと。
2. チェーン・ベルトに接触すると，手をケガするので，手を絶対に入れないこと。
3. カッタ開閉時はエンジンを必ず止めること。
4. カッタをオープンしたまま運転しないこと。
5. 点検・調整，ワラ・雑草などの巻付きや詰りを取除くときはエンジンを必ず止めること。
6. 点検・調整などが終わったら，カバーを元通りに必ず取り付けること。

④ 品番 53981-6188-2

▲ 警告



1. カバーの中に回転物がありケガをするので手を絶対に入れないこと。
2. ワラ・雑草などの巻付や詰りを取除くときは、エンジンを必ず止めること。

⑤ 品番 53981-6436-2

▲ 注 意

1. 回転物に接触するとケガをするおそれがあるので、カバーの下側に手を入れないこと。
2. 点検・調整時はエンジンを必ず止めること。
3. 点検・調整後はカバーを必ず取付けること。

⑥ 品番 53690-3129-2

▲注 意

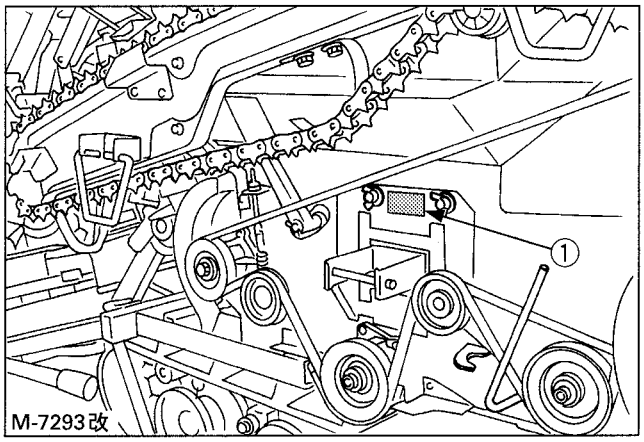
中に回転物がありケガをするおそれがあるので、運転中は絶対に手を入れないこと。

① 品番 53981-6434-1

注意

掃除口

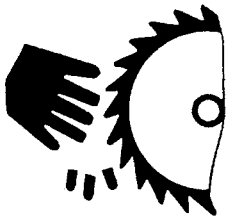
中に回転物がありケガをするので、清掃時はエンジンを必ず止めること。清掃後はフタを必ず閉じること。



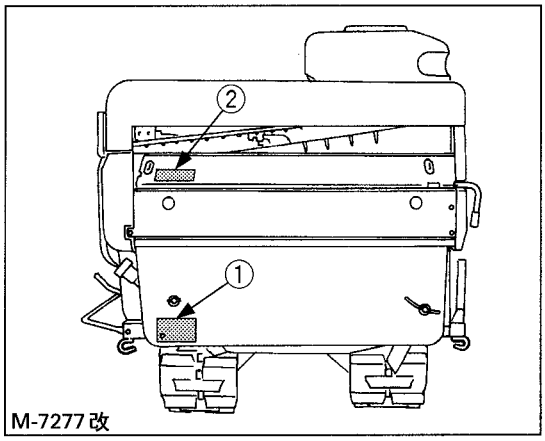
M-7293改

① 品番 57745-5315-3

警告



1. このカバーの中は刃物が回転しており危険なので、手を絶対に入れないこと。
2. ワラ・雑草などの巻付きや詰りを取除くときは、エンジンを必ず止めること。

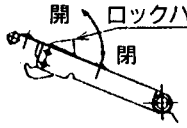


M-7277改

② 品番 57749-5315-1

警告

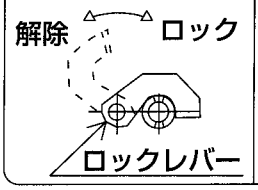
1. **このカバーの中は刃物が回転しており危険なので、手を絶対に入れないこと。**
2. **点検・調整、わら・雑草などの巻付や詰りを取除くときはエンジンを必ず止めること。**
3. **点検・調整などが終わったら、危険ですのでカバーを元通りに必ず戻すこと。**



1. このカバーを閉じる場合、ロックハンドルを必ず「閉」位置にすること。
2. ロックが確実にされていないと、エンジンをかけ脱こくクラッチを入れるとエンジンが停止します。

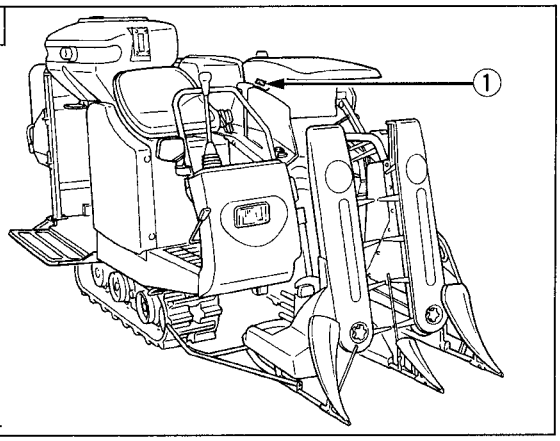
① 品番 5H260-5713-1【J6】

注意



トラックで輸送するときは風圧でカバーが浮き破損・脱落し、ケガをさせるおそれがあるので、ボウジンカバーを閉じ、カバー内のロックレバーを「ロック」にすること。

【J6】

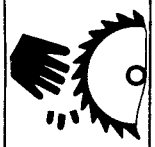


M-8564

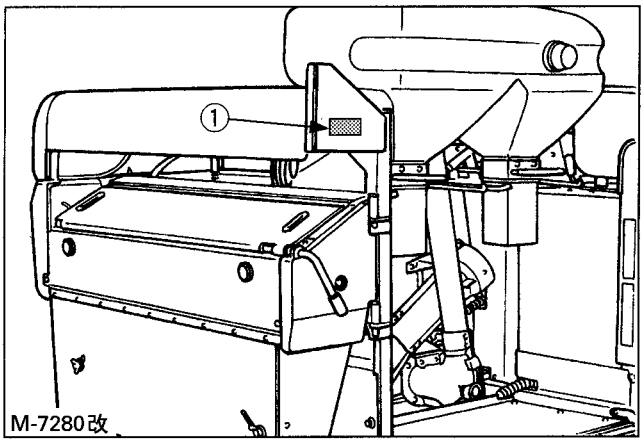
⚠ 安全に作業するために

① 品番 53981-6191-1

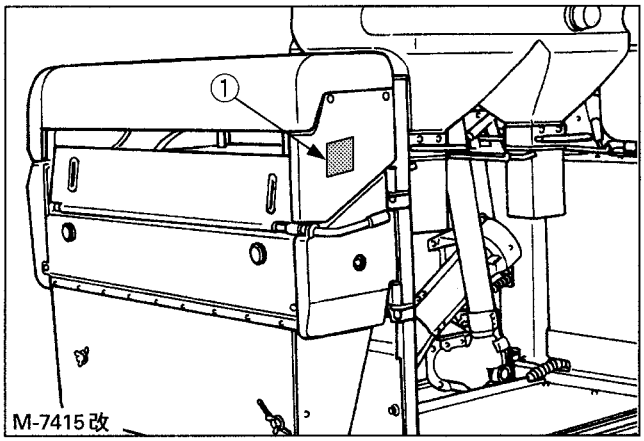
⚠警告



1. カッタの刃に接触すると手・指を切断するおそれがあるので、手を絶対に入れないこと。
2. ワラ・雑草などの巻付きや詰りを取除くときは、エンジンを必ず止めること。
3. カッタ作業時は、カバーを必ず閉じること。



M-7280改

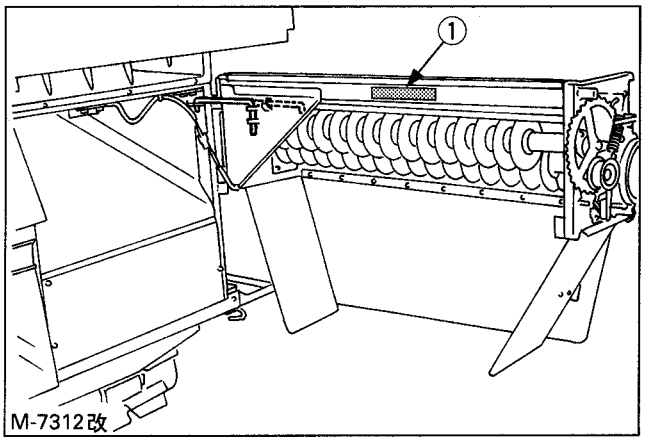


M-7415改

① 品番 57745-5124-1

⚠注意

1. カッタをオープンしたら、不用意な動きを防ぐため規制金具で確実にロックすること。
2. カッタの刃に触れると手・指を切るので、巻付きや詰りを取除くとき刃に絶対触れないこと。



M-7312改

◆▲表示ラベルの手入れ

▲表示ラベルをよく読み理解して，安全注意事項を守る

- ラベルは，いつもきれいにして傷つけないようにする。
- ▲表示ラベルがよごれた場合は，石鹸水で洗い，やわらかい布でふく。
  シンナーやアセトンなどの溶剤を使うと，文字や絵が消えることがあります。
- 高圧洗浄機で洗車すると，高圧水によりラベルが剝がれるおそれがあるので，高圧水を直接ラベルにかけない。
- 破損や紛失したラベルは，製品購入先に注文し，新しいラベルに張り替える。
- 新しいラベルを貼る場合は，貼付面の汚れを完全にふき取り，乾いた後，もとの位置に貼る。
- ラベルが貼付けされている部品を新部品と交換するときは，ラベルも同時に交換する。

サービスと保証について

この製品には，保証書が添付してありますのでご使用前によくご覧ください。

■ご相談窓口

ご使用中の故障やご不審な点及びサービスについてのご用命は，お買上げいただいたご購入先にそれぞれ**“ご相談窓口”**を設けておりますのでお気軽にご相談ください。

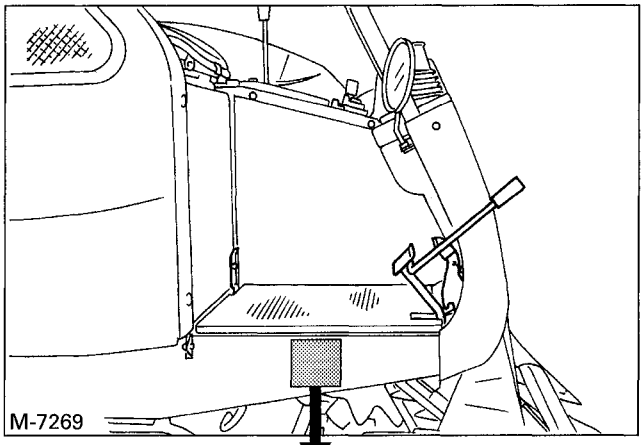
その際 (1)商品名・区分と車台番号
(2)とう載機関(エンジン)の型式名と機関(エンジン)番号

をあわせてご連絡ください。

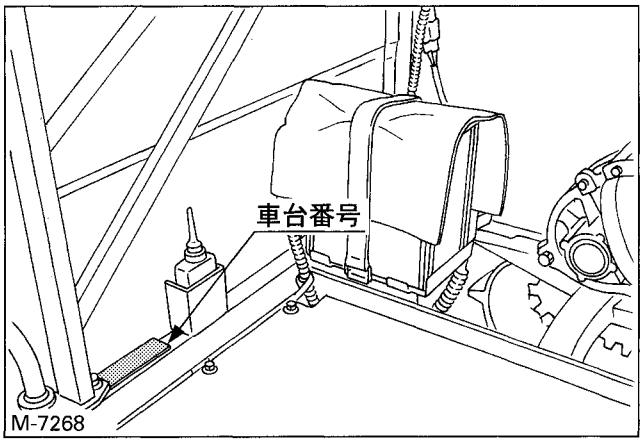
なお，部品ご注文の際は，ご購入先に純正部品表を準備しておりますので，そちらでご相談ください。

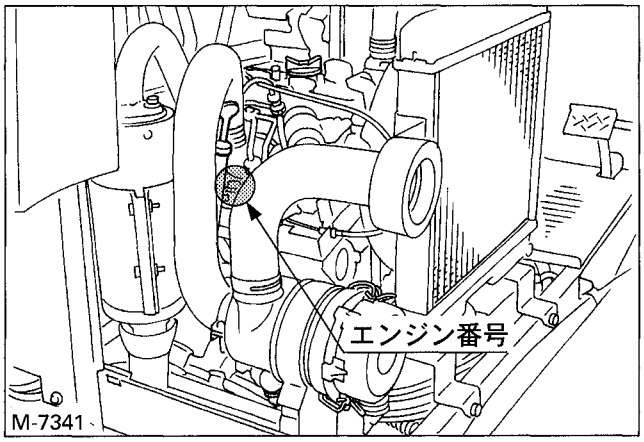
警 告

＊機械の改造は危険ですので，改造しないでください。改造した場合や取扱説明書に述べられた正しい使用目的と異なる場合は，メーカ保証の対象外になるのでご注意ください。



農業機械の種類		コンバイン（自脱型）
農機型式名		クボタ
商品名		
区分		
車両型式名		クボタ
車台番号		
刈取条数		条
とう載機関	型式名	クボタ
	機関番号	
	最大出力	kW/ rpm
	無負荷最高回転速度	rpm
製造元		株式会社クボタ





■補修用部品の供給年限について

この製品の補修用部品の供給年限(期限)は製造打ち切り後９年といたします。

ただし，供給年限内であっても特殊部品につきましては，納期等についてご相談させていただく場合もあります。

補修用部品の供給は原則的に上記の供給年限で終了致しますが，供給年限経過後であっても部品供給のご要請があった場合には，納期及び価格についてご相談させていただきます。

◆認定番号

安全鑑定の農機型式名と番号及び小型特殊自動車の車両型式名と番号が必要な場合は，下記の型式名及び番号をご使用ください。

商品名	農機型式名	安全鑑定番号	小型特殊自動車		摘　要
			車両型式名	型式認定番号	
SR-J1	クボタR9701	22055	クボタC217	農2054	——
SR-J2	クボタR9701	22055	クボタC217	農2054	——
SR-J3	クボタR9701	22055	クボタC218	農2055	——
SR-J4	クボタR9701	22055	クボタC219	農2056	——
SR-J5	クボタR9701	22055	クボタC220	農2057	——
SR-J6	クボタR9701	22055	——	——	——
SR-J3 SLW	クボタR9701	22055	クボタC218	農2055	——
SR-J5 SLW	クボタR9701	22055	クボタC220	農2057	——

小型特殊自動車について

このコンバインは，道路運送車両法の農耕作業用小型特殊自動車に該当します。

警 告

＊道路を走行するときは，小型特殊自動車の法規を守り安全運転をしてください。

注 意

＊作業灯(オプション)は“道路運送車両の保安基準”第42条(灯火の色等の制限)において，“走行中に使用しない灯火”とされ，点灯したまま道路走行すると他の交通車両の妨害となることから道路走行中の点灯は禁止されております。

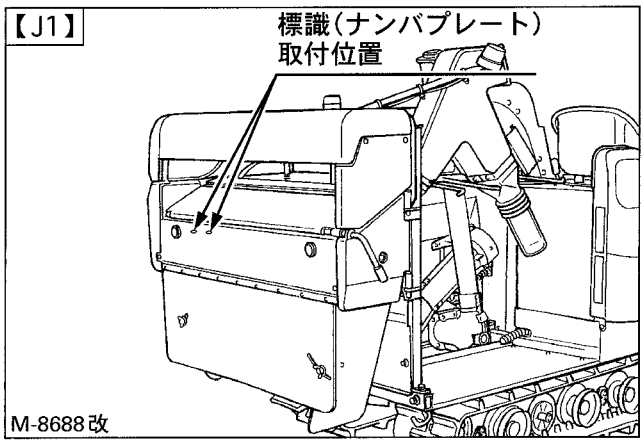
＊このコンバインは，小型特殊自動車で道路運送車両の保安基準が適用されます。下記のうち一つでも条件を満足しないと保安基準に適合しませんので特にご留意してくだい。

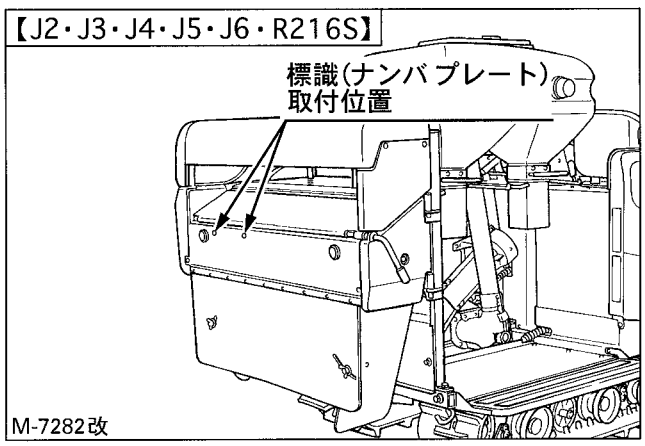
1. 認定を受けたエンジン以外は搭載して走行することはできません。
2. エンジン及び本機で封印されているところはさわらないでください。封印が外されたと認められる場合は，一切の保証はいたしません。
3. 認定時の構造を変更した状態では，道路走行することはできません。
4. 結束機付コンバインは公道を走ることができません。移動するときは，トラック輸送(**“輸送について”**の項参照)又は，結束機を取外してください。(カッタは，装着したままで走行できます。)

■小型特殊自動車取得の届出と標識(ナンバプレート)の取付け

新たに小型特殊自動車の所有者となった者は，市町村条例により，その取得を市町村役所に届け，標識(ナンバプレート)の交付を受けなければなりません。
手続きは市町村により多少異なりますので詳細は，購入先にご相談ください。

❶小型特殊自動車取得の証明書など(購入先で発行)に，軽自動車税を添えて市町村役所に届出ます。
❷届出が済むと標識(ナンバプレート)が交付されます。
❸標識(ナンバプレート)を車体の取付け位置に取付けてください。





◆損害賠償保険について

万一の交通事故補償に備え，任意保険に加入されることをお勧めします。

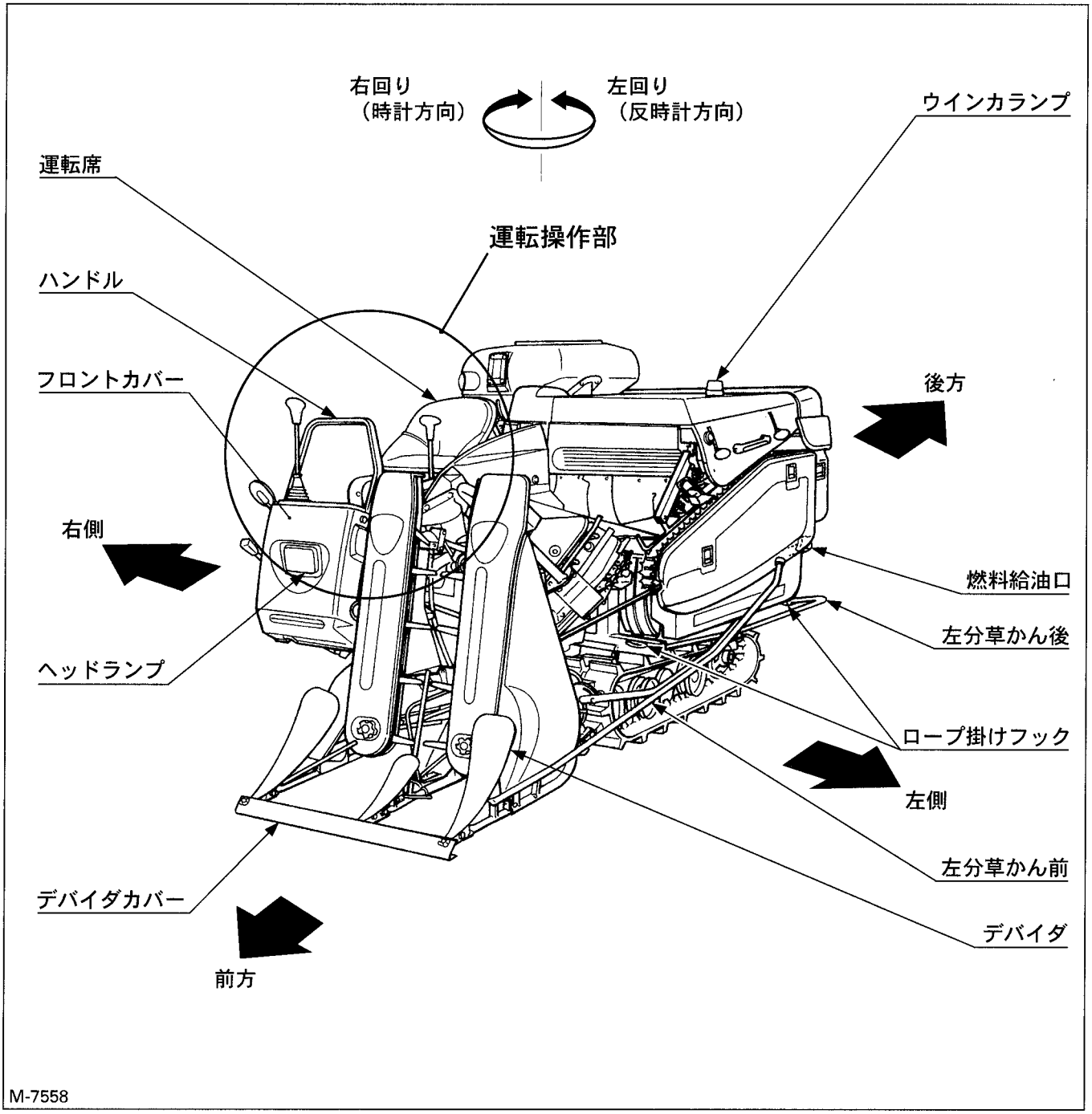
■運転免許証の携帯

公道走行時は，小型特殊自動車の運転可能な運転免許証が必要です。必ず所持してください。

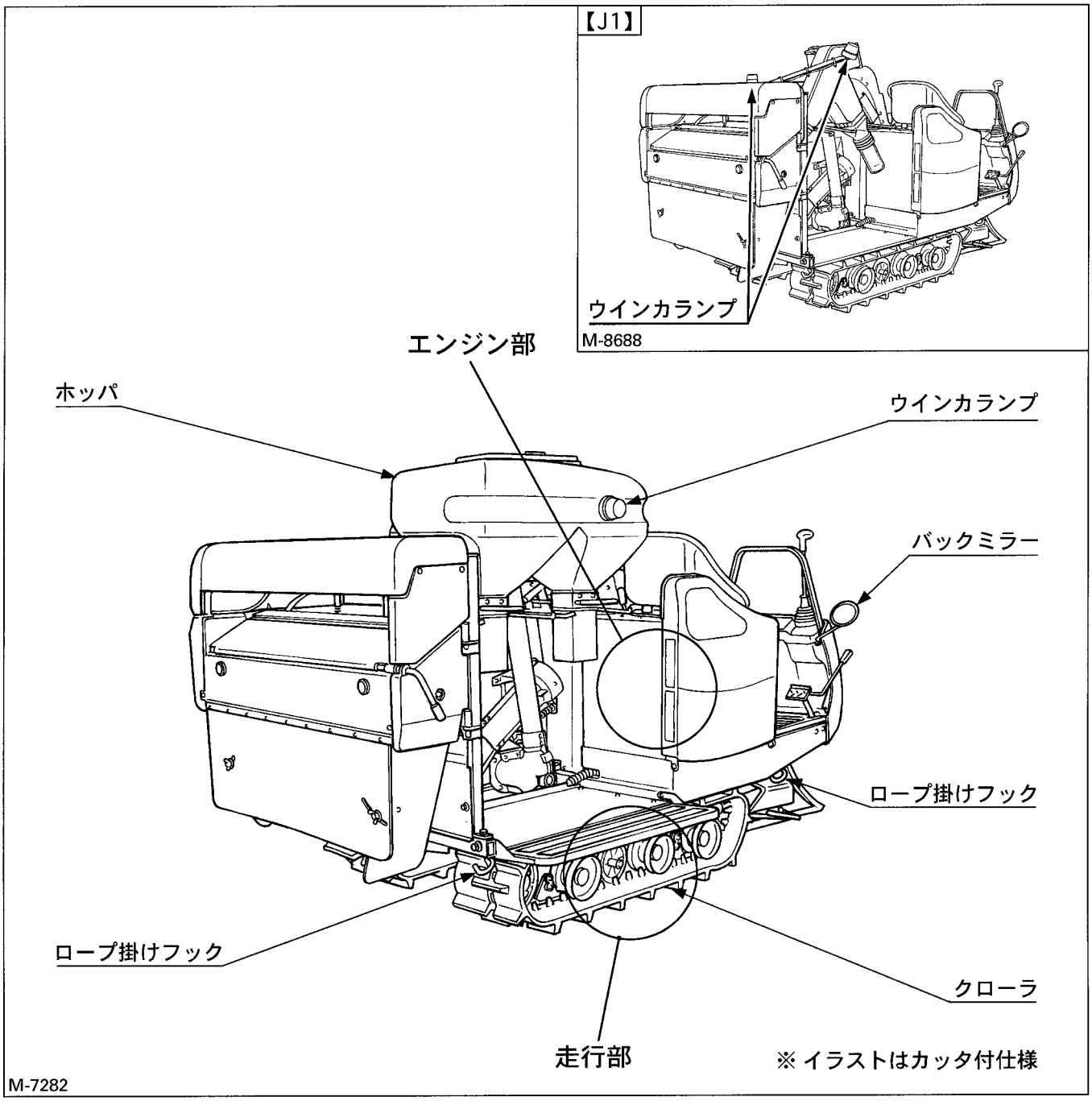
走行装置の名称と取扱い

機体方向説明と走行装置の名称

この取扱説明書で使用している**前後・左右・左回り・右回り**などの方向は，図示の通りです。

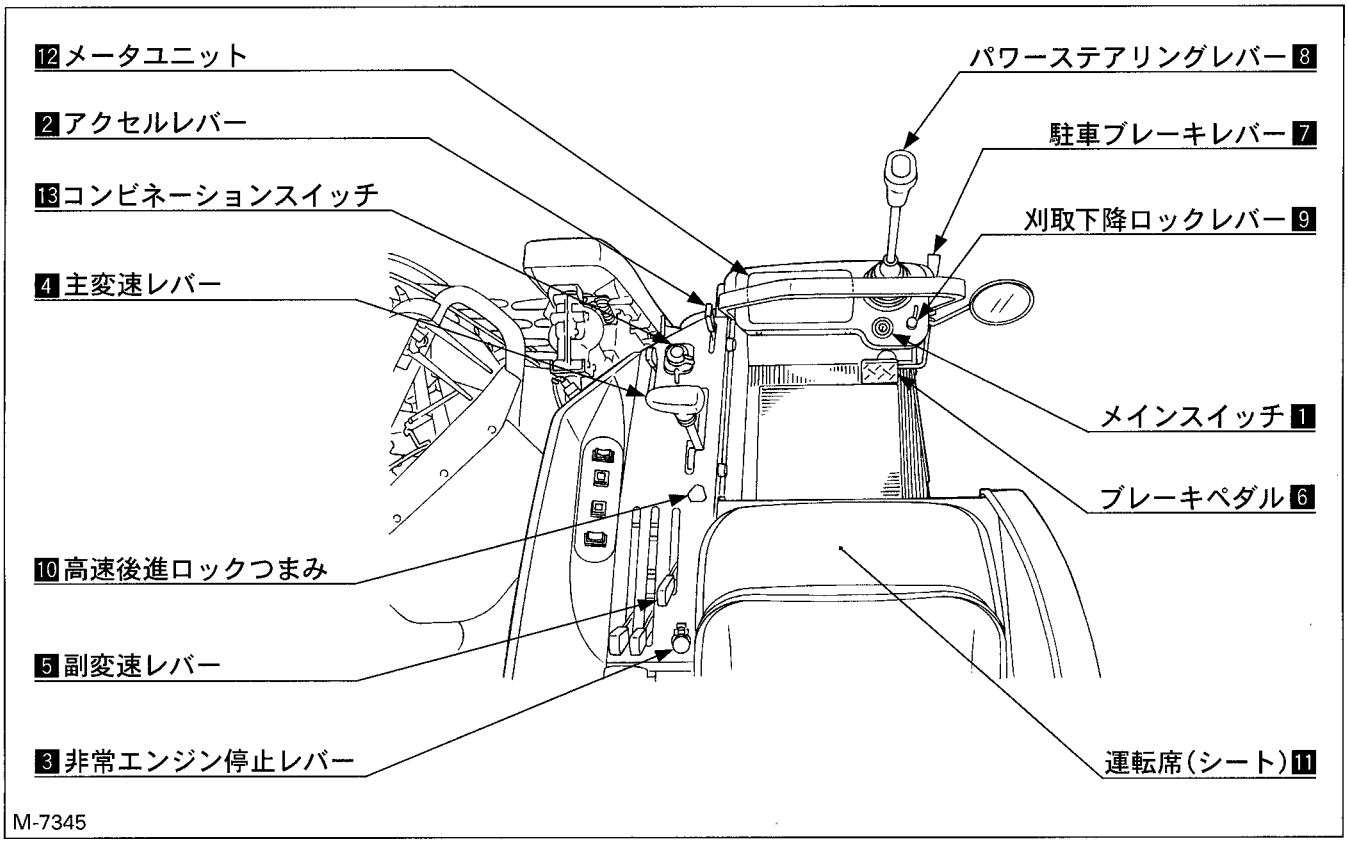


●**運転操作部**……エンジンの始動・停止や移動走行・刈取作業の運転操作を行なうところ



●**エンジン部**……運転席下部にある動力装置
●**走行部**……クローラにより走行を行なうところ

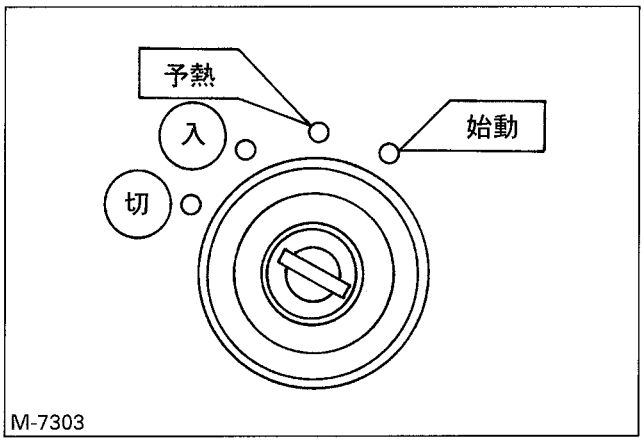
各部の名称とはたらき



◆エンジン操作関係

1メインスイッチ

コンバインの電源の**入・切**，及びエンジンの**始動・停止**を行なうスイッチです。



"切"……スイッチキーが抜き差しできるエンジン停止中の位置。

"入"……電気(電装)装置がはたらく位置。

"予熱"……エンジンの燃焼室内が予熱される位置。

"始動"……セルモータが回転し，エンジンが始動する位置。

補　足

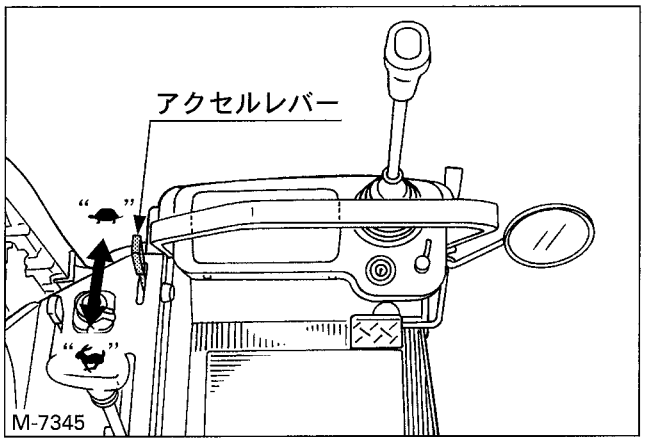
＊エンジン始動後，スイッチキーから手を離すとスイッチキーは，**"入"**の位置に戻ります。

2アクセルレバー

エンジン回転をコントロールするレバーです。レバーを後方に引くと回転数が上がります。

"🐢"……エンジン回転数**低回転**の位置。

"🐇"……エンジン回転数**高回転**の位置。

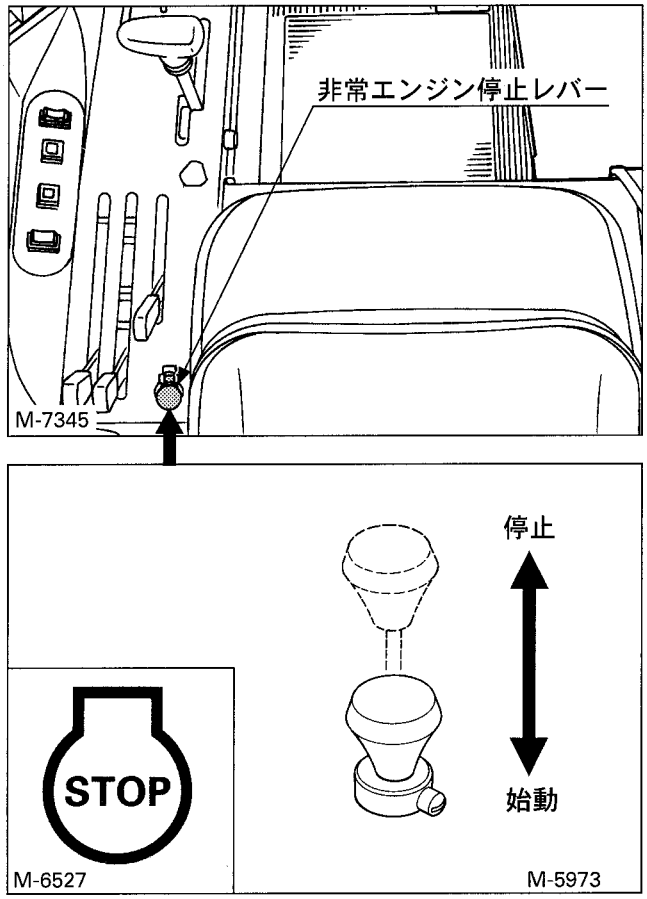


補　足

＊エンジン回転計は，**メータユニット**の項目を参照してください。

3非常エンジン停止レバー

スイッチキーを**“切”**位置にしてもエンジンが止まらないときなど**非常時**に，エンジンを停止させるレバーです。



補　足

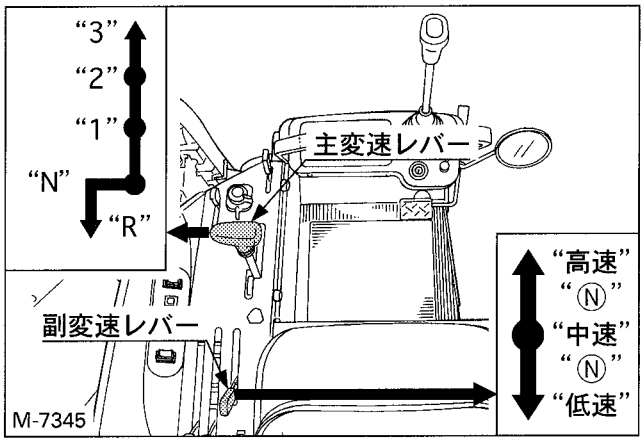
＊レバーが停止状態では，エンジンは始動しません。

◆走行操作関係

4主変速レバー

5副変速レバー

移動走行時や刈取作業時に変速をするレバーです。主変速レバーで，機体の**前進・後進**を操作します。変速段数は，主変速レバー操作で前進３段・後進１段，副変速レバー操作で３段です。また，２本のレバーの組合せで前進９段・後進３段の車速を選べます。



補　足

＊主変速レバーを**“R”(後進)**位置にするとバックブザーが鳴ります。

6 ブレーキペダル

注 意

＊坂道やあぜ越えなどの斜面では，ブレーキペダルを素早くいっぱいまで踏込んでください。
クラッチが切れたあと，ブレーキが効く前の中間位置で保持すると，暴走するおそれや主変速レバーが自動的に変速されることがあります。

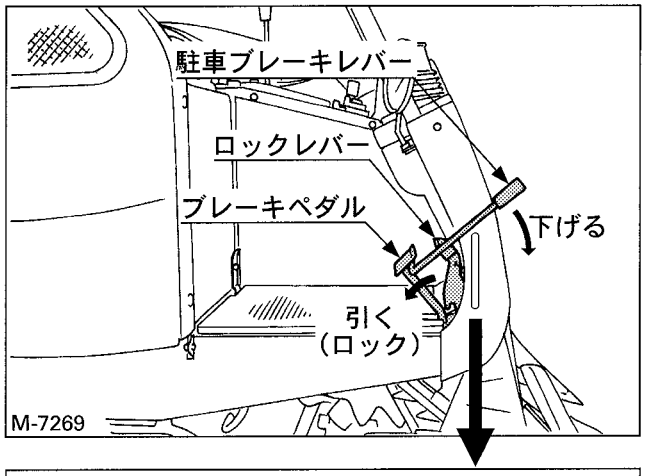
踏込むとクラッチが切れてブレーキが掛かります。エンジンの始動時や副変速レバーの操作時に使います。また，ブレーキペダルは，駐車ブレーキレバーと連動しています。

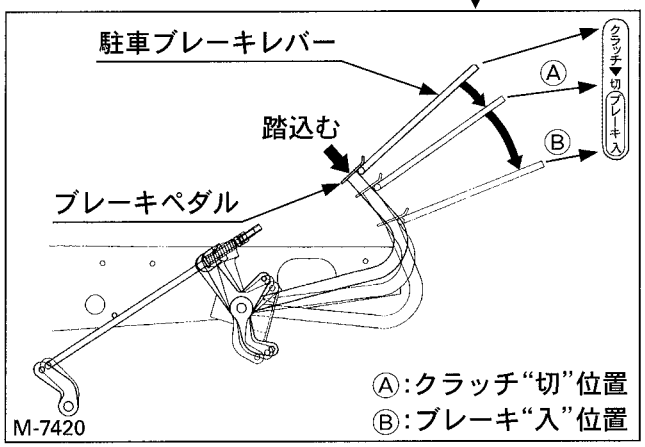
補 足

＊主変速レバーが**“2”速**，**“3”速**の位置のときに踏込むと，レバーは**“1”速**の位置に戻ります。また，ブレーキペダルを踏込んだ状態では，主変速レバーを**“2”速**，**“3”速**に変速することができません。

7 駐車ブレーキレバー

レバーを下げるとクラッチが切れてブレーキが掛かり，ロックレバーで駐車ブレーキレバーをロックすると駐車ブレーキが掛かります。



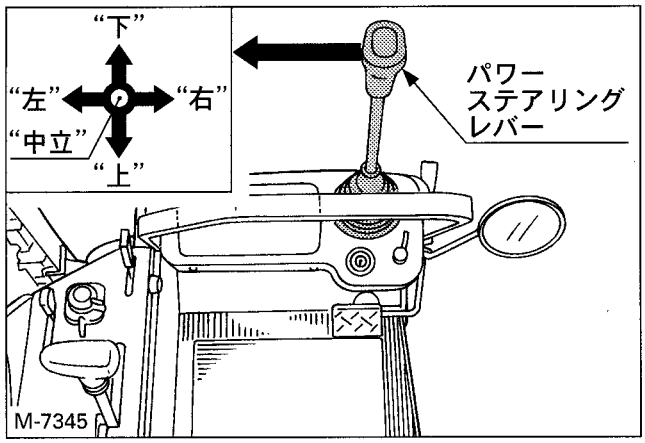


8 パワーステアリングレバー

機体走行時の進路変更と刈取部の昇降の操作を行なうレバーです。

“左”⟷“右”……レバーを倒した方向に機体が曲がります。倒す角度に応じて機体の方向修正から旋回まで行なえます。

“下”
↕
“上”　……レバーを倒した方向に刈取部が上下に動きます。



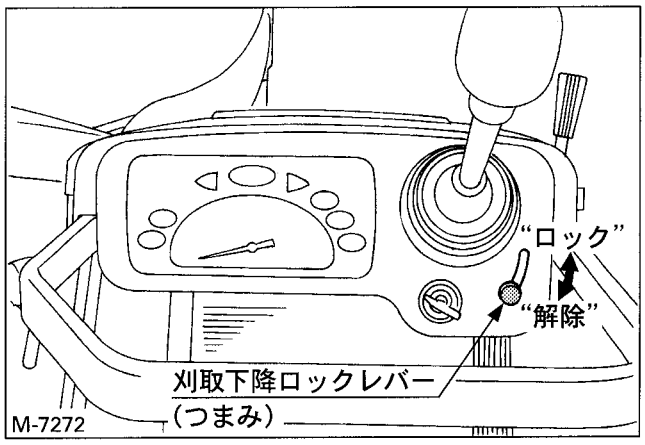
補 足

＊自動方向制御がはたらいていても，パワーステアリングレバーによる手動操作が優先されます。

＊エンジン停止時にレバーを前方(**“下”**方向)に倒すと，刈取部が下降します。

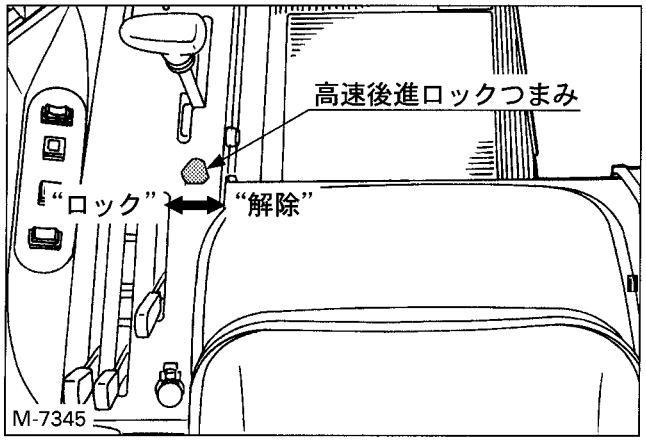
9 刈取下降ロックレバー

刈取部の下降防止を行なうロックレバーです。ロックレバーを**“ロック”**位置にすると，パワーステアリングレバーを操作しても刈取部は下降しません。ロックレバーを操作するときは，刈取部を上昇させた状態で行なってください。ロックレバーを動かすときは，つまみのネジをゆるめて**“ロック”**位置でネジを締付けてください。また，解除するときは**“解除”**位置でネジを締付けてください。



⑩高速後進ロックつまみ

副変速レバーが**“高速”**位置のときに，主変速レバーが**“R”(後進)**位置に変更できないようにする(けん制)ためのつまみです。操作するときはつまみを引上げてください。

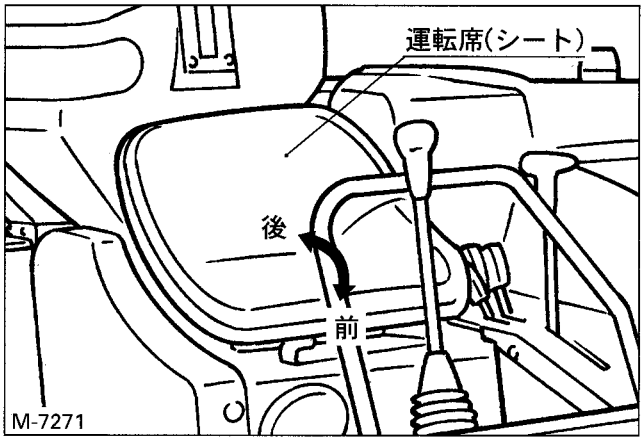


補　足

＊ロックつまみを操作するときは，副変速レバーを**“低速”**又は，**“中速”**位置にしてください。

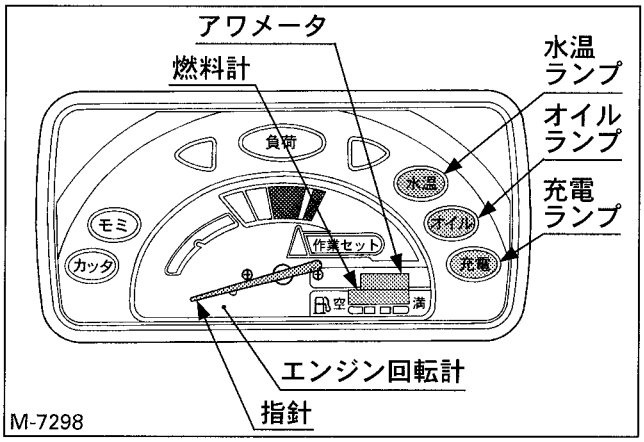
⑪運転席(シート)

運転席(シート)を前方に倒しながら，**前・後**に調節してください。



◆電装関係

⑫メータユニット



◆各メータ

●エンジン回転計

1分間のエンジン回転数を指針で表示します。

●燃料計

燃料の残量を液晶の目盛(4段階)で表示します。

●アワメータ(単位：時間)

エンジン運転時間の積算使用時間を液晶表示します。

◆各ランプ

●水温ランプ

エンジン冷却水が，異常に高温になったとき点灯し，ブザーが鳴ります。

●オイルランプ

エンジンオイルの圧力が，異常に低下したとき点灯します。

●充電ランプ

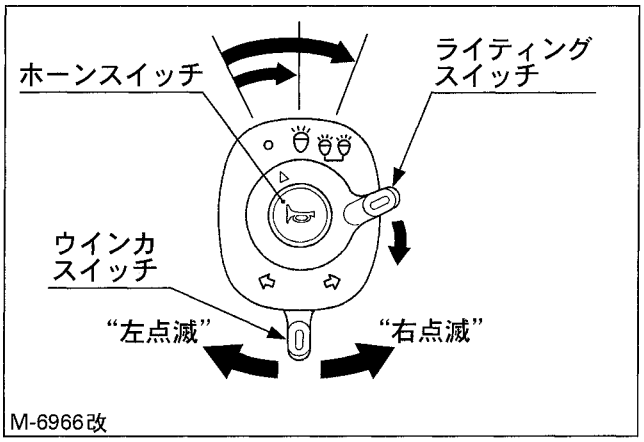
バッテリの電圧低下や電気系統の故障で，充電できなくなったときに点灯します。

補　足

＊処置については，**メータユニットによる異常と処置**の項を参照してください。

＊エンジンが停止しているとき，スイッチキーを**“入”**位置にすると，オイルランプと充電ランプが点灯しますが異常ではありません。

13コンビネーションスイッチ



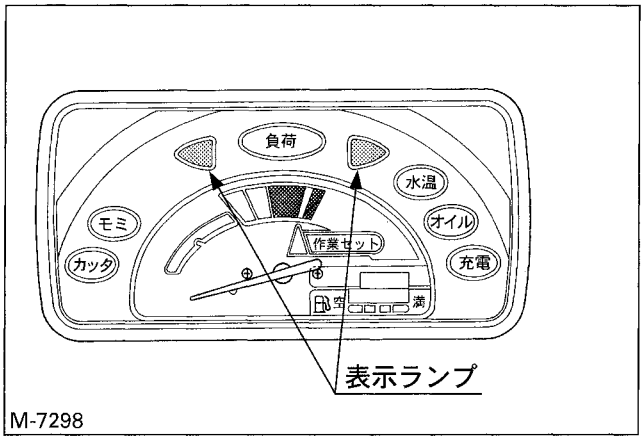
M-6966改

●ライティングスイッチ
スイッチを操作するとヘッドランプと作業灯が点灯します。
“ ○ ”……消灯位置。
“ ”……ヘッドランプ点灯位置。
“ ”……ヘッドランプ・作業灯点灯位置。

補　足

＊作業灯はオプション部品です。

●ウィンカスイッチ
旋回方向に操作すると，ウィンカランプが点滅すると同時にメータユニット内の表示ランプが点滅します。



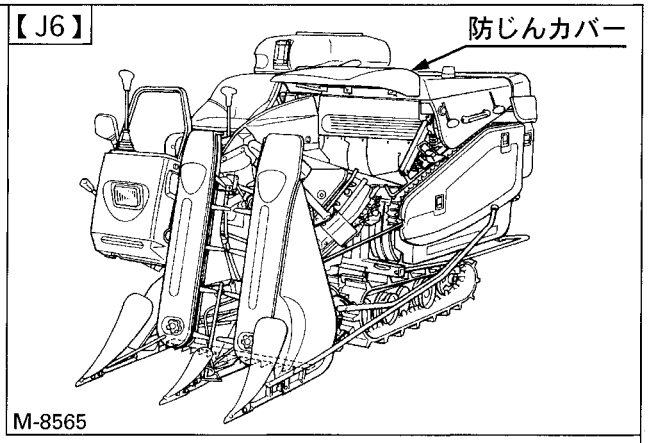
M-7298

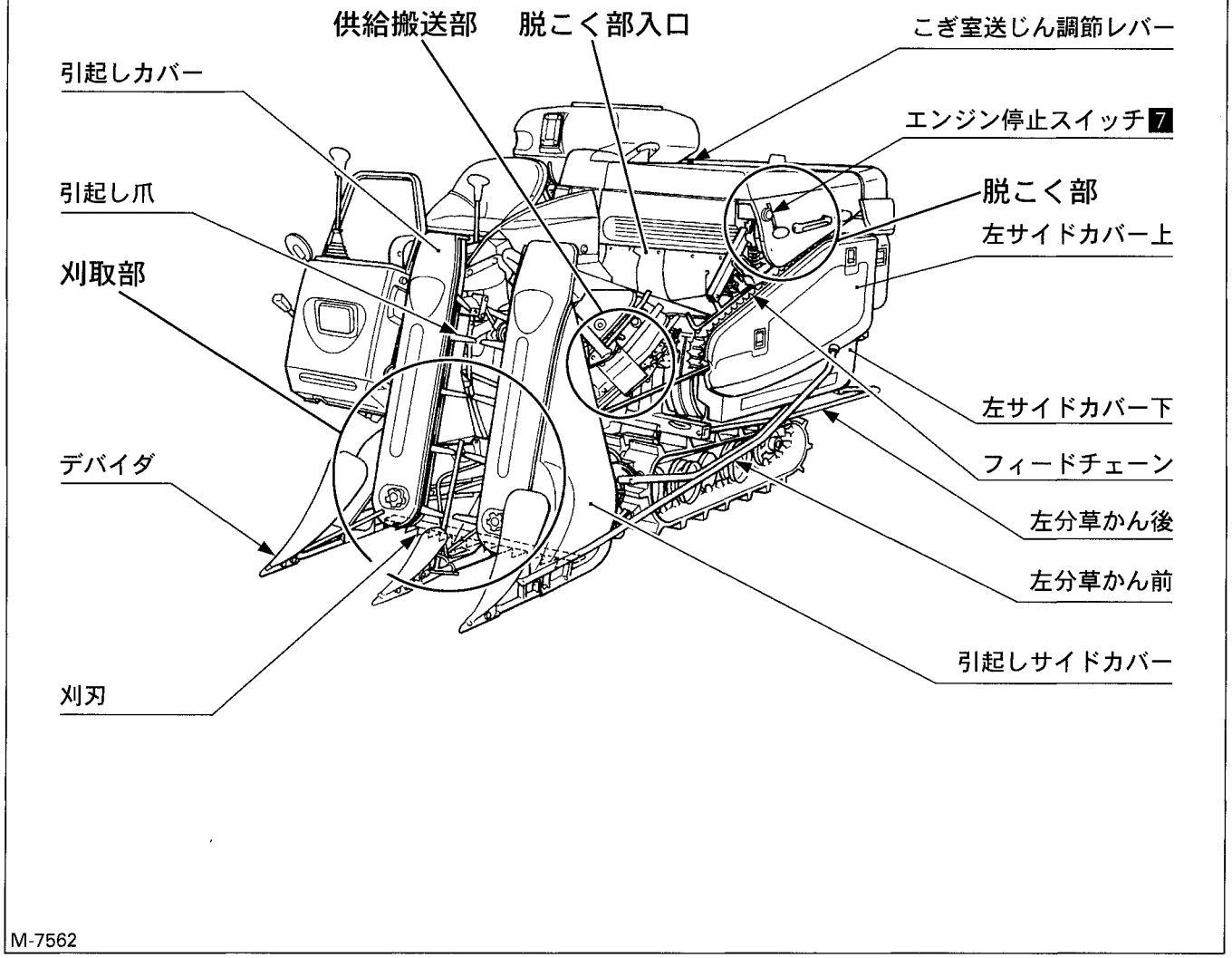
●ホーンスイッチ
中央の黄色いスイッチを押すとホーンが鳴ります。

作業装置の名称と取扱い

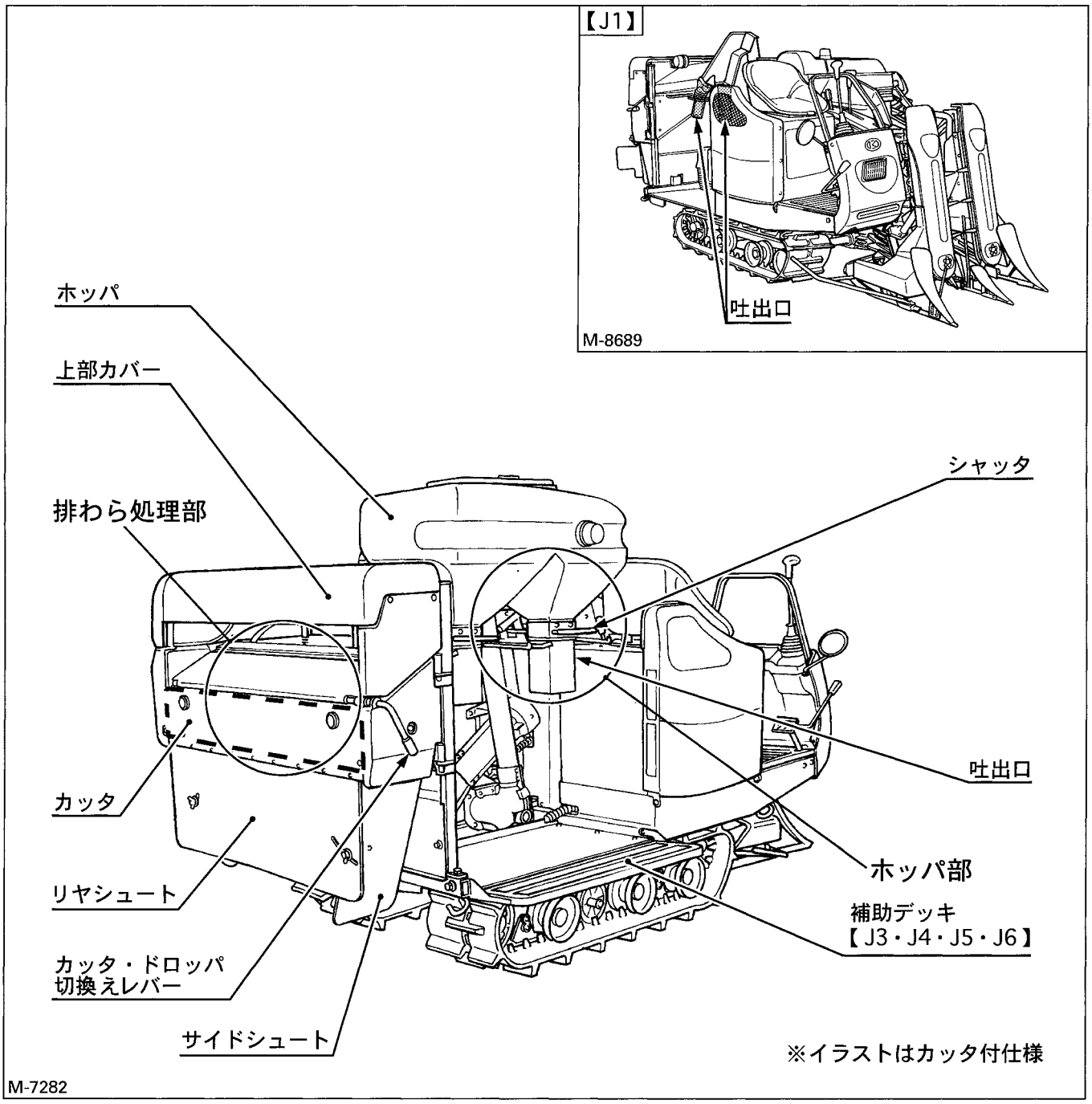
作業装置の名称

【J6】





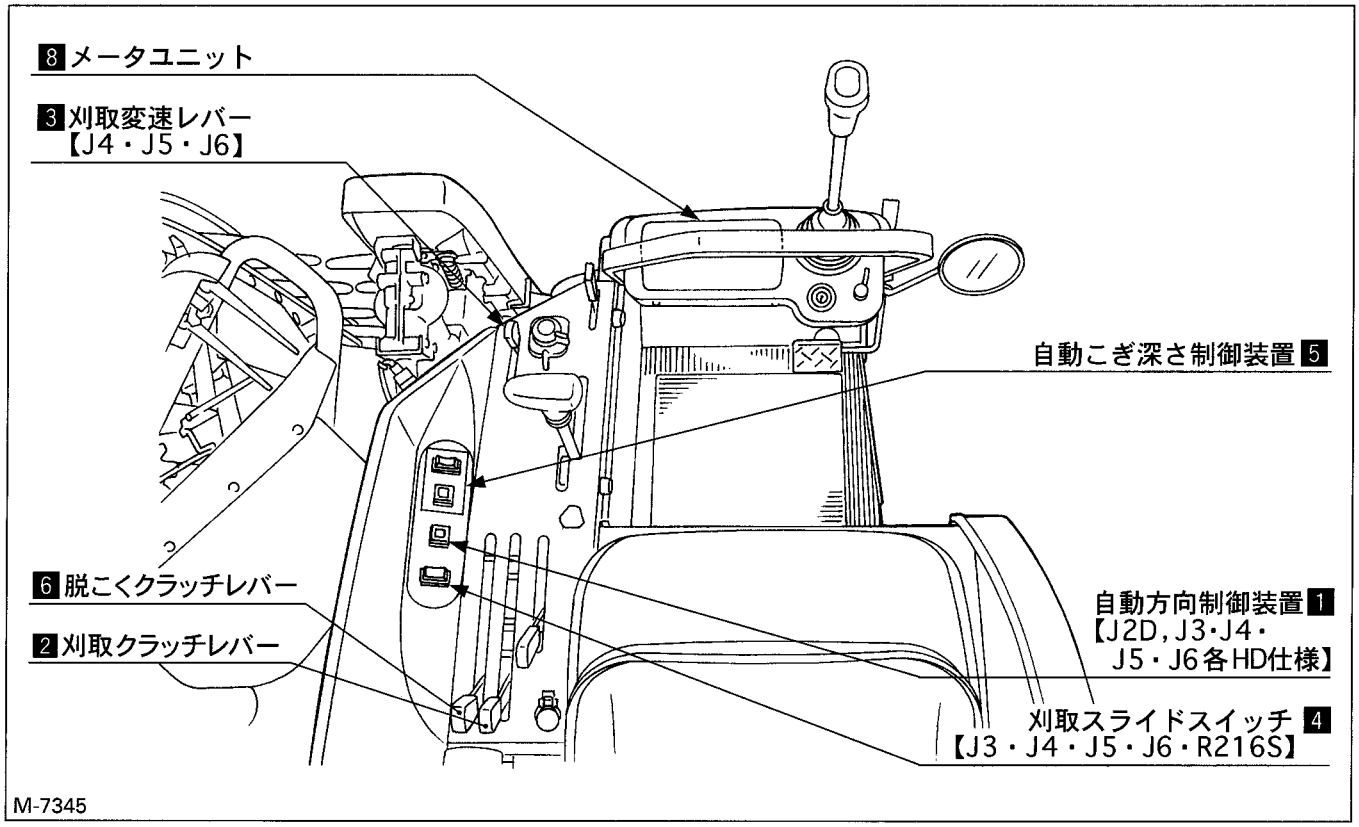
- **刈取部**……作物の刈取りと引起しを行なうところ
- **供給搬送部**……刈取った作物を脱こく部へ搬送するところ
- **脱こく部**……作物の脱こくを行なうところ



●**ホッパ部**……脱こくで精選されたこく粒を一時貯蔵したあと袋詰めを行なうところ

●**排わら処理部**……わらの切断やばら落としなどわらの処理を行なうところ

各部の名称とはたらき



◆走行操作関係

1 自動方向制御装置

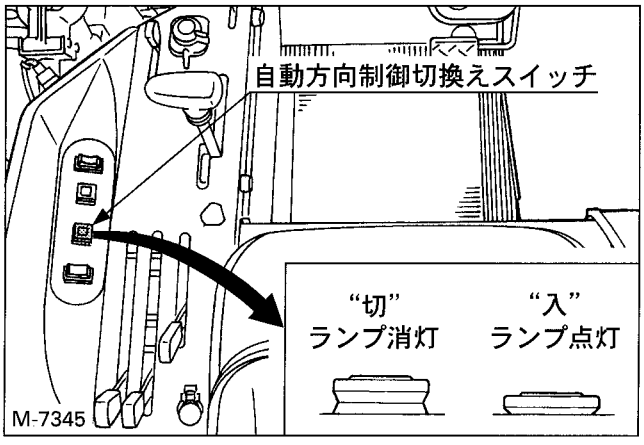
【J2D，J3・J4・J5・J6各HD仕様】

自動方向制御装置は，刈取作業中に方向センサ(右，左)が作物に接触すると，自動的に方向を修正する装置です。

●自動方向制御切換えスイッチ

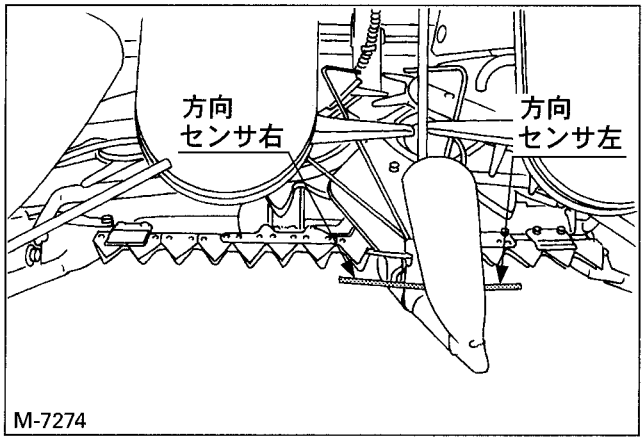
自動入り……ランプが点灯し，自動方向制御が作動します。

自動切り……ランプが消灯し，自動方向制御が解除されます。



●自動制御について

自動制御は，中央のデバイダに取付けている２本の方向センサ(右，左)が作物を感知して，デバイダが条と条の間を通るように方向修正します。



補　足

＊自動制御がはたらいているときでも，パワーステアリングレバーによる操作が優先されます。

＊横刈り(条刈りの直角方向)のときは，条間が不揃いのため機体が３～４秒間振動したあと，自動制御が停止して直進します。

＊自動制御は刈取作業中以外はたらきません。また，１条分多く刈取るときや斜めに刈るときは自動制御がはたらかないときがあります。

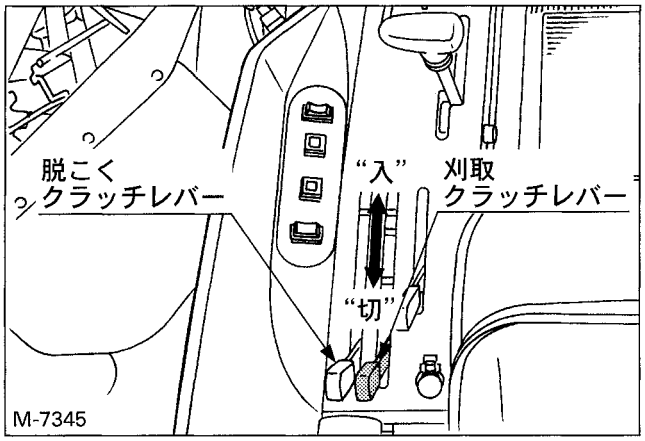
◆刈取関係

2刈取クラッチレバー

刈取部を作動させるレバーです。

“入”……刈取部が作動します。

“切”……刈取部が停止します。

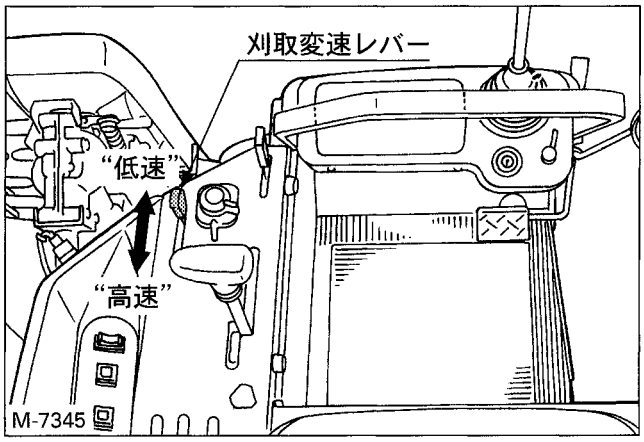


補　足

＊刈取クラッチレバーを**“入”**位置にすると同時に，連動して脱こくクラッチレバーも**“入”**位置に動き，脱こく部が作動します。

3刈取変速レバー【J4・J5・J6】

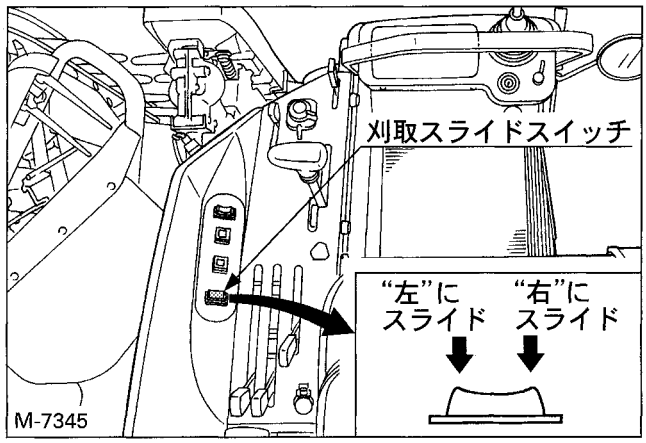
刈取部の速度を変えるレバーです。作物や作業の状態に合わせて，**“低速”**と**“高速”**の２段階に変速できます。



4刈取スライドスイッチ【J3・J4・J5・J6・R216S】

刈取部を左・右にスライドさせるスイッチです。

（**刈取スライドの使いかた**の項参照）



補　足

＊刈取スライド装置は，エンジン停止中でもメインスイッチ**“入”**の位置で動きます。

5 自動こぎ深さ制御装置

こぎ深さ自動制御装置は，作物の長さにかかわらず，適正なこぎ深さを保つ装置です。

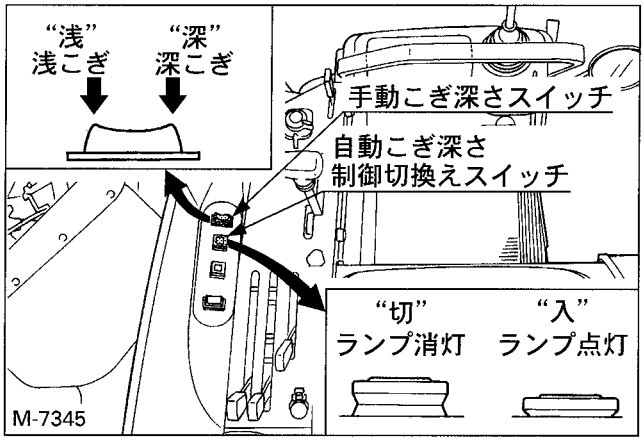
●自動こぎ深さ制御切換えスイッチ

自動入り……ランプが点灯し，自動こぎ深さ制御が作動します。

自動切り……ランプが消灯し，自動こぎ深さ制御が解除されます。

●手動こぎ深さスイッチ

こぎ深さを手動で使う場合，自動を解除して手動こぎ深さスイッチで供給搬送部の上・下調節をしてください。(**刈取作業の手順**の項参照)



補　足

＊自動制御が，はたらいているときでも手動スイッチによる操作が優先されます。

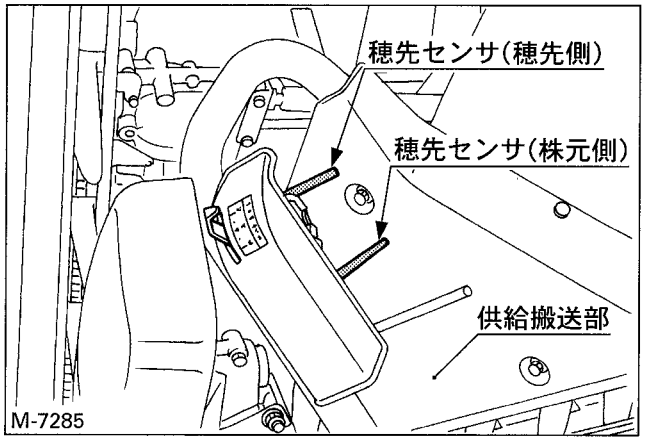
＊手動こぎ深さスイッチは，エンジン停止中でもメインスイッチ**“入”**の位置で作動します。

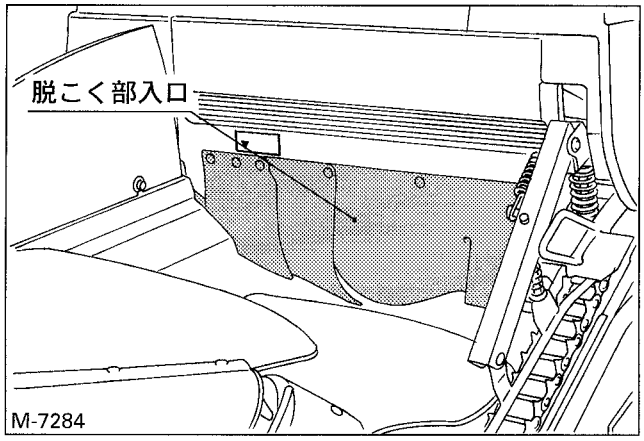
＊下記条件のときは，自動制御がはたらきません。

- 刈取作業中以外のとき
- 停止しているとき

●自動制御について

こぎ深さの自動制御は，供給搬送部の上部にある２本の穂先センサ(株元側，穂先側)が，搬送されてきた作物の穂先を感知して一定の状態で脱こく部入口へと供給します。





補　足

＊穂先センサ(株元側，穂先側)に浮わらや雑草が引っ掛かるとセンサが誤作動を起こし，正常な自動制御ができません。

＊下記のように自動制御の困難なときは，手動で操作してください。

- 長かん作物(約120cm以上)を刈取るとき
- 遅れ穂が多く，こぎ残しの出るとき
- 間欠に作物を刈取るとき
- 極端に作物の長さが不揃いのとき
- 雑草が多いとき
- 倒伏作物を低速で刈取るとき

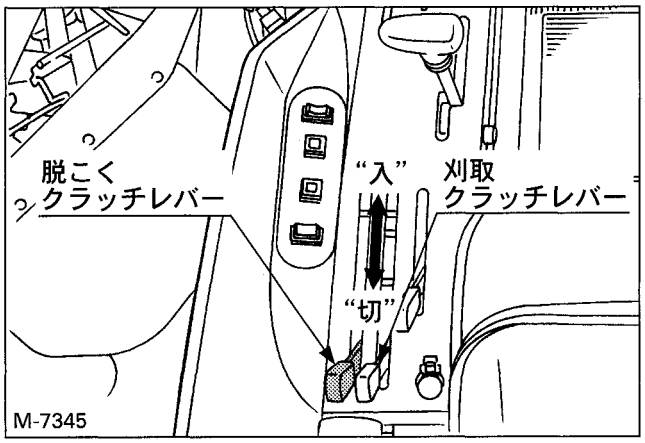
◆脱こく関係

6 脱こくクラッチレバー

脱こく部を作動させるレバーです。

“入”……脱こく部が作動します。

“切”……脱こく部が停止します。

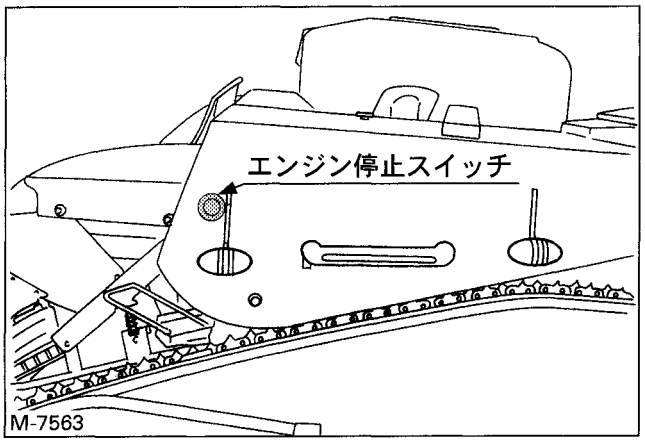


補　足

＊脱こくクラッチレバーを**“切”**位置にすると同時に，連動して刈取クラッチレバーも**“切”**位置に動き，刈取部が停止します。

7 エンジン停止スイッチ

エンジンを停止するスイッチです。エンジンが停止すると同時にブザーが鳴ります。



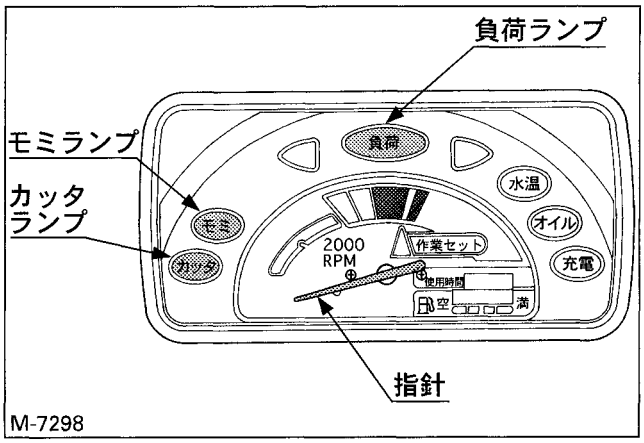
補　足

＊ブザーはスイッチキーを**“切”**位置にすると止まります。

＊スイッチキーを**“切”**位置に戻してからエンジンを再始動してください。

◆電装関係

8 メータユニット



◆各ランプ

●負荷ランプ

エンジンに負荷がかかってくるとランプが点滅し，ブザーが鳴ります。

補　足

＊エンジン回転数は，負荷が大きくなるほど下がります。指針の示す位置で以下のようになります。

適正範囲(緑色)

⬇

減速範囲(黄色)……ランプ点滅

⬇

即時減速(赤色)……{ ランプ点滅 / ブザーが鳴る }

●モミランプ

もみが満杯になったとき，ランプが点滅しブザーが鳴ります。

●カッタランプ

カッタランプはわら処理部に異常が発生すると，エンジンが自動停止(**自動エンジン停止装置**)すると同時に，点滅してブザーが鳴ります。

補　足

＊処置については，**メータユニットによる異常と処理**の項を参照してください。

運転前の点検

故障を未然に防ぐには，機械の状態をいつもよく知っておくことが大切です。日常点検は一日一回，運転前に欠かさず行なってください。(点検・調整方法の詳細は，**メンテナンス**の項を参照。)

警 告

＊必ずエンジンを停止してから行なってください。
＊バッテリの点検・充電・交換中は火気厳禁です。
＊取外した回転部のカバー類は，衣服などが巻込み危険ですので，必ず取付けてから作業をしてください。

注 意

＊燃料やオイル補給中は火気厳禁です。
＊運転前にブレーキ・クラッチや安全装置などの日常点検を行ない，摩耗や損傷している部品があれば交換してください。また，定期的にボルトやナットがゆるんでいないか点検してください。
＊使用前にはオイル，燃料が規定量入っているか必ず点検してください。
＊燃料，オイルがこぼれた場合は，きれいにふき取ってください。
＊バッテリ，マフラやエンジン・燃料タンク・ベルトカバー内・配線部周辺にごみや燃料の付着，泥の堆積などがあると火災の原因になることがあります。日常点検をして取除いてください。
＊刈刃やカッタの点検・掃除時は刃部に注意してください。

重 要

各部への給油と交換
＊点検するときは機体を水平な場所において行なってください。傾いていると正確な量を示しません。
＊使用するエンジンオイル，ミッションオイル，グリースは，指定の**“クボタ純オイル・スペアグリース”**を必ず使用してください。
＊燃料補給の際は，ゴミや水が混入しないようにしてください。

◆前日の異常箇所

前日の作業中に異常を感じたところがあれば，使用前に支障がないか点検してください。

◆コンバインの回りを歩いて

(1)ボルトやナットのゆるみや脱落がないか点検します。
(2)車体各部の変形や損傷がないか点検します。
(3)油もれや水もれなどないか点検します。
(4)機体各部にわらくずがたまっていないか点検します。

日常点検項目

〈ここを〉		〈点検し異常があれば〉	〈こうする〉	参照ページ
機体の回りを歩いて	機体各部	1. 損傷や変形はないか。 2. ボルトやナットのゆるみや脱落はないか。 3. 油もれや水もれはないか。 4. わらくずがたまっていないか。 5. 安全ラベル(⚠表示ラベル)の損傷やはがれはないか。	1. 修理又は，交換する。 2. 補充，増締めをする。 3. ホースやパイプの取付部の締付け又は，部品交換をする。 4. 掃除する。 5. 新しいラベルに貼替える。	— — 70 55 ⚠-18
	刈刃，カッタ刃	●刃の損傷はないか。	●交換する。	81, 85
	クローラ	●たるみや損傷はないか。	●調整又は，交換する。	93
	防じんあみ	●詰まりはないか。	●掃除する。	71
	反射器	●汚れや損傷はないか。	●掃除又は，交換する。	92
エンジンルームを開けて	エンジンオイル	●油量は規定量(オイルゲージの**上限線と下限線の間**)あるか。	●規定量まで補給する。 ……クボタ純オイルD30又は，D10W30	65
	ラジエータ 冷却水	●リザーブタンクの水量は規定量(タンクの**H線とL線の間**)あるか。	●清水を規定量まで補給する。	68, 96
	ラジエータ フィン	●詰まりはないか。	●掃除する。	71
	エアクリーナ	●エレメントが汚れたり，ほこりが詰まっていないか。	●掃除又は，エレメントを交換する。	69
	ファン駆動ベルト	●たるみはないか。 ●損傷はないか。	●調整する。 ●交換する。	70
	ホース，パイプ	●油もれ，水もれはないか。	●取付部の締付け又は，交換する。	70
	配線コード	●コネクタなどの外れやゆるみ又は，被覆の損傷はないか。	●取付け又は，交換する。	91
メインスイッチを入れて運転席に座り	燃料計	●作業に必要な燃料はあるか。	●ディーゼル軽油を補給する。	9, 65
	各ランプ	●各スイッチを操作すると点灯又は，点滅するか。	●球切れ，ヒューズ切れ，配線コードの外れを調べ交換又は，取付けをする。又は，購入先へ連絡してください。	9, 10 15, 47 91
	ホーン	●スイッチを押すと鳴るか。		
	バックブザー	●主変速レバーを**“R”(後進)**位置にするとブザーが鳴るか。		
ブレーキ		●あそびの量は適正か。	●調整する。	73
バッテリ		●エンジンは始動するか。	●充電又は，交換する。	88, 96
エンジンを始動して	メータユニット 充電ランプ	●各ランプは消灯するか。	●ヒューズ切れ，配線コードの外れを調べ交換又は，取付けをする。	9, 47, 92
	メータユニット オイルランプ		●エンジンオイルを規定量まで補給する。 ……クボタ純オイルD30又は，D10W30	9, 47, 65
	エンジン マフラ	●異音はしないか。 ●排気ガスの色に異常はないか。	●購入先へ連絡してください。	—
	各レバー	●各レバーの作動に異常はないか。	●調整又は，購入先へ連絡してください。	73, 96
	刈取スライド(刈取部)【J3・J4・J5・J6】	●スライドスイッチを操作したときに，刈取部の作動(スライド)に異常はないか。	●作動部にグリースを塗布する。	58, 93
	こぎ深さ制御(供給搬送部)	●手動こぎ深さスイッチを操作したときに，供給搬送部の作動(上昇↔下降)に異常はないか。	●スライドガイドにグリースを塗布する。 ●ヒューズ切れ，配線コードの外れを調べ交換又は，取付けをする。又は，購入先へ連絡してください。	58, 93
	エンジン停止スイッチ	●スイッチを押すと，ブザーが鳴りエンジンが停止するか。	●ヒューズ切れ，配線コードの外れを調べ交換又は，取付けをする。又は，購入先へ連絡してください。	14, 91

重 要

＊処置したあとに異常が直らないときは，購入先に連絡してください。

移動走行と輸送

新車時の扱いかた

新車時の上手な運転操作やメンテナンスがコンバインの寿命に影響を及ぼします。新車のコンバインは厳重な検査のもとに出荷されていますがコンバインの各部の部品はならし運転されていません。ならし運転期間中はコンバイン各部の部品がなじむまでは走行速度は低速で，過負荷となる刈取作業は避けてください。
コンバインの性能を最大に発揮させたり，長期にわたる耐久力を維持させるためには，適正なならし運転が重要です。
新車時の取扱いは次項を遵守してください。

■ならし運転について

＊急発進や急ブレーキ操作はしないでください。
＊寒い日や冬期，エンジンはじゅうぶん暖機運転をしてください。
＊エンジンは規定刈取作業回転数以上に回さないでください。
＊高速での刈取作業は避けてください。
＊整地されていない凹凸道路では低速走行をしてください。
以上はならし運転以降も必要な事項ですが，新車時は特に注意してください。

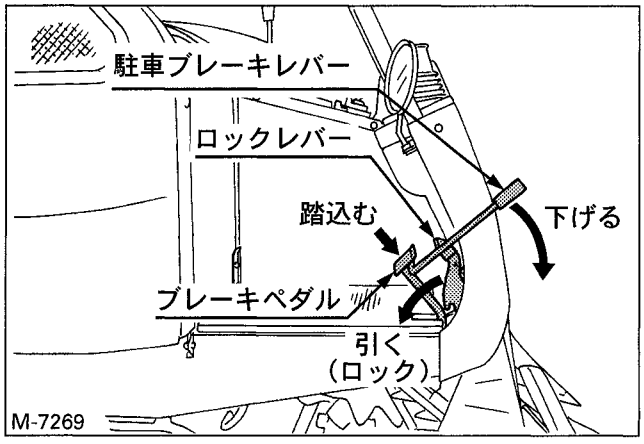
エンジンの始動と停止のしかた

注 意

＊この取扱説明書前編の黄色のページの“安全に作業をするために”の内容を必ずお読みください。
＊コンバインに貼ってある警告・注意ラベルの内容を必ずお読みください。
＊エンジン排気ガスによる，排気ガス中毒をさけるため，換気の悪い納屋・倉庫でエンジンを回さないでください。
＊始動操作は，ホーンなどで周囲の人に始動の合図をしてから行なってください。

■始動のしかた

1. 駐車ブレーキを掛けます。
ブレーキペダルをいっぱい踏込んだあと，ロックレバーを引下げて，ロックレバーのフック部を駐車ブレーキレバーに引掛けてロックします。



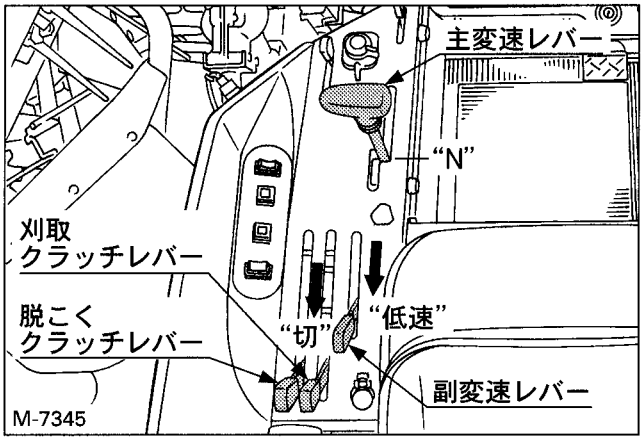
補 足

＊駐車ブレーキを掛けていないときは，ブレーキペダルをいっぱいに踏込まないとエンジンが始動しません。

2. 各レバー位置の確認をします。

❶主変速レバーを**"N"(中立)**，副変速レバーを**"低速"**位置にします。

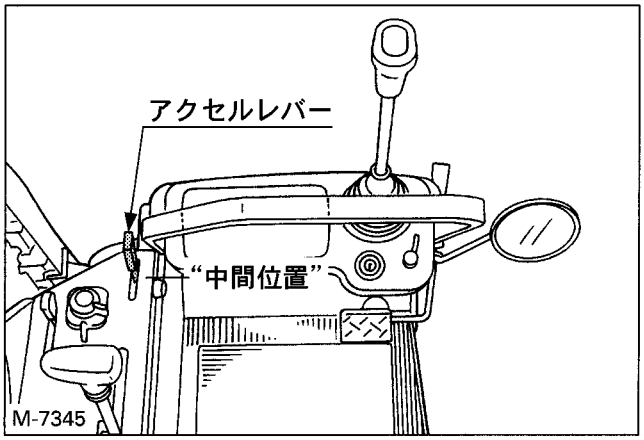
❷各作業クラッチ(刈取り・脱こく)レバーを**"切"**位置にします。



補　足

＊作業クラッチレバーが**"入"**位置のときは，エンジンが掛かりません。

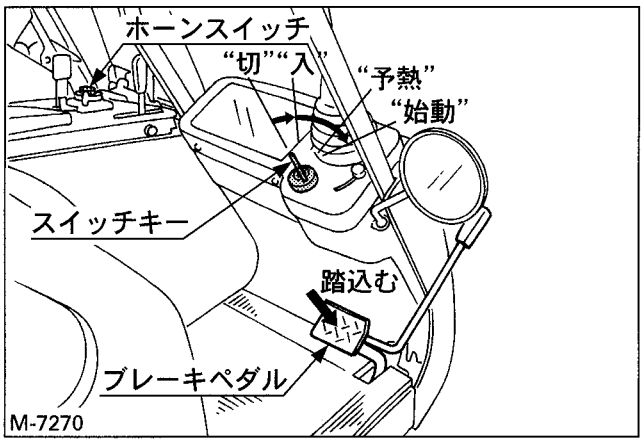
❸アクセルレバーを**中間位置**まで引きます。



3. エンジンを始動します。

❶メインスイッチにスイッチキーを差込み**"入"**の位置にしたあと，ホーンを鳴らすなどして始動の合図を周囲の人に送ります。

❷スイッチキーを**"始動"**の位置に回してエンジンを始動します。始動後は，スイッチキーから手を離してください。



重　要

＊スイッチキーを**"始動"**位置に回して10秒たっても始動しないときは，いったんキーを**"切"**位置にして，30秒ほど休止してから，エンジンを再始動してください。10秒以上の使用は故障の原因になります。

＊エンジン回転中に，スイッチキーを**"始動"**位置に回すと故障の原因になります。

＊エンジン始動後，オイルランプ，充電ランプが**消灯**しないときは，購入先へ連絡してください。

補　足

＊スイッチキーを**"入"**位置にしたとき，液晶のアワメータに約0.5秒間機種名(J2・J3・J4・J5)を表示します。このとき，J1はJ2，J6・R216SはJ5と表示されます。

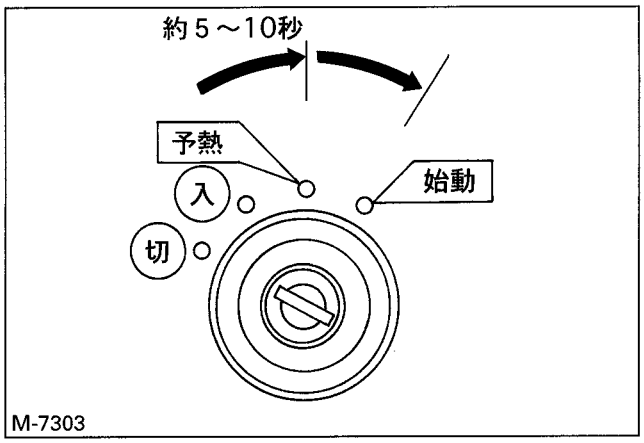
❸エンジン始動後は，通常約5～10分間は負荷をかけずに暖機運転を行なってください。

重　要

＊オイルを各部にじゅうぶんゆきわたらせるためで，始動してからすぐ負荷をかけると，運転部分の焼付きや破損などの故障の原因になります。

◆寒冷時の始動のしかた

寒冷時にエンジンを始動するときは，始動する前にスイッチキーを**“予熱”**位置で約5～10秒間予熱したあと**“始動”**位置に回してください。



重　要

＊寒冷時は暖機運転を怠たるとパワーステアリングレバー操作ができなくなったり，ブレーキが効かなくなるなど**油圧系統の故障**につながりますので，下記の表を目安にアクセルレバーを**中間位置**にして暖機運転を行なってください。

気　　温	暖機運転時間
0℃～－10℃	約10分
－10℃～－15℃	10～15分
－15℃～－20℃	15～20分
－20℃以下	20分以上

◆燃料切れ後の再始動のしかた

運転中に燃料切れで停止した場合は，

❶各クラッチレバー及びスイッチキーを**“切”**位置にします。

❷燃料タンクに燃料を補給します。

❸**始動のしかた**の**1～3**を確認後，エンジンを始動します。

補　足

＊スイッチキーを**“入”**位置にすると約5～10秒で自動的にエア抜きされます。

■停止のしかた

❶刈取クラッチレバー・脱こくクラッチレバーを**“切”**位置にします。

❷アクセルレバーを**“🐢”(低回転)**位置にします。

❸スイッチキーを**“切”**の位置にしてエンジンを停止します。

重　要

＊エンジン停止中でスイッチキーが**“入”**位置の状態のまま長時間放置すると**バッテリ上り**となります。

＊スイッチキーを**“切”**位置にしてもエンジンが停止しないときは**非常エンジン停止レバー**を引いてください。そのあと，ヒューズや配線を点検し，異常がなければ購入先へ連絡してください。また非常エンジン停止レバーは**非常時以外**は使用しないでください。（**各部の名称とはたらきの非常エンジン停止レバー**の項参照）

移動走行について

注 意

＊ホッパ内に残っているもみは全て排出してください。
＊安全のためヘルメットを着用してください。
＊運転者以外の人は乗せないでください。
＊10cm以上の段差(あぜやコンクリート畦畔など)のあるところではあゆみ板を使ってください。
＊あゆみ板を使うときや，前後左右とも10度をこえる傾斜地(坂道)を走行するときは，速度を最低速にし機械から降りて操作してください。また，駐車ブレーキレバー・主変速レバー・パワーステアリングレバーを操作すると，機械の移動方向が変化したり，急降下，落下するおそれがありますので操作しないでください。
＊あゆみ板を使うときや坂道を走行するときは，速度を最低速にし，あぜや傾斜方向に対して上り方向は前進，下り方向は後進(結束機装着時は上り方向は後進，下り方向は前進)で直角に走行してください。斜めに走行すると転倒してケガをするおそれがあります。
＊下記のようなところを走行するときは，転倒しケガをするおそれがあるので注意してください。
- ●両側が傾斜していたり，溝のある道路の路肩
- ●道幅に余裕がなく高いところにある道路(土手)
- ●路肩の弱い道路
- ●路面の凹凸(溝や穴・窪地など)の落差の大きいところや路面が草などでおおわれて良く見えないところ

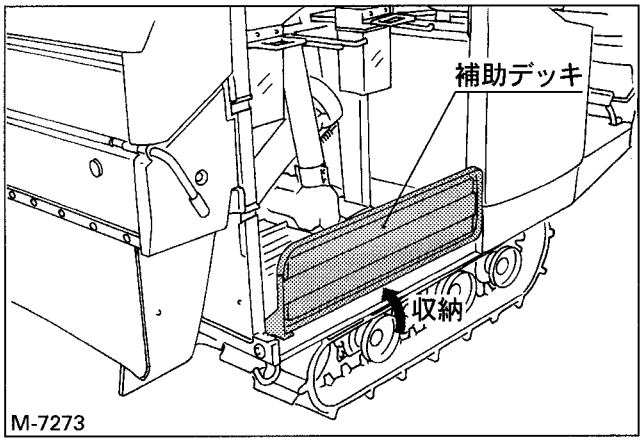
＊小型特殊自動車の標識(ナンバプレート)を取得していない場合や結束機を装着している場合は，“道路運送車両法”の違反となりますので公道を走行できません。必ずトラックなどに乗せて移動してください。

■走行前の準備

注 意

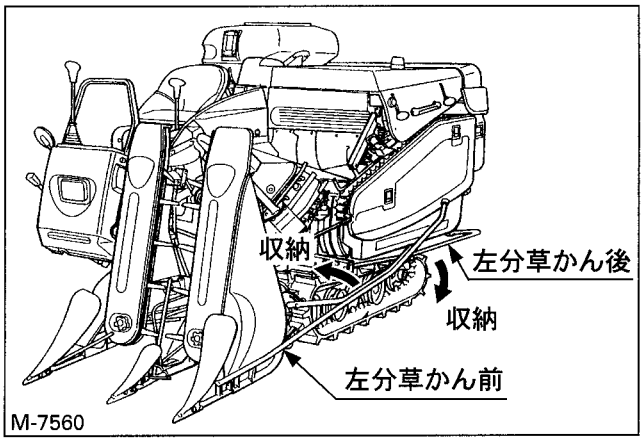
＊準備が終われば，カバー類などが確実に取付けられているか確認してください。

❶ホッパ内に残っているもみをすべて排出します。(**もみの排出のしかた**の項参照)
❷補助デッキを**収納**します。【J3・J4・J5・J6】



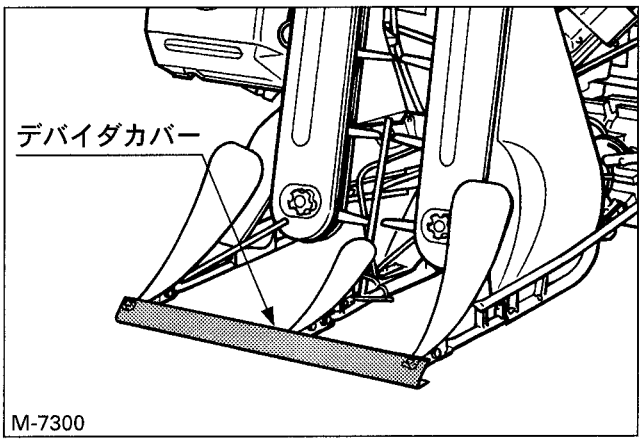
M-7273

❸左分草かん前・後を**収納**します。



M-7560

❹デバイダカバーを取付けます。



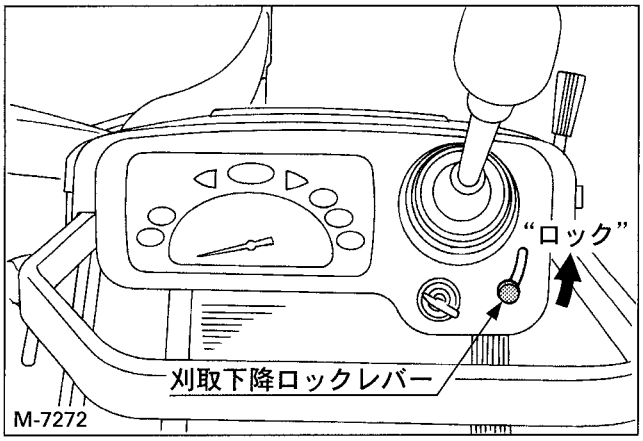
M-7300

補 足

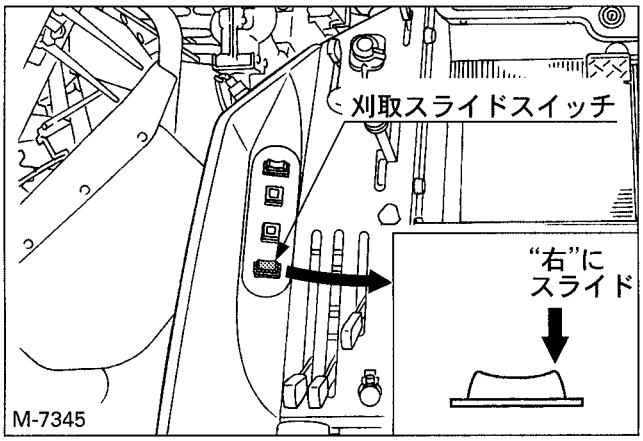
＊右側デバイダは標準の位置にしてください。(**作業に合わせた各部の調節のしかた**の項参照)

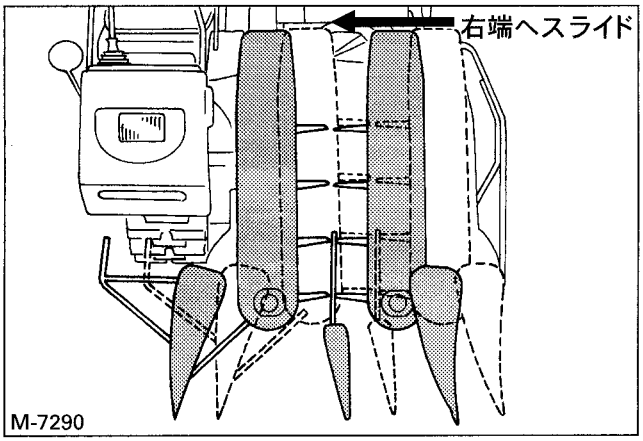
❺運転席に座り刈取クラッチレバー，脱こくクラッチレバーを**“切”**位置にします。

❻エンジンを始動し，パワーステアリングレバーで刈取部を上昇したあと，刈取下降ロックレバーで刈取部を**ロック**します。

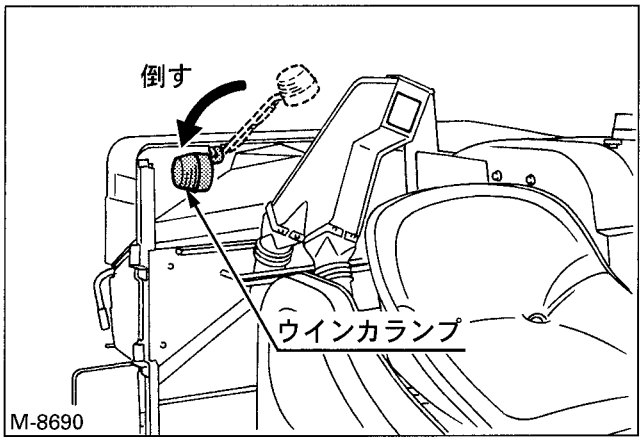


❼刈取スライドスイッチを操作して刈取部を右端(運転席側)いっぱいまで移動します。**【J3・J4・J5・J6・R216S】**

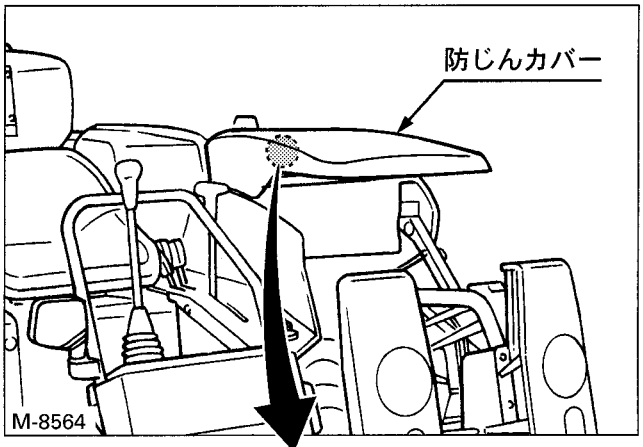


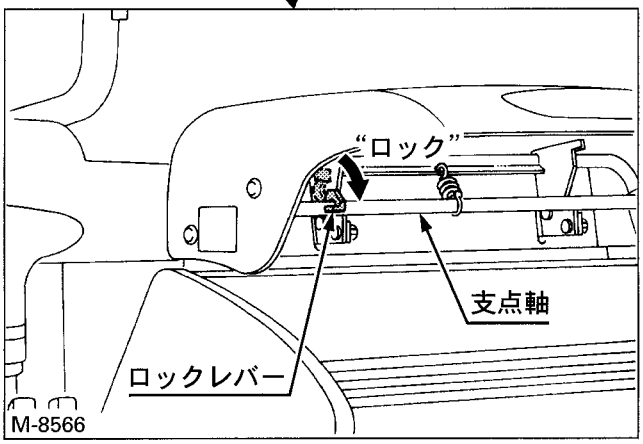


❽右側のウインカランプを外側(走行時位置)いっぱいまで倒します。**【J1】**



❾防じんカバーが浮上がらないように支点軸にロックレバーを掛けてロックします。**【J6】**

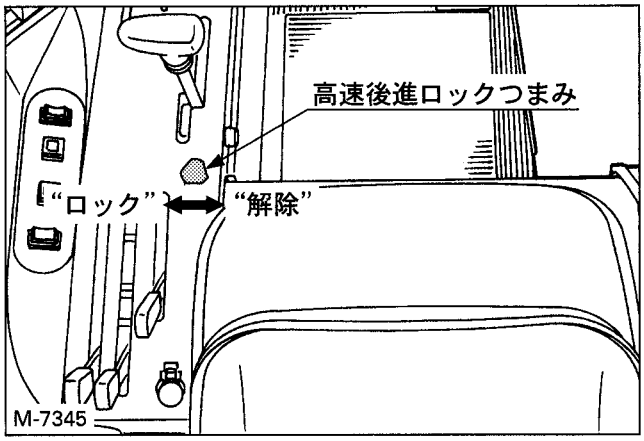




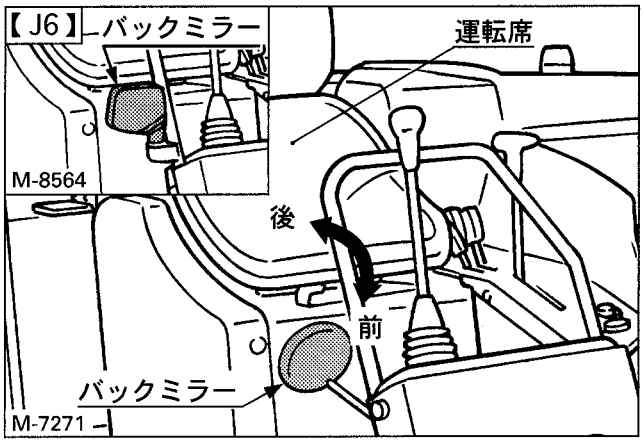
■発進のしかた

注 意

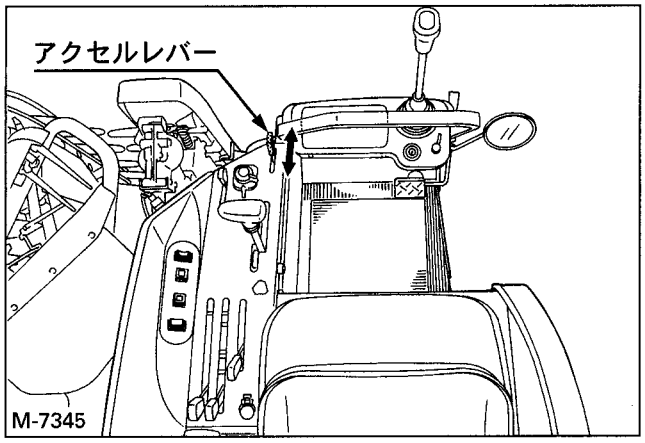
＊発進をするときは，周囲の安全を確かめてホーンなどで合図を行なってから発進してください。
＊急発進は危険ですので，前進の場合は主変速レバーを“N”(中立)から“1”速にして発進してください。
＊副変速レバーは“低速”，“中速”，“高速”各変速位置に合わせてあることを確認してください。
＊副変速レバーが“高速”位置のときは，高速後進ロックのつまみを必ず“ロック”位置にしてください。（後進するときは，副変速レバーを“中速”又は“低速”にしてください。）



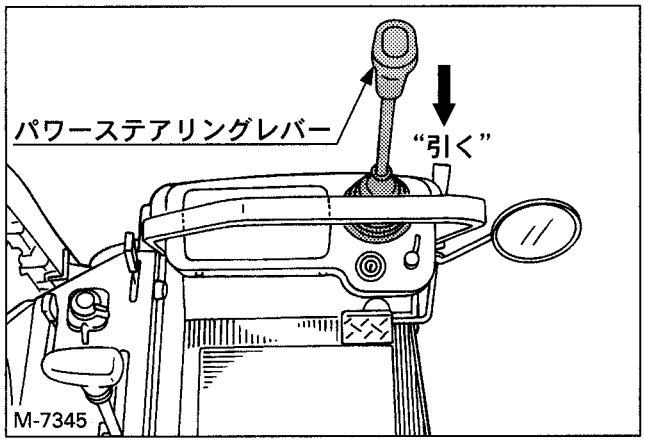
1. 運転席，バックミラーの調整を行ないます。
❶運転席を上部に持上げて前・後の調整を行ないます。
❷後方の状況が分かるようにバックミラーを調整します。

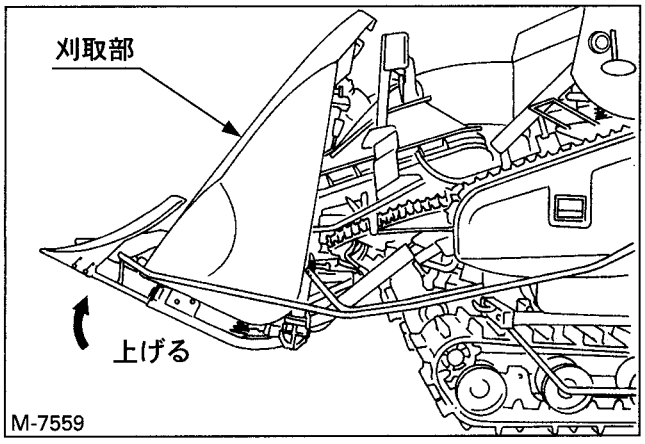


2. アクセルレバーを操作します。
エンジンを始動したあと，アクセルレバーを操作してエンジン回転を調整します。



3. 刈取部を上げます。
パワーステアリングレバーを引いて刈取部を**最上昇位置**まで上げます。



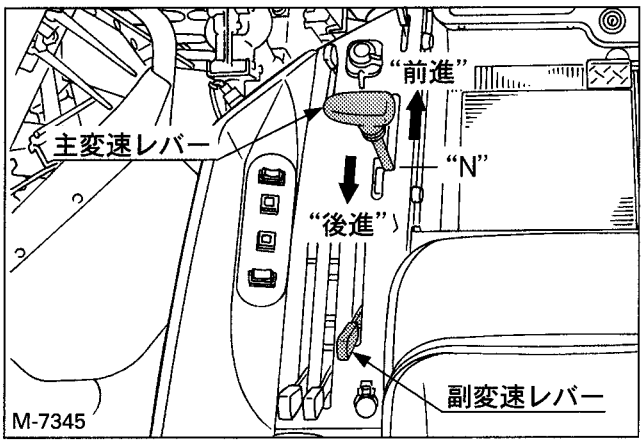


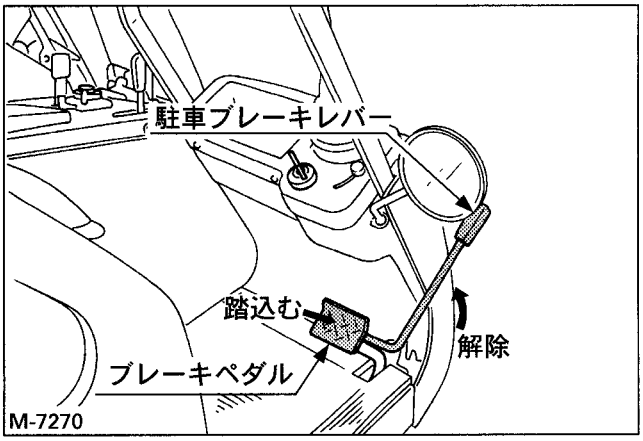
4. 走行速度を選んで発進します。

❶主変速レバーを**"N"(中立)**位置にして副変速レバーで速度を選びます。

❷ブレーキペダルを踏込んで駐車ブレーキを解除します。

❸主変速レバーを**"N"(中立)**位置より前に押すと**前進**し，後に引くと**後進**します。





補　足

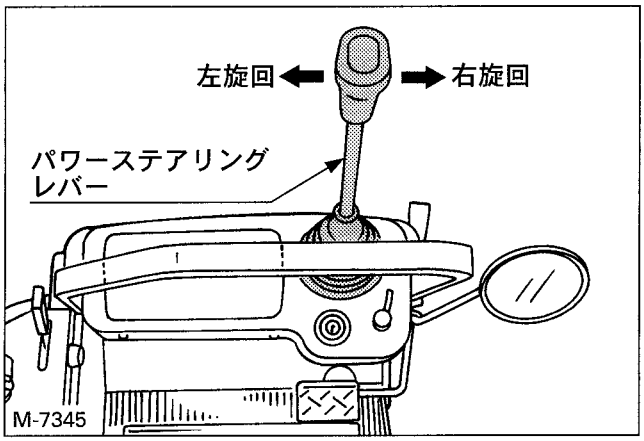
＊主変速レバーの操作は，ブレーキペダルを踏まずに行ないますが，副変速レバーの操作はブレーキペダルを踏込んでください。

■旋回のしかた

注　意

＊高速走行時，パワーステアリングレバーを強く操作すると急旋回して危険ですので，旋回前に必ず減速してください。

旋回する方向にパワーステアリングレバーを倒します。倒す角度に応じて旋回力が変わります。また，いっぱいまで倒すと急旋回します。



重　要

＊砂利道での急旋回は，クローラに石がかみこみ故障するおそれがありますので避けてください。

■停車のしかた

注　意

＊コンバインを離れるときは，平たんで安全な場所に置き，刈取部を降ろして駐車ブレーキを掛け，エンジンを止めてください。

＊緊急停止を要するとき及び，坂道で停車をするときは，ブレーキペダルを素早くいっぱい踏込み，駐車ブレーキレバーにロックを掛けてください。坂道でブレーキペダルを離すと，暴走することがあります。

＊坂道やあぜ越えなどの斜面では，ブレーキペダルを素早くいっぱいまで踏込んでください。
クラッチが切れたあと，ブレーキが効く前の中間位置で保持すると，暴走するおそれや主変速レバーが自動的に変速されることがあります。

＊坂道で駐車するときは，木片などで車止めをし，暴走を防いでください。

❶駐車ブレーキを掛けます。

❷アクセルレバーを**"🐢"(低回転)**位置にします。

❸主変速レバーを**"N"(中立)**位置にします。

❹エンジンを停止してスイッチキーを抜きます。

■道路走行について

警 告

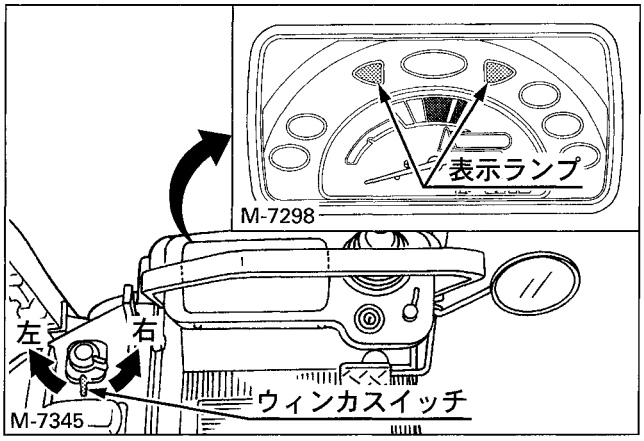
＊道路を走行するときは，小型特殊自動車の法規を守り安全運転をしてください。

注 意

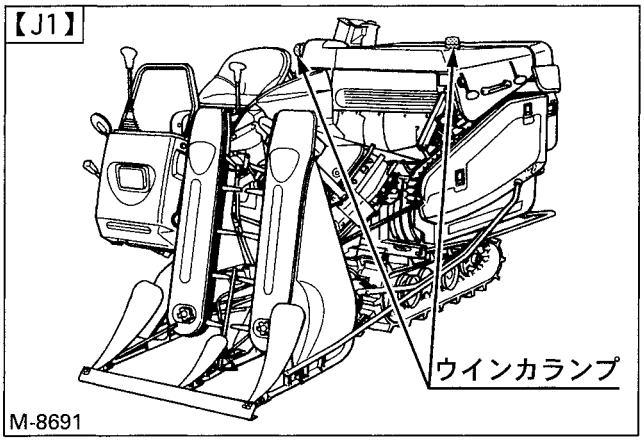
＊結束機【結束機付仕様】は必ず取外してください。
＊夜間に移動走行するときは，ヘッドランプを必ず点灯し，ヘッドランプ以外の作業灯(オプション)は必ず消灯してください。
＊作業灯は(オプション)“道路運送車両の保安基準”第42条(灯火の色等の制限)において，“走行中に使用しない灯火”とされ，点灯したまま道路走行すると他の交通車両の妨害となることから，道路走行中の点灯は禁止されています。

道路走行中進路方向を変えるときは，ウィンカ(方向指示器)で進路方向を他の自動車に知らせてください。

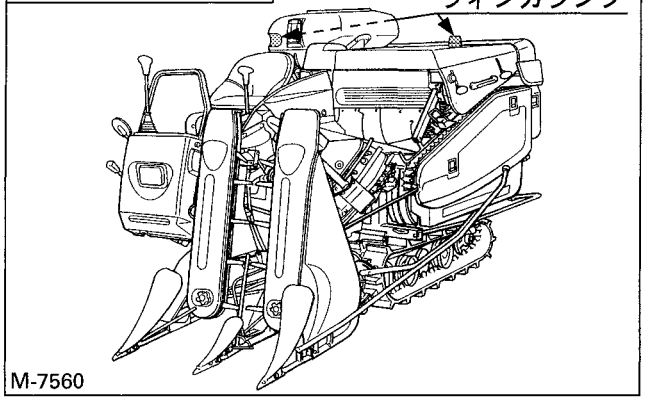
●ウィンカスイッチ
旋回方向に操作すると，ウィンカランプが点滅すると同時にメータユニット内の表示ランプが点滅します。



【J1】



【J2・J3・J4・J5・J6】



補 足

＊旋回が終わるとウィンカスイッチは中央に戻してください。

輸送について

■トラックとあゆみ板の準備

注 意

＊積込み・積降しは平たん地を選び，トラックの駐車ブレーキをしっかり掛けてください。
＊あゆみ板はフックが付いているもので，じゅうぶんな強度，幅(45cm以上)，長さ(高さの4倍以上)のある基準に合ったすべり止め付きのものを使用し，コンバインの重量であゆみ板が傾いたりしない場所を選んでください。
＊あゆみ板を荷台に掛けるときは，段差がなく平行で，左・右のあおりに機体が接触しない位置に合わせてください。

あゆみ板の基準

長 さ	トラックの荷台の高さの４倍以上
幅	45cm以上
数 量	２枚
強 度	１枚が700kg以上の重量に耐えうる

■コンバインの準備

もみをすべて降ろし，補助デッキ**【J1・J2除く】**や左分草かんをそれぞれ収納したあと，デバイダカバーを取付け，刈取部を右端いっぱいまで動かします。(**移動走行についての走行前の準備**の項参照)

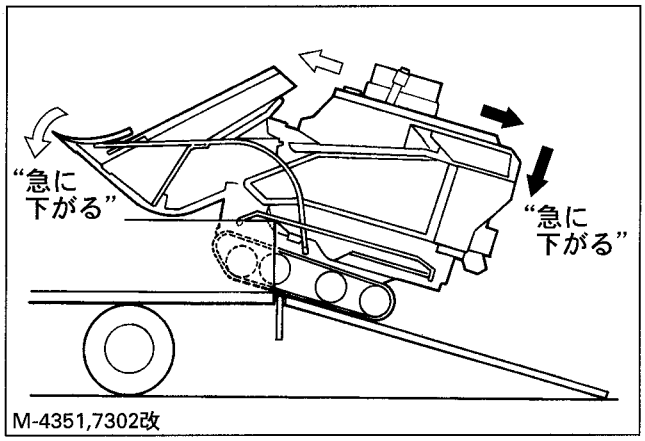
■コンバインの積込み・積降しのしかた

注 意

＊積込みは前進で，積降しは後進で行なってください。ただし，結束機を装着している機械は後進で積込み，前進で積降しを行なってください。

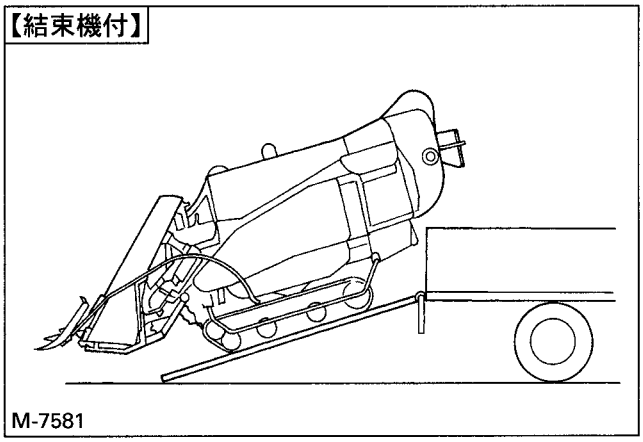
＊積込み・積降し作業を行なうときは，機体から降りて発進させてください。

＊運転者及び共同作業者は，あゆみ板を走行中のコンバインからは離れてください。

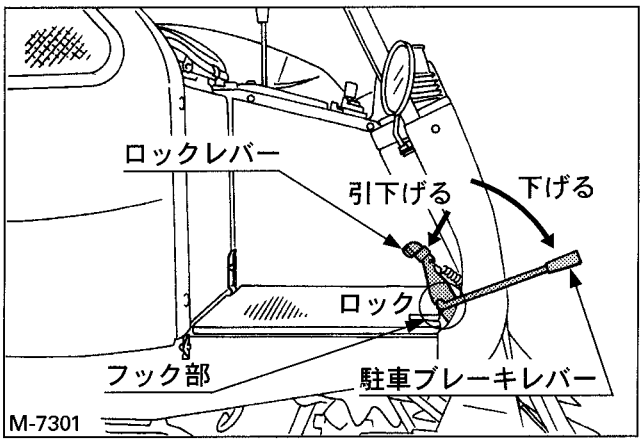


M-4351,7302改

【結束機付】

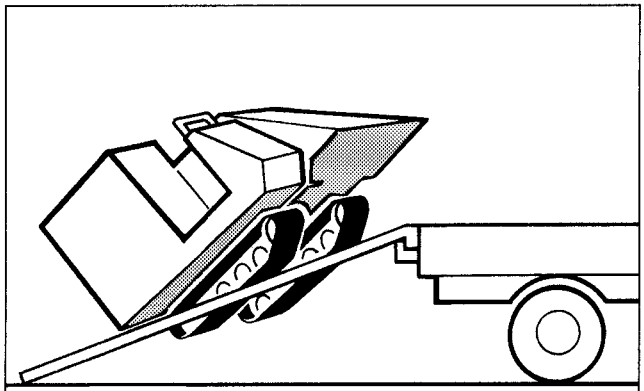

M-7581

＊走行中に異常が発生し，緊急に停止するときは，駐車ブレーキレバーを素早くいっぱい押下げて，駐車ブレーキレバーをロックしてください。操作をゆっくり行なうとブレーキが効く前に急降下します。

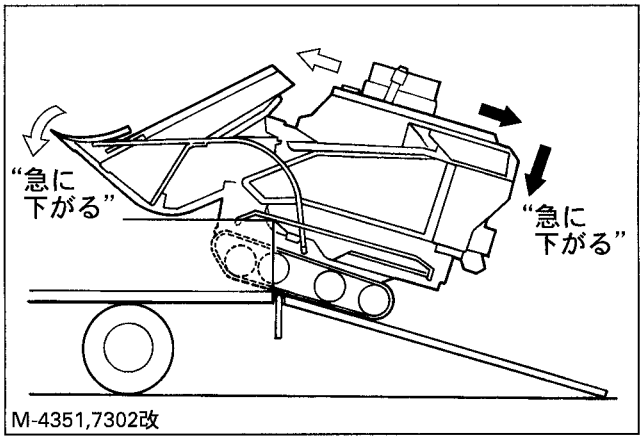


M-7301

＊あゆみ板の途中で駐車ブレーキレバー・主変速レバー・パワーステアリングレバーを操作すると，機械が急降下し落下する危険がありますので，操作しないでください。方向を変えるときは，いったん地上又は荷台に戻って方向を修正し，再度上り下りし直してください。


M-7262

＊機体が凸部を越えるときは，急にコンバインの姿勢が変わりますのでじゅうぶん注意してください。



M-4351,7302改

◆操作のしかた

❶各作業クラッチレバーを“切”位置にします。

❷アクセルレバーを“🐢”(低回転)の位置にします。

❸副変速レバーを“低速”位置にします。

❹主変速レバーは，前進のときは“1”速，後進のときは“R”(後進)位置にします。

❺パワーステアリングレバーで刈取部を最上昇位置まで上げます。

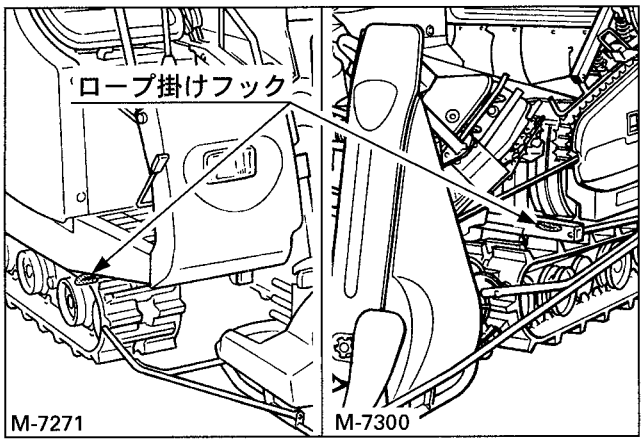
❻あゆみ板の前でいったん停止したあと，あゆみ板の中央に左右のクローラを合わせ，あゆみ板と平行になっているか確認してから積込み・積降しをしてください。

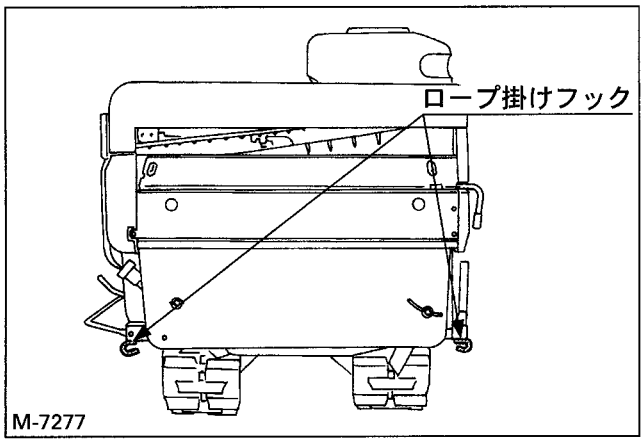
❼荷台に乗り終わると駐車ブレーキレバーを掛けて，走行を停止します。

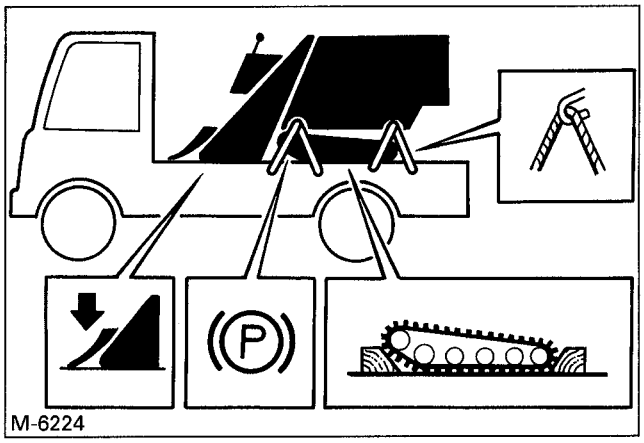
■トラック上での処置

注　意

＊刈取部を床まで降し，駐車ブレーキを掛け，車止めをし，ロープでしっかりトラックに固定してください。



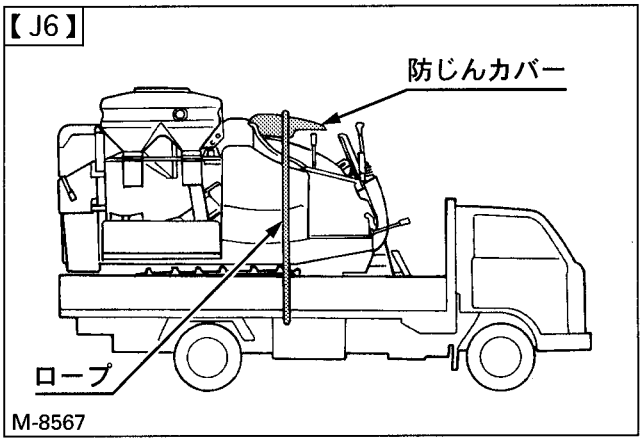




重　要

＊フック以外の所には，ロープを掛けないでください。

＊風圧により防じんカバーが浮上がるおそれがあるので，防じんカバーを降し，浮上り防止のロックをしてください。また，破損防止のためロープを傷がつかないように，掛けてください。**【J6】**



収穫作業のしかた

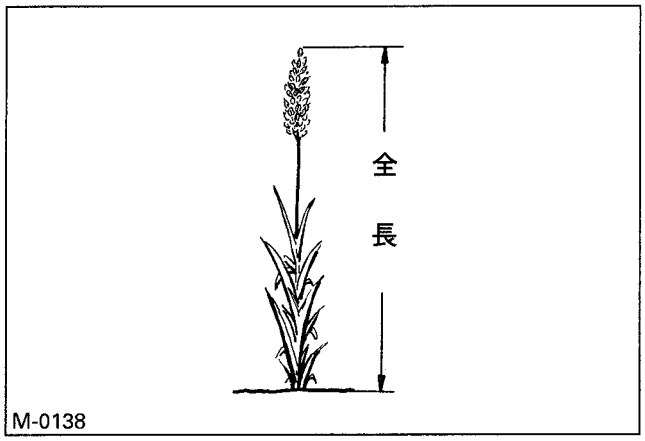
作物とほ場の条件

作物の状態やほ場の状態によっては，刈取作業ができない場合があります。作業を始める前によく確めて，収穫量が上がる能率のよい作業を行なってください。

■作物の条件

◆作物の長さ

刈取れる長さは，標準の刈高さで約55～120cmです。

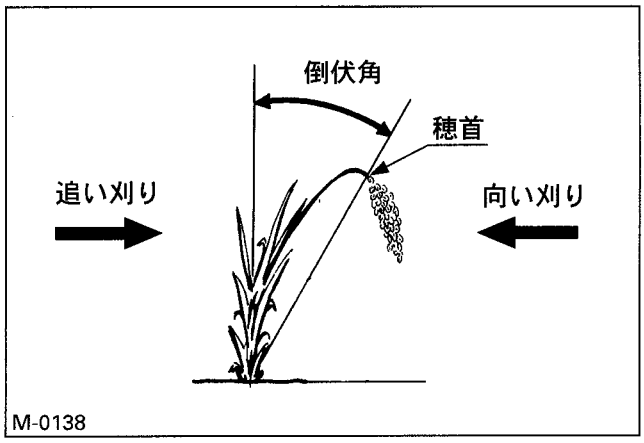


M-0138

◆作物の倒伏

作物の倒れかた(倒伏角)により，刈取り方向に注意してください。

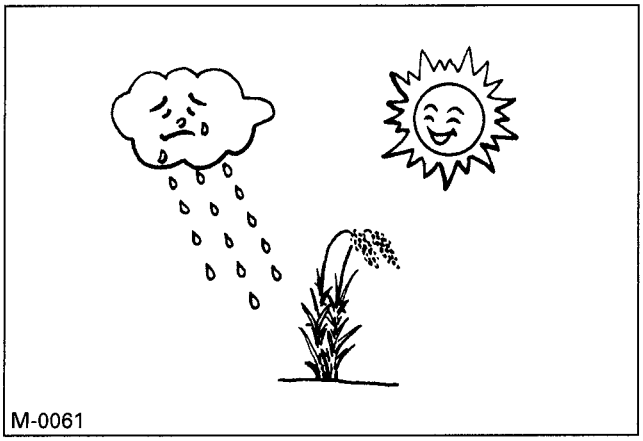
刈取りかた(方向)	倒　伏　角
追い刈り	85度以下
向い刈り	70度以下



M-0138

◆作物の水分(ぬれ)

作物の乾燥状態は，手でさわってぬれていない状態が適期です。

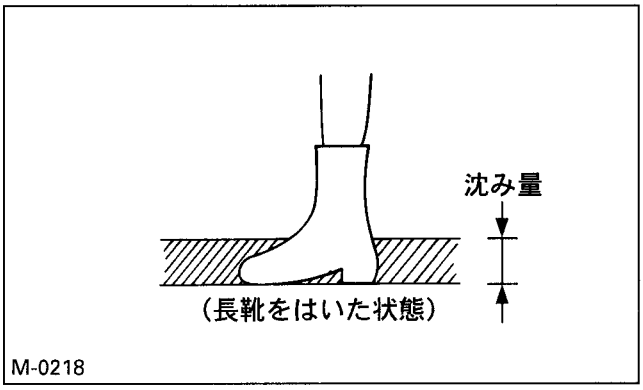

M-0061

■ほ場の条件

◆ほ場のぬかるみ

足の沈み量を測って目安にしてください。また，クローラの仕様(**仕様について**の項参照)によって，目安の沈み量は異なります。

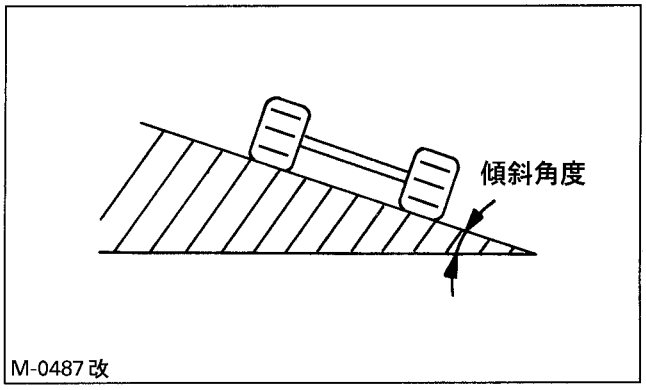
仕様	沈み量	仕様	沈み量
標準	10cmまで	W2	20～25cm
W	15cmまで	SLW	25～30cm



M-0218

◆ほ場の斜き

傾斜角度５度以上では，作業できません。

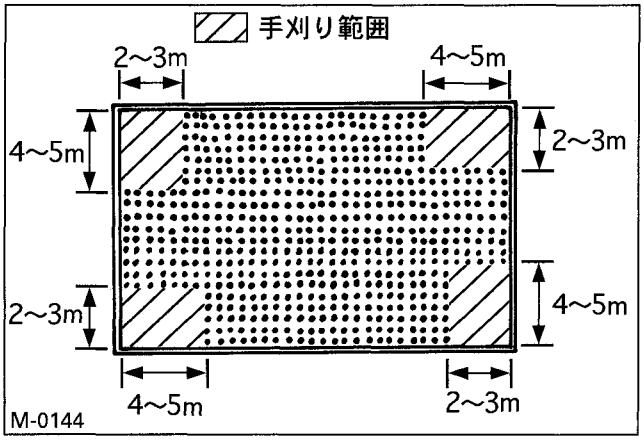


M-0487改

ほ場の準備

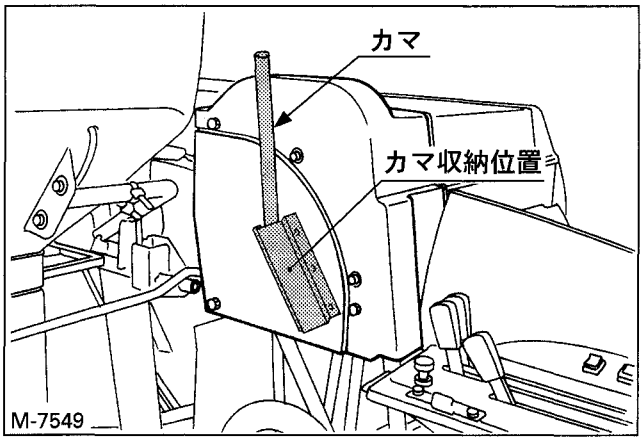
■ほ場の準備

コンバインをほ場に入れる前に，あぜぎわの四すみで旋回が楽に行なえるように，旋回ができる範囲(面積)の手刈り(枕刈り)をします。



補 足

＊カマの収納場所は下図の位置にあります。



重 要

＊あぜがコンクリートのとき乗上げるとクローラを切損する場合がありますので，あぜぎわ２条を残してください。

コンバインの準備

警 告

＊平たんな場所に置き，エンジンは必ず停止してください。

＊取外したカバー類は必ず取付けてください。

■準備のしかた

1. 各部への注油

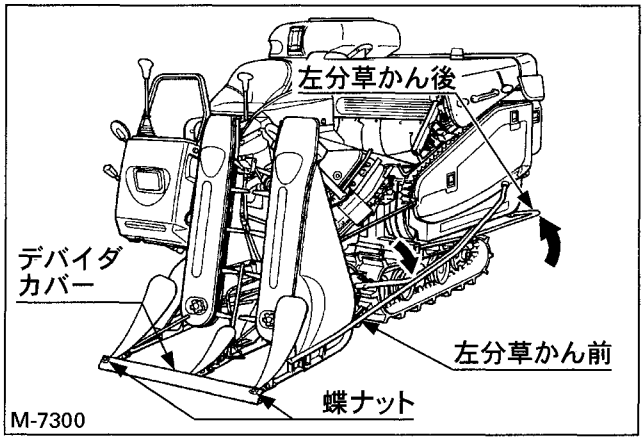
作業前に刈刃や各チェーンに注油を行なってください。(**各部の掃除と注油のしかた**の項参照)

2. デバイダカバーの取外し

蝶ナット２箇所をゆるめてデバイダカバーを取外します。

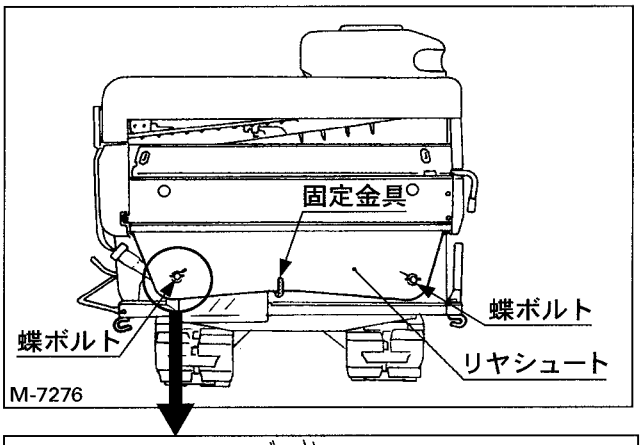
3. 左分草かんのセット

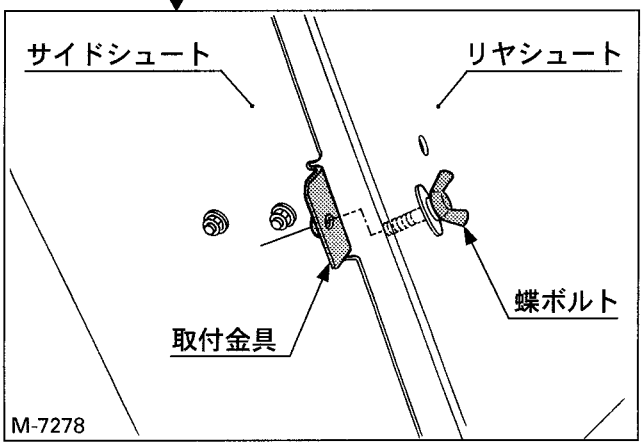
左分草かん前・後を開きます。



4. リヤシュートの準備

❶リヤシュートを収納している固定金具を外します。
❷リヤシュートを広げたあと，左・右のサイドシュートを蝶ボルトで締付けて固定し作業状態にします。



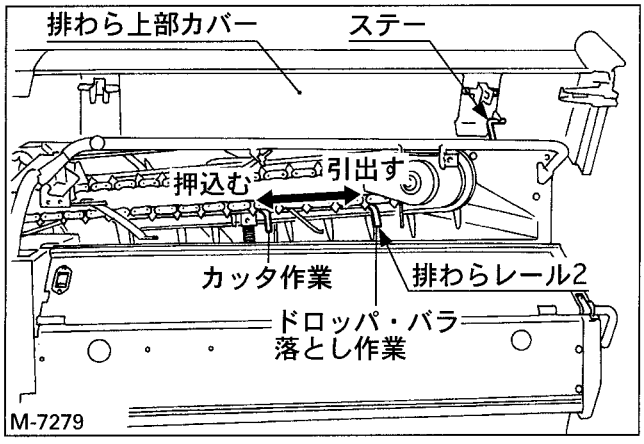


5. 排わら処理の選択

カッタ装置の右側にある切換えレバーを操作して，**カッタ作業⟷ドロッパ・バラ落とし作業**の選択をします。

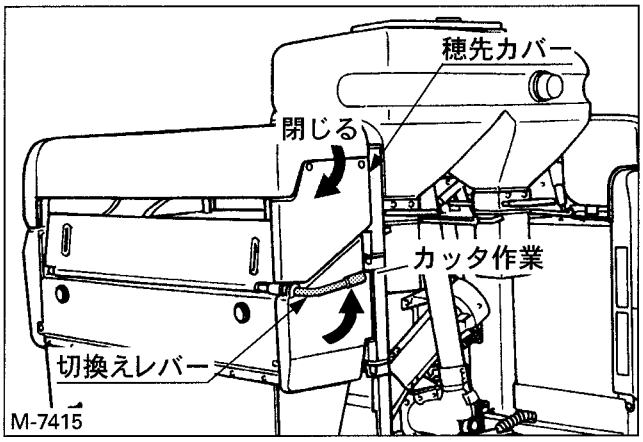
◆排わらレール２の設定

排わら上部カバーを上に開きステーでカバーを固定します。**カッタ作業**のときはレール２を押し込み，**ドロッパ・バラ落とし作業**のときはレール２を引出します。



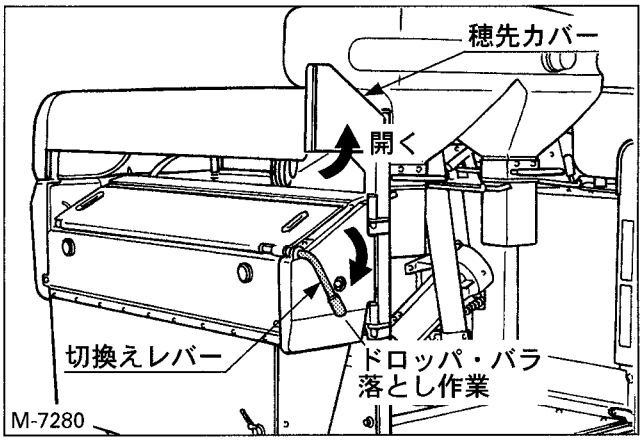
◆カッタ作業

切換えレバーを**カッタ作業**位置にしたあと穂先カバーを閉じます。



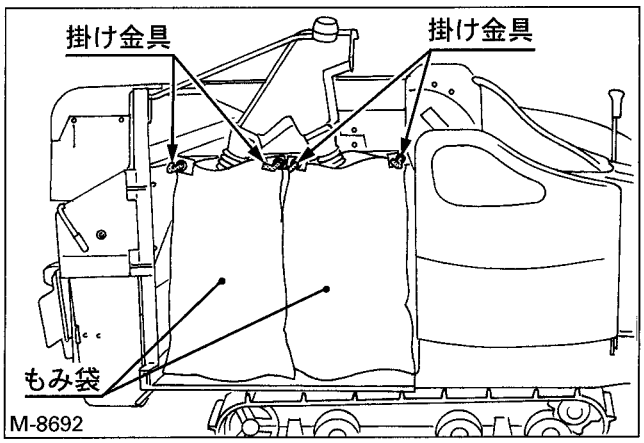
◆ドロッパ・バラ落とし作業

切換えレバーを**ドロッパ・バラ落とし作業**位置にしたあと穂先カバーを開きます。

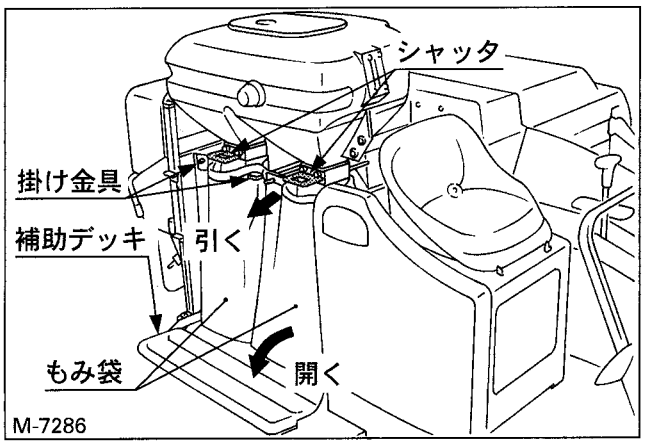


6. 補助デッキともみ袋の準備

❶補助デッキを開きます。【J3・J4・J5・J6】
❷もみ袋のファスナを開き，図のように掛け金具にもみ袋を取付けます。【J1】



❷もみ袋のファスナを開き，図のように掛け金具にもみ袋を取付けたあと，各吐出口のシャッタを引いて吐出口を開きます。【J2・J3・J4・J5・J6】

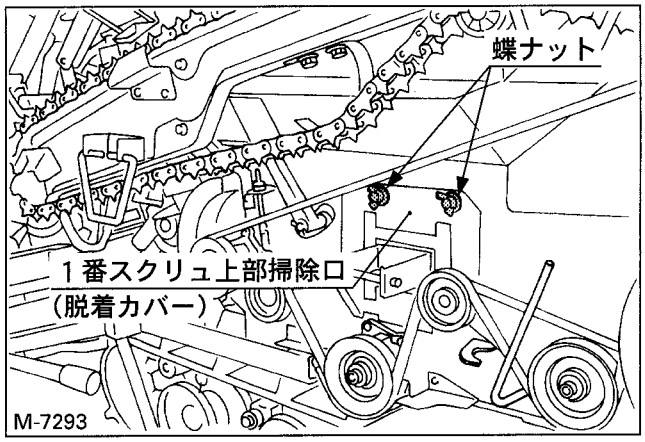


7. 選別調節板の切換え

作物の種類に合わせ**稲⟷麦**の切換えを行なってください。(出荷時は**"稲"**の位置)

❶左サイドカバー上，下を取外します。

❷蝶ナット2個を取外したあと，1番スクリュ上部掃除口の脱着カバーを外します。

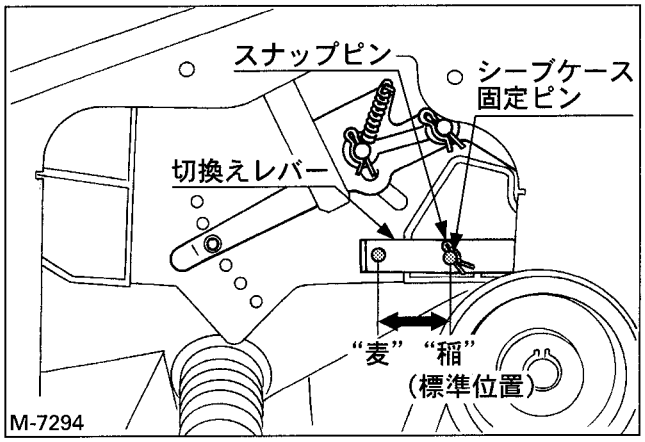


❸**稲⟷麦**の切換えを行ないます。

(1)シーブケース固定ピンからスナップピンを取外します。

(2)切換えレバーを手前に引いて，固定ピンから抜き，レバーの穴位置の変更を行ないます。

(3)スナップピンを固定ピンに取付けます。



❹脱着カバーを蝶ナットで取付けたあと，左サイドカバー上，下を取付けます。

刈取作業のしかた

■ほ場の出入りのしかた

注 意

＊10cm以上の段差(あぜやコンクリート畦畔など)のあるところではあゆみ板を使ってください。

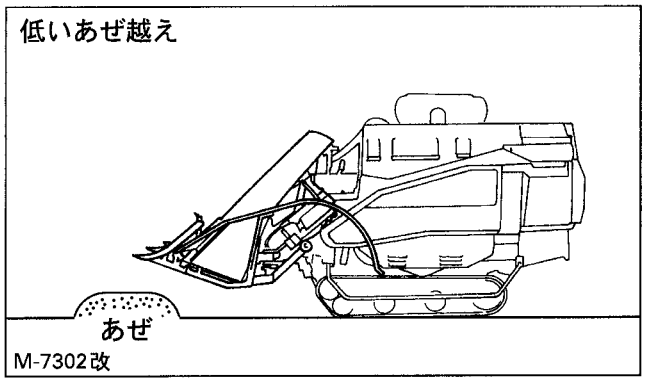
＊あゆみ板を使うときや前後左右とも10度をこえる傾斜地を走行するときは，速度を最低速にし機械から降りて操作してください。

＊あゆみ板を使うときは，速度を最低速にし，あぜに対して上り方向は前進，下り方向は後進(結束機装着時は上り方向は後進，下り方向は前進)で直角に走行してください。斜めに走行すると転倒してケガをするおそれがあります。

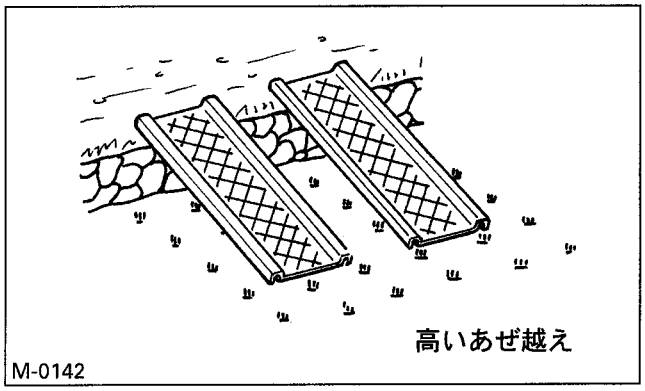
＊後進する場合は後方の人の安全確認，また後方に川(用水路)やがけのある場合は転落しないよう後方にはじゅうぶん注意してください。

＊機体が，凸部を越えるときは，重心の位置が変わって機体が上向きから下向きに姿勢が変わるのでじゅうぶん注意してください。

❶副変速レバーを**"低速"**，主変速レバーを**"1"速**にしエンジン回転を低速で直角にあぜ越えしてください。



❷10cm以上の高いあぜの場合はあゆみ板を使用してください。



■刈取作業の手順

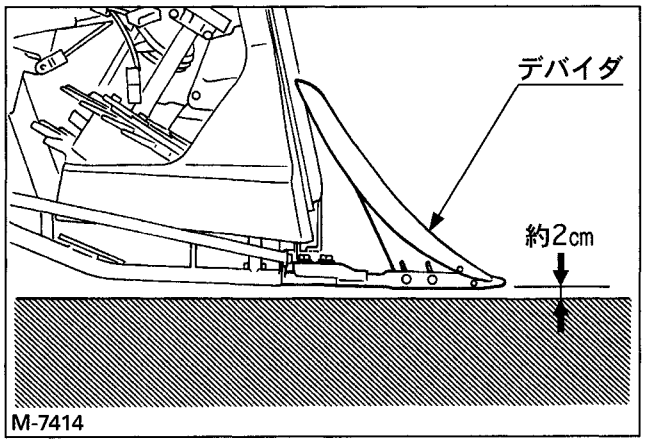
注 意

＊異常が発生したときは，エンジンを必ず止めて処置してください。
＊小さなほ場や，ほ場のすみでは作業がしにくいので，安全のため低速で注意しながら作業を行なってください。
＊夜間など暗い場所で作業するときは，ヘッドランプや作業灯(オプション)を必ず点灯してください。

重 要

＊作業中エンジン回りの防じんカバーにゴミの付着が多くなれば，そのつど掃除してください。
防じんあみ全面にゴミが付着したまま作業を続けますと，エンジンオーバヒートの原因になりますので注意してください。
＊コンバインを停止するときは，わらくずの上に止めないでください。マフラ排気口にわらくずが触れると，火災のおそれがあります。
＊湿田で作業する場合特に一方刈りで何回も後進するときは，フレーム下部に切わらを大量に抱込み，トラブルの原因になりますので，切わらの無い場所を後進するか早めにわらを排出してください。
＊副変速レバーを**"高速"**位置にして刈取作業はしないでください。トラブルの原因になります。

❶ほ場に入ったらコンバインをいったん停止します。
❷パワーステアリングレバーを操作し，通常はデバイダの先端を，地面すれすれ(約2cm程度)のところまで刈取部を下げます。

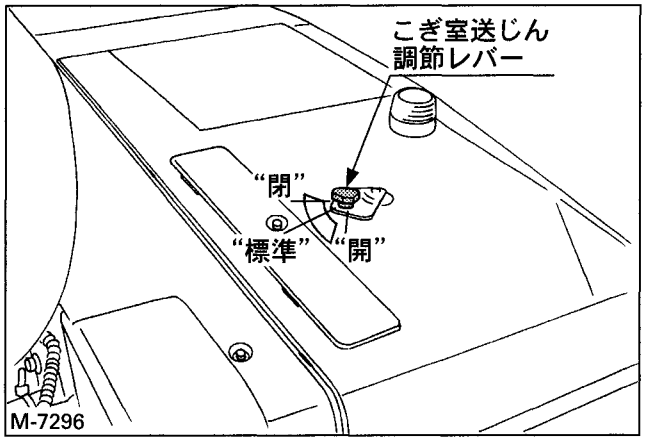


補 足

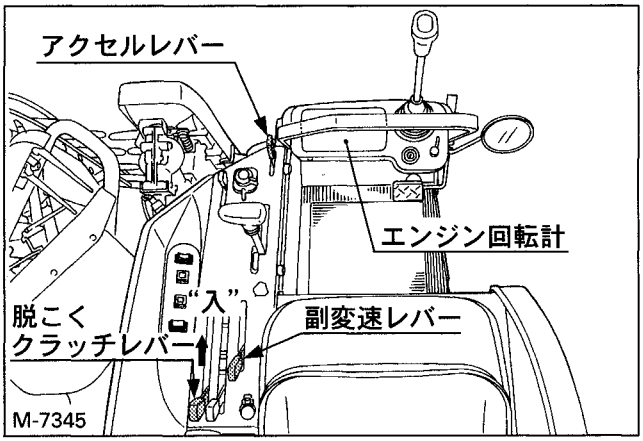
＊長かん作物，麦，雑草の多い作物は，高刈りしてください。

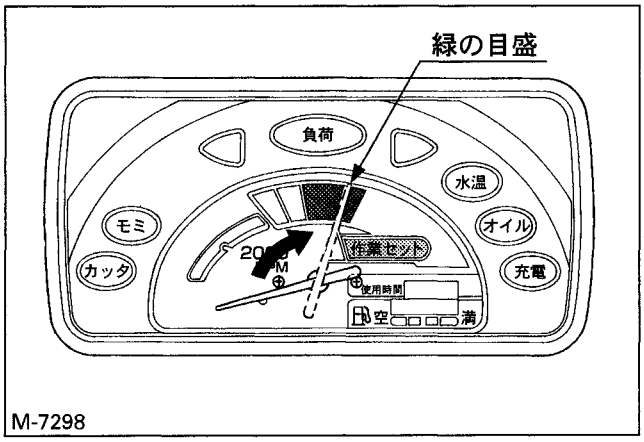
❸防じんカバーの浮上り防止のロックを解除します。
【J6】

❹こぎ室送じん調節レバーを**"標準"**位置にします。(**作業に合わせた各部の調節・調整のしかた**の項参照)



❺脱こくクラッチレバーを**"入"**位置にし，アクセルレバーを操作してエンジン回転数を回転計の**"作業セット"**位置(**緑の目盛**)に指針を合わせます。
❻副変速レバーを作物の条件に合わせて，**"低速"**又は，**"中速"**の位置にします。(**作物に合わせた変速の選びかた**の項参照)

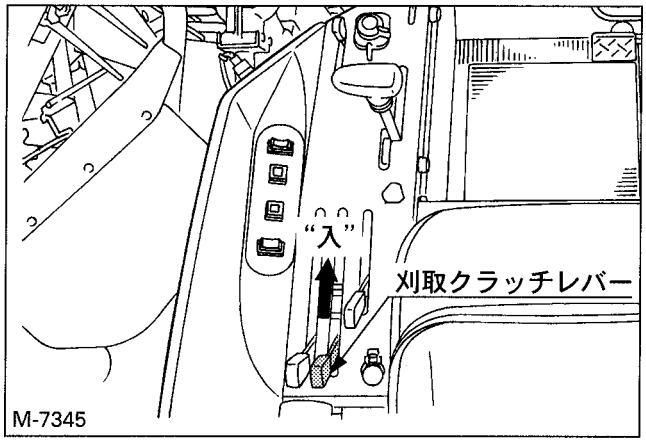




重 要

＊副変速レバー**"高速"**位置での刈取作業は，トラブルの原因になりますので，使用しないでください。
＊エンジン回転数は脱こくクラッチレバーを**"入"**位置にし，走行しない状態で合わせてください。

❼刈取クラッチレバーを**“入”**位置にします。

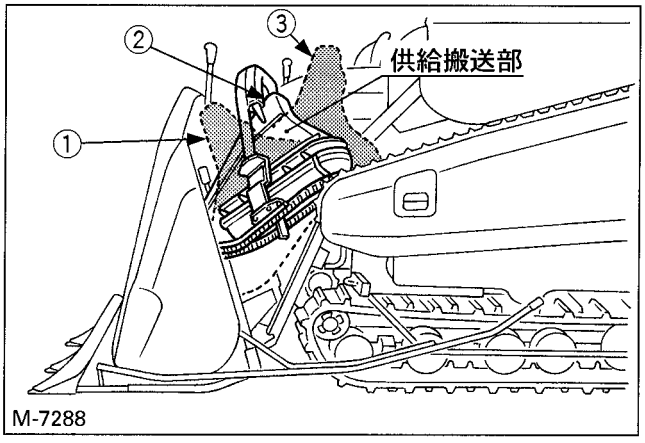


重　要

＊刈取作業中に走行を停止する場合は必ずブレーキペダルを踏んでください。主変速レバーを**“N(中立)”**にしても刈取部は停止しませんので，作物を引倒して搬送コボレが発生します。

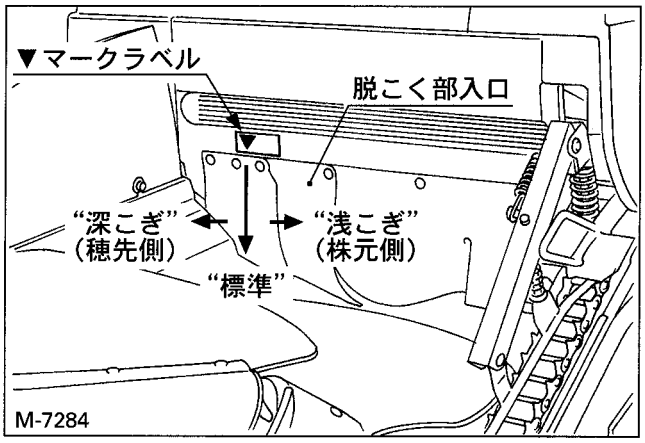
❽作物の長さを確認したあと，刈始めのこぎ深さの調整をします。調整するときは，手動こぎ深さスイッチで供給搬送部を下図の位置に合わせます。そのあと，自動こぎ深さスイッチを**“入”**にします。(**自動こぎ深さ制御装置**の項参照)

- ●作物の長さ80cm以下　①の位置(**“浅こぎ”**)
- ●作物の長さ80～100cm　②の位置
- ●作物の長さ100cm以上　③の位置(**“深こぎ”**)



❾作物の条件に合わせた速度に主変速レバーを合わせて刈始めます。(**作物に合わせた変速レバーの選びかた**の項参照)

❿作物が刈取られて脱こく部入口に入り始めたときに，作物の穂先を**“▼マーク”**(こぎ深さ標準位置)に合わせます。**“▼マーク”**より穂先側は**深こぎ状態**，株元側は**浅こぎ状態**となります。



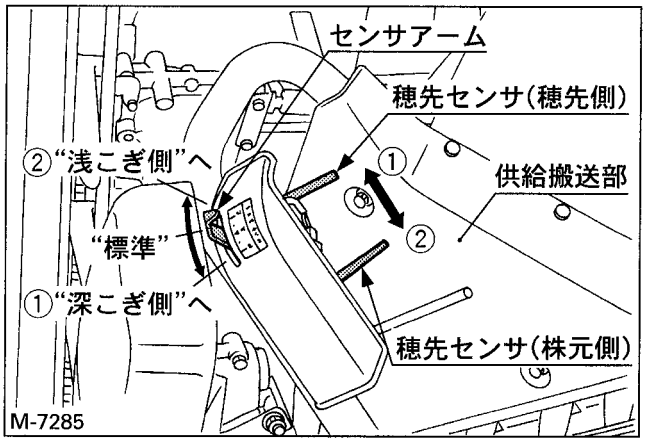
補　足

＊**浅こぎ状態**では，こぎ残しが出て収穫量が下がったり，**深こぎ状態**では，こぎ胴にわらが巻き付いたりして，トラブルの原因となります。

●▼マークの合わせかた

供給搬送部の上側にある2本の穂先センサ(株元側，穂先側)を，**センサアーム**で調整します。穂先の位置を確認しながら調整してください。

状　態	調整方向
深こぎ	浅こぎ側へ
浅こぎ	深こぎ側へ



補　足

＊穂先センサ(株元側，穂先側)は，2本とも同時に動きます。

⓫刈取作業を少し行なったあと，選別状態やこぎ残しの有無を確認し，異常があれば各部の調節(**作業に合わせた各部の調節・調整**の項参照)を行なってください。

⓬刈取作業が終わると，刈取クラッチレバーを**"切"**位置にし，脱こくが終わりもみが全てホッパ内に入ったことを確認して，脱こくクラッチレバーを**"切"**位置にします。

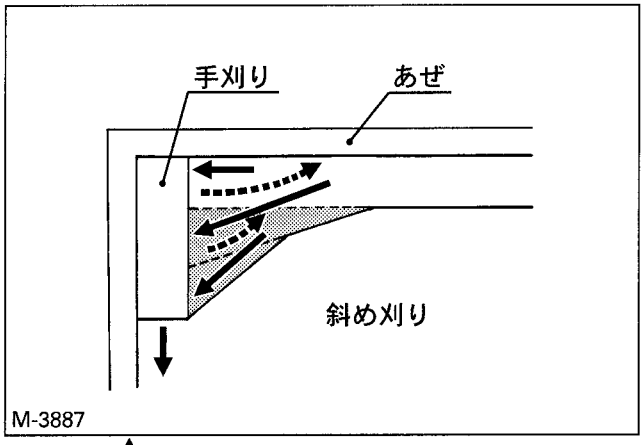
■ほ場の刈りかたと旋回のしかた

ほ場での作物の刈りかたは，作物・ほ場の状態や作業効率によって異なりますが，基本作業は，条刈りで左回りの２方向刈りを行なってください。

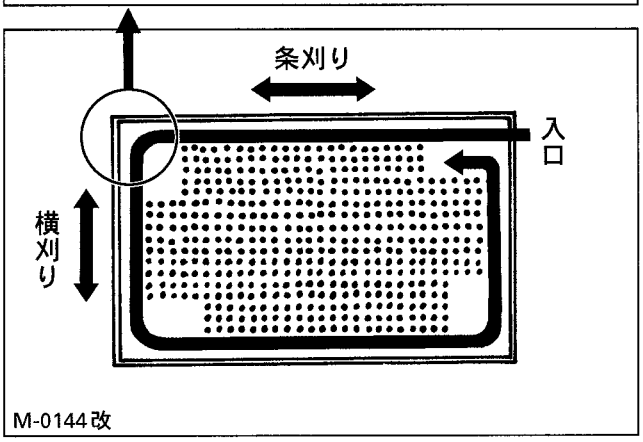
❶右側デバイダを外側に広げます。(**作業に合わせた各部の調節の2. デバイダの調節**の項参照)。

❷刈取スライド(J3・J4・J5・J6・R216S)を右(運転席)側へ移動したあと，１周目は手刈り(枕刈り)したところから進入し，あぜぎわから左回りで３条分を刈始めます。２周目からは２条分を刈取ります。

❸隅を旋回できるまで２～４回斜め刈りします。



M-3887

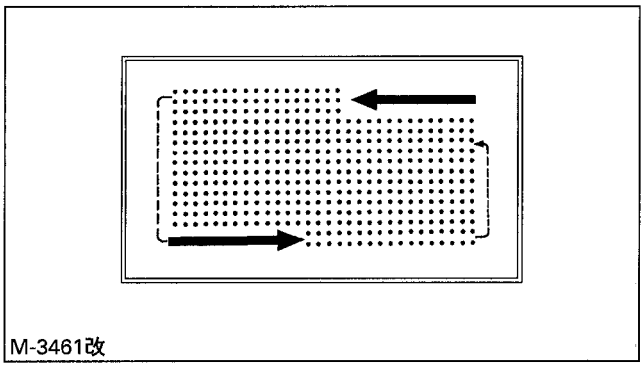


M-0144改

補　足

＊横刈りのときは，自動方向制御【**J2D，J3・J4・J5・J6各HD仕様**】がはたらきません。また，斜め刈りをするとき，刈取途中で方向修正をすると，かん長が不揃いとなり正常な脱こくができない場合があります。

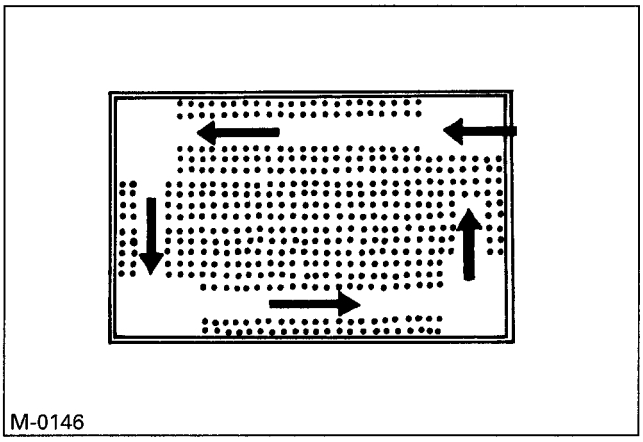
❹刈取スライド(J3・J4・J5・J6・R216S)を左側へ移動したあと，両端(枕地)を旋回できる範囲に刈取ったら両端は刈取らずに旋回し，２方向刈りを行なってください。



M-3461改

補　足

＊あぜぎわの条があぜに近く，右クローラがあぜに乗り上げるときは，１周目は周囲２条を残して３条分を刈取ります。



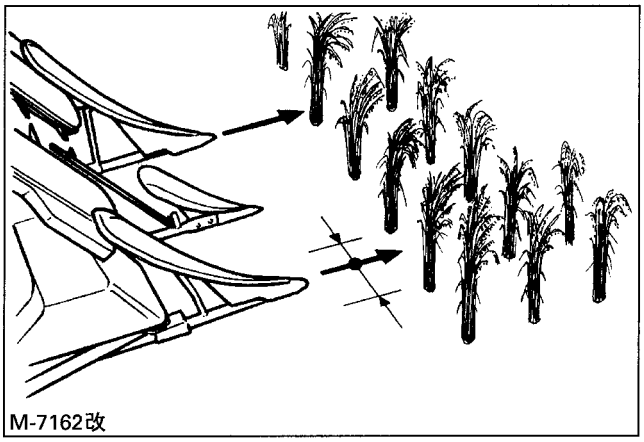
M-0146

◆デバイダ(刈取部)の条合わせのしかた

条合せをするときは，コンバインの速度を落としてください。

●刈り始め・中割り作業のとき

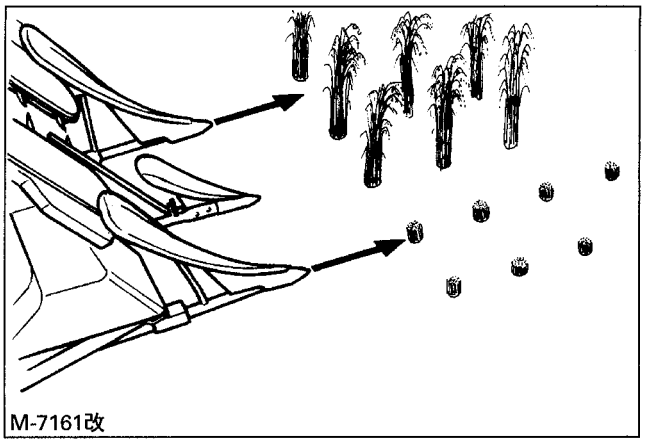
右デバイダを条間の左寄りになるように合わせて３条で刈取ります。(低速で作業してください。)



M-7162改

●通常の回り刈りのとき

既刈側刈株跡に右デバイダを合わせて２条で刈取ります。



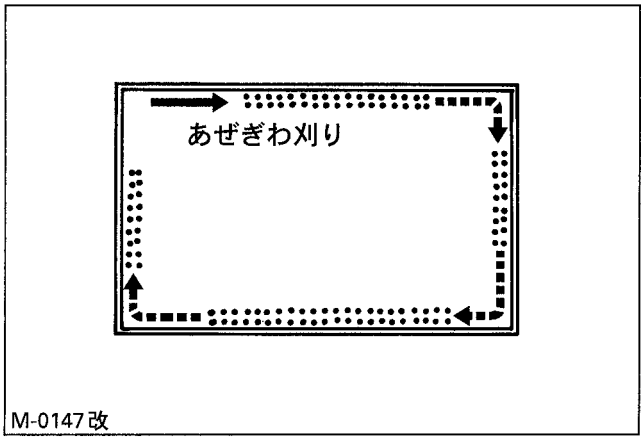
M-7161改

補　足

＊条合わせのときは，パワーステアリングレバーを小刻みに操作してください。

◆あぜぎわ刈りのしかた

あぜぎわ刈りは，**低速**で**右回り**に刈取ります。



M-0147改

重　要

＊あぜぎわ刈りをするとき，デバイダをあぜに突込まないように，少し高刈りをしてください。また，分草かんを畦に強く当ると刈取部が変形しますので，収納して作業してください。

＊コンクリート畦畔にクローラをこすりつけると，クローラを切損する場合がありますので注意してください。

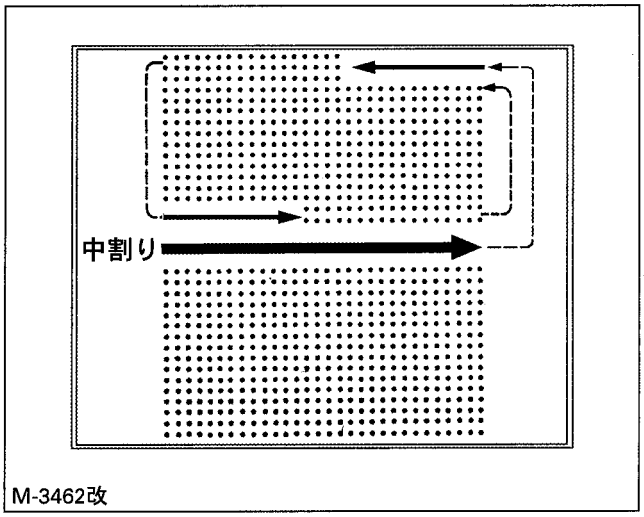
補　足

＊自動こぎ深さ装置を**"切"**位置にして，こぎ残しが出ないように手動スイッチで**深こぎ**ぎみにしてください。

＊補助デッキは収納してください。**【J3・J4・J5・J6】**

◆広いほ場の場合

刈取スライド(J3・J4・J5・J6・R216S)を右(運転席)側に移動したあと，**中割り刈り**で分割して，同じ要領で刈取ります。



M-3462改

補　足

＊中割り刈り以外のときは，通常の回り刈りをしてください。

＊補助デッキは収納してください。**【J3・J4・J5・J6】**

◆旋回のしかた

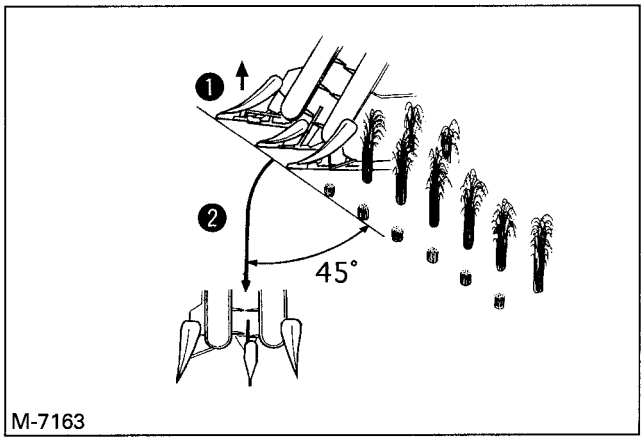
❶刈終わると前進しながら刈取部を上げます。

補　足

＊刈終わる前に刈取部を上げると刈残しが発生します。

＊エンジンの回転低下が大きいときは，旋回操作の前に減速してください。

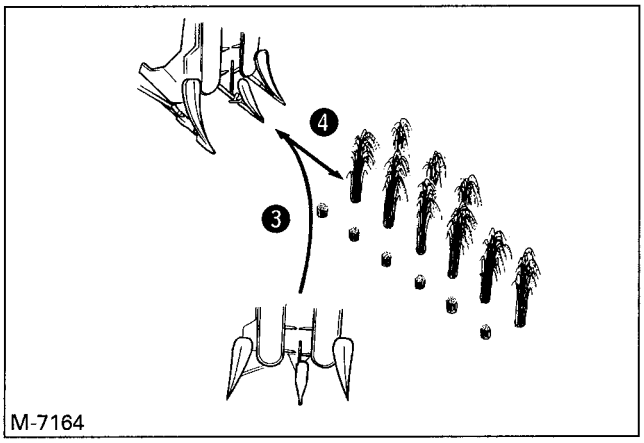
❷パワーステアリングレバーを左に倒し，45度くらい旋回した位置で走行を停止します。



M-7163

❸主変速レバーを**“R”(後進)**位置に入れ，後進しながらパワーステアリングレバーを右に倒し，次に刈る方向に刈取部を合わせます。

❹刈取部を下げ，前進します。



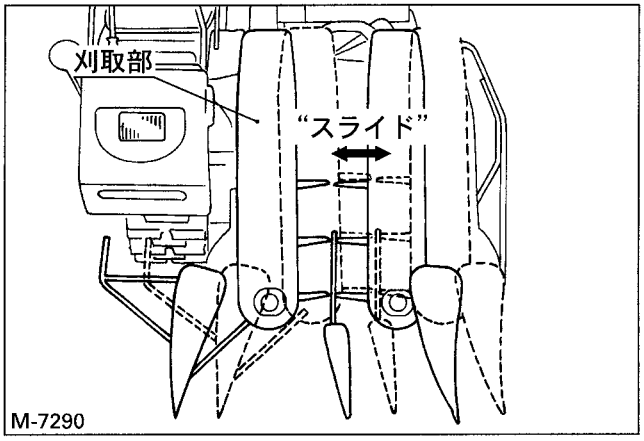
M-7164

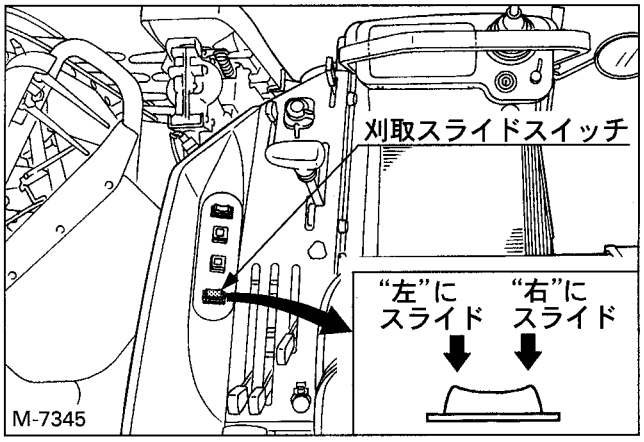
重　要

＊エンジン回転数は，下げないでください。**選別が悪くなったり詰まりの原因**になります。

■刈取スライドの使いかた
【J3・J4・J5・J6・R216S】

刈取スライドは，スライドスイッチを操作することによって刈取部が**右⟷左**にスライドする装置です。

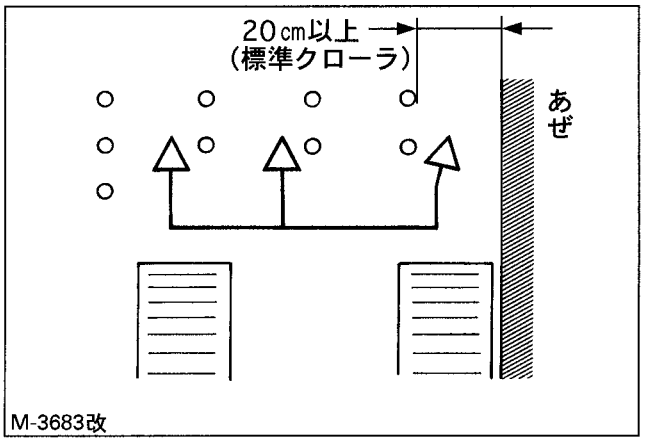




◆刈取スライドの使いかた

作業に応じて使い分けてください。

刈取部を右にスライドして踏代を少なくできます。また，条があぜから20cm以上(標準クローラで右デバイダ外のとき)の距離があるときは，あぜぎわから刈れます。



補　足

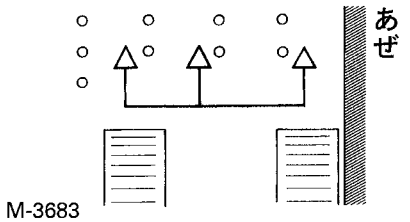
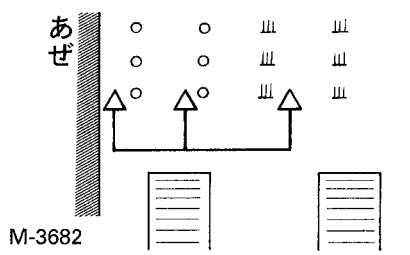
クローラ仕様	距　離	クローラ仕様	距　離
標　準	20cm以上	W2	32cm以上
W	25cm以上	−	−

重　要

＊あぜがコンクリートのとき乗上げると，クローラを切損する場合がありますので，あぜぎわ2条を残してください。

＊スライドを連続して5往復以上しないでください。またスライドが停止したら，スイッチからすぐ手を離してください。モータが加熱し故障の原因になります。

＊スライド時は刈取部を約5cm浮かせてください。地面にこすると動かないときがあります。

作　業　内　容	刈取部の位置	刈取スライドの使い方
●中割り刈り ●あぜぎわ順回り刈り (左回り) ●移動走行 ●トラックへの積込み	 M-3683	刈取部を**右スライド**位置で使います。 (運転席に近づける)
●通常回り刈り ●あぜぎわ逆回り (右回り) ●刈取部脱着 ●斜め刈り	 M-3682	刈取部を**左スライド**位置で使います。 (運転席から遠ざける)

■湿田作業のしかた

注 意

＊異常が発生したときは，エンジンを必ず止めて処置してください。

＊機体が大きく傾くときは，必ず下車してください。転倒してケガをするおそれがあります。

湿田で刈取作業を行なうときは，作物の状態(倒伏角の大きさなど)やほ場の状態(ぬかるみや起伏の大きさなど)をよく確認してください。また，異常が発生したときは，下表を参照してください。

現　　象	処　　置
• スリップする。 • 沈下して動かなくなる。 • 機体が傾く。	• 低速で作業を行なう。 • 同じ場所での旋回は避ける。 • 急旋回はしない。(パワーステアリングを小刻みに操作し，大廻りする。) • 急発進はしない。 • 機体を軽くする。(下車したり，ホッパ内のもみやもみ袋を早期交換する。) • 水口場所や深いところでは，下車し，機体を軽くする。
• 刈取部が詰まる。	• 付属部品のスライドカバーを刈刃に取付ける。(103ページ参照) • わらくずや泥の付着を取除く。(パッカ下部や搬送部) • 少し高刈りする。
• カッタ部が詰まる。	• わらくずや泥の付着を取除く。

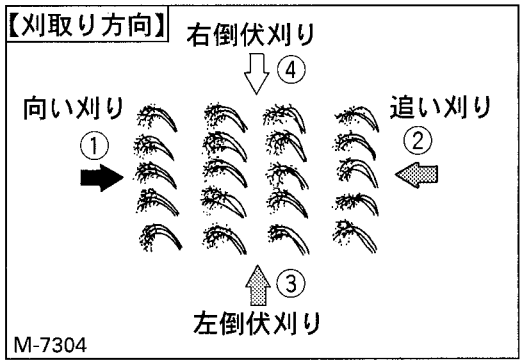
■作物に合わせた変速の選びかた

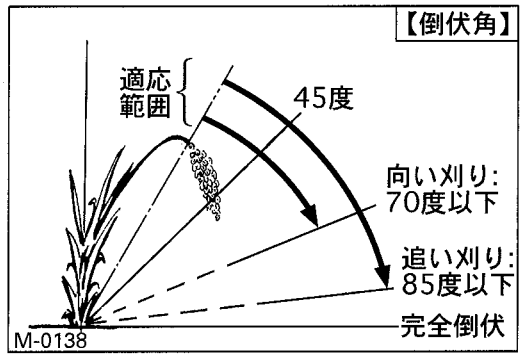
作物の状態により適正な速度を選んでください。

◆作業速度の選びかた

下表を参考にして主変速レバーと副変速レバーで適正な作業速度を選んでください。通常は倒伏角が大きい場合や水分が多い場合は，作業速度を遅くし，倒伏角が小さい(立毛)場合や水分が少ない(乾燥)場合は，作業速度を速くすることができます。

作物のぬれ	作業速度	変速レバー 副変速	変速レバー 主変速	倒伏 刈取り方向	立毛	倒伏角
水分多い	遅い	低速	1速	①(向い刈り)		大きい
			2速	④(右倒伏刈り)		
			3速	②・③(左倒伏刈り 追い刈り)		
		中速	1速			
			2速			
乾燥	速い		3速			小さい



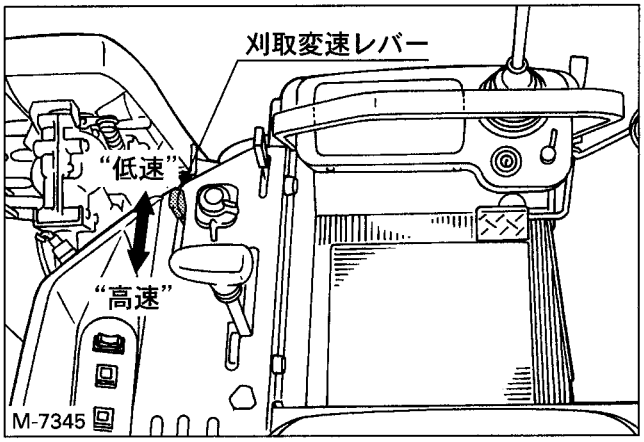


補　足

＊収量・成熟度合やその他の要因により適正な速度は変化します。この表はあくまでも目安ですので，その作物と機械に合った速度で作業を行なってください。

◆刈取変速の選びかた【J4・J5・J6】

刈取部の引起しの速度を作物の状態に合わせて，下表を参考にして，刈取変速レバーで**“低速”**，**“高速”**(2段階)の変速を行なってください。



刈取変速の使い方

副変速	低速	中速	→ **通常作業**
刈取変速	低速	高速	
	倒伏もつれ作物をさばく時は**高速**にしてください。	脱粒や節切れが多い時は**低速**にしてください。	

補　足

＊下記のような条件では，上表のような作業速度ではできない場合があります。

- 雑草が極めて多いほ場
- 5度以上傾斜しているほ場
- 病虫害，風水害により倒伏している作物
- 根ぐされし，切れやすい作物
- こくかんがくさり，ぬれているもの
- 過熟して，茎が折れやすくなっている麦
- 10cm以上の高うねのほ場

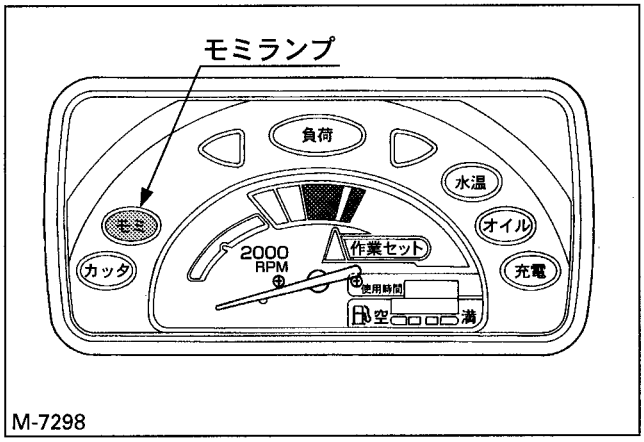
■もみの排出のしかた

注　意

＊コンバインを必ず停止してください。

＊吐出口に手は入れないでください。

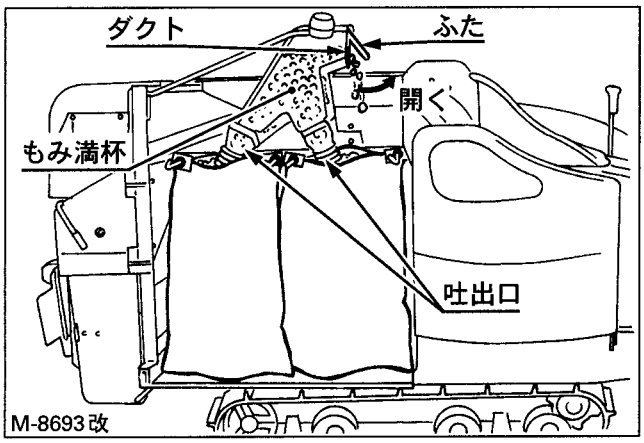
❶ホッパが満杯になると，メータユニットの**“モミ”**ランプが点滅すると同時にブザーが鳴ります。



重　要

＊ブザーが鳴ったあとも刈取作業を行なうと，もみがあふれたり，1番スクリュが詰まったりして，故障の原因となります。**【J2・J3・J4・J5・J6】**

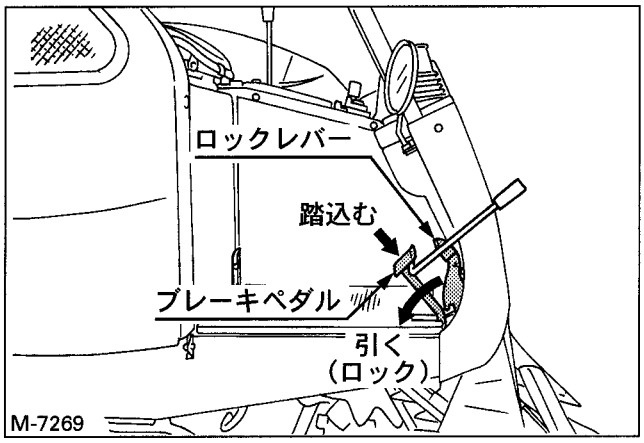
＊ブザーが鳴ったあとも刈取作業を行なうと，約10秒後に吐出口上側にあるダクトのふたが開き，もみがあふれます。**【J1】**



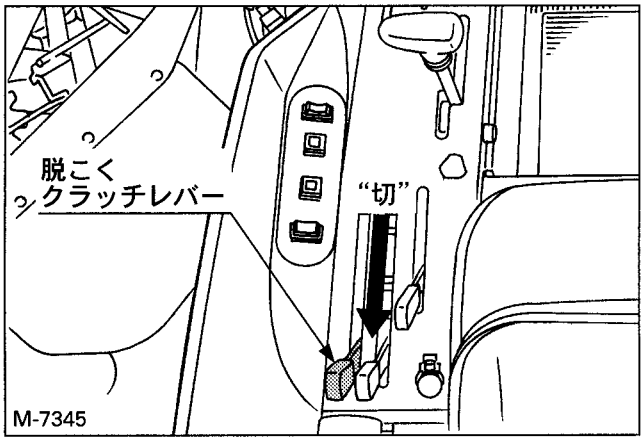
補　足

＊ブザーを止めるときは，ホーンスイッチを約1.5秒間押してください。ブザーは停止しても，**“モミ”**ランプは点滅したままの状態です。**“モミ”**ランプはもみを排出すると消灯します。

❷ブレーキペダルを踏込んで走行を停止したあと，主変速レバーを**“N”(中立)**位置にしてブレーキペダルをロックレバーでロックします。



❸20～30秒待ったあと脱こくクラッチレバーを**“切”**位置にし，脱こく部を停止します。



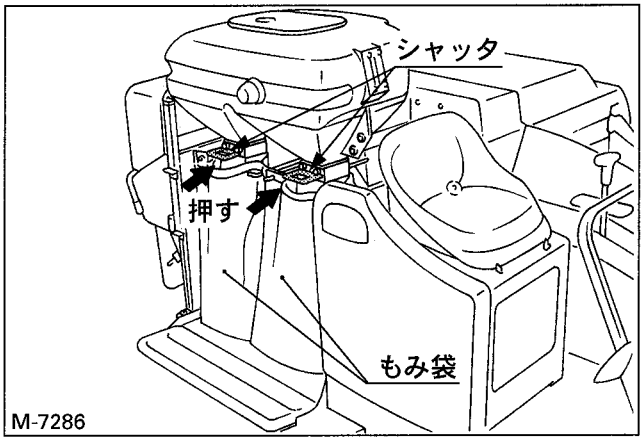
補　足

＊走行停止後20～30秒経過して行なってください。選別不良の原因となります。

＊脱こくクラッチレバーを**“切”**位置にすると同時に，連動して刈取クラッチレバーが**“切”**位置に動き，刈取部も停止します。

❹**【J2・J3・J4・J5・J6】**

シャッタを押して(閉じて)，新しい(空の)もみ袋と交換したあと，シャッタを引き(開き)ます。

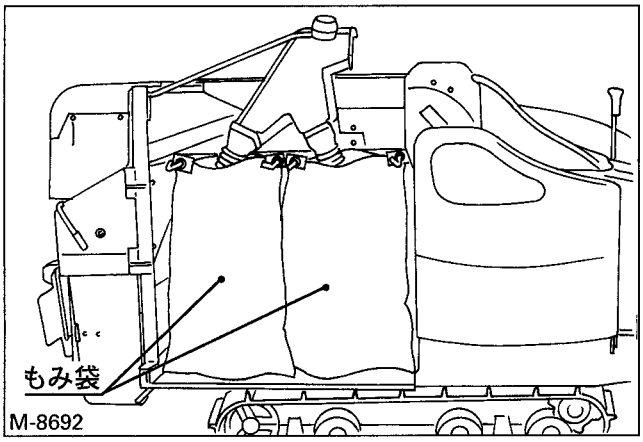


補　足

＊もみ袋の掛け金具は，片方が上下可動式になっています。

❹**【J1】**

新しい(空の)もみ袋と交換します。



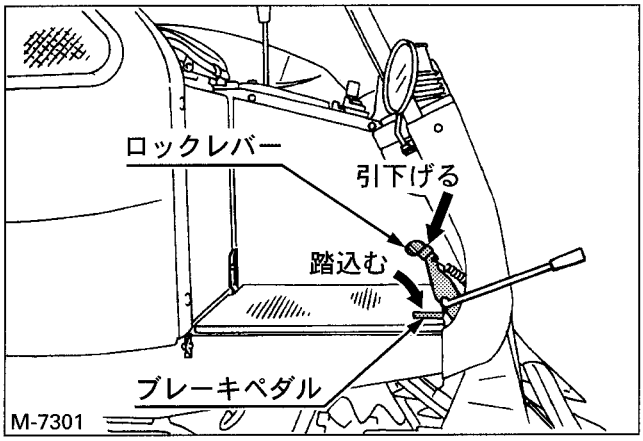
❺ブレーキペダルを踏込んでロックを解除したあと，作業を始めてください。

■手刈り(枕刈り)脱こくのしかた

警 告

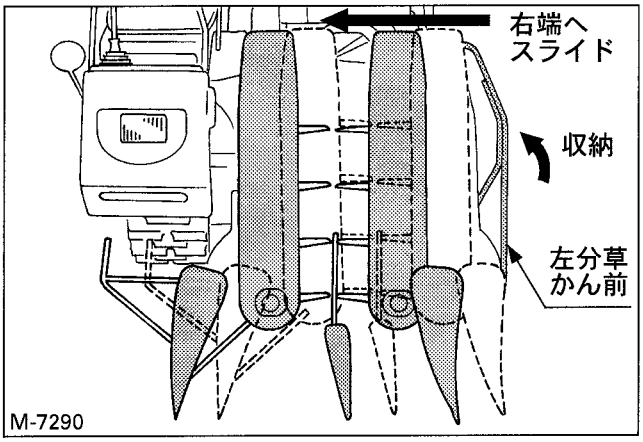
＊そで口はきっちり止めて，はち巻き，首巻き，腰タオルはしないでください。チェーンに巻込まれてケガをするおそれがあります。
＊コンバインは平たんな場所に止めて，駐車ブレーキを掛けてください。
＊刈取部は地面に接地させて，停止してください。
＊手刈り(枕刈り)脱こくするときは，手や腕の位置を必ずチェーンの外側(コンバインから離れる位置)にして，作物を少量ずつ押込んでください。
＊脱こく部入口のプレートの上にたまったわらやもみなどを脱こく部に押込むときは，エンジンを必ず停止してください。中に回転物がありケガをするおそれがあります。

❶平坦な場所を選んで走行を停止したあと，主変速レバー及び副変速レバーを**"N(中立)"**位置にし，ブレーキペダルを踏込み，ロックレバーを引下げて駐車ブレーキを掛けます。



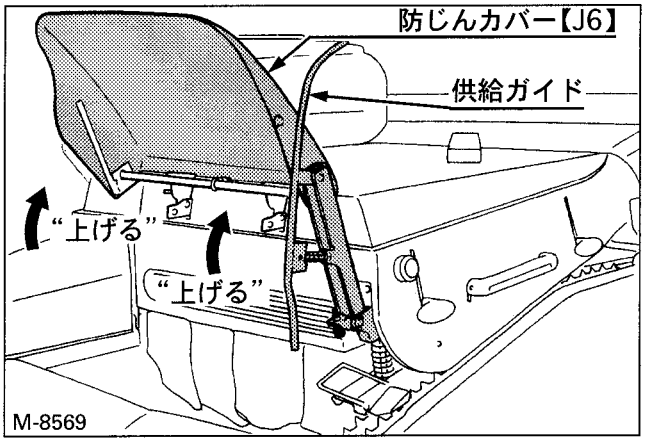
❷刈取部を右端(運転席側)へスライドします。**【J3・J4・J5・J6・R216S】**

❸左分草かん前を収納します。



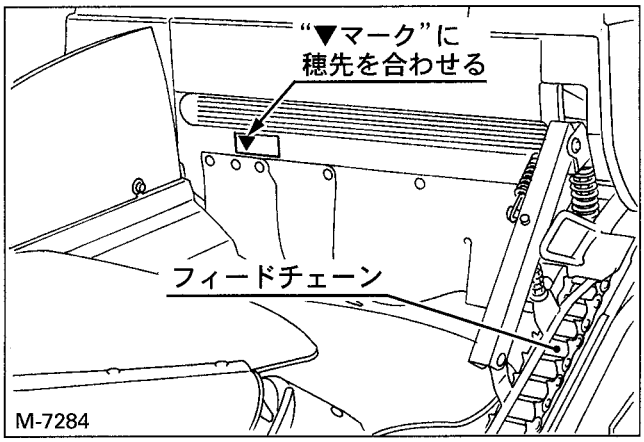
❹刈取部を地面に接地させたあと，供給搬送部を手動こぎ深さスイッチで最下位置にします。

❺防じんカバー**【J6】**及び供給ガイドを上げます。



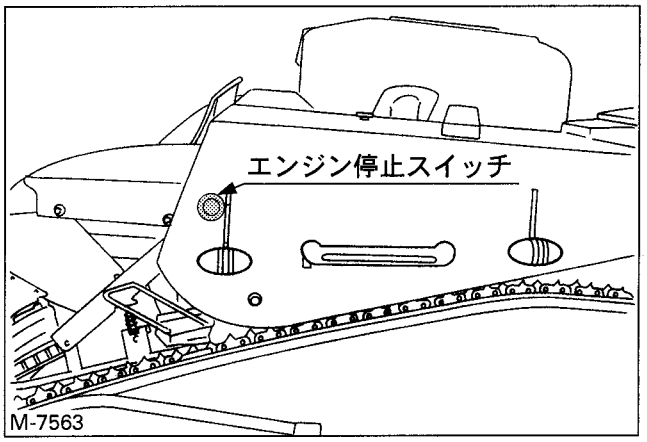
❻脱こくクラッチレバーを**"入"**位置にし，刈取クラッチレバーを**"切"**位置にします。

❼作物の穂先を**"▼マーク"**に合わせ，少量ずつフィードチェーンに供給します。

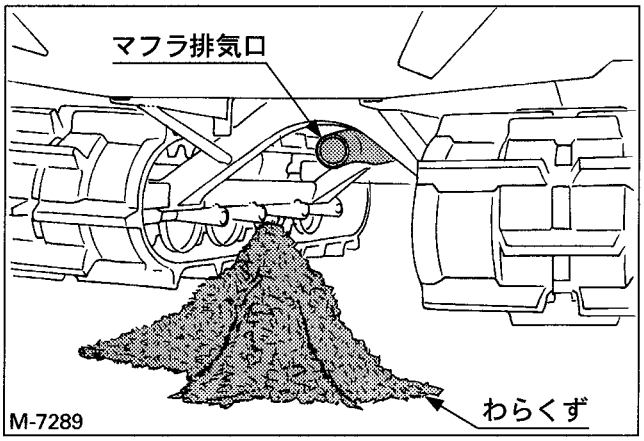


重 要

＊1箇所で多量の手こぎをする場合，カッタやドロッパの下に排わらや切断わらの堆積が原因で，カッタなどが詰まることがありますから，機体を移動させてください。
＊切断わらがカッタわら排出口に詰まった場合は，エンジンを必ず止めて取除いてください。
＊手刈り脱こく時に万一異物などのかみ込みが発生したときは，エンジン停止スイッチを押してください。



＊湿田作業中は，マフラ排気口に泥の詰まりやわらくずがあれば掃除し，機体を止めて脱こくするときは，**わらくず**が下図のようにたまっていないか点検し，掃除してください。

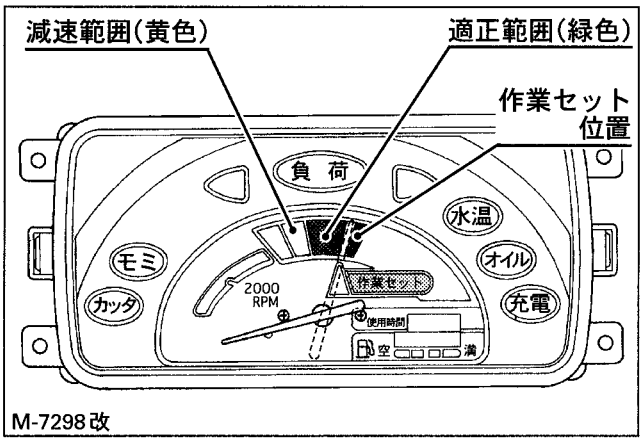


補　足

＊手刈り脱こく中にもみの飛散(ロス)が多いときは，下記の要領で調節を行なってください。

❶エンジン回転数を**“作業セット”**位置(**緑の目盛**)から緑色の適正範囲内で下げる方向に調節してください。

このとき，黄色の減速範囲以下に下げると，詰まりが発生するおそれがあります。



❷排じん調節板・チャフ(選別板のすき間)の調節を行なってください。

(**作業に合わせた各部の調節のしかた**の項参照)

❸手刈り脱こくが終わったあとは必ず通常の刈取作業の状態(元の状態に調節)にしてください。

■作業に合わせた各部の調節のしかた

警　告

＊調節時は必ずエンジンを停止してください。

＊取外した回転部のカバー類は，衣服などが巻込み危険ですので，必ず取付けてください。

注　意

＊水平で平たんな場所で行なってください。

＊コンバインを停止するときは，わらくずの上に止めないでください。マフラ排気口にわらくずが触れると，火災のおそれがあります。

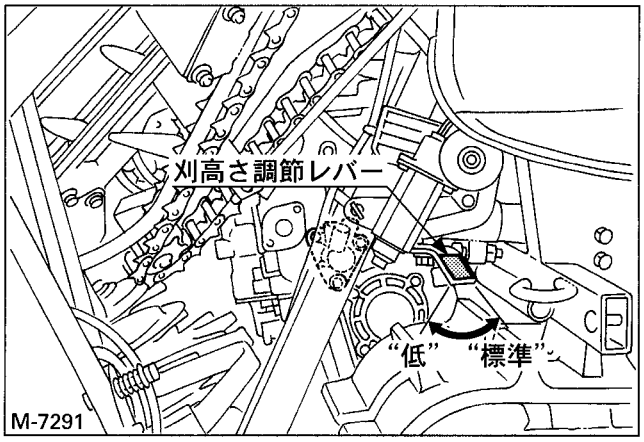
◆刈取部

1. 刈高さの調節

調節は刈取部を上昇させて行なってください。

(1)通常は刈高さ調節レバーを**“標準”**位置にしてください。刈取部が一定の地上高で止まるので便利です。

(2)湿田で機体前部が持上がる場合は，刈高さ調節レバーを**“低”**の位置にしてください。刈取部が本体に対して更に下がるようになります。

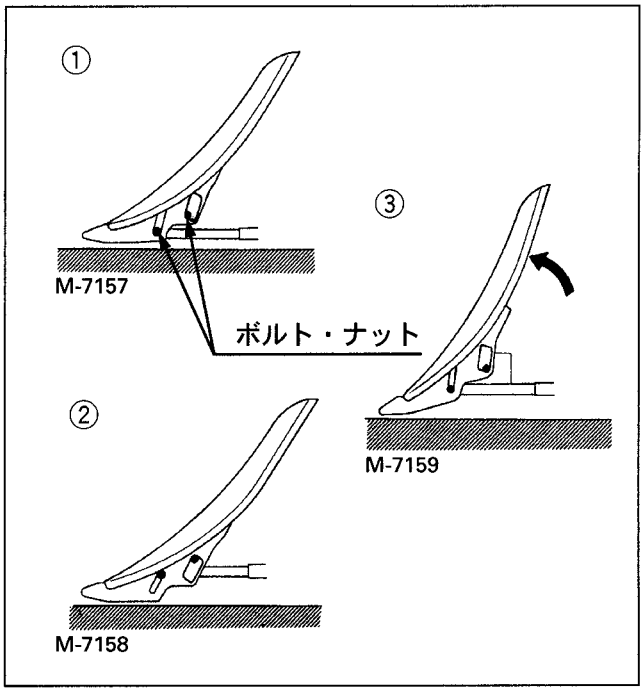


2. デバイダの調節

●上・下調節

下表の作物条件に応じて，調節を行なってください。調節のしかたは，ボルト・ナットをゆるめて下表を参照し調節を行なったあと，ボルト・ナットを締付けます。

位　置	作物・ほ場条件
①	●標準
②	●湿田でコンバインが前上りになるとき ●うね作業のとき ●雑草が多く高刈りしたいとき
③	●(強) 湿田倒伏で株の引抜きが多いとき



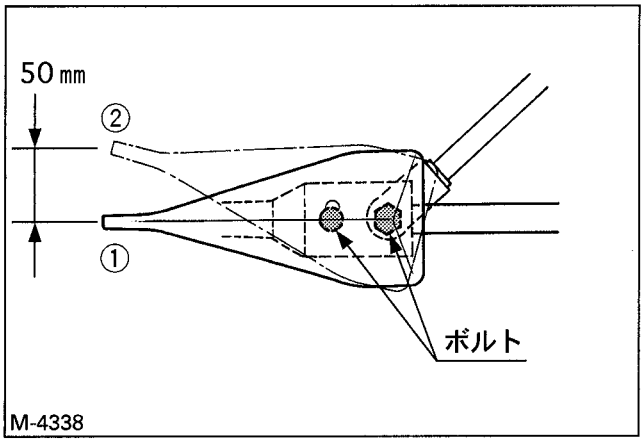
補　足

＊デバイダの上下高さは全てのデバイダを同じ高さにしてください。

●右デバイダの幅調節

下表の作業条件に応じて，調節を行なってください。調節のしかたは，ボルト２箇所をゆるめて下表を参照し調節を行なったあと，ボルト２箇所を締付けます。

位　置	作業条件
①	●標準
②	●あぜぎわ刈り，中割り刈りのとき ●33cm条間又は，麦の刈取りのとき



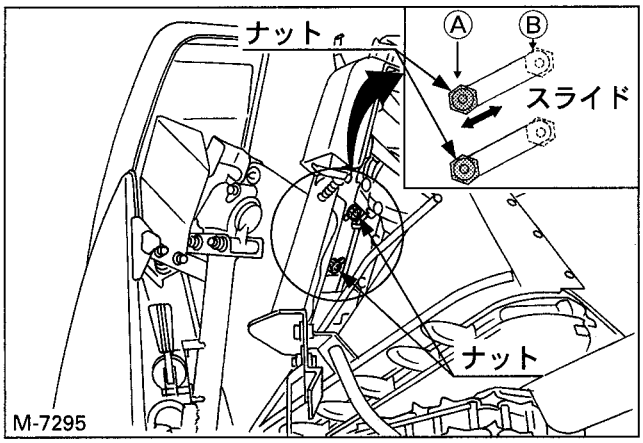
補　足

＊デバイダカバーを取付けるときは，①(標準)の位置にしてください。

3. 引起し爪高さの調節

作物条件に応じて，引起し爪高さ(爪の倒れる位置)調節を行なってください。調節は必ず**全条同じ位置**にしてください。

●引起し枠裏側のナット2箇所を左右共ゆるめて，下表を参照し，調節(Ⓐ⟷Ⓑ位置各両端部にスライド)を行なったあと，ナット２箇所を締付けます。



●調節位置と作物条件

位　置	引起爪 作用位置	作 物 条 件
Ⓐ [作物，通路に近い位置]	高い	●標準の作物 ●極長かん (1.2m以上) ●長かんで倒伏している作物
Ⓑ	低い	●脱粒しやすい品種 ●わらちぎれの多い作物 (過熟小麦など)

補　足

＊脱粒しやすい品種を刈取りするときは，引起し爪の高さを，作物の穂首より下側に調節してください。

◆脱こく部

4. 脱こく状態に合わせた調節

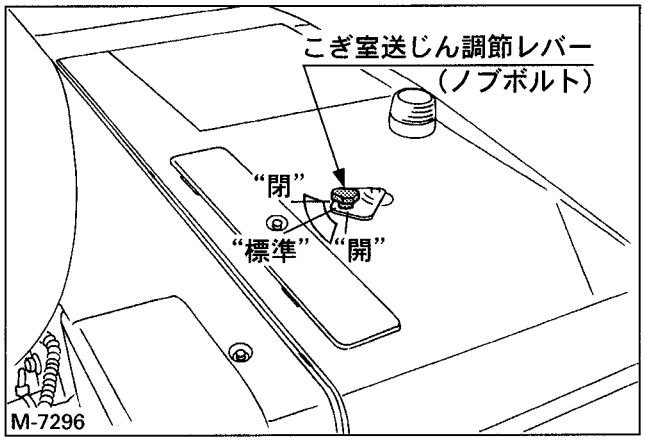
作物の現象(状態)に応じて，各部の調節を行なってください。通常は，こぎ室送じん➡排じん調節板➡チャフの順番で行ないます。(**コンバインの不調と処置**の項参照)

●こぎ室送じんの調節

❶ノブボルトをゆるめます。

❷下表を参照してこぎ室送じん調節レバーで調節します。

レバー操作	"閉" 方向 ⟷ "開" 方向	
現象(状態)	●選別が悪い ●小枝梗が多い ●排じんロスが多い	●脱ぷが多い ●こぎ胴の負荷が大きい



❸ノブボルトを締付けます。

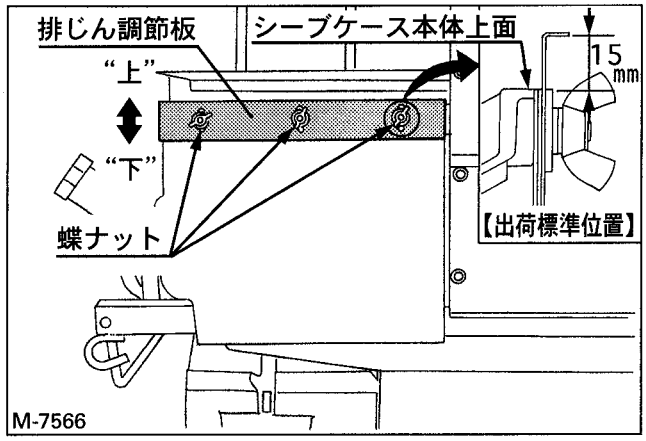
●排じん調節板の調節

❶カッタをオープンします。(**各部のオープンのしかた**の項参照)

❷蝶ナット３個をゆるめます。

❸下表を参照して排じん調節板を動かして調節します。

移動方向	"下" 方向 ⟷ "上" 方向	
現象(状態)	●ぬれ作物の刈取り ●雑草が多い ●能率を上げる	●ロスが多い



❹蝶ナット３個を締付けて，カッタを閉じます。

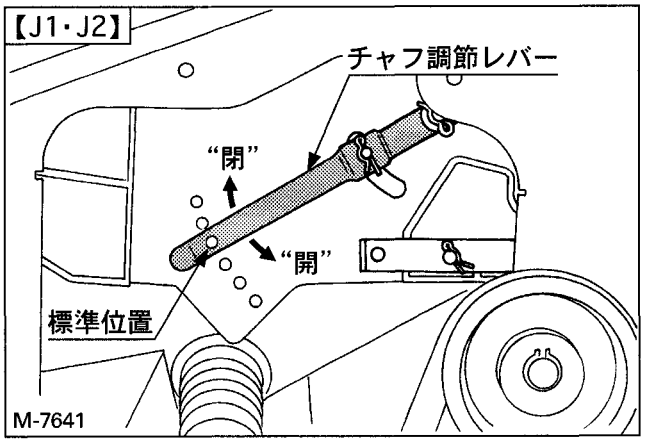
●チャフ(選別板のすき間)の調節

❶左サイドカバー上，下を取外します。

❷蝶ナット２個を取外して１番スクリュ上部掃除口の脱着カバーを外します。
(**コンバインの準備**の**選別調節板の切換え**の項参照)

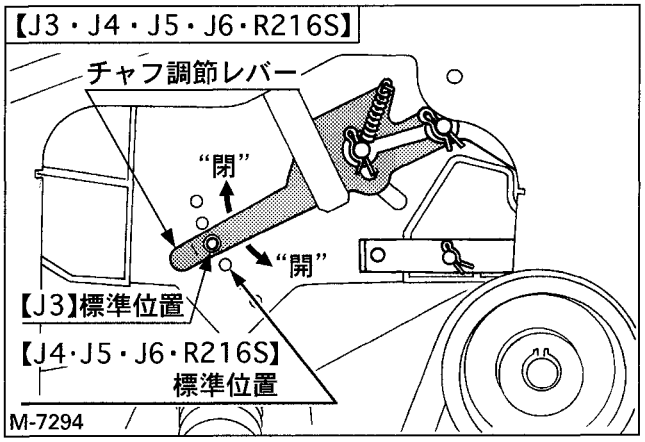
❸下表を参照してチャフ調節レバーで調節します。

レバー操作	"閉" 方向 ⟷ "開" 方向	
現象(状態)	●選別が悪い ●小枝梗が多い	●ロスが多い ●脱ぷが多い



補　足【J3・J4・J5・J6・R216S】

＊チャフ(選別板のすき間)はもみの量により自動開閉するようになっていますが，選別をさらに良くしたい場合は作物の脱こく状態に合わせて調節を行なってください。



❹脱着カバーを蝶ナットで締付けたあと，左サイドカバー(上，下)を取付けます。

■メータユニットによる異常と処置

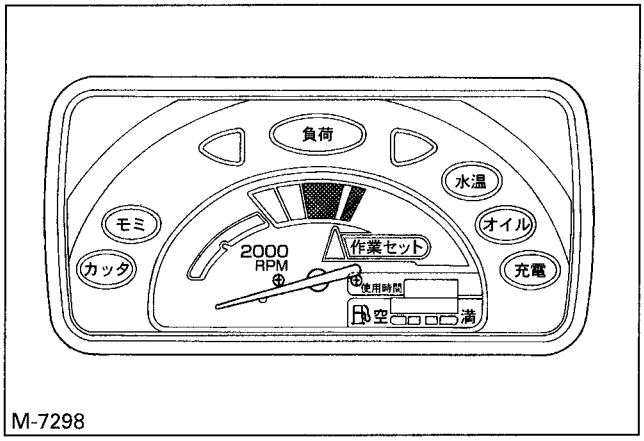
警 告

＊各部の点検やわら詰まりを取除くときは，エンジンを必ず止めてください。
＊各搬送チェーンやカッタ刃には注意してください。ケガをするおそれがあります。

注 意

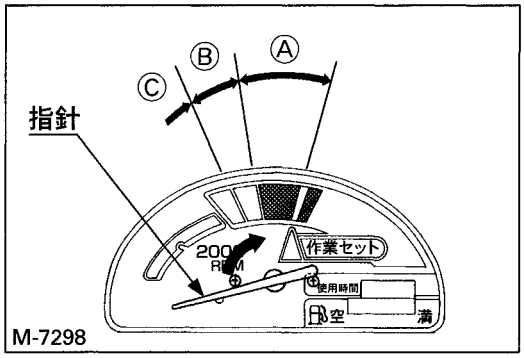
＊エンジン停止直後は，エンジンにさわったり，ラジエータキャップを開けないでください。ヤケドをするおそれがあります。
＊取外したカバー類は，必ず取付けてください。

各ランプが異常箇所を表示したときは，下表の処置を行なってください。



M-7298

ランプ	警報		現象	処置	参照ページ
	ランプ表示	ブザー			
燃料	点滅	—	●燃料が少なくなっています。 ※最後の1コマが点滅します。 （点滅時残量……約2L）	●給油してください。	65
水温	点灯	○	●水温が上昇しています。 ●そのまま作業を続けると… オーバーヒートします。	●約5分間エンジンだけを動かしたあと，エンジンを停止し，30分以上たってから点検と処置をします。 ①冷却水量 不足……ラジエータ・リザーブタンクに清水を補給 水もれ……ドレーンコック・ラジエータホースのバンドを増締め ②ファンベルト ゆるみ……張り調整 破損など……交換・調整 ③防じんあみ・ラジエータフィン 汚れ・詰まり……掃除して取除く	68 68, 70 70 71
オイル	点灯	—	●エンジンのオイル圧力が不足しています。 ●そのまま作業を続けると… エンジンが動かなくなります。	●エンジンを停止後，オイル量を点検します。 ●オイルドレーンゴムホースの点検，バンドの増締め ●エンジンが焼付きを起こしていますので，購入先へ連絡してください。	65 71
充電	点灯	—	●バッテリに充電されていません。 ●そのまま作業を続けると… バッテリ上りとなり，エンジンの始動ができなくなります。	●エンジンを停止後，点検と処置をします。 ①ファンベルト ゆるみ……張り調整 破損など……交換・調整 ②バッテリ 電圧低下……充電 ●バッテリを充電してもエンジンが始動しないときは，交換してください。	70 89

ランプ	警報 ランプ表示	警報 ブザー	現象	処置	参照ページ
負荷	点滅	©の位置のとき○	●脱こく部に負荷がかかっています。 負荷 作業セット位置に合わせた指針が，作業中にエンジン回転数が下がってきたときは，脱こく部に負荷がかかっています。指針の表示位置を確認しながら適正範囲で作業してください。  M-7298 Ⓐ適正範囲…作業を継続（緑色） Ⓑ減速範囲…速度を落とす（黄色）（ランプ点滅） ©即時減速…ブレーキペダルを踏む（赤色）（ランプ点滅 ブザー断続音） ＊ブザーは速度を落として，Ⓑ減速範囲に戻ると停止します。	●作業速度を落としてください。	33
			●そのまま作業を続けると… エンジンが停止します。	●条件に合った刈取作業をしてください。	
モミ	点滅	○	●ホッパのもみが満杯です。	●刈取作業を中止し，もみ袋を交換してもみを排出します。 ＊ブザーはホーンスイッチを1.5秒間押すと止まります。	40
			●そのまま作業を続けると… ホッパからもみがあふれます。	●もみを排出します。	
カッタ	自動的にエンジンが停止すると同時に		●フィードチェーン終端部，排わら搬送部，カッタ部のわら詰まりです。 異常箇所	●異常の原因を取除いて復帰します。	55
			①カッタ部にわらが詰まっています。	①カッタの切換えカバーを開いて，わらを取除いてください。	56
			②フィードチェーン終端部・排わら搬送部にわらが詰まっています。	②こぎ胴をオープンして，わらを取除いてください。	56
	点滅	○	※③結束機のひもなし・ひも切れです。	③新しいひものセット・ひもの再セットをしてください。	—
			※④結束機の結節部にわらやひもが巻付いています。また，結束部にわらが詰まっています。	④わらやひもを取除いてください。	—

※は結束機付仕様

重要

＊処置したあとに異常が直らないときは，購入先へ連絡してください。

メンテナンス

各部のオープン(開閉)と脱着のしかた

警 告

＊平たんで安全な場所で，エンジンを必ず止めてから行なってください。
＊取外したカバー類は，必ず取付けてください。

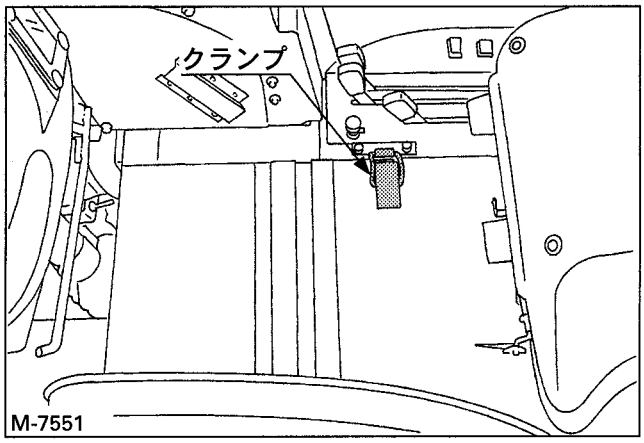
■エンジンルームオープン

注 意

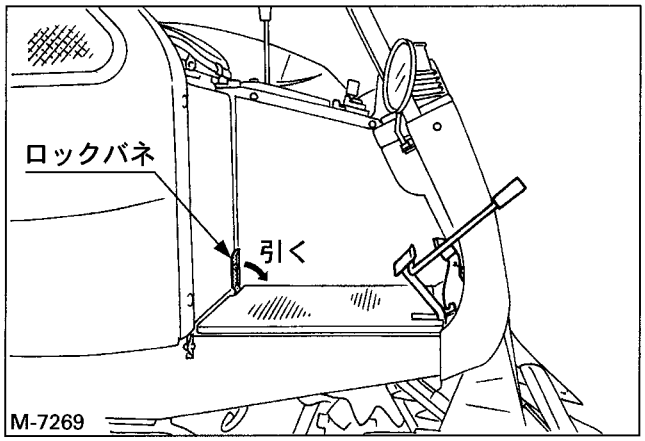
＊オーバヒートなどでエンジンルームを開けて点検・整備するときは，次の手順に従ってください。
(1)作業を中止する。
(2)エンジンを約5分間アイドリング回転で運転した後，エンジンを停止する。
(3)エンジン停止後30分以上経過してから開ける。
(4)点検・整備で内部に触れるときは，ヤケドの危険性がないことを確認する。
＊エンジンが冷えてないとき，エンジンルームを開けるとラジエータ部，リザーブタンク部などより熱湯が噴出し，あるいは高温部に接触してヤケドするおそれがあります。

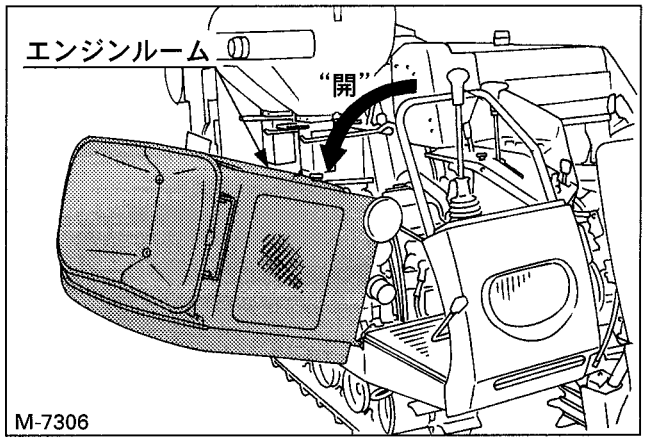
◆開きかた

❶シートを前方に倒し，シートフレーム部のクランプを外します。



❷足元左側のロックバネを引き，エンジンルームを外(手前)側に倒します。





◆閉じかた

エンジンルームを閉じたあと，クランプをします。

重 要

＊閉じたときは，クランプで必ずロックしてください。

■こぎ胴オープン

警 告

＊中でこぎ歯が高速で回転しているので接触するとケガをします。こぎ胴オープンするときは，エンジンを必ず止めてください。

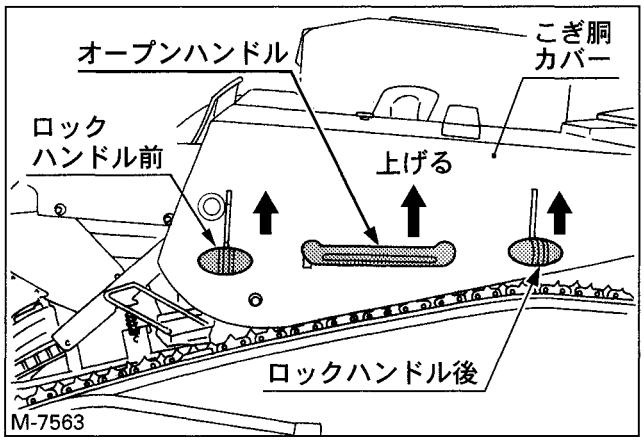
注 意

＊こぎ胴をオープンして，受あみの脱着やこぎ室の掃除をするときは，こぎ胴が落下して身体がはさまれるおそれがあるので，オープンストッパで必ず固定してください。

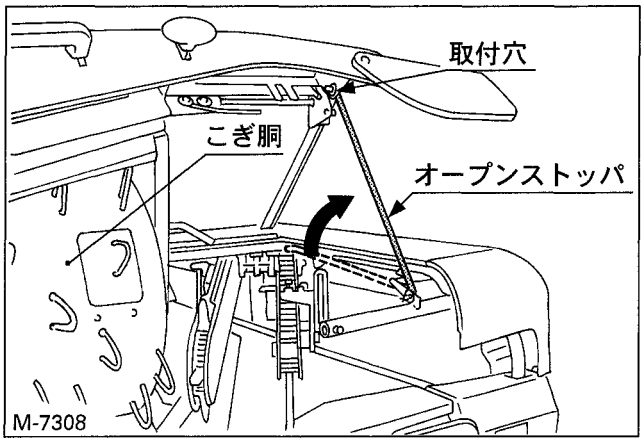
◆開きかた

❶ロックハンドル前・後を上に上げます。

❷オープンハンドルを持って，こぎ胴カバーを押上げます。



❸オープンストッパを取付穴に差込みます。



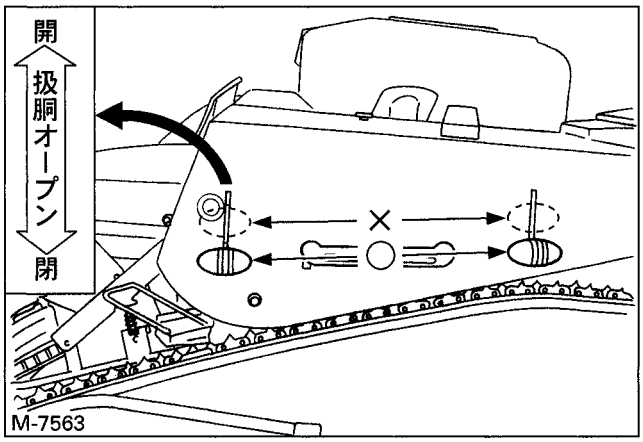
◆閉じかた

❶オープンストッパを取付穴から外します。

❷オープンハンドルを持って，こぎ胴を押下げます。

重 要

＊こぎ胴カバーを閉じたとき，ロックハンドルの前と後が，ハンドル横の**“開”⟷“閉”**ラベルの**“閉”**の位置にあることを確認してください。**“閉”**の位置以外で作業を行なうと，こぎ室フレームが変形することがあります。



■カッタオープン

◆開きかた

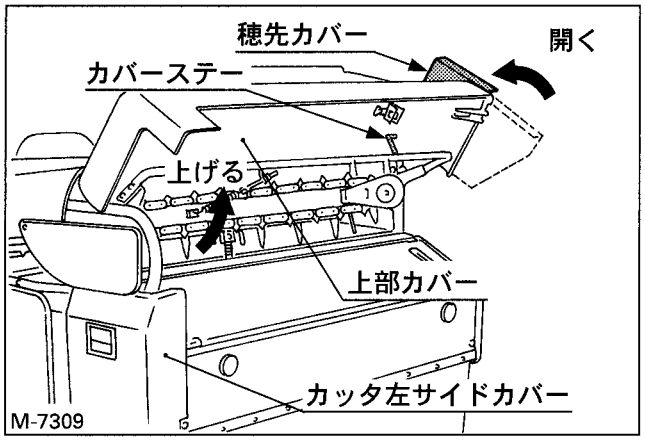
警 告

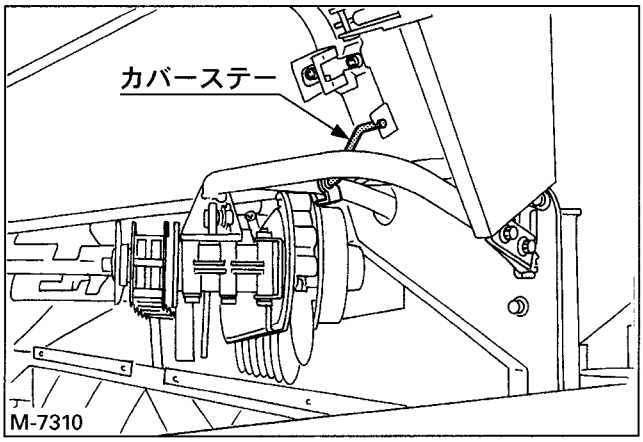
＊カッタを開いているときは，カッタの刃先に注意してください。

注 意

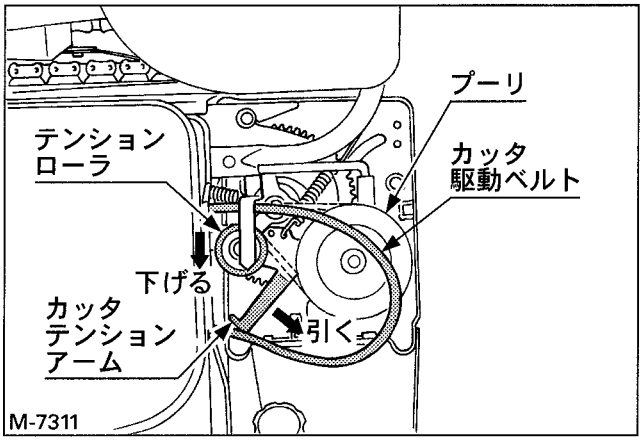
＊傾斜地でのカッタの開閉はしないでください。
＊カッタをオープンして掃除をするときは，オープンストッパで必ず固定してください。

❶上部カバーを上げてカバーステーをセットしたあと，穂先カバーを開きます。
❷カッタ左サイドカバーを外します。

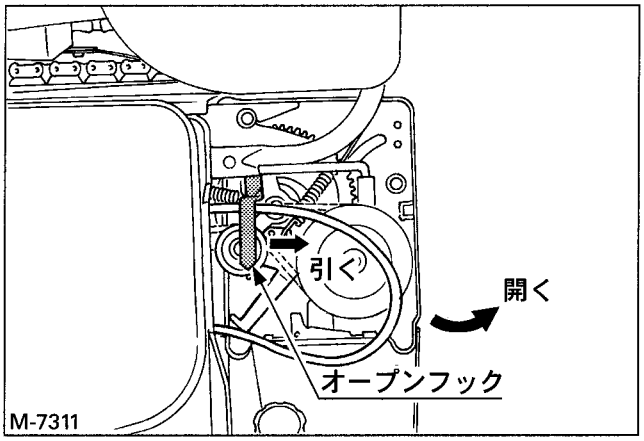




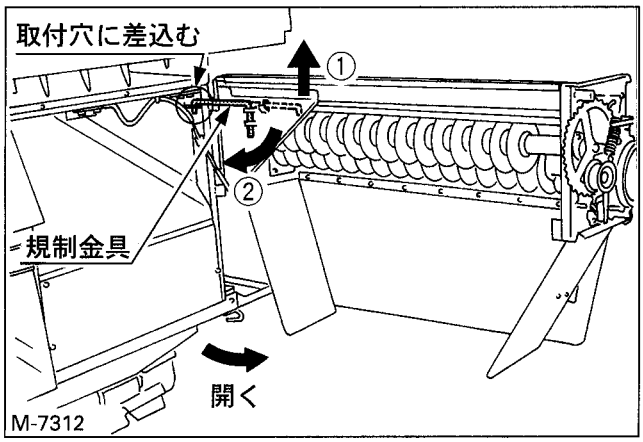
❸カッタテンションアームを引きテンションローラを下げて，カッタ駆動ベルトをプーリから外します。



❹オープンフックを引き，カッタ部を開きます。



❺カッタ部を開いた(オープン)あと，規制金具を脱こく側の取付穴に差込みます。



◆閉じかた

カッタを開く場合の逆の手順で行ないます。

重 要

＊オープンフックが確実にロックされていることを確認してください。
＊ベルトは，掛け間違えないでください。

■シーブケースの脱着

注　意

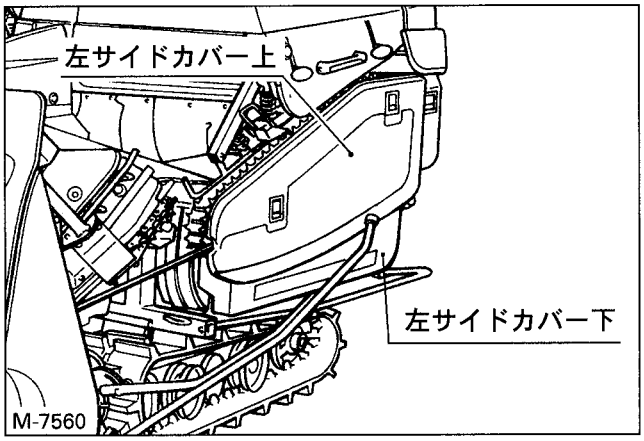
＊脱着作業は，合図を掛け合って２人で行なってください。

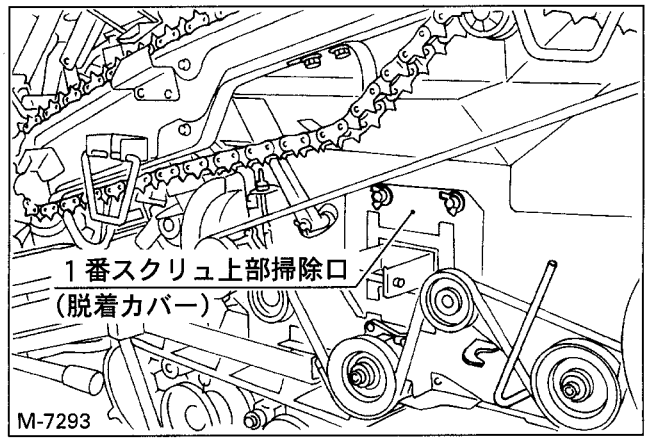
＊エンジンを必ず止めてください。

◆抜出しかた

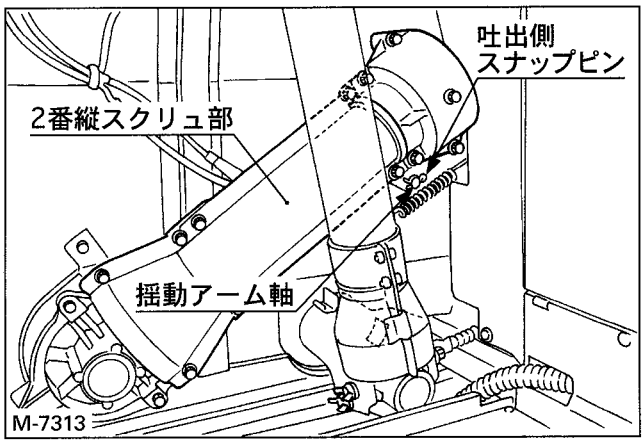
❶カッタをオープンします。(**カッタオープン**の項参照)

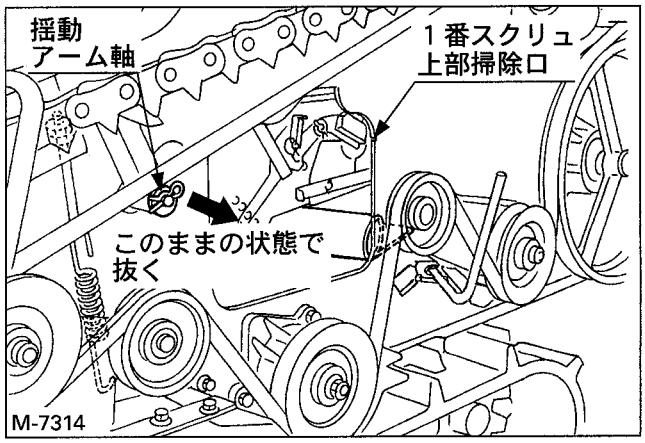
❷左サイドカバー上，下を取外したあと，蝶ナットを取外して１番スクリュ上部掃除口の脱着カバーを取外します。



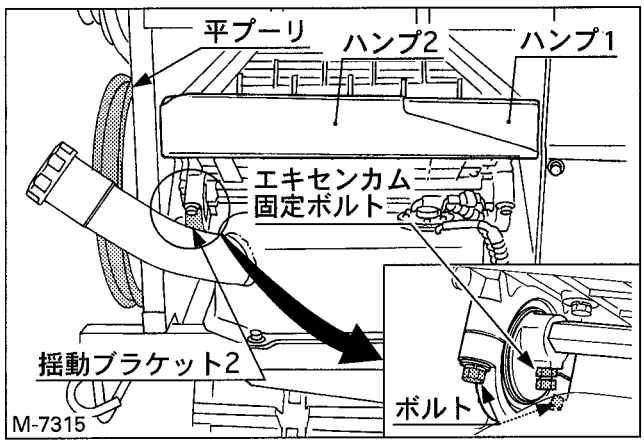


❸揺動アーム軸を抜きます。抜きかたは，２番縦スクリュの吐出側の下にある揺動アーム軸を取付けているスナップピンと平座金を取外します。そのあとフィードチェーン側の１番スクリュ上部掃除口の左側にある，揺動アーム軸を引抜きます。





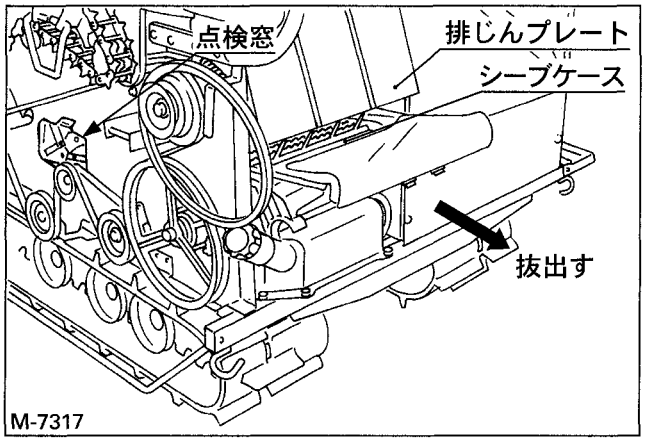
❹後部側からシーブケースのハンプ１，２を下図のようにめくり上げたあと，取付けボルト４本(左，右各２本)を取外して揺動ブラケット２(左，右)を外します。



補　足

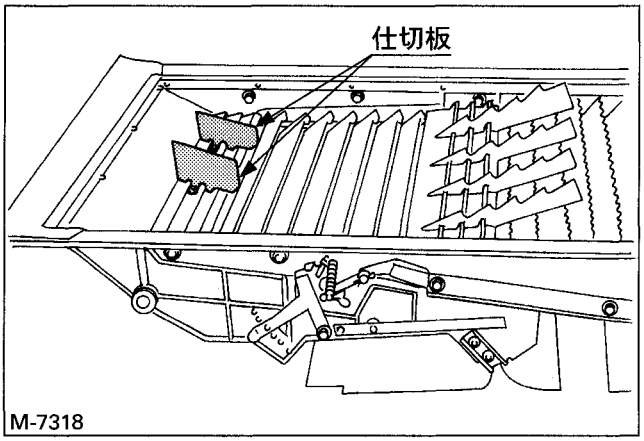
＊揺動ブラケット２を取外すときは，平プーリを回して，エキセンカム固定ボルトが真下に向いた位置にしてください。

❺シーブケースを抜出します。このとき，1人が点検窓からシーブケースの下を持ち上げて，1人が後部から抜出します。



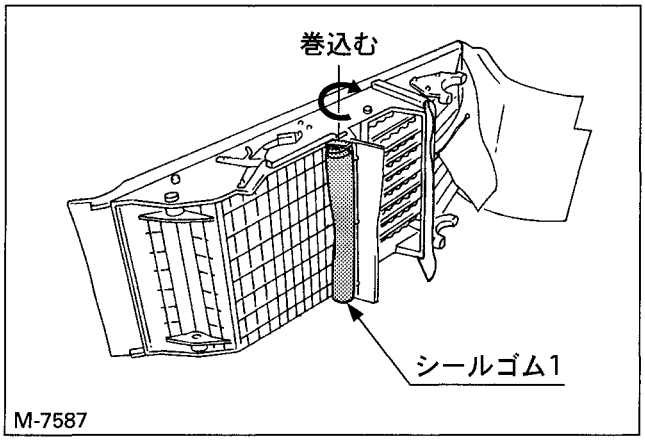
補　足

＊排じんプレートにグレンパンの仕切板が引掛からないようにしてください。



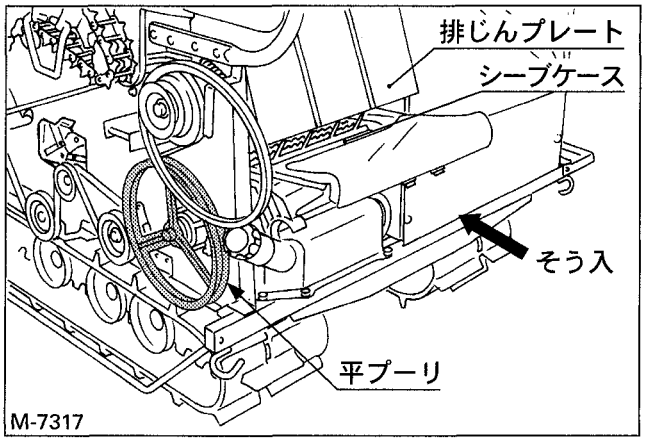
◆取付けかた

❶シーブケース下側のシールゴム１を図のように巻込みます。



❷平プーリでエキセンカム固定ボルトを真下の位置にします。

❸シーブケースをそう入します。



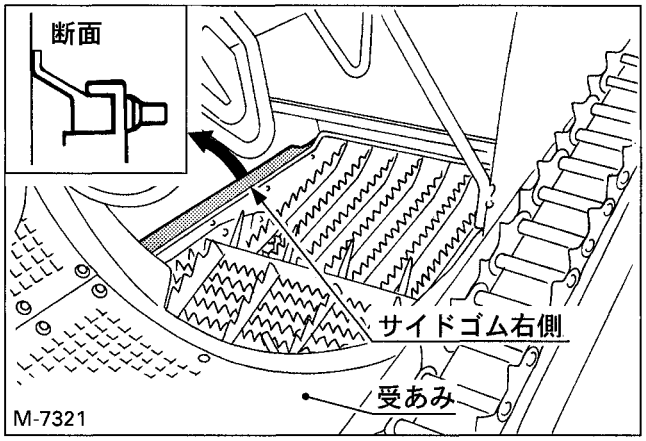
補　足

＊シールゴム１が垂れないようにしてください。

＊排じんプレートにグレンパンの仕切板が引掛からないようにしてください。

＊そう入途中で，大きく上下動させないでください。

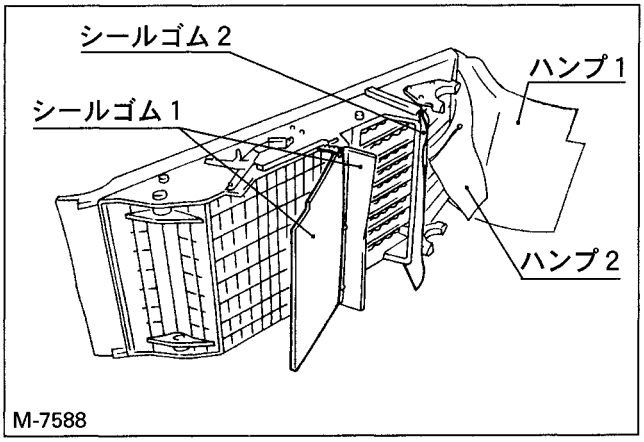
＊そう入したあとこぎ胴をオープンして，受あみを外し，シーブケースのサイドゴム(左，右)が下側に折曲がっているときは，シーブケースを前・後に動かしてサイドゴムの先端が上側になるようにしてください。

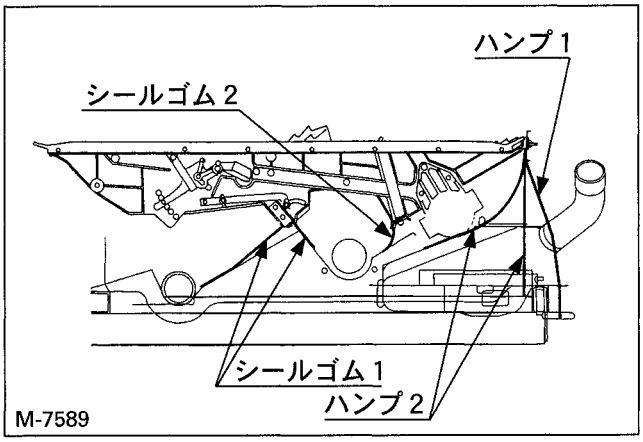


❹揺動アーム軸を取付けます。

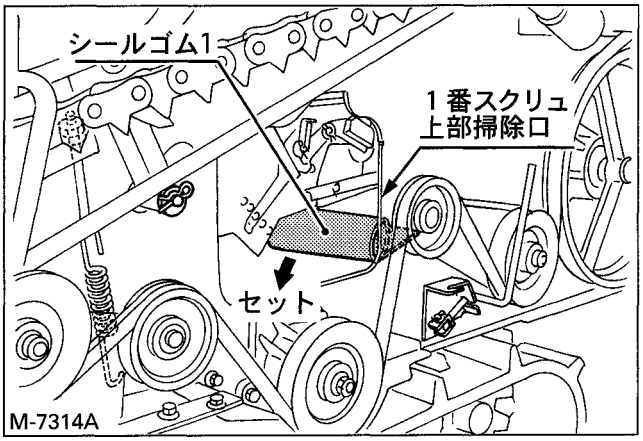
❺揺動ブラケット２(左，右)をボルト４本(各２本)で締付けます。

❻シールゴム1，2とハンプ1，2を下図のようにセットします。

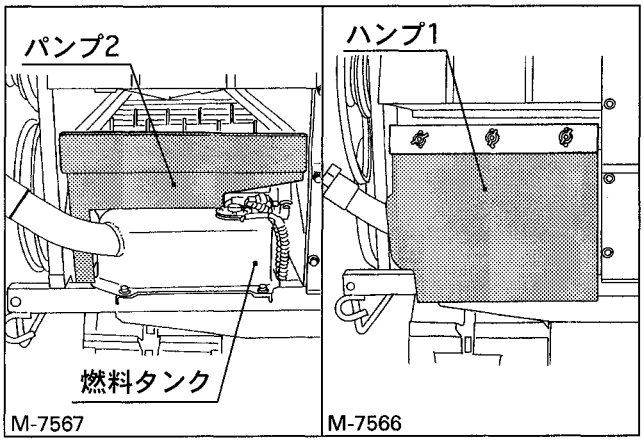




(1)１番スクリュ上部掃除口から手を入れて，❶の工程で巻込んだシールゴム１を上図のようにセットします。



(2)ハンプ２を燃料タンクの前方に垂らしたあと，ハンプ１を燃料タンクの後方に垂らします。



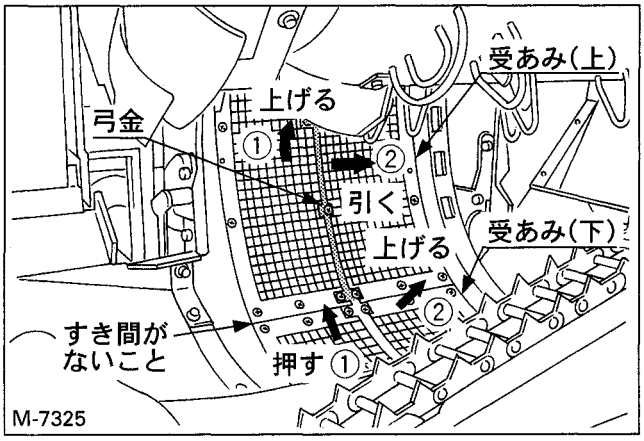
❼脱着カバーを蝶ナットで締付けたあと，カッタ部を閉じます。

■受あみの脱着

❶こぎ胴をオープンします。(**こぎ胴オープン**の項参照)

❷受あみ(上)の弓金を上側に押上げたあと，手前に引いて取外し，受あみ(下)も同じように，左上側に押して取外します。

❸取付けるときは，逆の手順で受あみ(下)から取付けます。



重 要

＊取付けたときに受あみ(上)，(下)の間にすき間があると，脱こく部の故障の原因となります。

各部の掃除と注油のしかた

機械の故障などトラブルが発生しないように，各部の手入れをじゅうぶん行なってください。

警　告

＊エンジンを必ず止めてください。
＊取外したり，オープンした回転部のカバー類は衣服などが巻込み危険ですので必ず取付けてください。
＊各搬送チェーンやカッタ刃には注意してください。ケガをするおそれがあります。

注　意

＊刈取部を上げた状態で作業するときは，刈取下降ロックレバーで必ずロックしてください。さらに枕木などを使用して落下防止の歯止めをしてください。
＊空運転するときには必ずこぎ胴をセットして，カッタを閉じてください。
＊オイルがこぼれた場合は，きれいにふき取ってください。(クローラなどのゴム製品は損傷します。)
＊バッテリ，マフラやエンジン・燃料タンク周辺部にごみや燃料の付着，泥の堆積などがあると火災の原因になることがありますので，取除いてください。
＊刈刃やカッタの掃除・注油時は刃部に注意してください。

重　要

＊水洗いするときは，電装品に水をかけないようにしてください。故障の原因になります。
＊掃除口を閉じるときは，掃除口にこく粒の付着がないことを確めてから閉じてください。また，掃除の後，ふたを忘れるとこく粒が飛散します。
＊機内はよく乾燥させてから掃除してください。濡れているとこく粒が機内に付着して残留こく粒が多くなります。
＊湿田で作業したあとは，必ずクローラ部分の泥を取除いてください。
＊取外したボルト・ナットは，必ず締付けてください。

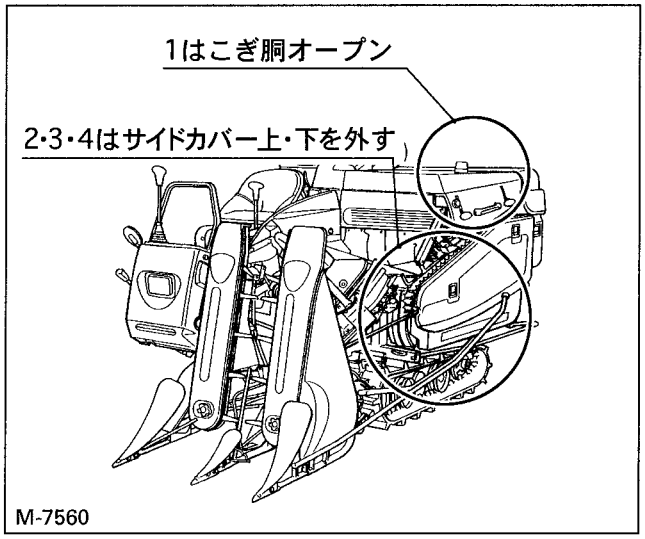
■掃除のしかた

品種や稲・麦の混合を避けたいときや収穫シーズンが終わったときには，機内の残留こく粒をきれいに取除いておきましょう。

◆掃除のしかた

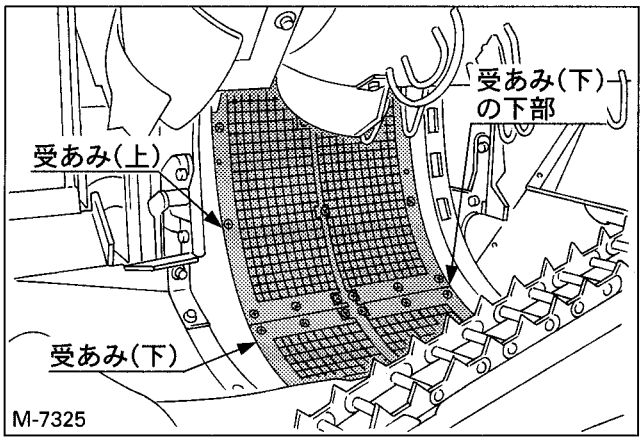
刈取作業が終わり，もみの排出がすべて終わったあと脱こく部を約３分間空運転します。そのあと，脱こくクラッチを切りエンジンを止めます。
掃除をするときには，各部をオープン(開閉)又は，掃除口を開いてください。

◆掃除箇所



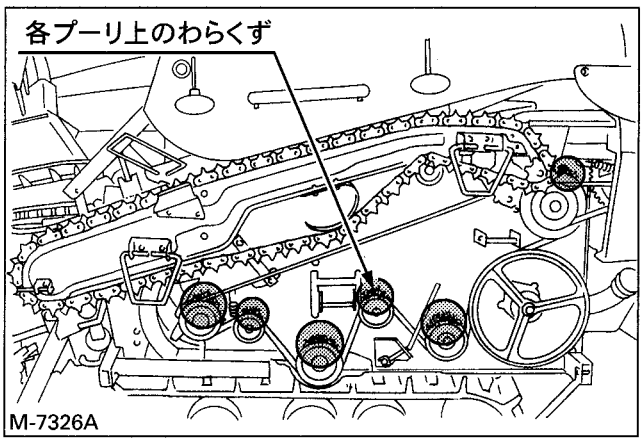
1. 脱こく部内(こぎ室)

受あみ(上，下)を取外してください。



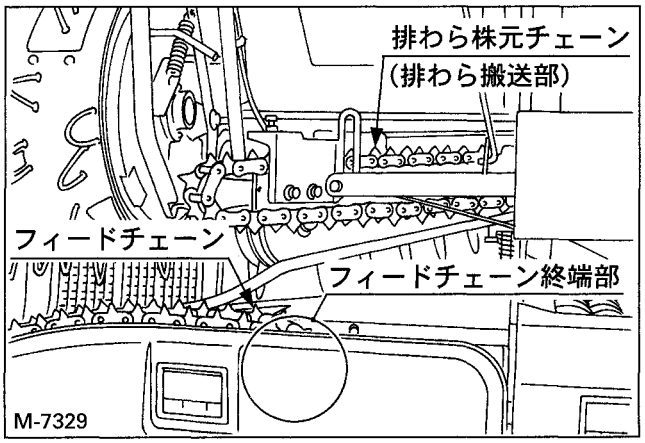
2. ベルトカバー内

左サイドカバー上，下を取外してください。



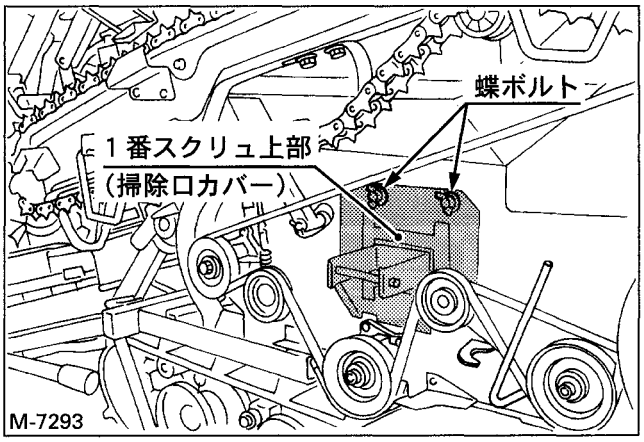
3. フィードチェーン終端部・排わら搬送部

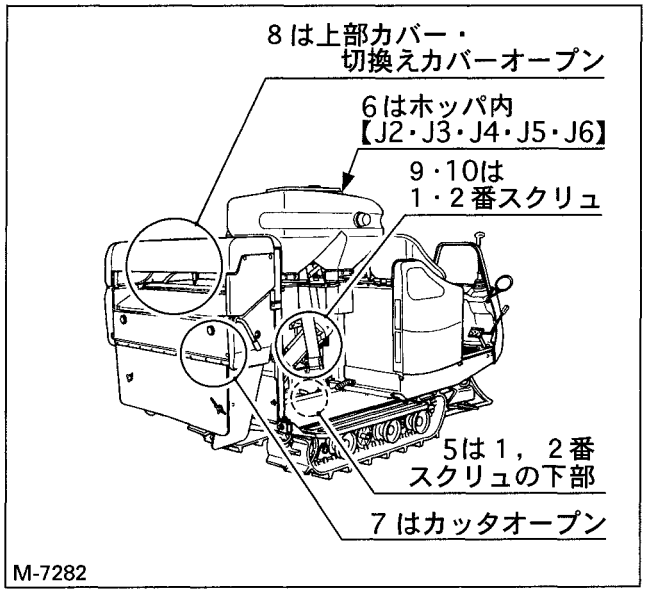
自動エンジン停止装置がはたらいたとき(**わら詰まりのとき**)に掃除してください。



4. 1番スクリュ上部掃除口(点検窓)

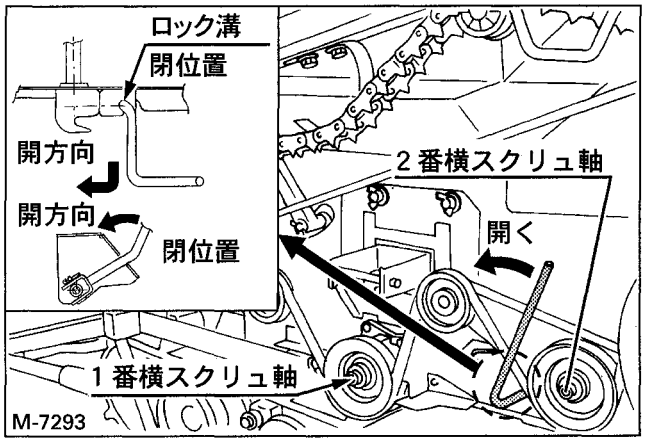
蝶ボルト2本を取外し，1番スクリュ上部の掃除口カバーを取外してください。

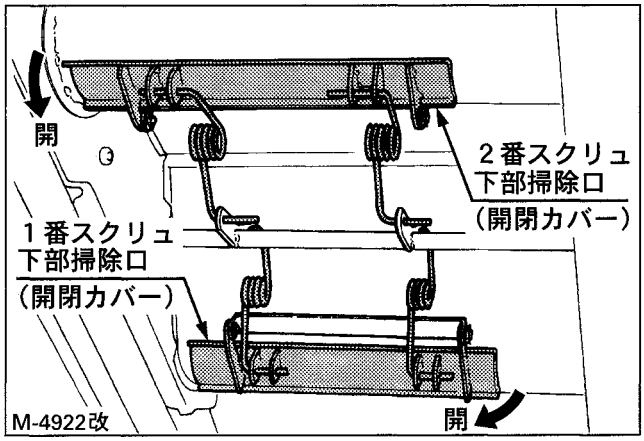




5. 1，2番スクリュ下部掃除口

掃除口開閉レバーを操作して，1，2番横スクリュ下部にある掃除口の開閉カバーを開いてください。
開くときは，開閉レバーを閉位置のロック溝から後方に動かします。





重　要

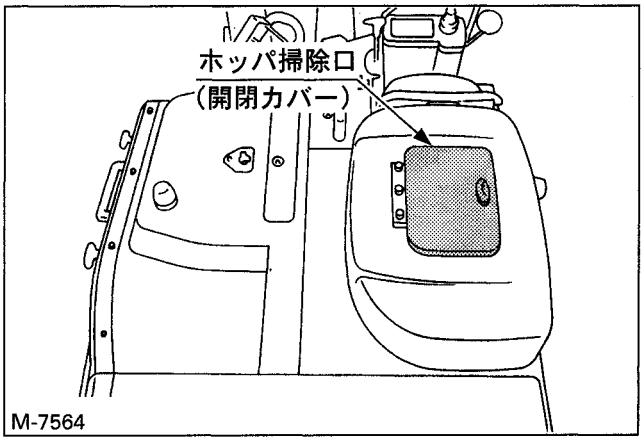
＊掃除口開閉レバーを使用しないときは，ロック溝の閉位置にしておいてください。走行中に掃除口開閉レバーが開いて破損するおそれがあります。

補　足

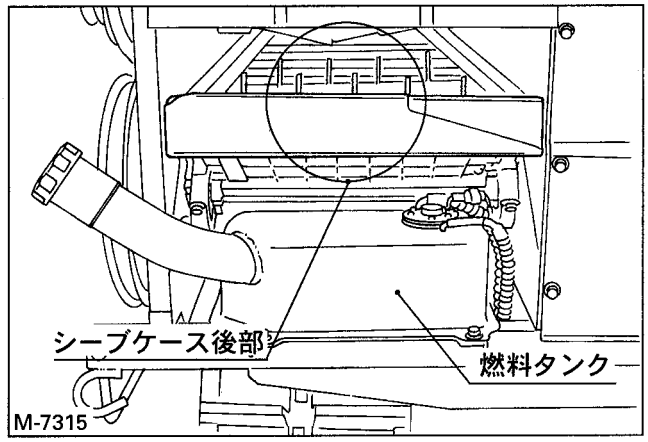
＊クローラに付着している泥は取り除いてください。掃除口開閉レバーに接触し，開閉しなくなります。

6. ホッパ内【J2・J3・J4・J5・J6】

ホッパ掃除口の開閉カバーを開いてください。



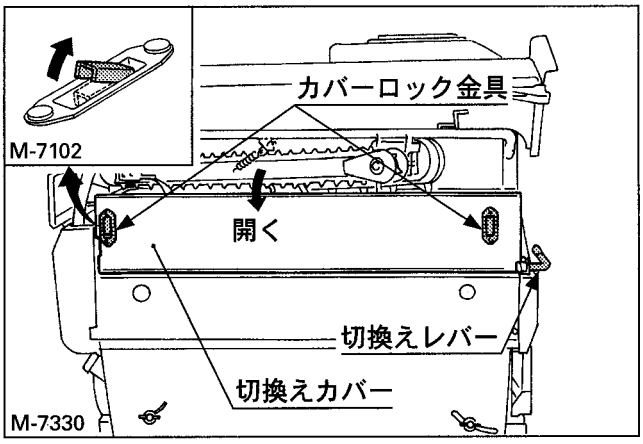
7. シーブケース後部と燃料タンク周辺

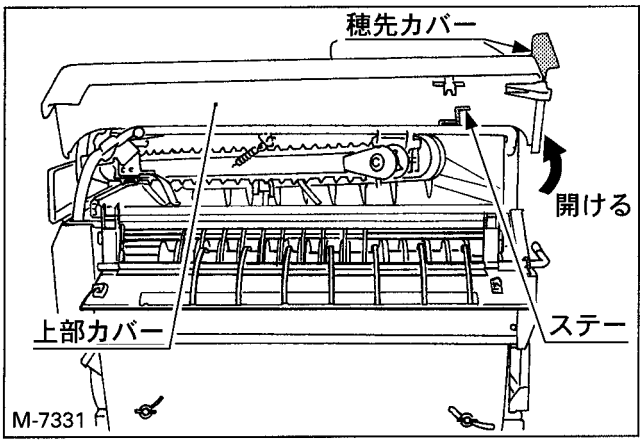


8. カッタ部・排わらチェーン部(わら詰まりのとき)

自動エンジン停止装置がはたらいたときは，次の手順で掃除してください。

❶上部カバーを開けカバーステーをセットし，穂先カバーを上に開きます。
❷切換えレバーで切換えカバーを開いたあと，カバーロック金具を引き，切換えカバーを後方へ倒します。



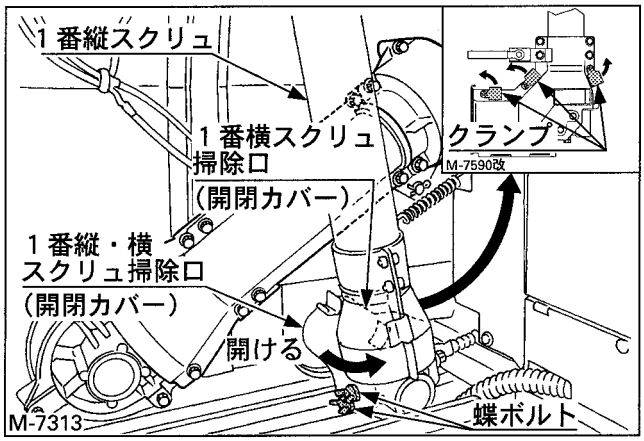


補　足

＊必要に応じて，このあとカッタオープンして掃除を行なってください。
＊切換えカバーを開けたままでは，エンジンをかけても脱こくクラッチを入れるとエンジンが止まります。点検・掃除後は，必ずカバーロック金具を引きながら切換えカバーを閉め，カバーロック金具を確実にロックしてください。

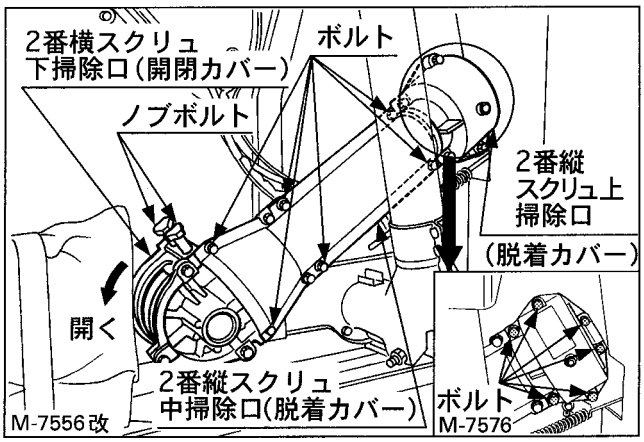
9. 1番縦・横スクリュ掃除口

蝶ボルト2本とクランプ3箇所を取外して，1番縦・横スクリュ掃除口の開閉カバーを開きます。



10. 2番縦・横スクリュ掃除口

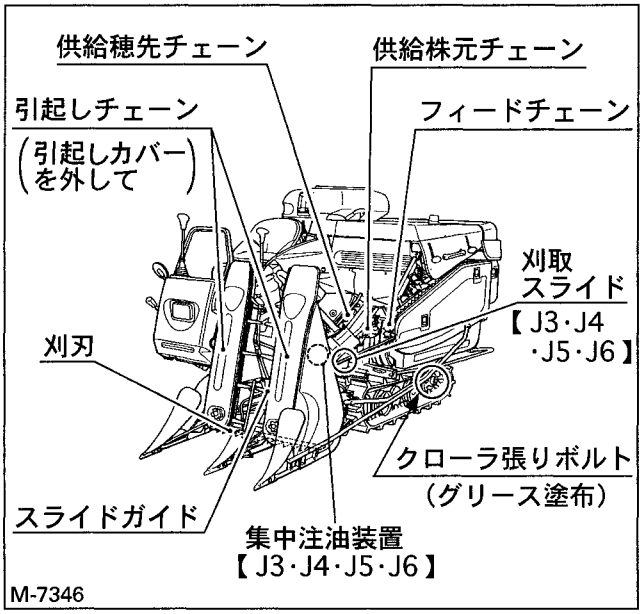
❶ノブボルト2本を取外して2番横スクリュ下の開閉カバーを開きます。
❷ボルト6本を取外して，2番縦スクリュ中の掃除口の脱着カバーを外します。
❸ボルト6本を取外して，2番縦スクリュ上の掃除口の脱着カバーを外します。



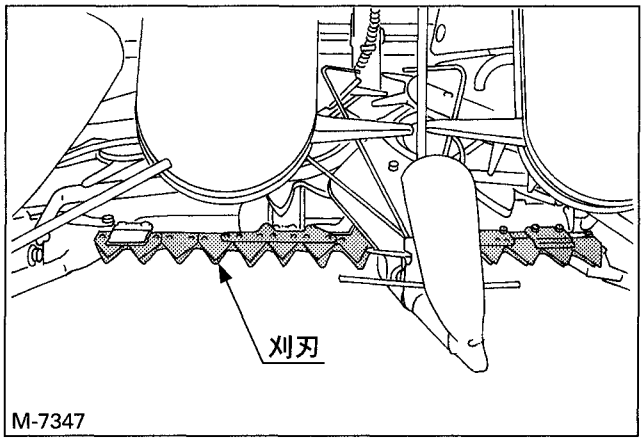
■注油のしかた

機体各部の掃除が終わったあと又は，刈取作業を始める前には各部の注油やグリースの塗布を行なってください。

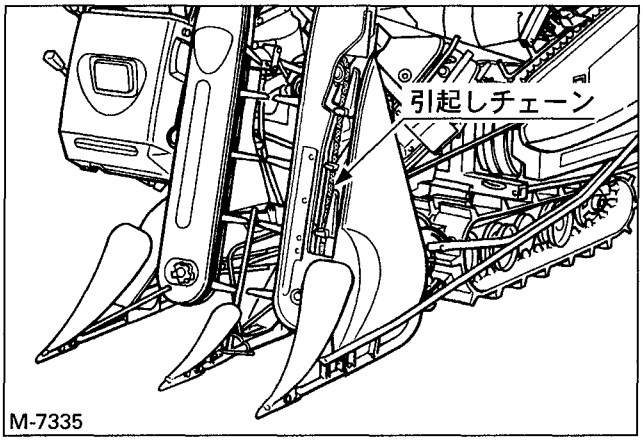
◆注油・グリース塗布箇所



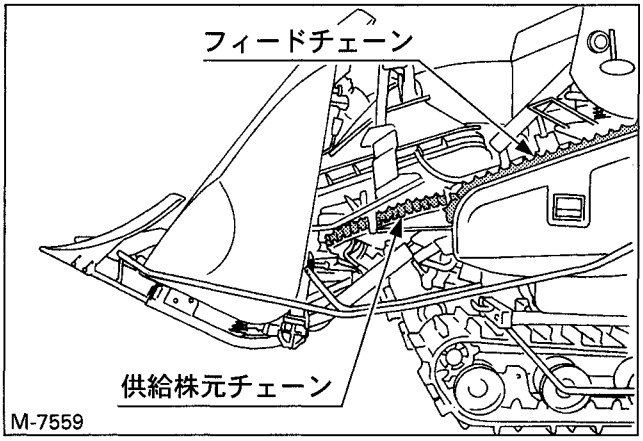
●刈刃(注油)

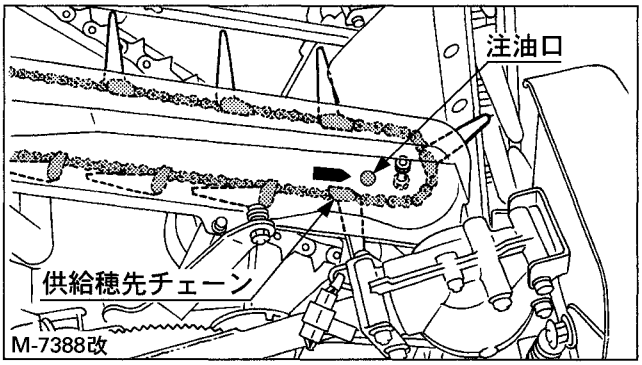


●引起しチェーン(注油)

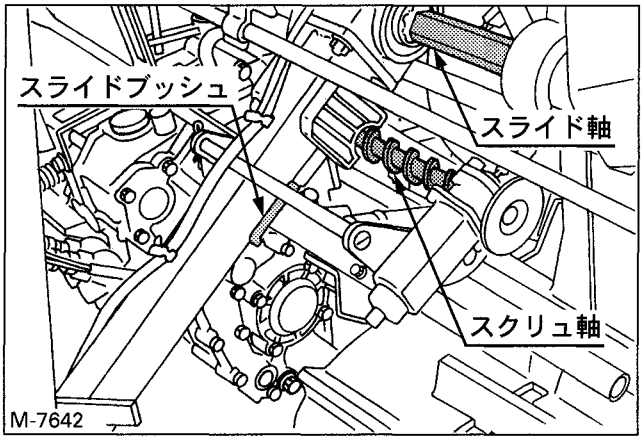


●フィードチェーン(注油)
●供給株元チェーン(注油)
●供給穂先チェーン(注油)

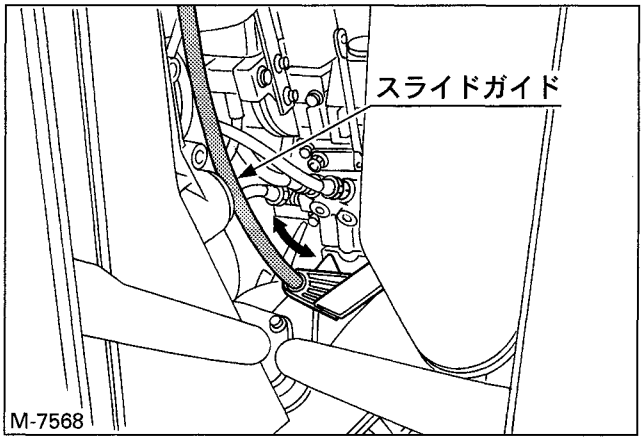




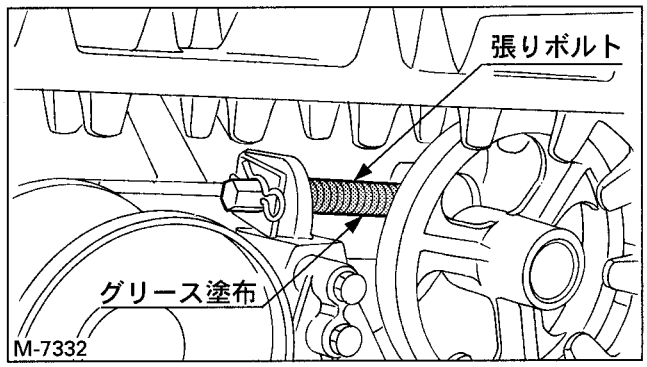
●刈取スライド【J3・J4・J5・J6】(グリース塗布)



●スライドガイド(グリース塗布)

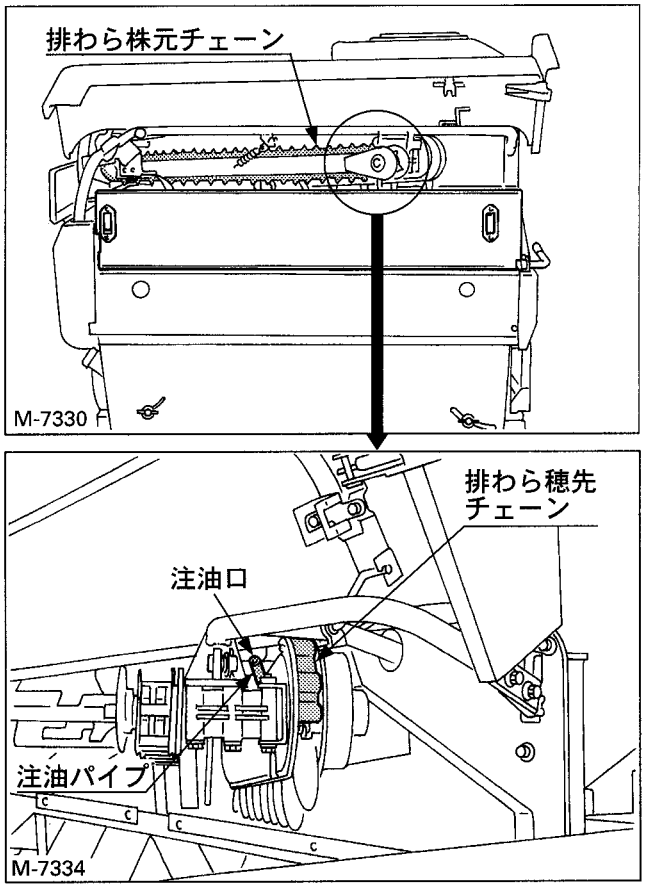


●クローラの張りボルト(グリース塗布)

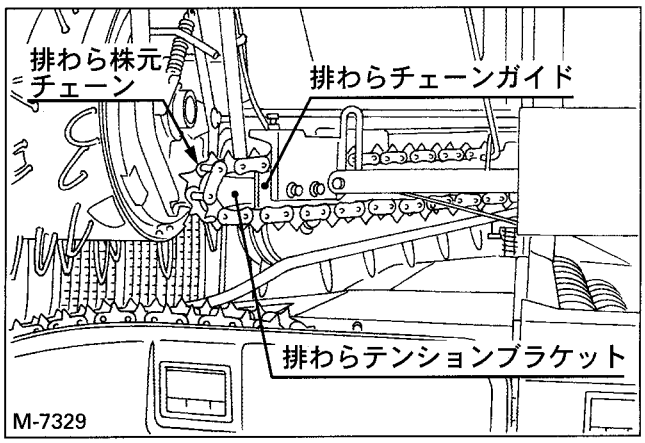


●排わら株元チェーン(注油)

●排わら穂先チェーン(注油パイプの注油口から注油)

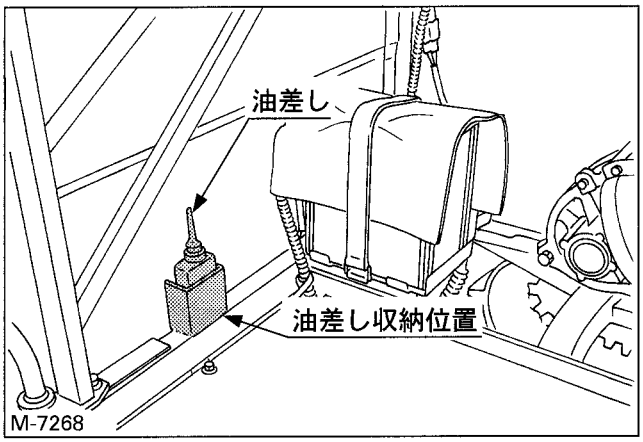


●排わら株元チェーンテンション部(注油)
排わらチェーンガイドと排わらテンションブラケットのしゅう動部



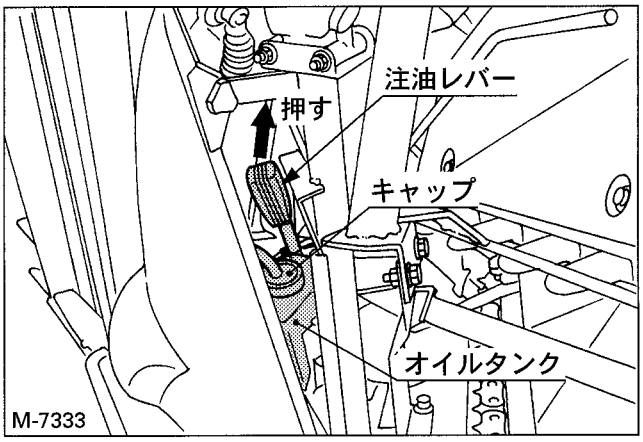
◆油差し収納位置

下図の位置に収納してください。



◆集中注油装置【J3・J4・J5・J6・R216S】

注油レバーの操作により，**左，右引起しチェーン・刈刃の各部**に一度に注油できます。毎日の作業前に刈取部を中速回転しながら，注油レバーを３～４回動かして注油してください。なお，オイルタンクの油量も確認してください。



重　要

＊指定オイル以外，又は廃油は使わないでください。ごみ類の混入は，ノズルの詰まり，バルブの不良の原因になります。

オイルの種類	オイルタンク容量
クボタ純オイル D10W30又は，D30	約0.5L

補　足

＊気温が10℃以下になると均等に注油されなくなります。寒い地域では，気温の上がる昼間に注油してください。

＊オイルタンクへオイルを補給するときは，付属部品のじょうごを使用してください。

＊オイルタンクに給油したあとは，オイルを吸い上げるまで注油レバーを押してください。

＊集中注油装置を最初に動かすときは，各部にオイルがじゅうぶん注油されるまで注油レバーを押してください。このとき，左刈刃と左引起しチェーンのオイルの量が，多く出ます。

定期点検

定期点検は，コンバイン作業を行なう人が定期的に行なう点検です。
コンバインは，使用時間と使用状況に応じて劣化が進み，その構造や装置の性能が低下します。これを放置しておくと故障や事故の原因となり，ひいてはコンバインの寿命を短くしてしまいます。
コンバインの持つ性能がいつまでもじゅうぶん発揮できるよう，定期的に点検を行ないましょう。

警　告

＊各部の調整・点検・交換を行なうときは，エンジンを必ず停止させ，各レバー類を"切"にして，回転部を止めてから作業をしてください。
＊取外した回転部のカバー類は，衣服などが巻込み危険ですので，点検後は必ず取付けてから作業をしてください。

注　意

＊点検・作業するときは，駐車ブレーキを掛けてください。また刈取部は一番下まで降してください。もし刈取部を上げた状態で作業するときは，刈取下降ロックレバーで刈取部の下降防止を行なってください。さらに枕木などを使用して落下防止の歯止めをしてください。
＊エンジンルームオープンをするときは，内部がじゅうぶん冷え，ヤケドのおそれがないことを確認してください。
＊オイル交換中は火気厳禁。
＊刈刃やカッタの点検・掃除時は刃部に注意してください。
＊機械は平たんで，回りにわらくずなどの燃えやすいごみのない場所へおいてください。バッテリ，マフラやエンジン周辺部にごみや燃料の付着，泥の堆積などがあると火災の原因となります。
＊燃料，オイルがこぼれた場合は，きれいにふき取ってください。

補　足

＊専門的な技術や特殊工具を必要とする場合及び定期点検一覧表の参照ページ欄に☆印のある項目は，購入先にご相談ください。
＊点検・交換の時期は，使用条件や環境に大きく左右されます。従ってひとつの目やすとして早目の点検をお願いします。

■オイル・フィルタ類の交換とチェーン・ベルト・クローラの張り調整

＊新車時はコンバインの回転・しゅう動部の各部品はなじみがついていませんのでならし運転期間中に細かい金属粉が生じ，部品の極度な摩耗につながるおそれがあります。よって，オイル・フィルタ類は初期50時間で交換してください。
＊チェーンやベルト類・クローラはならし運転中に初期伸びが発生します。初期20又は，50時間で張り調整をしてください。
（交換したときも同様です。）

■使用済廃棄物の処分について

廃油や冷却水などの廃棄物をむやみに捨てると環境汚染になります。
機械から廃油を抜く場合は，容器に受けてください。
地面へのたれ流しや川，沼への廃棄は絶対にしないでください。
廃油・燃料・冷却水・冷媒・溶剤・フィルタ・バッテリ・その他有害物を捨てるときは，購入先，又は産業廃棄物処理業者に依頼してください。

■使用者が行なってはいけない修理

下記部品に異常があるときは購入先に依頼してください。

- 電気系統（自動制御関係）
- 結束部（ケッセツブカンビ）
- エンジン本体
- トランスミッションケース
- ギヤ（ベベルギヤを含む）を内蔵したケース類
- 油圧系統
- 電気部品と電気系統
- 刈取部の動力伝達系統

■定期点検一覧表

○：点検と調整・掃除・締付け(バンド)　●：ならし運転後の点検と調整
△：交換　▲：ならし運転後の交換

	点検箇所・項目		時間 点検	時間 交換	点検・交換時期 アワメーター表示時間(時間) 20	50	100	150	200	250	300	350	400	450	500	それ以降 点検	それ以降 交換	2年ごと	参照ページ
エンジン部	ファン駆動ベルト		調整	交換		●		○		△	●		○		△	50又は，100時間ごと	250時間ごと		70 ☆
	エアクリーナエレメント		掃除	交換		○	○	○	○	○	△	○	○	○	○	50時間ごと	300時間ごと		69
					（点検・掃除が6回目のときに交換）														
	インレットパイプ（エアクリーナ）		締付け	交換				○			△			○		注1	注2	△	71
					（注1：使用時間が150時間又は，6ケ月ごとの早い方で点検 注2：使用時間が300時間又は，2年ごとの早い方で交換）														
	フューエルフィルタアッシ		—	交換					△				△			—	200時間ごと		72 ☆
	フューエルパイプ		締付け	交換				○			△			○		注3	注4	△	70 ☆
					（注3：使用時間が150時間又は，6ケ月ごとの早い方で点検 注4：使用時間が300時間又は，2年ごとの早い方で交換）														
	燃料こしあみ		掃除	—			○		○		○		○		○	100時間ごと	—		65
	オイルフィルタカートリッジ		—	交換		▲(35)				△				△		—	200時間ごと		72 ☆
					（エンジンオイル交換が2回目のときに交換）														
	オイルドレーンゴムホース		締付け	交換				○			△			○		注5	注6	△	71 ☆
					（注5：使用時間が150時間又は，6ケ月ごとの早い方で点検 注6：使用時間が300時間又は，2年ごとの早い方で交換）														
	ラジエータホース		締付け	交換				○			△			○		注7	注8	△	71 ☆
					（注7：使用時間が150時間又は，6ケ月ごとの早い方で点検 注8：使用時間が300時間又は，2年ごとの早い方で交換）														
	防じんあみ，ラジエータフィン		掃除	—		●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	50時間ごと	—		71
走行・操作部	アクセルワイヤ		調整	交換		●		○		△	●		○		△	50又は，100時間ごと	250時間ごと		☆
	駐車ブレーキ		調整	—		●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	50時間ごと	—		73
	パワーステアリングレバー		調整	—		●		○		○		○		○		100時間ごと	—		74
	刈取駆動ベルト	【J2・J3・R216S】	調整	交換	●	○	△●(120)	○	△●(220)	○	△●(320)	○	△●(420)	○	△●(520)	20又は，50時間ごと	100時間ごと		75, 77 ☆
		【J4・J5・J6】			●		○		○	△●(270)		○		○	△●(520)	20又は，100時間ごと	250時間ごと		
	脱こく駆動ベルト	【J2・J3・R216S】	調整	交換	●	○	○	△●(170)	○	○	△●(320)	○	○	△●(470)	○	20又は，50時間ごと	150時間ごと		75, 78 ☆
		【J4・J5・J6】			●		○		○	△●(270)		○		○	△●(520)	20又は，100時間ごと	250時間ごと		
	走行駆動ベルト	【J2・J3】	調整	交換	●	○	△●(120)	○	△●(220)	○	△●(320)	○	△●(420)	○	△●(520)	20又は，50時間ごと	100時間ごと		75, 77 ☆
		【J4・J5・J6・R216S】			●		○		○	△●(270)		○		○	△●(520)	20又は，100時間ごと	250時間ごと		
	クローラ		調整	交換	●	○		○		○		○		○	△	20又は，100時間ごと	500時間ごと		94 ☆
	ミッションオイルフィルタ		—	交換	▲						△					—	300時間ごと		73

＊参照ページに☆印のある整備項目(交換)については，購入先又は，整備工場で行なってください。

○：点検と調整・掃除・締付け(バンド)　　●：ならし運転後の点検と調整
△：交換　　▲：ならし運転後の交換

	点検箇所・項目		時間 点検	時間 交換	点検・交換時期 アワメーター表示時間(時間) 20	50	100	150	200	250	300	350	400	450	500	それ以降 点検	それ以降 交換	2年ごと	参照ページ
刈取部	補助搬送(突起付)ベルト		調整	交換	●		○		○		○		○		△	20又は，100時間ごと	500時間ごと		75,77 ☆
	引起し	チェーン	—	交換	(注9：自動テンションのラチェット歯の終端部で交換)											—	注9		81 ☆
		爪	—	交換				△			△			△		—	150時間ごと		
	供給穂先	チェーン	調整	交換	●		○		○		△		○		○	20又は，100時間ごと	300時間ごと		81 ☆
		搬送爪	—	交換				△			△			△		—	150時間ごと		
	供給株元チェーン		調整	交換		●	○		○		△	●	○		○	50又は，100時間ごと	300時間ごと		80 ☆
	刈刃		調整	交換		●	○		△	●	○		△	●	○	50又は，100時間ごと	200時間ごと		82
	刈刃駆動ベアリング		—	交換		△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	—	50時間ごと		☆
	株元センサ		—	交換											△	—	500時間ごと		☆
	穂先センサ(上，下)		—	交換											△	—	500時間ごと		☆
	パッカ(トルクリミッタ)		—	交換	(パッカ交換時は，トルクリミッタ調整)										△	—	500時間ごと		92 ☆
脱こく部	こぎ胴駆動ベルト		調整	交換	●		○		○	△●(270)		○		○	△●(520)	20又は，100時間ごと	250時間ごと		78 ☆
	トウミ駆動ベルト		調整	交換	●		○		○	△●(270)		○		○	△●(520)	20又は，100時間ごと	250時間ごと		78 ☆
	1番・2番・揺動・フィードチェーン・カッタ駆動ベルト		調整	交換	●		○		○	△●(270)		○		○	△●(520)	20又は，100時間ごと	250時間ごと		75,79 ☆
	フィードチェーン		調整	交換	●		○		○		○		△●(420)		○	20又は，100時間ごと	400時間ごと		81 ☆
	排わら穂先	チェーン	—	交換						△					△	—	250時間ごと		☆
		搬送爪	—	交換				△			△			△		—	150時間ごと		☆
	排わら株元チェーン		—	交換						△					△	—	250時間ごと		☆
	わら切刃		—	交換					△				△			—	200時間ごと		84
	こぎ歯		—	交換						△					△	—	250時間ごと		☆
	樹脂受あみ(弓金含む)		—	交換						△					△	—	250時間ごと		☆
	フロントハンプ		—	交換						△					△	—	250時間ごと		☆
	吐出口ブーツ		—	交換	(注10：破損しているとき交換)											—	注10		94

＊参照ページに☆印のある整備項目(交換)については，購入先又は，整備工場で行なってください。

○：点検と調整・掃除・締付け(バンド)　●：ならし運転後の点検と調整
△：交換　▲：ならし運転後の交換

点検箇所・項目		時間 点検	時間 交換	点検・交換時期 アワメーター表示時間(時間) 20	50	100	150	200	250	300	350	400	450	500	それ以降 点検	それ以降 交換	2年ごと	参照ページ
脱こく部	1番縦スクリュ軸	—	交換						△					△	—	250時間ごと		☆
	1番横スクリュ軸	—	交換						△					△	—	250時間ごと		☆
	トシュツコウ(1，2バン)	—	交換						△					△	—	250時間ごと		☆
	トシュツコウ(2，2バン)	—	交換						△					△	—	250時間ごと		☆
	2番ライナ2	—	交換				△			△			△		—	150時間ごと		☆
	ケース(2バン)	—	交換						△					△	—	250時間ごと		☆
	2番縦スクリュ軸	—	交換						△					△	—	250時間ごと		☆
	2番横スクリュ軸	—	交換						△					△	—	250時間ごと		☆
	プレート(2バンフタ)	—	交換						△					△	—	250時間ごと		☆
カッタ部	カッタ駆動ベルト	調整	交換	●		○		○	△/●(270)		○		○	△/●(520)	20又は，100時間ごと	250時間ごと		75，76
	カッタ刃	—	交換				△			△			△		—	150時間ごと		☆
電装部	バッテリ	充電	交換	(注11：インジケーターが黒色又は，セルモータが回りにくいとき充電)(注12：インジケータが透明になったとき交換)											注11	注12		89
	コード	点検	交換	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	50時間ごと	注13	○	89，91☆
	ワイヤハーネス			(注13：破損しているとき交換)														

＊参照ページに☆印のある整備項目(交換)については，購入先又は，整備工場で行なってください。

重要

＊各ベルト・チェーン・ワイヤを交換したあとは，ならし運転後の点検と調整(●印)を行なってください。

■給・注油(水)点検一覧表

種類	点検箇所		処置	点検・交換時期(アワーメーター表示時間) 点検	交換	容量・規定量(L)	種類	参照ページ
燃料	燃料タンク		給油	作業前(作業後)	—	• 容量……14	ディーゼル軽油	65
オイル	エンジン		補給・交換		• 初回…35時間目 • 2回目以降…100時間ごと	＊規定量 オイルゲージの**下限**と**上限**の間…… 1.35～2.05…【J1・J2・J3】 2.2～3.2 …【J4・J5・J6・R216S】	クボタ純オイル D30又は,D10W30	65
	集中注油オイルタンク		補給		—	• 容量……0.5		59
	トランスミッションケース		補給・交換	100時間ごと	• 初回…50時間目 • 2回目以降…200時間ごと	＊規定量 検油口からオイルがにじむまで ……2.85～3.15	クボタ純オイル スーパーUDT	66
	油圧オイルタンク		補給		—	• 容量……0.9 ＊規定量 ゲージの先端以上入っていること		67
	フィードチェーン駆動ケース		補給		—	• 容量……0.3	クボタ純オイル M80B又は，M90	67
	こぎ胴ケース		補給		—	• 容量……0.15		67
	引起しチェーン		注油	作業前(作業後)	—	適量	クボタ純オイル D30又は,D10W30	58
	供給チェーン(株元,穂先)		注油		—	適量	クボタ純オイル D30又は,D10W30	58
	フィードチェーン		注油		—	適量	クボタ純オイル D30又は,D10W30	58
	排わらチェーン（株元，穂先）		注油		—	適量	クボタ純オイル D30又は,D10W30	59
	排わら株元チェーンテンション部		注油		—	適量	クボタ純オイル D30又は,D10W30	59
水・液	冷却水(リザーブタンク)		補水	作業前(作業後)	冬期停止時は排出又は、不凍液を入れる	＊規定量 タンク測面の**L**(下限)と**H**(上限)の間 …… L…0.1 H…0.6	清水又は，クボタ不凍液	68,96
グリース	刈取部	刈刃ギヤケース	補給	分解時	—	適量	クボタスペアグリース	68☆
	刈取部	パッカ駆動ケース	補給	分解時	—	適量	クボタスペアグリース	68☆
	刈取部	刈取りギヤケース	補給	分解時	—	適量	クボタスペアグリース	68☆
	刈取部	供給ギヤケース	補給	分解時	—	適量	クボタスペアグリース	68☆
	刈取部	引起しギヤケース	補給	分解時	—	適量	クボタスペアグリース	68☆
	刈取部	スライドケース	補給	100時間ごと	—	適量	クボタスペアグリース	68☆
	刈取部	ベベルケース	補給	100時間ごと	—	適量	クボタスペアグリース	68☆
	刈取部	スライド軸	塗布	作業前(作業後)	—	適量	クボタスペアグリース	58,93
	刈取部	スクリュ軸(スライド)	塗布	作業前(作業後)	—	適量	クボタスペアグリース	58,93
	刈取部	スライドブッシュ	塗布	作業前(作業後)	—	適量	クボタスペアグリース	58,93
	刈取部	スライドガイド(こぎ深さ)	塗布	作業前(作業後)	—	適量	クボタスペアグリース	58,93
	脱こく部	排わらベベルケース	補給	分解時	—	適量	クボタスペアグリース	68
	脱こく部	1番縦・横スクリュ	補給	分解時	—	適量	クボタスペアグリース	68
	脱こく部	2番縦・横スクリュ	補給	分解時	—	適量	クボタスペアグリース	68

＊参照ページに☆印のある整備項目(交換)については，購入先又は，整備工場で行なってください。

重要

各部への給油と交換

＊点検するときは，機体を水平な場所において行なってください。傾いていると正確な量を示しません。

＊使用するエンジンオイル，ミッションオイルは，指定の**“クボタ純オイル・スペアグリース”**を必ず使用してください。

＊燃料補給の際は，ゴミや水が混入しないようにしてください。

■燃料・オイル・グリースの点検・補給・交換

注 意

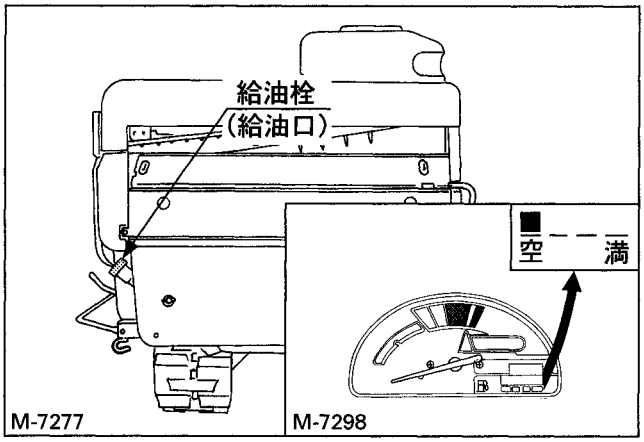
＊燃料やオイル補給中は火気厳禁です。
＊燃料を補給する前に給油口やタンク周辺のごみを取除いてください。

重 要

＊補給・交換を行なうときは，機械の故障の原因となりますので下記事項を守ってください。
●廃油は使用しないでください。
●給油口やその周辺からゴミなど異物や水の混入を防ぐため掃除してください。
●使用するオイル・グリースは**クボタ純オイル・スペアグリース**を使用してください。
＊点検するときは機体を水平な場所に置いて行なってください。傾いていると正確な量を示しません。

1. 燃料

メータユニットの燃料計の４段階目が点滅したときは，給油してください。(点滅時残量約２L)



重 要

＊給油口の燃料こしあみは外さないでください。燃料タンクにゴミなどの異物が混入するとエンジンの故障の原因となります。

◆給油

燃料を給油するときは，メインスイッチを**"入"**位置にして行なってください。燃料が満タン近くになると**満タンお知らせ機能**がはたらき，ブザーが鳴ると同時に液晶の燃料計が点滅します。

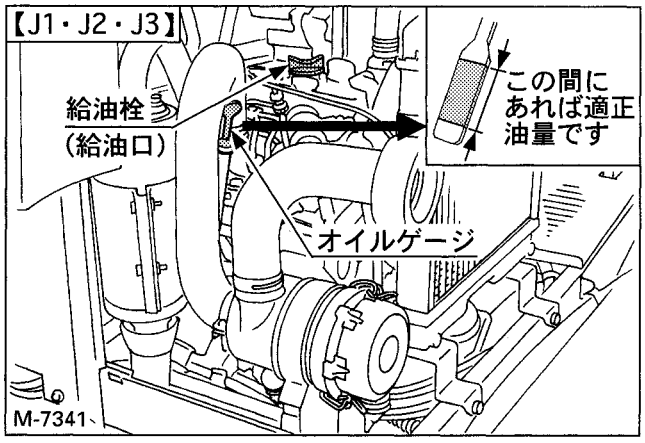
補 足

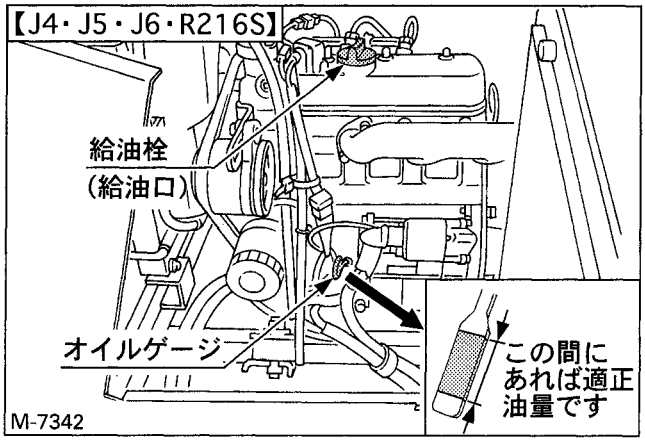
＊**満タンお知らせ機能**では，ブザーが５回鳴り燃料計が２回点滅します。
＊ブザーが鳴ったあと，約1.5Lで満タンになりますので，あふれさせないように注意してください。
＊**満タンお知らせ機能**は下記の条件のときは，はたらかない場合があります。
●給油中に機体を揺らしたり，急激に給油したとき
●液晶の燃料計が全て点灯(満タン付近)している状態で給油したとき
●機体が傾いた状態で給油したとき

2. エンジンオイル

◆点検・補給

オイルゲージを抜いて，先端をきれいにふき取ります。もう一度差し込んでから抜き出し，ゲージの**上限**と**下限**の間にオイルがあるか調べます。不足しているときは，給油口より規定量になるまで入れてください。さらに，油もれのないことも調べてください。

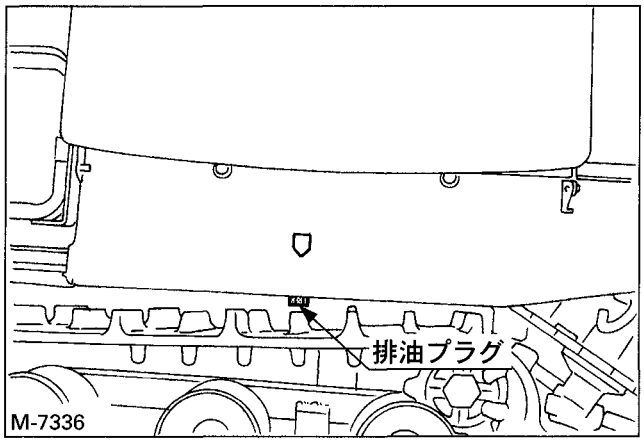




◆交換

●排油のしかた

給油栓を外してから，排油プラグを外し，オイルを排出してください。



●給油のしかた

排油プラグを締付けて，給油口から規定量給油し，給油栓をきちんと締付けてください。

重　要

＊エンジンオイルを補給・交換するときに，ゴミなどの異物が混入するとエンジンの故障の原因となります。

＊指定以外のオイルは使用しないでください。指定以外のオイルを使用すると，出力が低下したり，エンジンオイルが異常に消耗又は劣化し，エンジントラブルの原因となります。

気温	オイルの種類	規定オイル容量
15℃以下のとき	クボタ純オイル ディーゼルエンジン用 D10W30	●上限線 【J1·J2·J3】…約2.05 L 【J4·J5·J6·R216S】…約3.2 L
15℃以上のとき	クボタ純オイル ディーゼルエンジン用 D30又はD10W30	●下限線 【J1·J2·J3】…約1.35 L 【J4·J5·J6·R216S】…約2.2 L

＊クボタ純オイルの入手が困難な場合は，CC級以上のオイルをお使いください。
この場合は気温により下表のように使い分けてください。

気温	オイルの種類
0℃以下	SAE10W又は10W-30
0～25℃	SAE20又は10W-30
25℃以上	SAE30又は10W-30

※10W-30はオールシーズン用です。

補　足

＊付属部品のじょうごを使用して給油してください。

3. トランスミッションケースオイル

警　告

＊排油するときは刈取部を上げ，刈取下降ロックレバーを上げて，刈取部の下降防止を行なってください。さらに刈取部の下に落下防止の歯止めをしてください。

◆点検・補給

検油ボルトを外してオイルが検油口から出てくれば適正量です。不足しているときは，給油口から規定量になるまで給油してください。さらに，油もれのないことも調べてください。

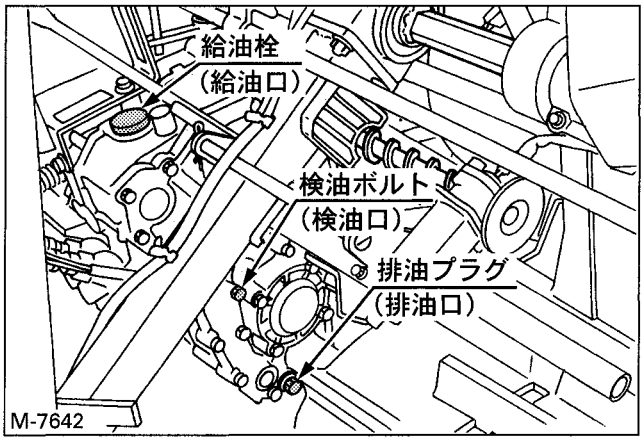
◆交換

●排油のしかた

給油栓を外してから，排油プラグを外し，オイルを排出してください。

●給油のしかた

排油プラグを締付けて，検油口からオイルが出てくるまで給油口から規定量のオイルを給油し，給油栓と検油ボルトを締付けてください。



オイルの種類	規定オイル容量
クボタ純オイルスーパーUDT	3.0 L

重　要

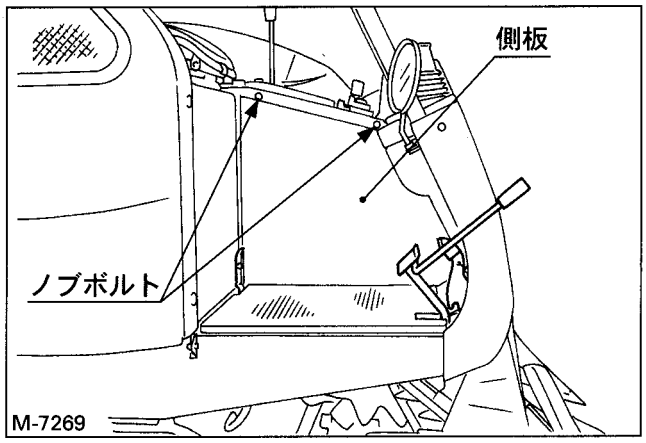
＊給油したあとエンジンを約１分回転させて，再度点検を行ない検油口からオイルが出ないときは，オイルを追加してください。

補　足

＊付属部品のじょうごを使用して給油してください。

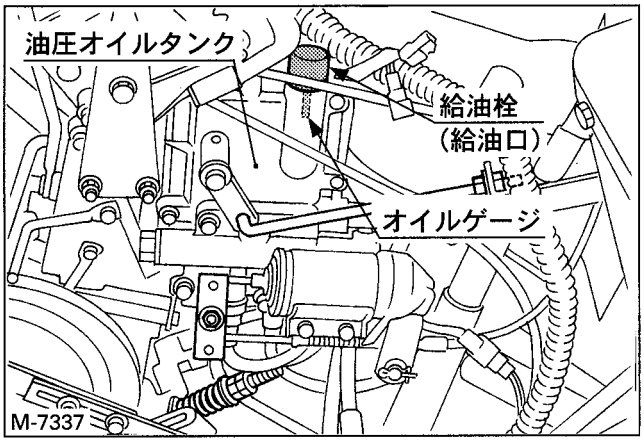
4. 油圧オイルタンクオイル

ステップ左側の側板をノブボルト２本取外して外します。



◆点検・補給

給油栓を外し，オイルゲージ先端に付着しているオイルをきれいにふき取ります。もう一度締込んでから外したとき，オイルゲージの先端にオイルが付着していないときは，先端に付着するまで給油口からオイルを補給してください。



オイルの種類	オイル容量
クボタ純オイルスーパーUDT	0.9 L

補　足

＊刈取部を下げた状態で検油してください。

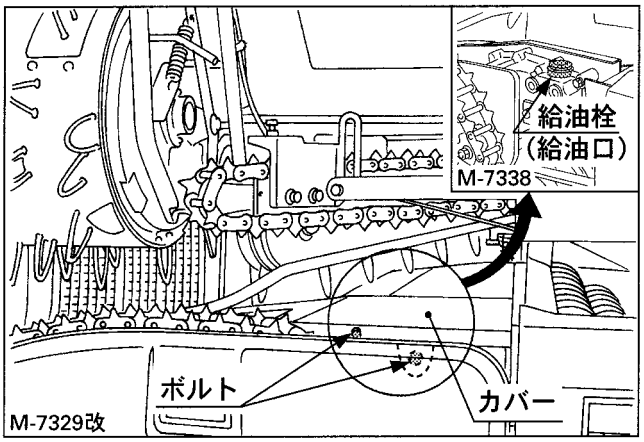
5. フィードチェーン駆動ケースオイル

❶こぎ胴をオープンしたあと，左サイドカバー上，下を取外します。

❷ボルト２本を取外して，カバーを外します。

◆補給

給油栓を外して，オイルを適量補給してください。

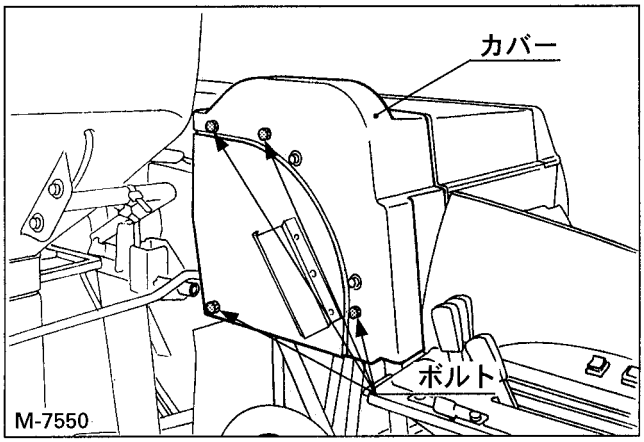


オイルの種類	オイル容量
クボタ純オイル M90又はM80B	0.3 L

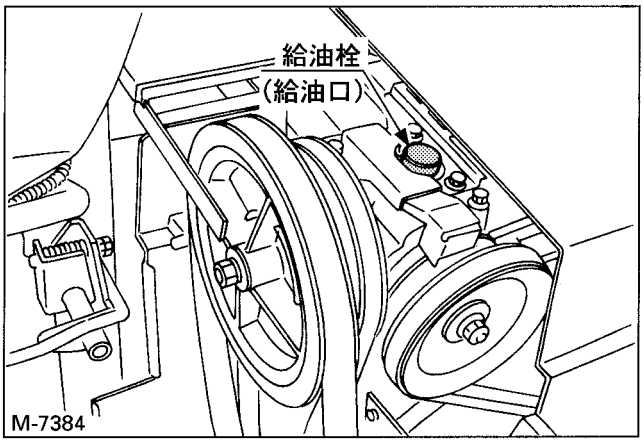
6. こぎ胴駆動ケースのオイル

◆補給

❶エンジンカバーをオープンしたあと，ボルト４本を取外してカバーを外します。



❷給油栓を外して，オイルを適量補給してください。



オイルの種類	オイル容量
クボタ純オイル M90又はM80B	0.15 L

7. 各部のグリース

分解時にクボタスペアグリースを補給してください。

◆刈取部

＊スライドケース …… 右側 130 g / 左側 130 g
＊刈刃ギヤケース …… 75 g
＊供給ギヤケース …… 100 g
＊引起し駆動ケース(左) …… 50 g
＊ベベルギヤケース …… 40 g
＊引起し駆動ケース …… 上側 120 g / 下側 200 g

◆脱こく部

＊排わらベベルケース …… 40 g
＊1番縦・横ベベルケース …… 30 g
＊2番縦・横ベベルケース …… 30 g

■ラジエータ冷却水の点検・交換

注 意

＊ラジエータキャップやリザーブタンクは，エンジン運転中及び停止直後に開けると，熱湯が噴出することがありますので，停止後じゅうぶん冷えてからにしてください。

◆点検

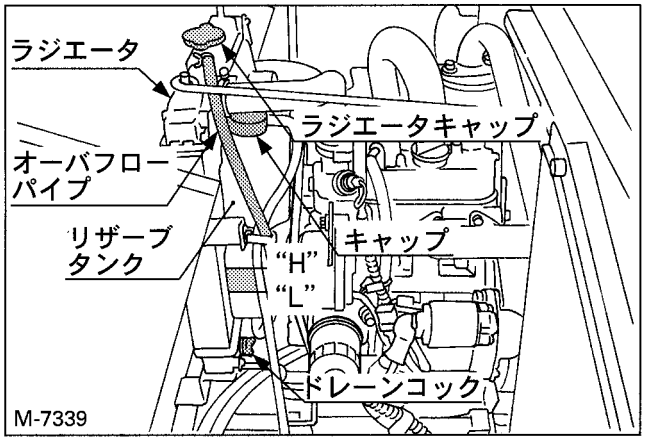
エンジンルームをオープンしたあとリザーブタンクの水量が**"L"**(下限)と**"H"**(上限)の間にあるか確かめます。**"L"**(下限)の線より下にあるときは，リザーブタンクのキャップを外して清水を補給してください。

補 足

＊**"H"**(上限)の線以上は補給しないでください。

◆交換

❶ラジエータの冷却水はドレーンコックを外したあと，ラジエータキャップを外し排水します。
❷リザーブタンクの冷却水は，オーバフローパイプ(ラジエータキャップ下側)を取外して排水します。
❸水道水でごみやさびが出なくなるまで洗います。
❹ドレーンコックを締付けたあと，ラジエータ及びリザーブタンクに不凍液と混合した清水を入れます。



❺ラジエータキャップ及びリザーブタンクのオーバーフローパイプを取付けます。

補 足

＊不凍液の混合比は，寒冷地ほど高くなります。購入先の人に相談して，下表を参照して混合比を決めてください。また，不凍液は**ロングライフクーラント**をご使用ください。

●不凍液混合比率表

外気温度 (℃)		-11.5	-15	-20	-25	-30	-35	-40
比率	水 (%)	75	70	65	60	55	50	45
	不凍液 (%)	25	30	35	40	45	50	55

※ラジエータ容量……0.96 L
※新しい冷却水と交換を行なったあとは，必ず不凍液を入れて，5分間エンジンを空回転し，不凍液の混合を早めてください。そのあと，リザーブタンクの水量を確めておいてください。

■エアクリーナの点検・掃除・交換

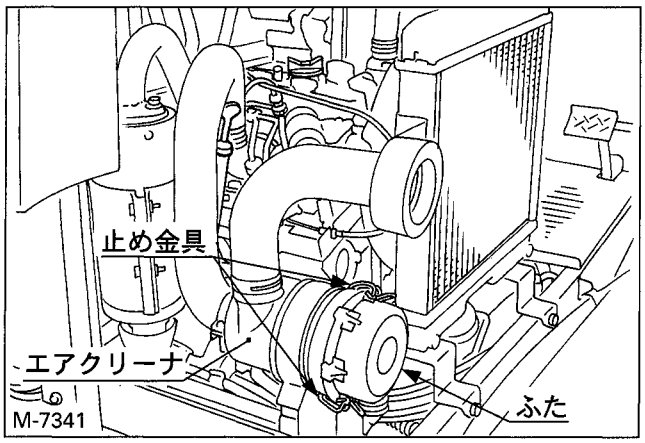
重　要

＊高性能サイクロン併用乾式エレメントを使用していますので，オイルを使用しないでください。

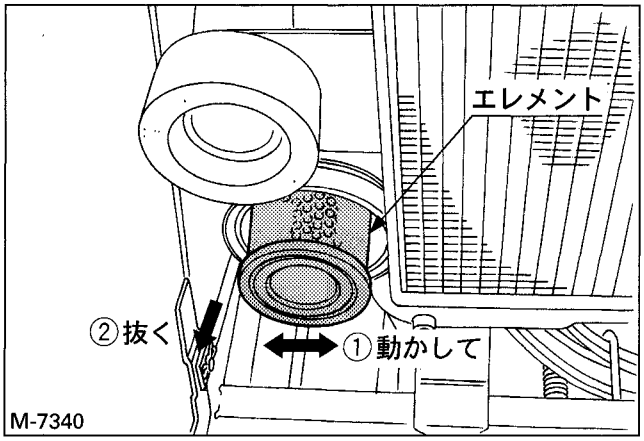
＊エアクリーナにほこりが詰まったまま運転すると，エンジンの出力が低下したり，エンジンオイルが異常に消耗又は劣化し，エンジントラブルの原因となります。点検は運転前に欠かさず行なってください。

◆点検

❶エンジンルームをオープンしたあと上，下２箇所の止め金具を外してふたを外します。



❷エレメントを取外します。取外すときは，エレメントを上下，左右に動かして，ポンという音がしたら抜取ります。

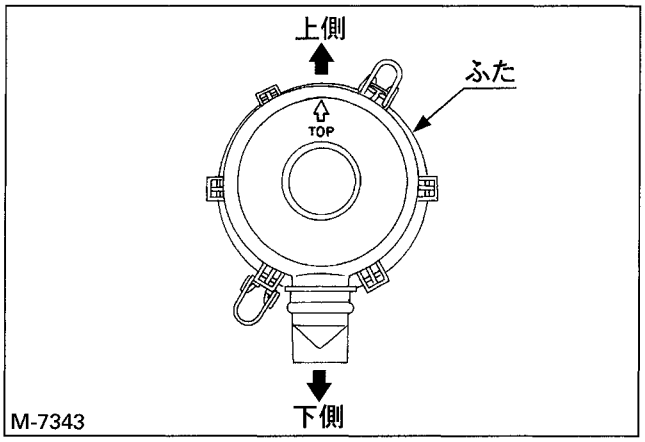


◆掃除

エレメントの掃除は，エレメントの内側から空気を吹きつけるか，又は軽く振ってゴミを取除いてください。汚れのひどい場合や300時間経過しているときは，交換してください。

補　足

＊エレメントを取付けたあと，ふたの取付方向に注意してください。



＊エアの圧力は0.69Mpa(7.0kgf/㎠)をこえないよう注意し，ノズルとエレメントの間は適当にあけてください。

＊カーボンや油分が付着しているときは，クボタ指定の純正エレメント洗浄剤で洗浄してください。

【参考】

＊エレメント洗浄剤
ND-1500(品番：15221-8665-1)

■ファン駆動ベルトの点検・調整・交換

ベルトのたわみ量を約７㎜に調整してください。

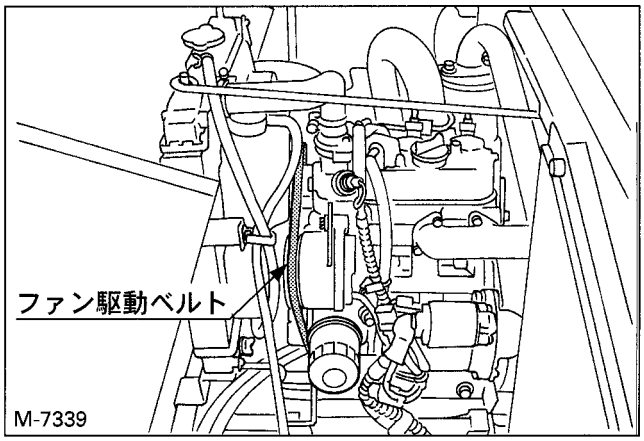
◆点検

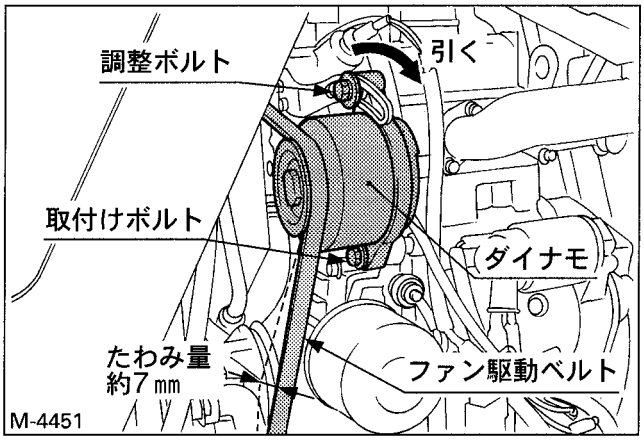
エンジンルームをオープンしたあと，ベルトのひび割れや破損があれば交換し，ベルトに伸びがあるときは調整してください。

◆調整

ダイナモの取付けボルトと調整ボルトをゆるめ，ダイナモを引っ張りながら，調整ボルトを締付けたあと取付けボルトを締付けます。

ベルト中央部のたわみ量	約７㎜





■パイプ・ホース類の点検・交換

注　意

＊運転中ラジエータホースが外れると熱湯が吹き出し，ヤケドをするおそれがあります。

＊燃料系ゴムホースが破損していると燃料もれを起し火災の原因となります。

◆点検

エンジン，エアクリーナ，ラジエータ，燃料タンク各部にある各パイプやホースを点検し，油もれや水もれが発生しているときは，パイプやホースの交換やバンドを締付けてください。

重　要

＊オイルドレーンゴムホースが破損していると，エンジンが焼付を起します。

＊油もれや水もれをしていなくても，**2年経過しているときや劣化の激しい場合**は交換してください。

◆交換

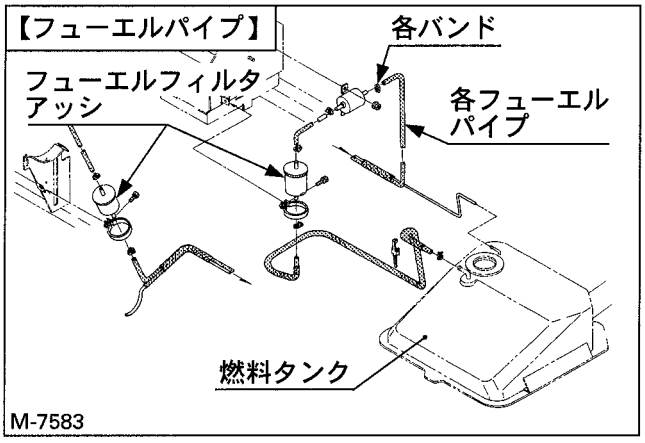
交換時の取付け不良やバンドの締付忘れ，締付不足がないよう取付けてください。

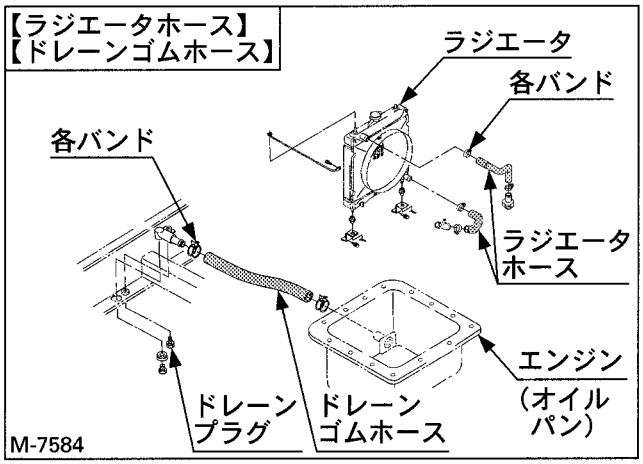
重　要

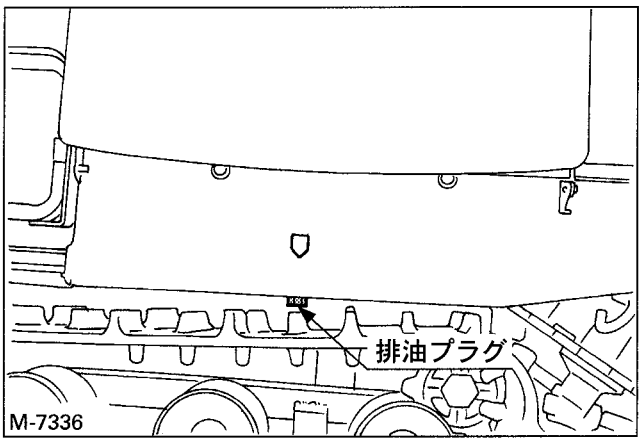
＊交換時にパイプや噴射ポンプなどにゴミが入らないように注意してください。

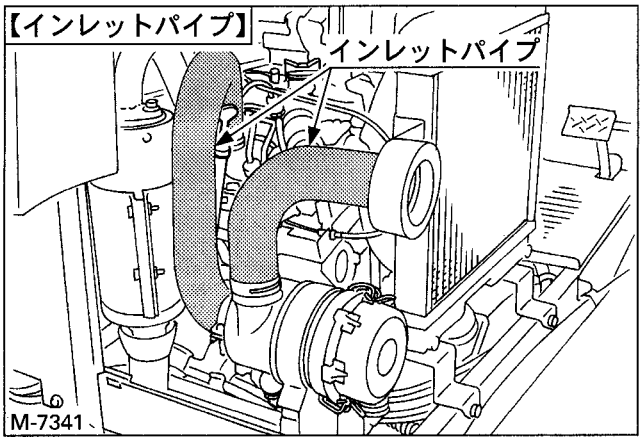
補　足

＊フューエルパイプ交換後は，メインスイッチを**“入”**位置にすると5～10秒で自動的にエア抜きされます。（**フューエルフィルタアッシの交換**の項参照）





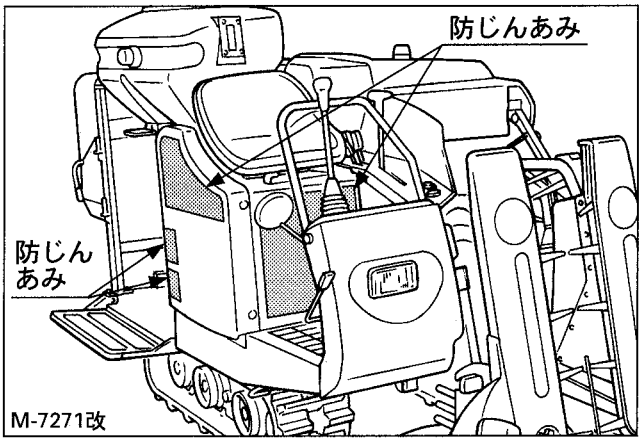


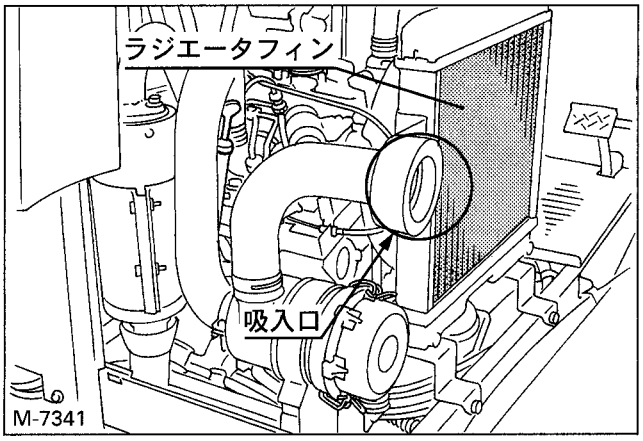


■防じんあみ，ラジエータフィンの掃除

◆掃除

エンジンルームをオープンしたあと，圧縮空気を使用するなどして防じんあみやラジエータ部及びエンジンに付着しているゴミなどを掃除してください。





重 要

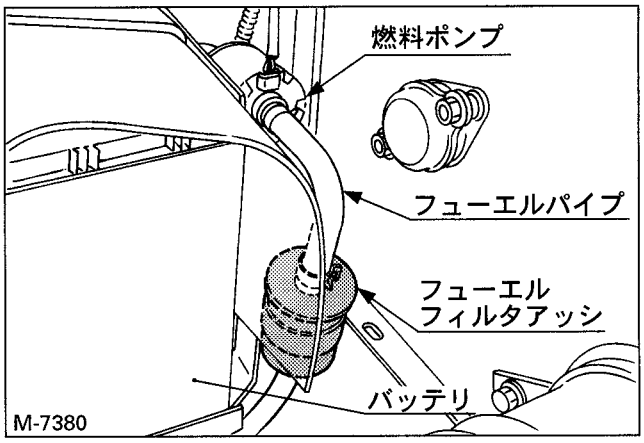
＊ヘラやドライバなど固いものを使用して，ラジエータフィンやオイルクーラは掃除しないでください。ラジエータフィンを傷め，ラジエータの機能を低下させる原因になります。

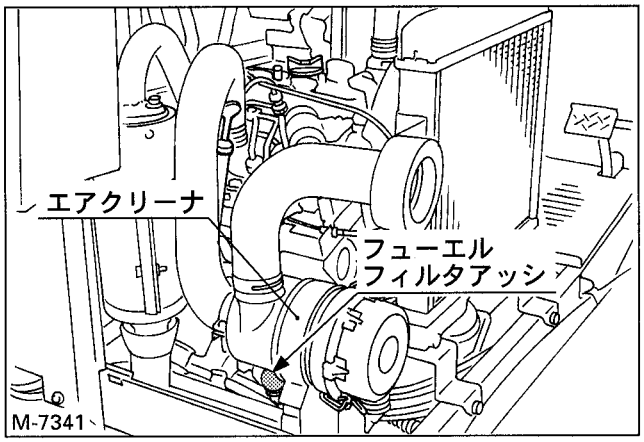
＊エアクリーナの吸入口から水が入ると，エンジンの不調又は，故障の原因となりますので，水が入らないように吸入口を水を通さない物で覆ってください。

■フューエルフィルタアッシの交換

◆交換

運転時間が200時間ごとにフューエルフィルタアッシを交換してください。フューエルフィルタアッシはバッテリの後側とエアクリーナの下側にそれぞれあります。





重　要

＊フィルタ下部に水が溜まっているときは，早目に交換してください。

＊燃料タンクにゴミなどの異物や水が混入すると，フィルタの目詰まりが早くなったり，フィルタ内に水が溜まりやすくなりエンジンの故障の原因となります。

補　足

＊交換後は，スイッチキーを**"入"**位置にすると5～10秒で自動的にエア抜きされます。

■エンジンオイルフィルタ カートリッジの交換

2回目のエンジンオイルの交換(**エンジンオイルの交換**の項参照)と同時に交換してください。交換するときは，エンジンルームをオープンしてください。

◆交換

❶専用工具を使ってカートリッジを取外します。

補　足

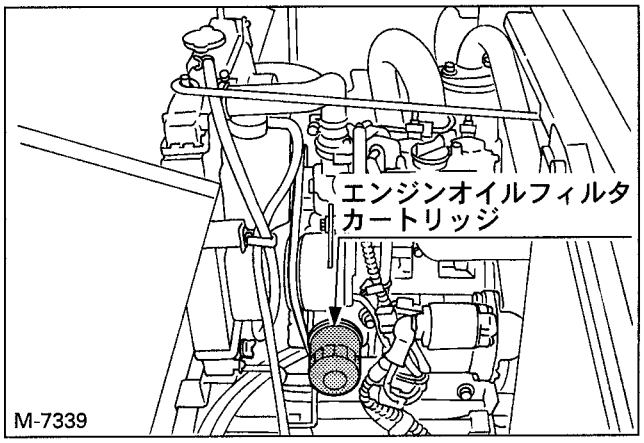
＊取外しかたや専用工具については，購入先にご相談ください。

❷新しいカートリッジはOリングにオイルを薄く塗布してから，フィルタレンチを使用せず手で締付けてください。

❸オイルゲージの上の刻線までオイルを補給した後，5分程度エンジンを運転して各部及び油圧(オイルランプ)に異常がないことを確認してから，エンジンを止め，再度油面がオイルゲージの規定内にあることを確めておいてください。

補　足

＊オイルフィルタカートリッジを交換すると，オイルフィルタカートリッジに入る量だけエンジンオイルの油面が下がります。



重　要

＊エンジンオイルを交換するときに，ゴミなどの異物が混入するとフィルタの目詰まりが早くなったり，エンジンの故障の原因となります。

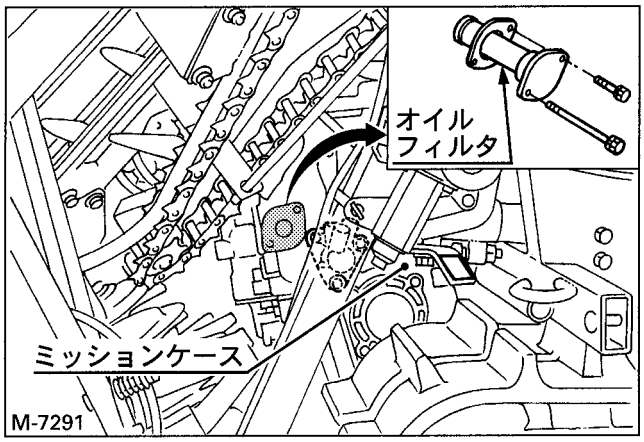
■ミッションオイルフィルタの交換

◆交換

❶ミッションケースからミッションオイルを排出します。(**トランスミッションケースオイルの交換**の項参照)

❷ボルト２本を取外してオイルフィルタを抜取ります。

❸新しいオイルフィルタに交換したあと，ボルト２本で取付けます。



❹ミッションオイルを給油します。

■各部ワイヤの点検・調整

1. 駐車ブレーキの点検・調整

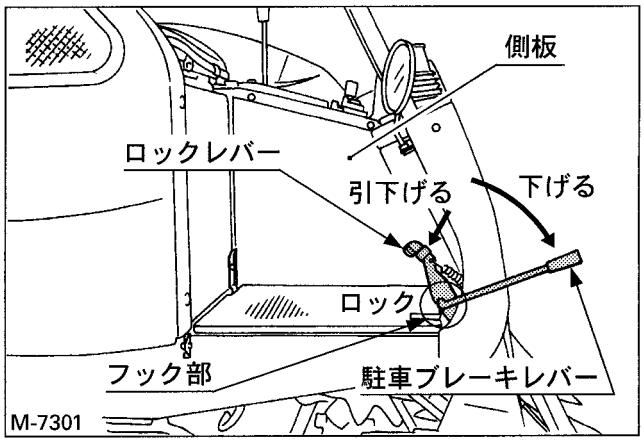
駐車ブレーキレバーをフック部にかけた状態で，スプリングの長さを36～38㎜に調整します。

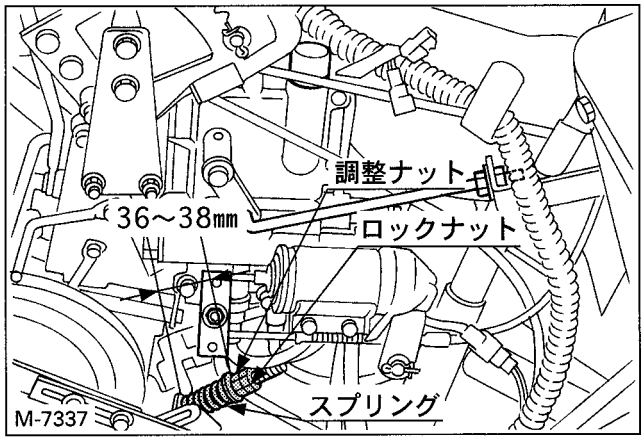
❶エンジンルームをオープンしたあと，ステップ左側の側板を取外します。

❷ロックナットと調整ナットをゆるめて，調整ナットで調整を行ないます。

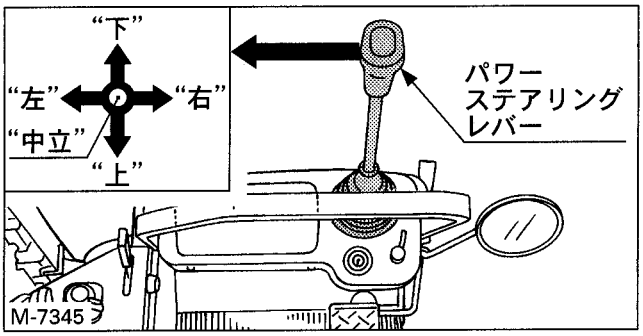
❸ロックナットを締付けたあと，側板を取付けてエンジンルームを閉じます。

❹調整後，駐車ブレーキが正常に作動するか再確認します。





2. パワーステアリングレバーの点検・調整



●操向操作(サイドクラッチ)

パワーステアリングレバーが**"中立"**のとき，調整ナットでプッシュプルワイヤを調整して，バルブレバーを**"中立"**の位置にしてください。

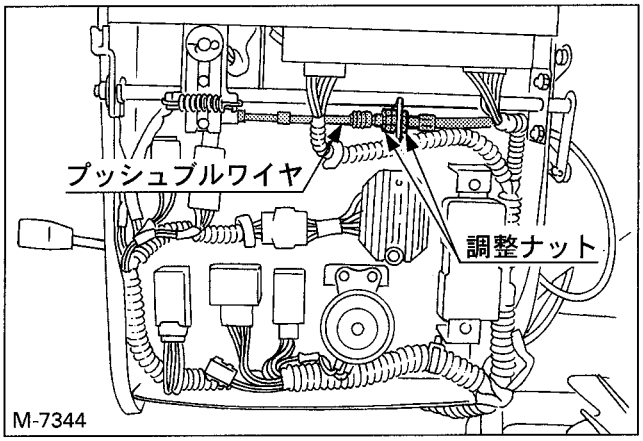
❶フロントカバーを取外します。

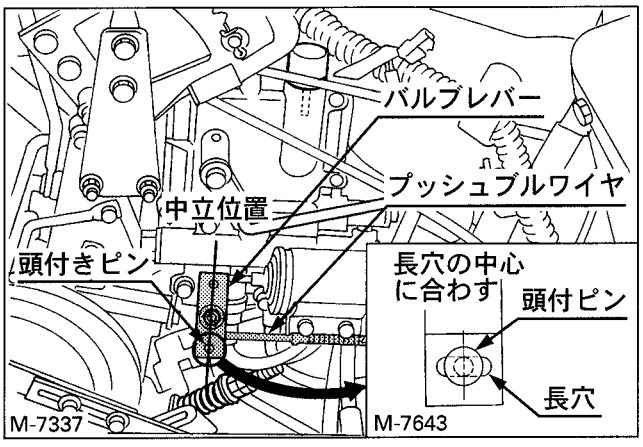
❷エンジンルームをオープンしたあと，ステップ左側の側板を取外します。

❸調整ナット２個をゆるめて調整を行ないます。調整は，バルブレバーとプッシュプルワイヤを接続している頭付きピンとバルブレバーの長穴の中心が一致する位置(**"中立"**位置)に合わせます。

❹調整ナットを締付けたあと，側板を取付けてエンジンルームを閉じます。

❺フロントカバーを取付けます。





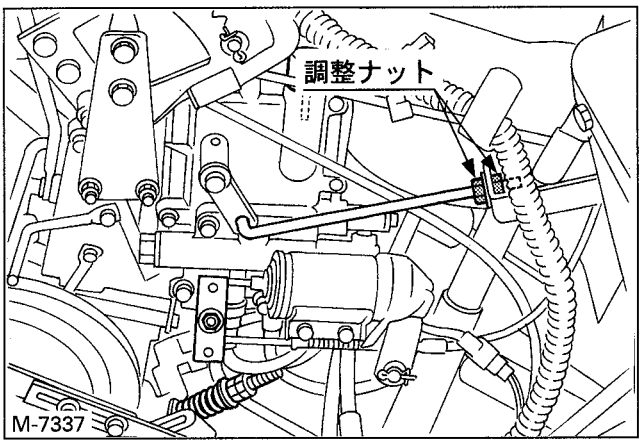
●刈取部昇降操作

パワーステアリングレバーを**前・後**方向に操作したとき，昇降スピードが遅いとき又は，昇降できないときは，下図の調整ナットで調節してください。

❶エンジンルームをオープンしたあと，ステップ左側の側板を取外します。

❷調整ナット２個をゆるめて調整を行ないます。

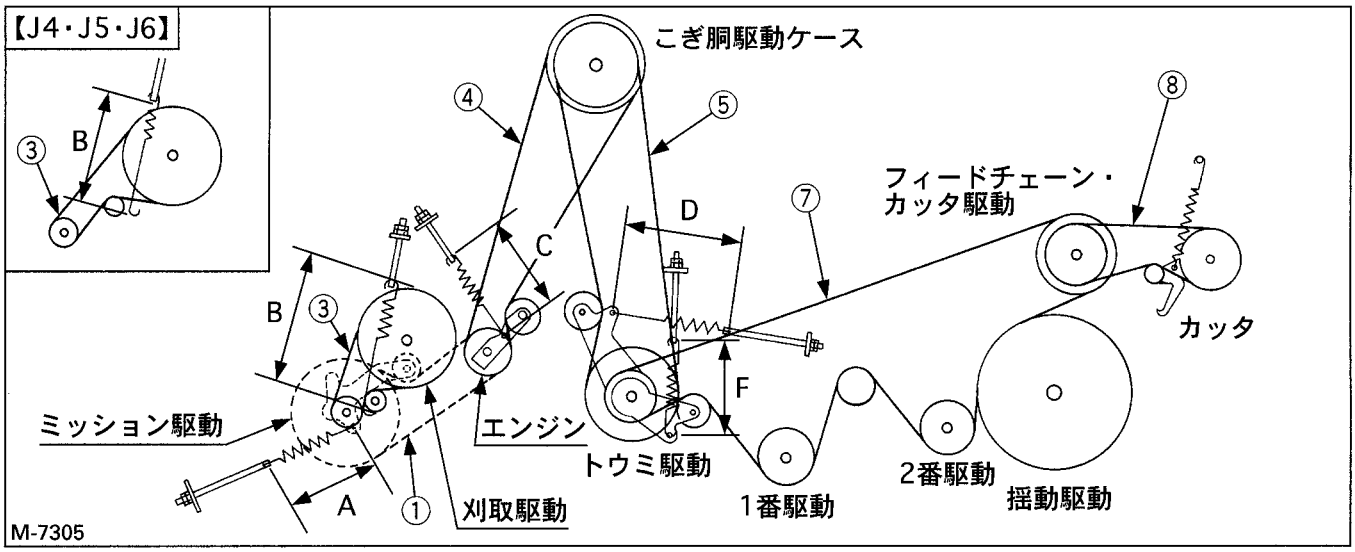
❸調整ナットを締付けたあと，側板を取付けてエンジンルームを閉じます。

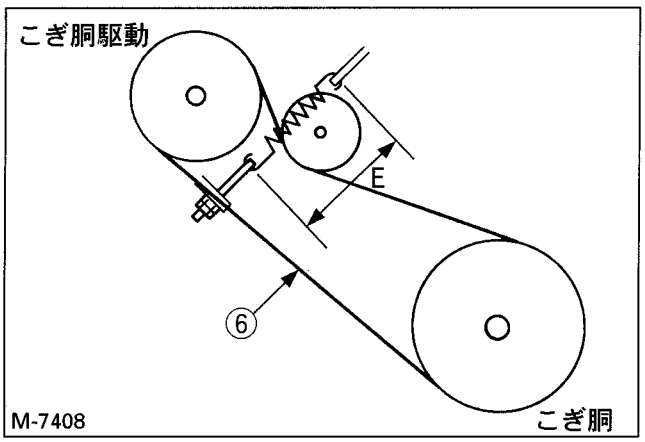


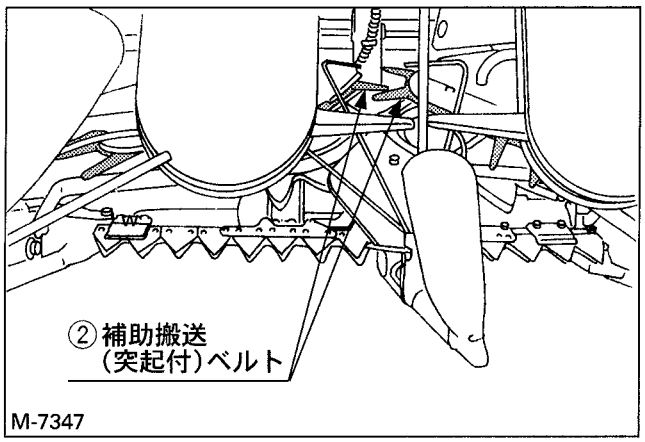
■各部ベルトの点検・調整

下表を参照して，各部ベルトの張り調整を行なってください。

点検箇所	図番	名称	適応機種	サイズ	張り調整 ※テンションスプリング取付け長さ(mm)		たわみ量(mm)
運転席・刈取部周辺	—	ファンベルト	J1・J2・J3・J4	A34.5ブイベルト	—		約7
			J5・J6・R216S	A35.0ブイベルト			
	①	走行駆動ベルト	J1・J2	B41	A	203～207	—
			J3	B42 ※品番は異なる(127ページ参照)			
			J3SLW	B42			
			J4・R216S	B39			
			J5・J6	B40			
	②	補助搬送(突起付)ベルト	全機種	—	—		3～6
	③	刈取駆動ベルト	J1・J2・J3・R216S	A33	B	267～271	—
			J3SLW	A30			
			J4・J5・J6	A38			
			J5SLW	A37			
脱こく部・カッタ部周辺	④	脱こく駆動ベルト	J1・J2・J3	特B76	C	206～210	—
			J4・J5・J6・R216S	特C76		210～214	—
	⑤	トウミ駆動ベルト	全機種	特B76	D	245～250	—
	⑥	こぎ胴駆動ベルト	全機種	特C50	E	125～130	—
	⑦	1番・2番・揺動・フィードチェーン・カッタ駆動ベルト(左サイドカウンタ)	全機種	特B108	F	145～150	—
	⑧	カッタ駆動ベルト	全機種	特B39	—		—



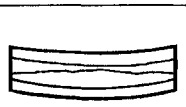
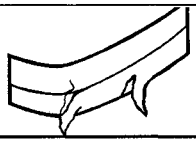
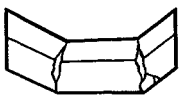




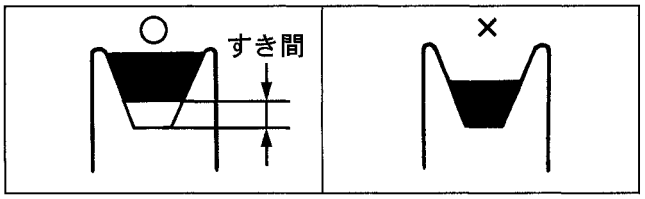
◆点検

各部のベルトを点検するときは，下記の事項をよく確認してください。

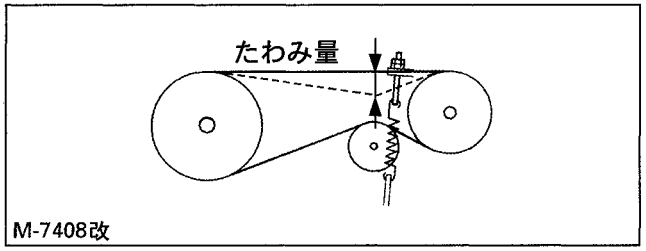
1. ベルトの焼付きや摩耗，被覆のはがれ，き裂やひび割れ

焼付きや摩耗	被覆のはがれ	き裂やひび割れ
×	×	×
		

2. ベルトの底部とプーリ溝部のすき間



3. ベルトの伸び(たわみ量)

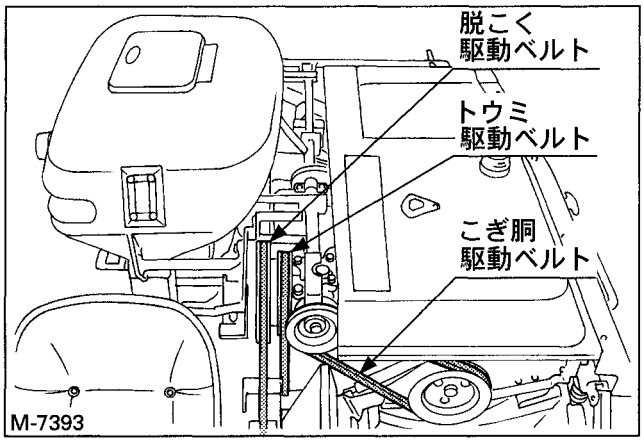


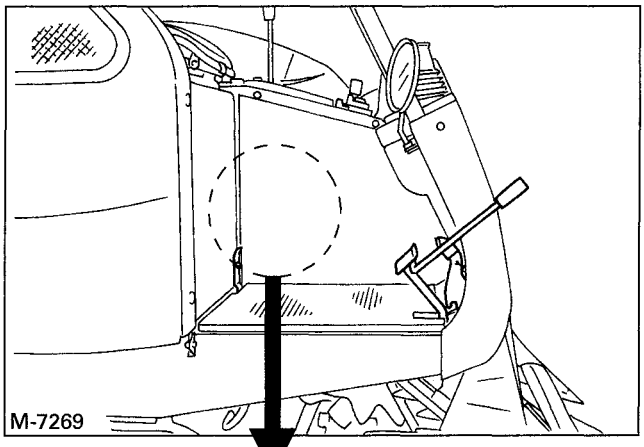
上記の事項を確認したとき，異常があればベルト交換又は，ベルトの張り調整を行なってください。ベルトの交換は購入先へ連絡して行なってください。

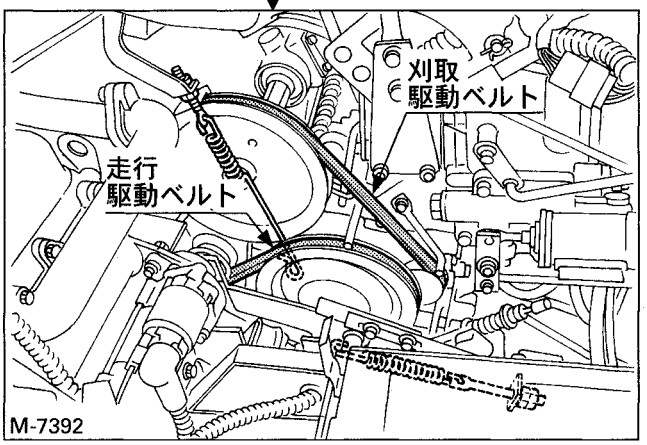
重　要

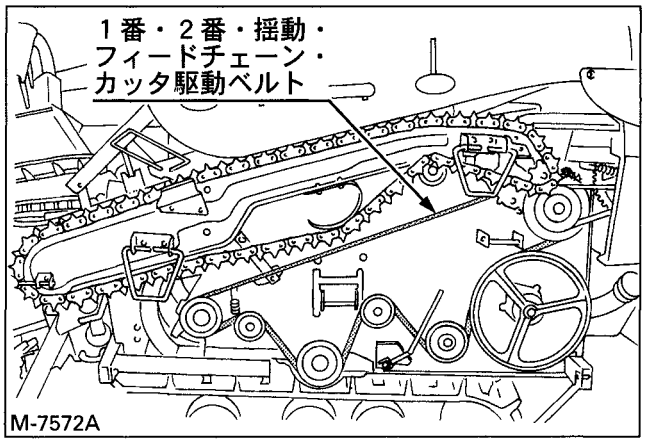
＊ベルトは必ずクボタ純正のものを使用してください。

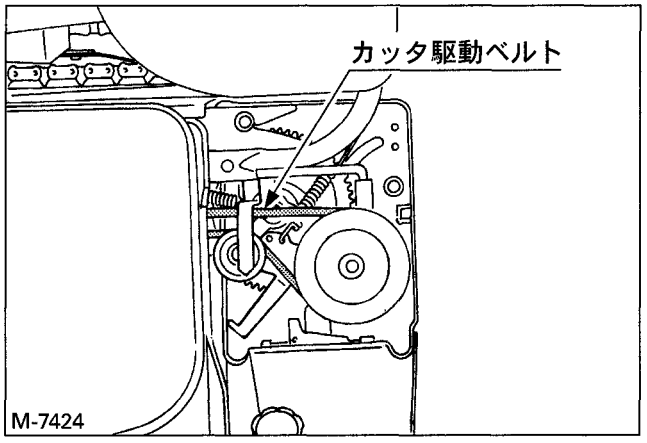
●点検箇所









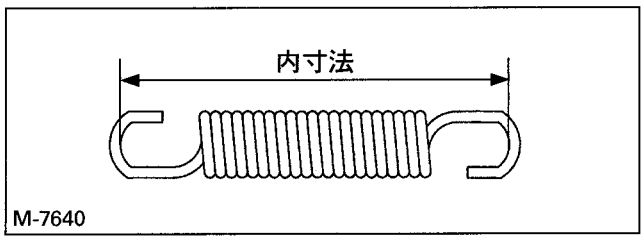


◆調整

ベルトが伸びているとき(スリップが発生しやすい)は，張り調整を行なってください。

補　足

＊スプリングの取付け長さは，フックの内寸法を測定してください。



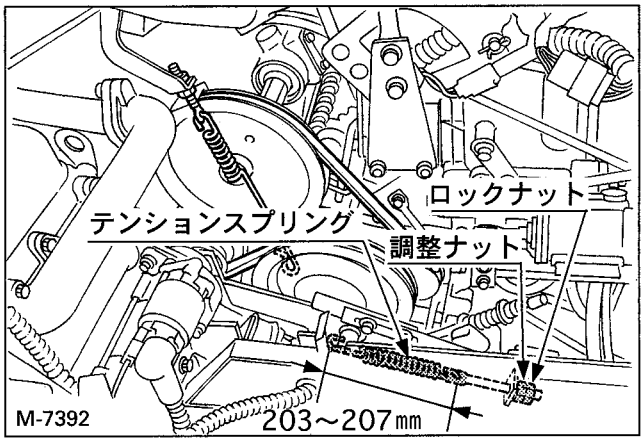
●走行駆動ベルト

テンションスプリングの長さを203～207㎜に調整します。

❶エンジンルームをオープンしたあと，ステップ左側の側板を取外します。

❷ロックナットと調整ナットをゆるめて，調整ナットで調整を行ないます。

❸ロックナットを締付けたあと，側板を取付けてエンジンルームを閉じます。

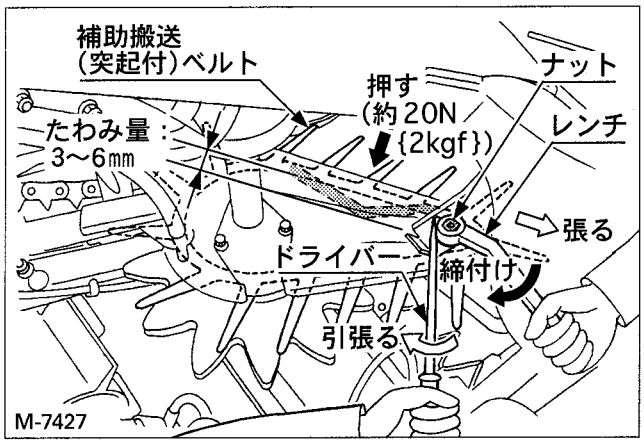


●補助搬送(突起付)ベルト

指先でベルトの中央部を押したとき(約20N{2kgf}の荷重)のたわみ量を3～6㎜に調整します。

❶ナットをゆるめます。

❷フレーム先端の切欠き部にドライバーなどを使用して，張り方向にナットを押しながらレンチでナットを締付けます。



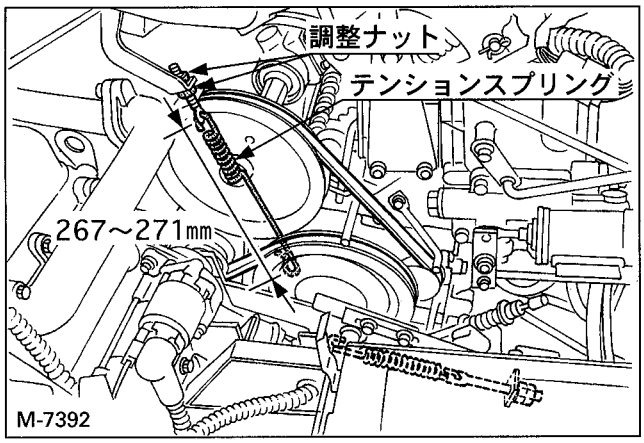
●刈取駆動ベルト

テンションスプリングの長さを267～271㎜に調整します。

❶エンジンルームをオープンしたあと，ステップ左側の側板を取外します。

❷調整ナット２個をゆるめて，調整を行ないます。

❸調整ナットを締付けたあと，側板を取付けてエンジンルームを閉じます。



●脱こく駆動ベルト

テンションスプリングの長さを206～210㎜【J1・J2・J3】，210～214㎜【J4・J5・J6・R216S】に調整します。

❶エンジンルームをオープンします。

❷ロックナットと調整ナットをゆるめて，調整ナットで調整を行ないます。

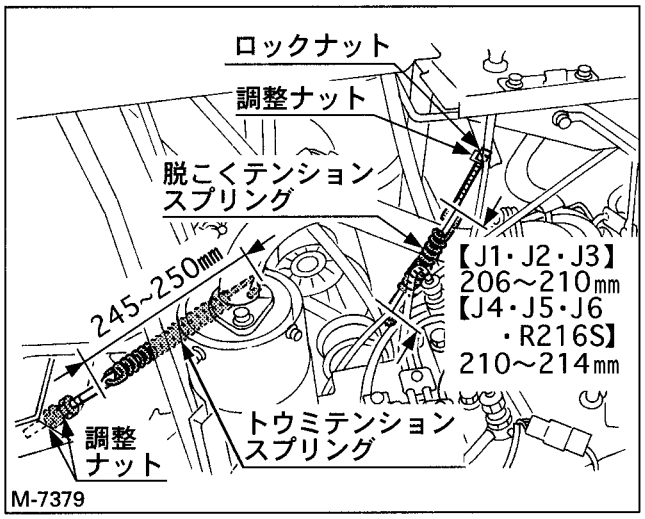
❸ロックナットを締付けたあと，エンジンルームを閉じます。

●トウミ駆動ベルト

テンションスプリングの長さを245～250㎜に調整します。

❶プレートをはさんだ調整ナット２個をゆるめて，調整を行ないます。

❷調整ナットを締付けます。

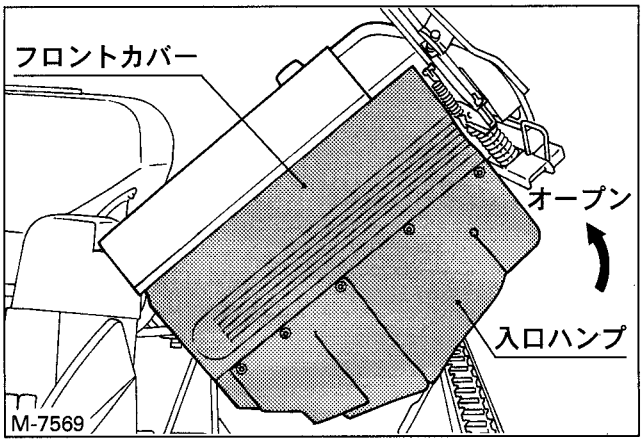


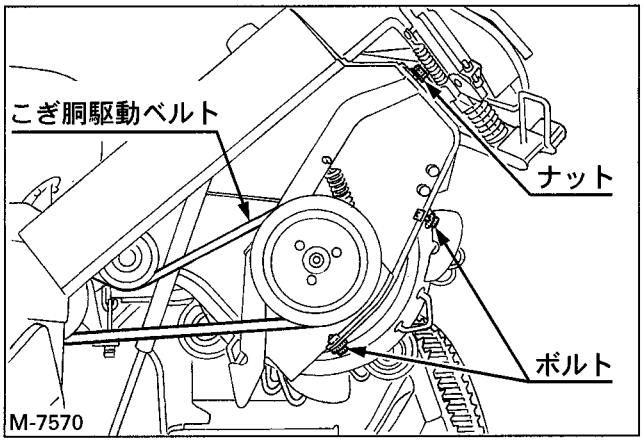
●こぎ胴駆動ベルト

テンションスプリングの長さを125～130㎜に調整します。

❶こぎ胴をオープンします

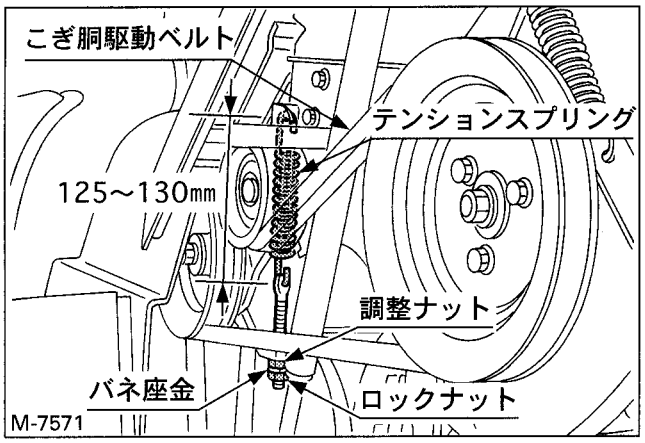
❷ボルト２本とナット１個をゆるめたあと，フロントカバー(入口ハンプと一体)を取外します。





❸ロックナットと調整ナットをゆるめて，調整ナットで調整を行ないます。

❹ロックナットを締付けたあと，フロントカバーを取付けてこぎ胴を閉じます。



補　足

＊調整ナットとロックナットを締付けたあと，バネ座金のスキマがなくなっていることを確認してください。

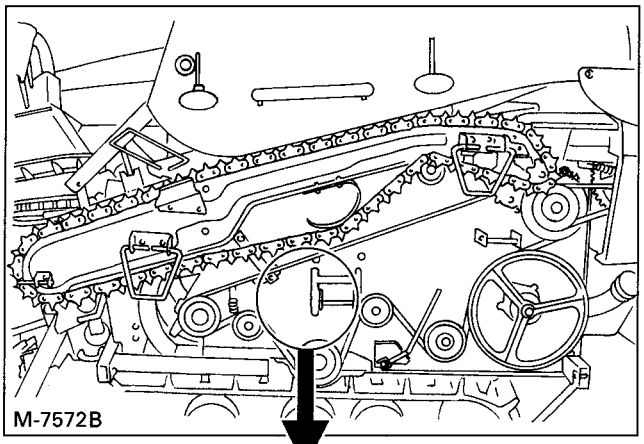
●1番・2番・揺動・フィードチェーン・カッタ駆動ベルト

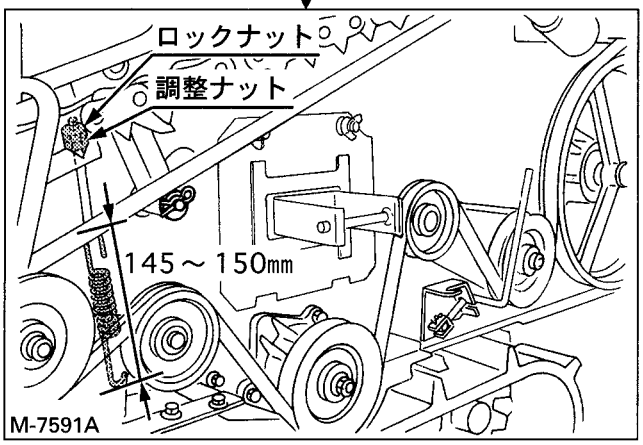
テンションスプリングの長さを145～150㎜に調整します。

❶左サイドカバー上，下を取外します。

❷ロックナットと調整ナットをゆるめて，調整ナットで調整を行ないます。

❸ロックナットを締付けたあと，サイドカバー上，下を取付けます。



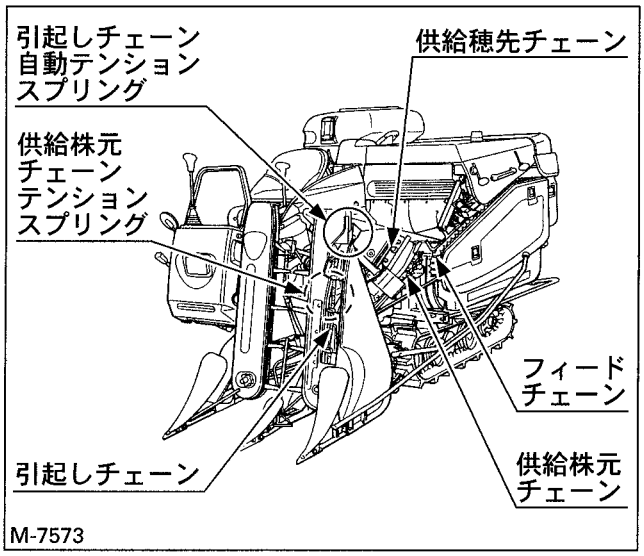


■各部チェーンの点検・調整

◆点検

各部のチェーンを点検して，ゆるみがあるときは調整してください。

●点検箇所

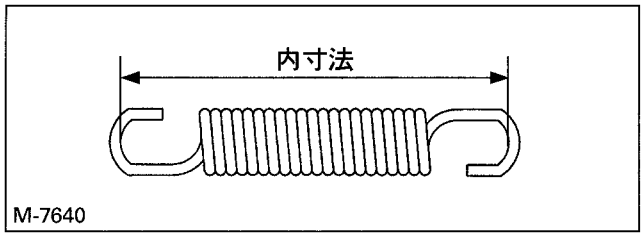


◆調整

チェーンが伸びているときは，張り調整を行なってください。

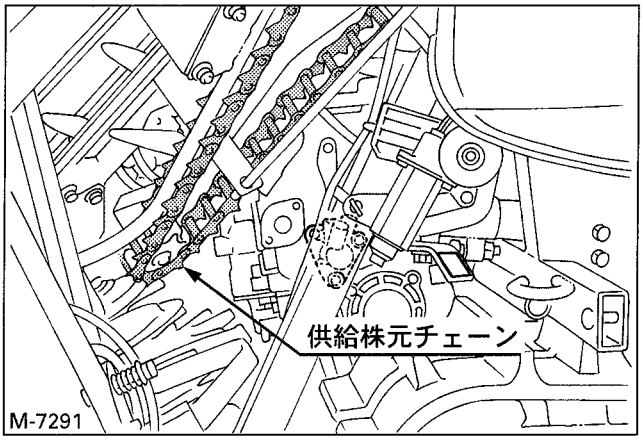
補　足

＊スプリングの取付け長さは，フックの内寸法を測定してください。



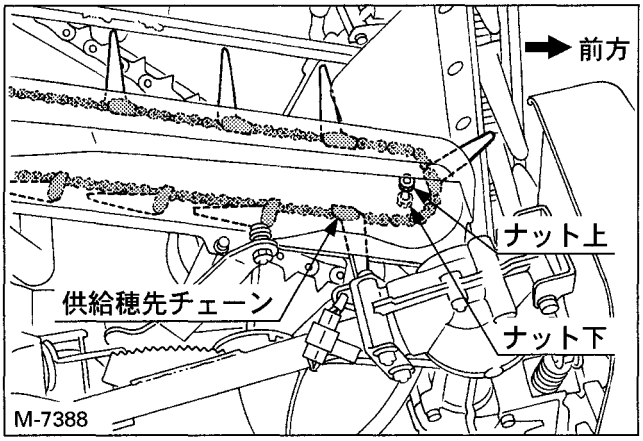
●供給株元チェーン

供給株元チェーンの張り調整は自動(自動テンション)で行ないますが，伸びたときは，購入先に連絡して交換してください。



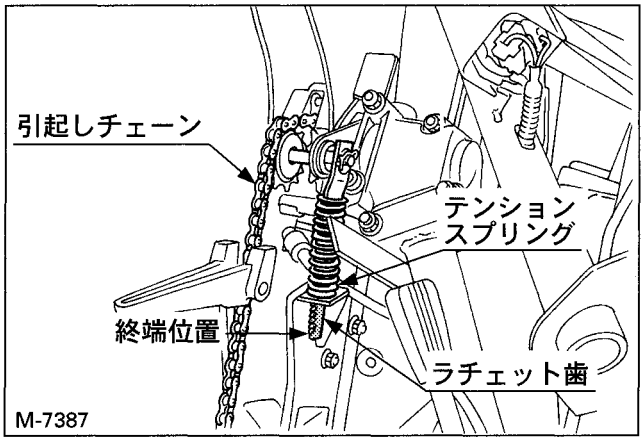
●供給穂先チェーン

定期点検のときにナット上，下をゆるめてください。自動的にチェーンが張られます。また，ナット上，下をゆるめてもチェーンが張られないときは，購入先に連絡して交換してください。



●引起しチェーン

引起しチェーンの張り調整は自動(自動テンション)で行ないますが，ラチェット歯の終端位置までチェーンが伸びたときは，購入先に連絡して交換してください。点検するときは引起しカバーを取外してください。



補　足

＊チェーンが，伸びるとラチェット歯がスプリングに引張られ上昇します。

●フィードチェーン

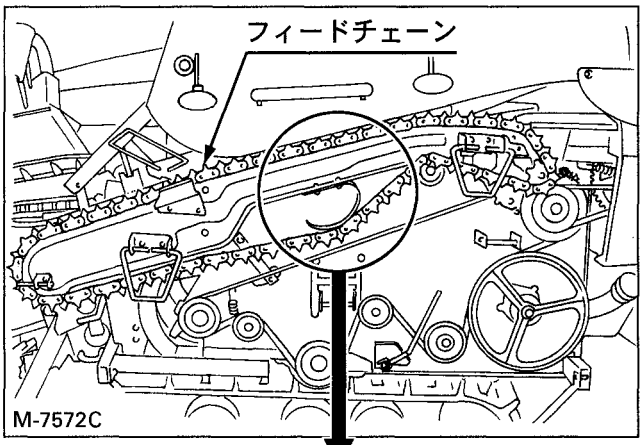
タイトナを動かしてチェーンを張ってください。

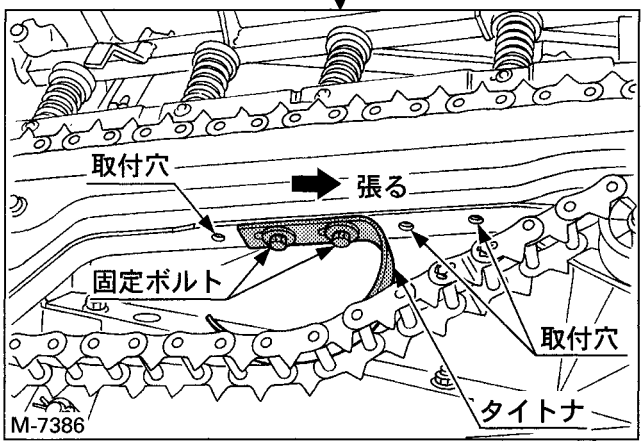
❶左サイドカバー上，下を取外します。

❷タイトナの固定ボルト２本をゆるめます。

❸張り方向へ引張ります。

❹固定ボルト２本を締付けたあと，左サイドカバー上，下を取付けます。





補　足

＊長穴だけで調整ができなくなったときは，張り方向側に固定ボルトの取付穴を１穴分動かしてタイトナを取付けます。

＊出荷時のタイトナの取付穴位置は，**【J1・J2・J3】**は前から2,3番目，**【J4・J5・J6・R216S】**は前から1,2番目です。

■刈刃の点検・調整

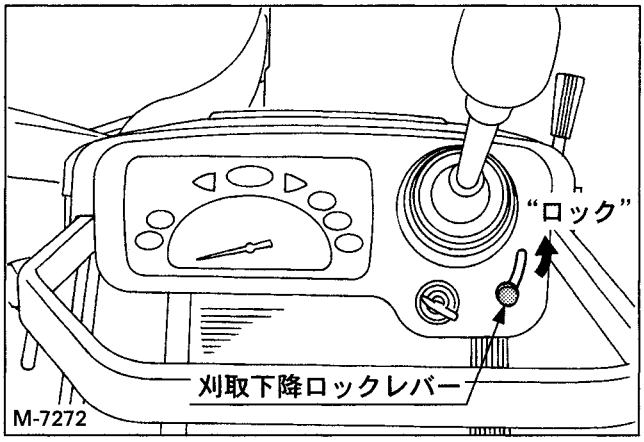
注 意

＊平たんな場所で刈取部を上げて，刈取下降ロックレバーを“ロック”位置にして刈取部を必ずロックし，落下防止の歯止めをしてください。
＊刃部に手を掛けないでください。不用意に刃が動くと危険です。
＊脱着作業は手袋をしてください。

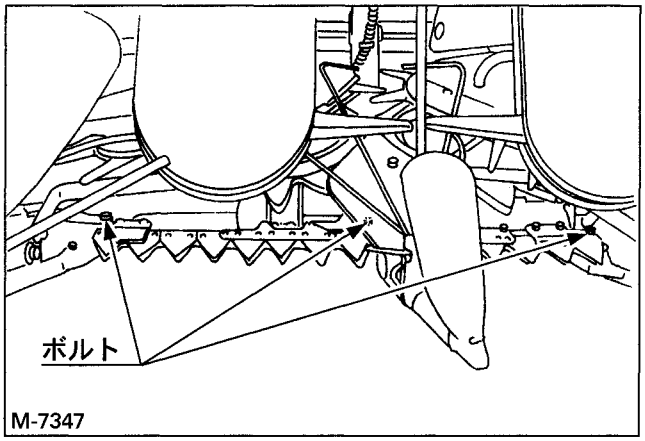
刈刃の刃先が摩耗してきたり，欠けてくると作物の刈跡が悪くなったり，引き抜きを起こすことがありますので，早目の点検・調整・交換を行なってください。

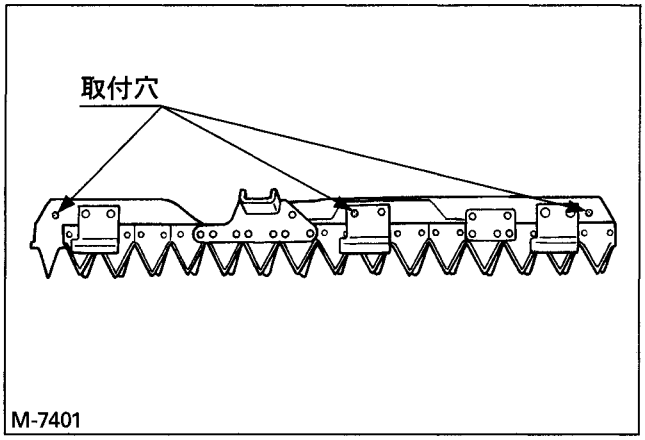
◆点検・取外し

❶刈取部を上げたあとエンジンを停止し，刈取下降ロックレバーを**“ロック”**位置にします。

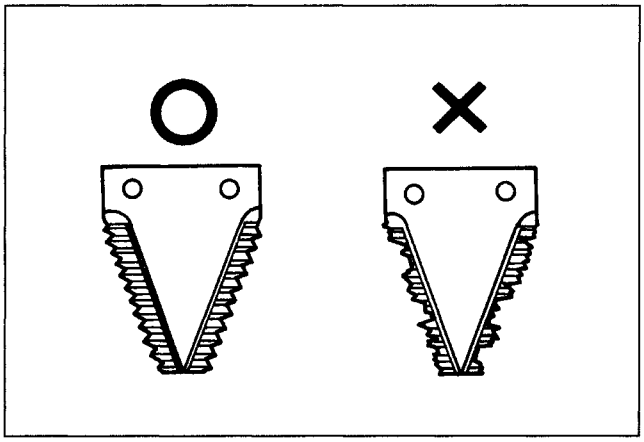


❷ボルト3本を取外して刈刃全体を外します。



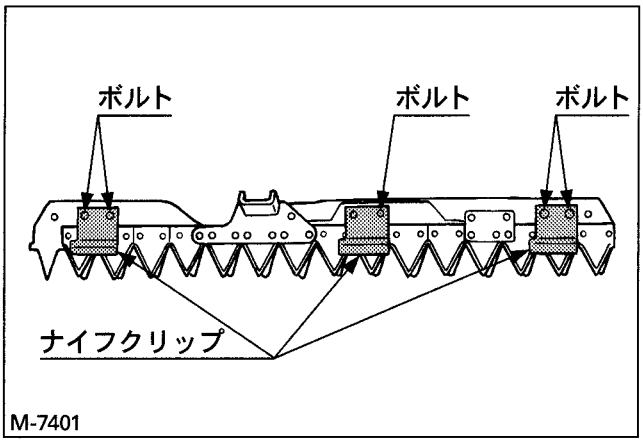


❸刈刃の刃先と刈刃の動きを確認し，動きがかたいときは，注油，グリース塗布やすき間調整を行ないます。また，刃先が摩耗したり，欠けているときは購入先に連絡して交換してください。



◆すきま調整

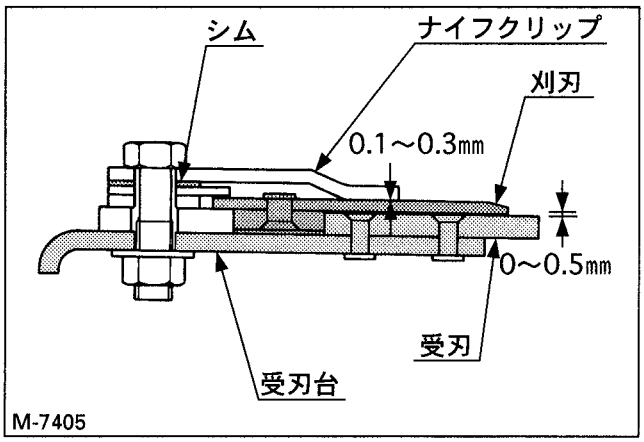
❶ボルト・ナットを取外してナイフクリップ(３箇所)を受刃台から外します。

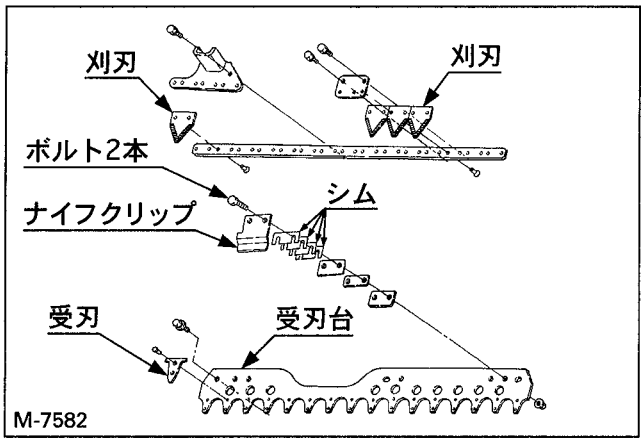


補　足

＊刈刃と受刃台の間の土を掃除して取除いてください。

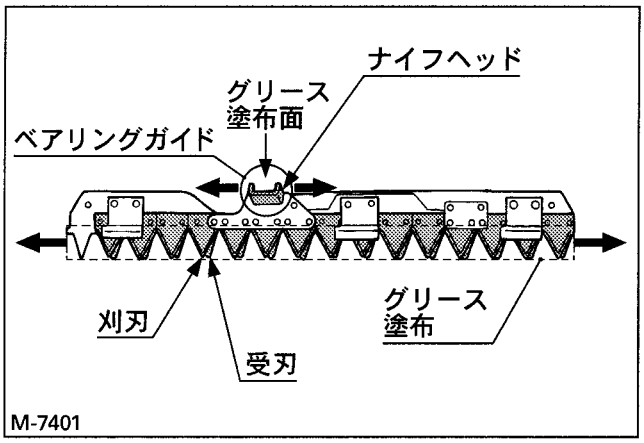
❷ナイフクリップと一緒に組付けているシムを増減して，刈刃と受刃のすきまを0～0.5㎜に調整します。





❸ナイフクリップ(3箇所)をボルトで締付けます。このとき，締付けたあとの刈刃とナイフクリップのすきまが0.1～0.3㎜になるように調整します。(上図参照)

❹ナイフヘッドを持ち，刈刃を左，右に動かします。動かないときは再調整を行ない，異常がなければ受刃，刈刃，ナイフヘッドのベアリングガイドにグリースを塗布します。



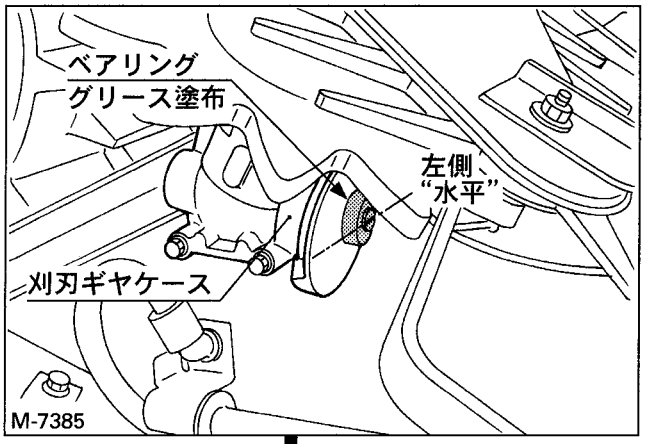
◆取付け

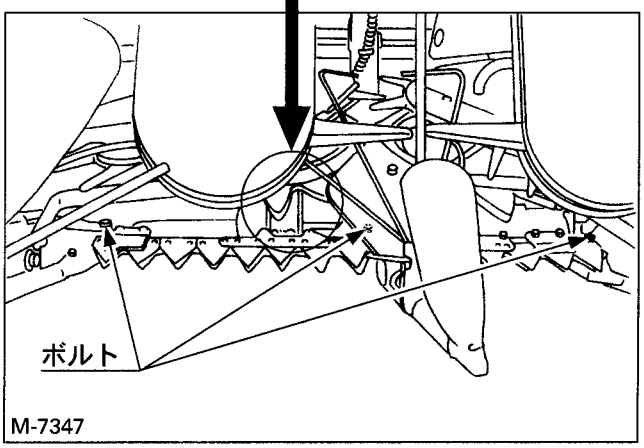
❶ナイフヘッドが取付く刈刃ギヤケースのベアリングにグリースを塗布します。

補　足

＊ベアリングが固くて回転しないときは，ベアリングのシール部に注油して組付けてください。

❷ベアリングの位置が地面に対して左側の水平位置にあることを確認したあと，ナイフヘッドの溝にベアリングを合わせ刈刃全体をセットしてボルト３本で締付けます。





■わら切刃の点検・交換

注　意

＊刃部に手を掛けないでください。不用意に刃が動くと危険です。

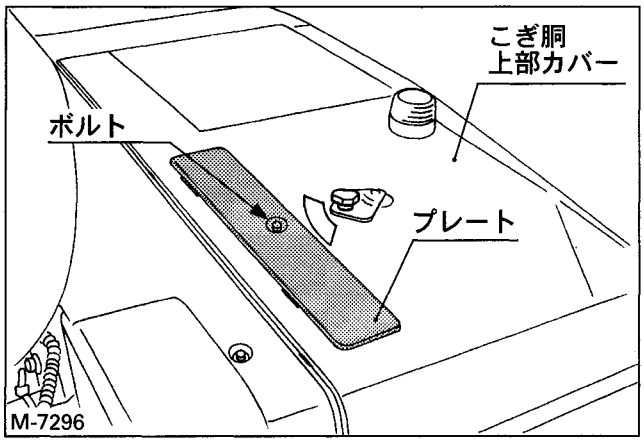
＊危険ですので，手袋をして，脱着作業をしてください。

わら切刃が切れなくなると，こぎ胴室内に発生するわらくずを細かく切断できなくなるため，わらくずの移動が悪くなります。また，必要以上の動力を消費するばかりでなく，排じん選別室に送られたわらくずがブロワに吸引されにくくなって，２番スクリュに巻きついたりします。

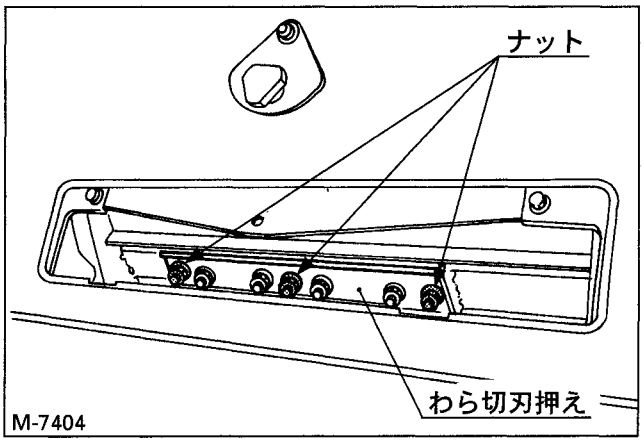
◆点検

●穂先側

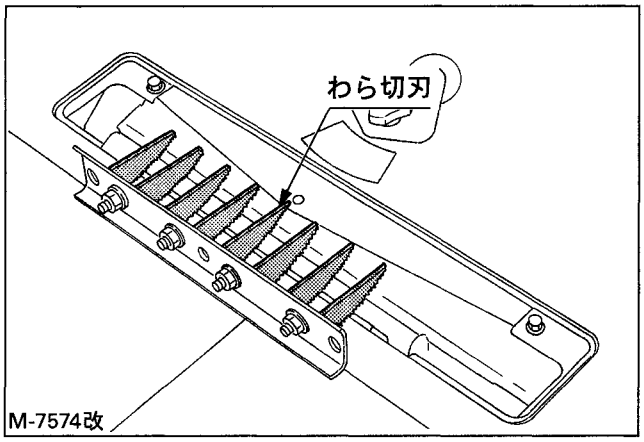
❶こぎ胴上部カバーの上側にあるカバーをボルト１本取外して外します。



❷わら切刃押えの取付けナット(左，右両端と中央の３箇所)を取外します。

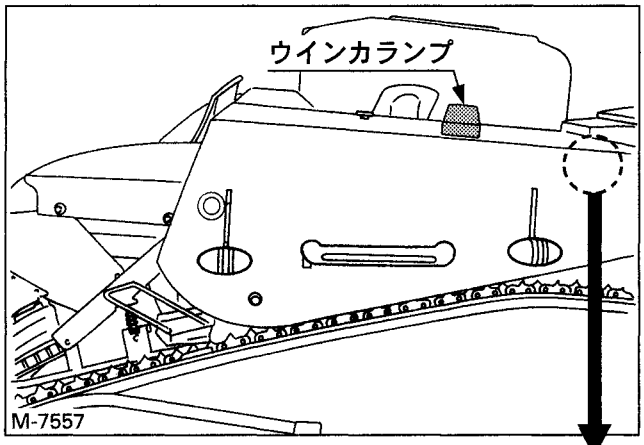


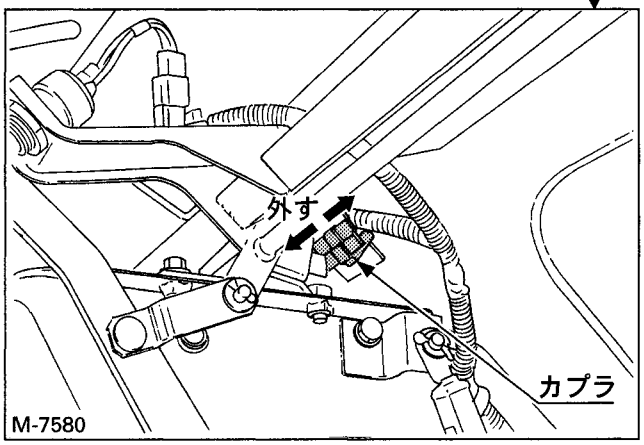
❸わら切刃押えを取り出したあと，わら切刃の刃先を確認します。刃先が摩耗したり，欠けているときは交換してください。



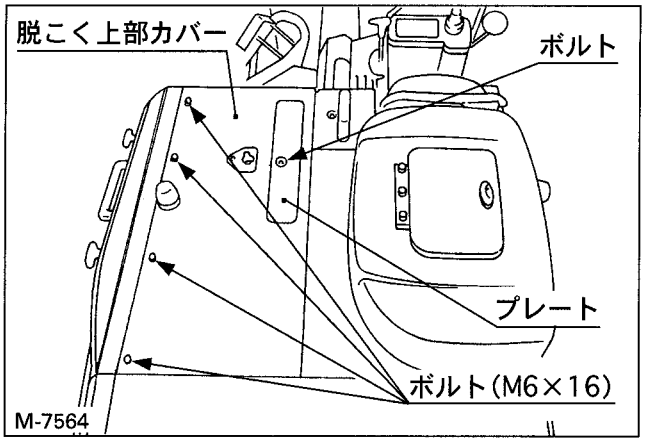
●株元側【J4・J5・J6・R216S】

❶こぎ胴をオープンして，ウインカランプ用ハーネスのカプラを外したあと，こぎ胴を閉じます。

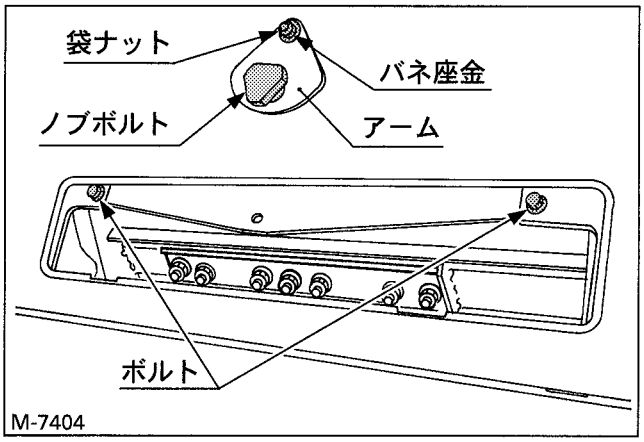




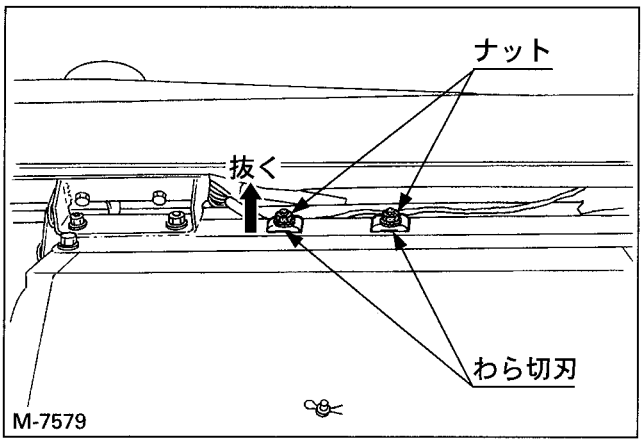
❷脱こく上部カバーを取付けているボルト４本(Ｍ６×１６)とプレートを取付けているボルト１本を取外します。



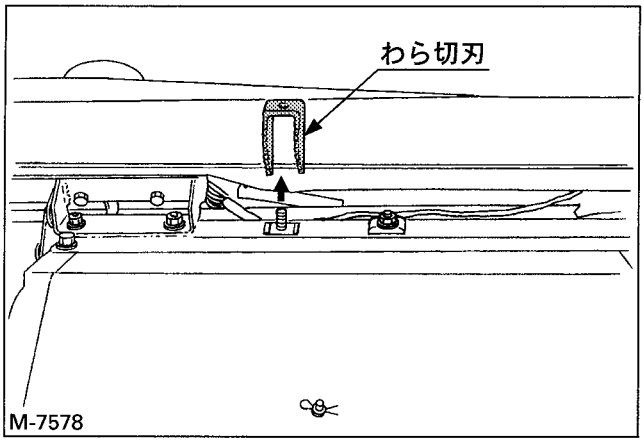
❸ボルト２本とこぎ室送じんレバーのアームを取付けているノブボルト及び，袋ナット，バネ座金を取外します。このとき，アームも取外します。

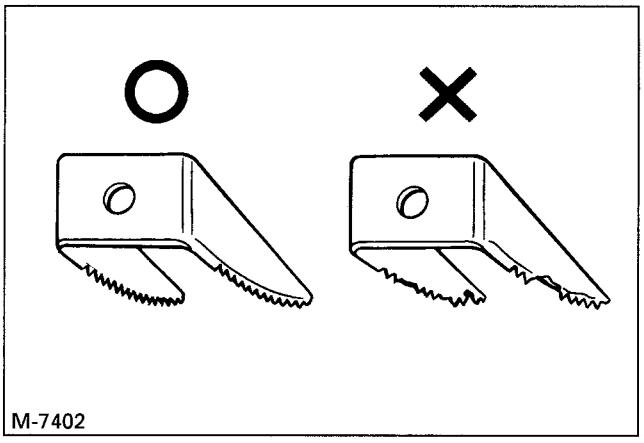


❹脱こく上部カバーを取外すと下図のように，わら切刃を２箇所ナットで取付けていますので，ナットを取外したあと，わら切刃を抜出します。



❺わら切刃を抜出したあと，わら切刃の刃先を確認します。刃先が摩耗したり，欠けているときは交換してください。





◆交換・取付け

それぞれのわら切刃を固定しているボルト(穂先側)・ナットを取外し，わら切刃を交換します。

●穂先側

❶刃先を下側にしてわら切押えを位置決めボルトに差込みます。
❷ナットを３箇所取付けます。
❸カバーを取付けたあとボルトを締付けます。

●株元側【J4・J5・J6・R216S】

❶刃先を上側にして取付位置に差込んだあと，ナットを取付けます。
❷こぎ胴上部カバーをボルト６本で取付けたあと，こぎ室送じんレバー部をノブボルト及び，アーム，袋ナット，バネ座金で取付けます。
❸プレートをボルトで取付けます。
❹ウインカ用ハーネスのカプラを取付けます。

重　要

＊わら切刃を取付けるときは，取付方向や傾きの出ないように注意して取付けてください。

■カッタ部の点検・調整・交換

警　告

＊平たんな場所でエンジンを必ず停止して行なってください。

＊手袋を使用し，直接カッタ刃に触れないでください。

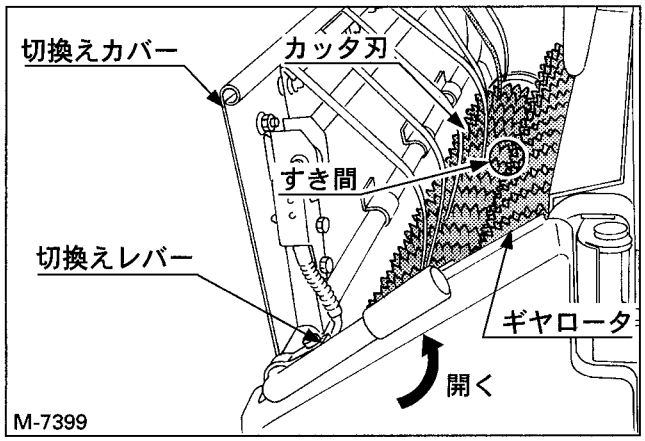
補　足

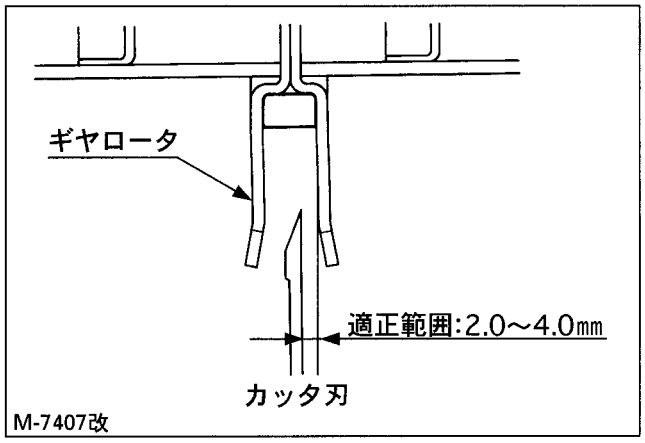
＊わらくずなどは取除いてください。

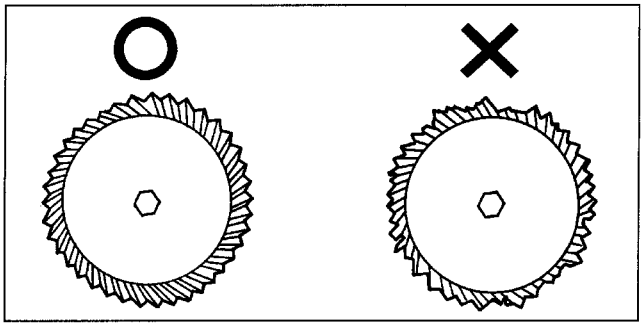
◆点検

点検後，すき間調整や交換が必要な場合は，購入先又は，整備工場で行なってください。

❶切換えレバーで切換えカバーを開いてカッタ刃の刃先やカッタ刃とギヤロータのすきまを確認します。刃先が摩耗したり，欠けているときは交換してください。



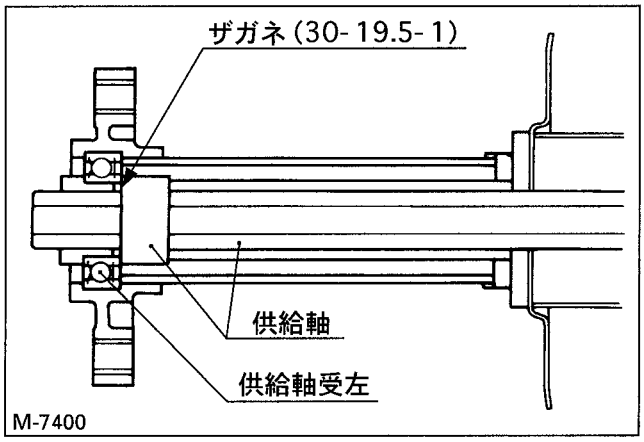




◆すきま調整

カッタ刃とギヤロータがくっついていたり，離れているときはすきま調整を行ないます。

供給軸受左と供給軸の間に座金(30-19.5-1)を使用して，すき間を2.0～4.0㎜に調整します。



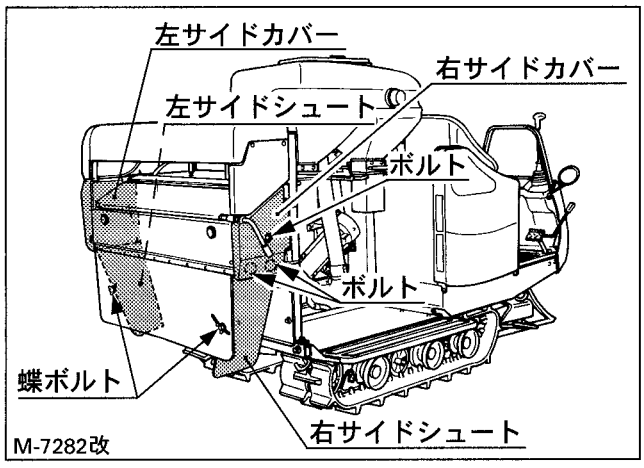
◆交換

警　告

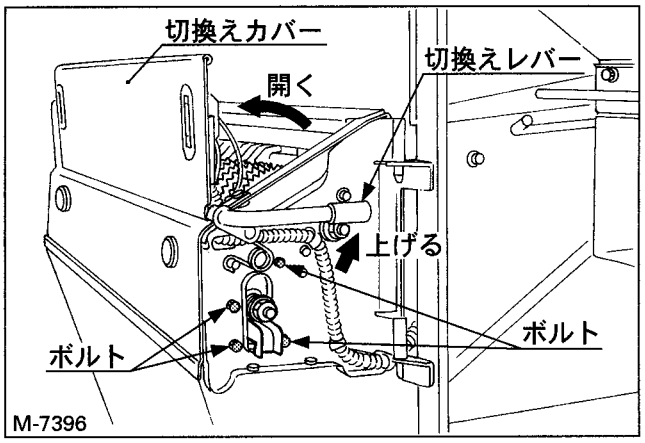
＊切断軸完備を脱着するときは，２人作業でカッタ刃のない両端を持って作業をしてください。

❶左サイドカバー，右サイドカバー(ボルト１本取付け)を外します。

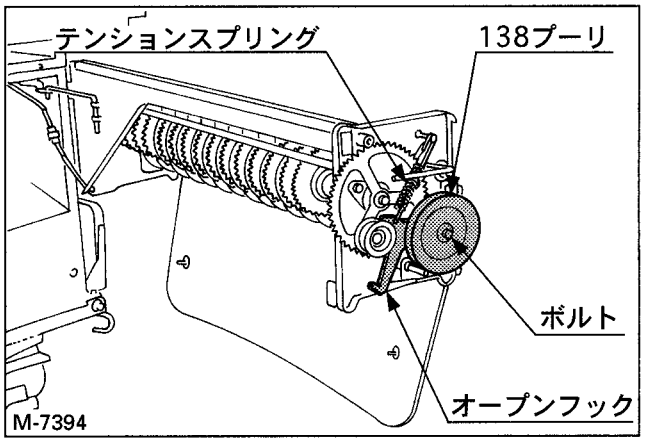
❷ボルト各２本と蝶ボルト２本を取外して左，右のサイドシュートを外します。



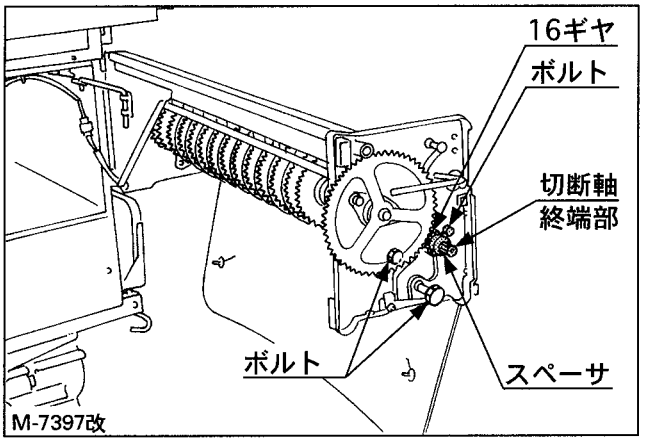
❸カッタをオープンします。(カッタオープンの項参照)
❹切換えレバーを上げて切換えカバーを開きます。
❺ボルト４本を取外します。



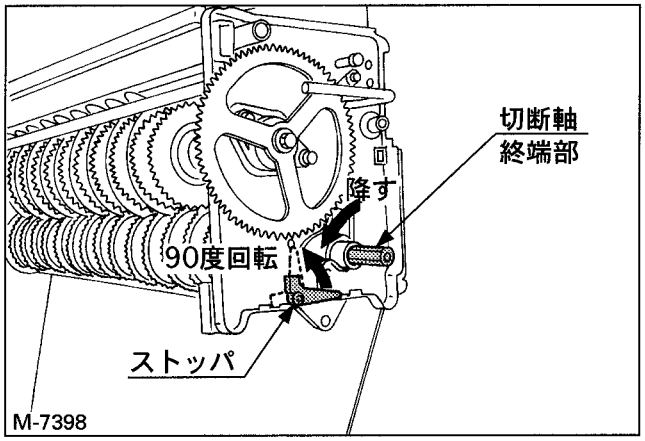
❻ボルトを取外して138プーリを外したあと，オープンフックとテンションスプリングを外します。

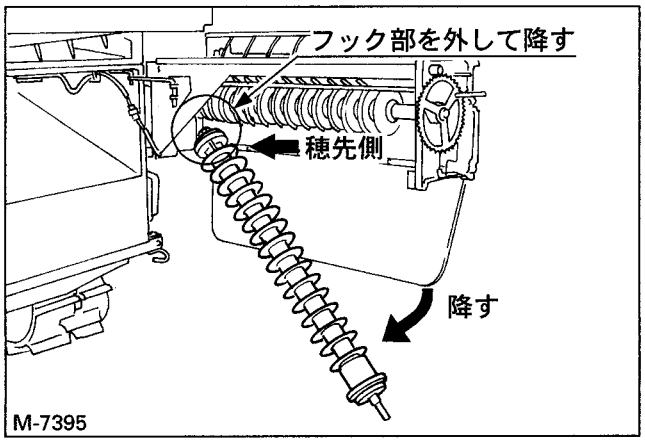


❼スペーサと16ギヤを取外したあと，切断軸の終端を支えながらボルト３本を取外すと切断軸が下がります。



❽ストッパを90度上側に回転させて，切断軸を地面にゆっくりと降します。
❾穂先側の切断軸の終端側を持ち上げてフックをフレームから外し，切断軸を2人で取外します。



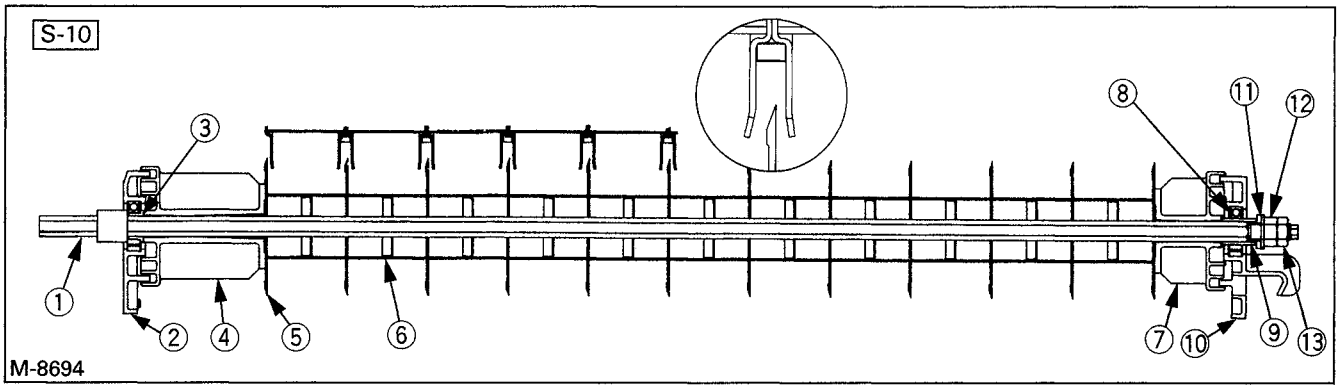


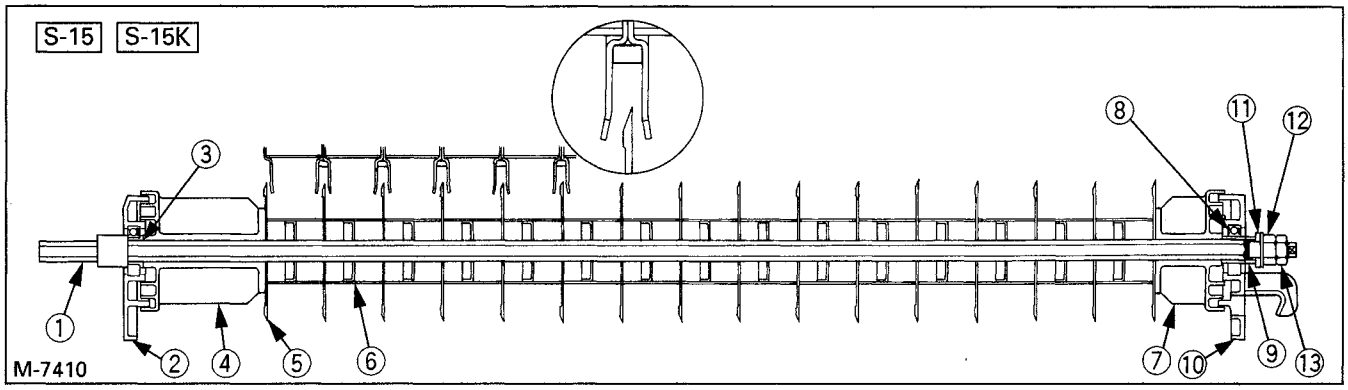
❿次表と図を参照して分解・組立てを行なってください。

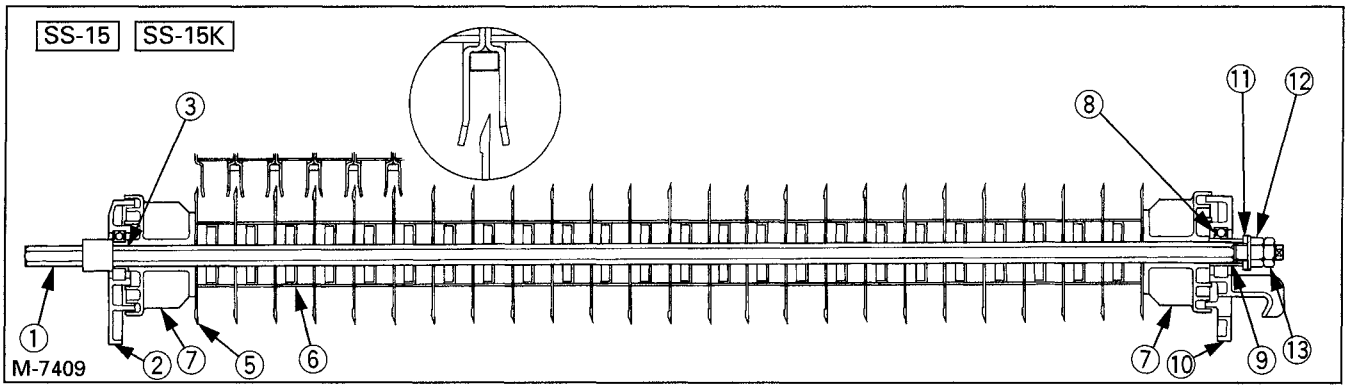
重　要

＊軸の締付けトルクは，下記の通りです。確実に締付けてください。
締付けトルク　49.0～58.8N·m(500～600kgf·cm)
組付け時，刃物・パイプ端面に砂など異物が付着しますと，刃物間寸法が出ない場合がありますので注意してください。
＊軸を垂直に立てて組んでください。組付け後の軸振れが無くなります。
＊刃の向き，組合わせが逆にならないよう特に注意してください。
＊組付け後，刃と刃が接触していないか軽く回して確かめてください。(**すき間調整**の項参照)

図番	品　番	品　　名	個　　数		
			S-10	S-15・S-15K	SS-15・SS-15K
①	57764-3111-1	シャフト(セツダン)	1	1	1
②	57783-2112-3	セツダンジクウケヒダリ	1	1	1
③	57783-2118-1	ベアリングカラー	1	1	1
④	57764-3112-1	ハネ(119，カキダシ)	1	1	–
⑤	57775-2223-1	セツダンバ(130)	12	16	25
⑥	57732-2110-1	パイプ，コンプ(74)	10	–	–
	57748-2120-1	パイプ，コンプ(55)	–	15	–
	57738-2120-1	パイプ，コンプ(36)	–	–	24
⑦	57764-2126-1	ハネ(63.5，キョウキュウ)	1	–	–
	57764-3113-1	ハネ(67.5，カキダシ)	–	1	2
⑧	57764-2119-1	ザガネ(30-19.5-1)	1	1	1
⑨	57783-2124-2	32スリーブ	1	1	1
⑩	57783-2143-2	セツダンジクウケミギ	1	1	1
⑪	57783-2144-1	32-16.5ヒラザガネ	1	1	1
⑫	57783-2126-1	M16サラバネツキナット	1	1	1
⑬	02052-50160	ナット	1	1	1

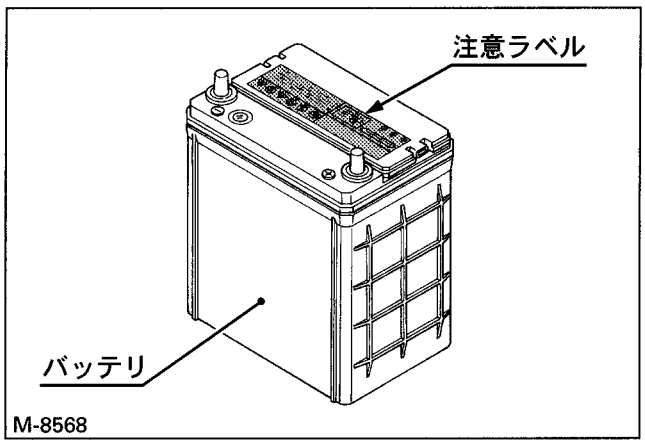






■バッテリの点検・交換

バッテリ上面に貼ってある取扱いの注意ラベルをよく読んでください。



危　険

＊バッテリの近くに裸火(マッチ，ライター，タバコの火など)を近づけたり，⊕端子と⊖端子が金属工具などの接触によって起こるスパークをさせないでください。バッテリのガスで引火爆発するおそれがあります。

＊バッテリを取扱うときは，必ず保護メガネとゴム手袋を着用してください。バッテリに入っている電解液(希硫酸)により，失明やヤケドの原因となります。

警　告

＊バッテリを乾いた布などで掃除しないでください。静電気により引火爆発するおそれがあります。

補　足

＊出荷時は，補水不要のバッテリです。

◆点検

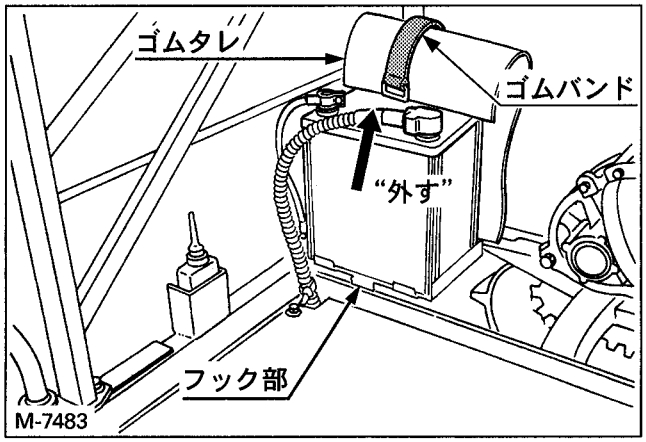
危　険

バッテリが破損や傾いたりして，液もれが発生しているとき……

＊バッテリ液が身体や衣服に付かないようにしてください。付着したときは，すぐに水で洗い流してください。電解液(希硫酸)によってヤケドすることがあります。

＊バッテリの電解液(希硫酸)が目に入った場合は，ただちに多量の清水で洗浄したあと，速やかに医師(眼科医)の治療を受けてください。失明の原因となります。

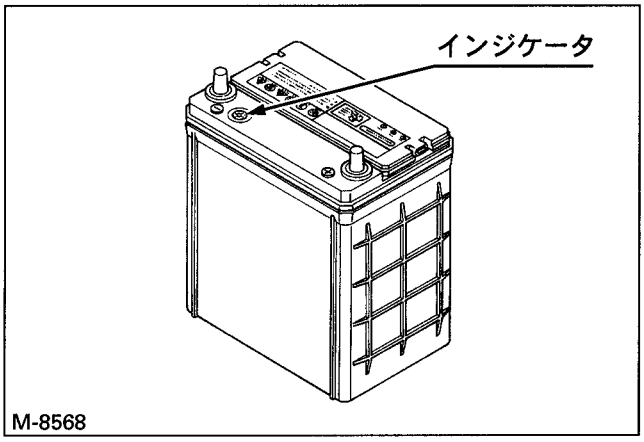
❶ゴムバンドをフックから外して，ゴムタレをめくります。



❷バッテリの状態を点検し，異常があれば処置します。

(1)バッテリ上面にあるインジケータの色で充電状態を確認します。下表を参照し，処置を行なってください。

表示の色	充電状態	処　置
緑	正常	使用可能
黒	放電している	補充電
透明	液減り	交換



補 足

＊インジケータは真上から確認してください。

(2)バッテリが破損して液もれが発生しているときは，交換してください。

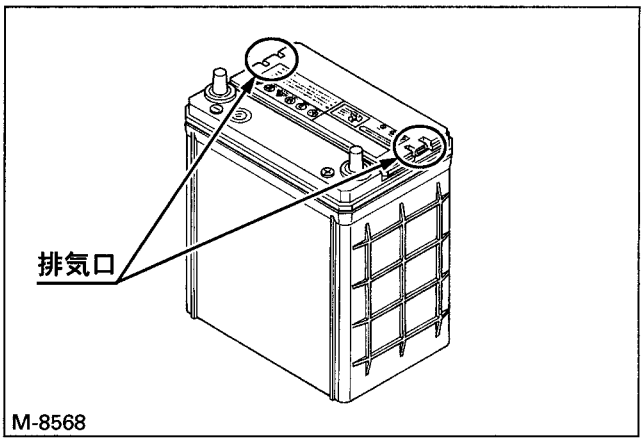
重 要

＊液もれが発生すると車体が腐食する原因となります。

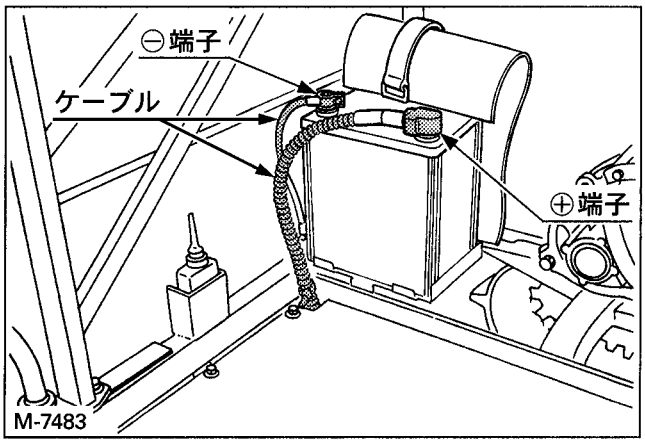
(3)ふたの排気口にゴミなどが付着しているときは掃除してください。

重 要

＊排気口をふさぎますと，バッテリ内部で発生するガスによりバッテリの内圧が上がり，破損する原因となります。



(4)バッテリケーブルの破損や⊕端子，⊖端子にゆるみや腐食がないか確認し，ケーブルの交換や端子の増締めや掃除を行ないます。



◆補充電・交換

警 告

＊バッテリは，以下の順序で取換えてください。順序を誤まると，ショートによるスパークで引火爆発するおそれがあります。

・取外し…⊖端子側(アース側)から外す。

・取付け…⊖端子側(アース側)を最後に接続する。

＊バッテリを転倒させたり，衝撃を与えたりしないでください。電解液(希硫酸)のもれにより，失明やヤケドをするおそれがあります。

＊バッテリを機体に取付けた状態での充電は避けてください。バッテリの引火爆発や機体損傷の原因となるおそれがあります。

＊バッテリの取付け方向を間違えないでください。⊕と⊖が逆に取付けられると接続ケーブルが損傷し，火災の原因となるおそれがあります。

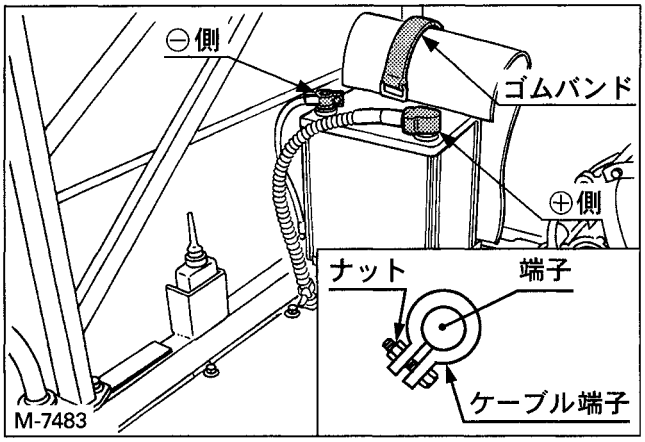
＊バッテリを投げたり，落としたり，斜めにしたり，衝撃を与えたりしないでください。バッテリに入っている電解液(希硫酸)により，失明やヤケドの原因となることがあります。

＊充電器やブースターケーブルを使用するときの取扱いは，それぞれの取扱説明書に従って行なってください。取扱いを誤まると引火爆発するおそれがあります。

次のような状態が発生したときは補充電を行なってください。また，補充電を行なっても短時間で再発するときや状態が良くならないときは，バッテリの寿命ですので交換を行なってください。

- スタータモータの回転が，いつもより弱い。
- アクセルの加減で，ヘッドランプの明るさが変わる。
- ホーンの音が，いつもより低い。
- バッテリ電解液の減りが早い。

❶バッテリを機体から取外します。
(1)ゴムバンドをフックから外し，ゴムタレをめくります。
(2)ケーブル端子のナットをゆるめて，端子からケーブル端子を取外します。取外すときは，必ず⊖側から取外してください。



重　要

＊バッテリを斜めにしたり，横倒しにして運ばないでください。電解液(希硫酸)がこぼれ，衣服の損傷の原因となります。

❷補充電を行なうときは，平たんで風通しの良い場所を選んで行ないます。また，充電は，バッテリの⊕を充電器の⊕側に，バッテリの⊖を充電器の⊖側にそれぞれ接続して，普通の充電方法で行なってください。

補　足

＊急速充電を行なったときは，作業後必ず補充電を行なってください。

❸補充電が終わると取外したときと逆の手順で取付けます。

重　要

＊バッテリを交換するとき，バッテリは下記指定のバッテリを使用してください。電圧や容量が違うと故障の原因となります。
バッテリ形式：**34B19L-MF**
＊バッテリはエンジン始動用ですから，他の用途には使用しないでください。
＊バッテリはきちんと取付けてください。傾いたりすると転倒や液もれの原因となります。

❹ゴムタレをバッテリにかぶせて，ゴムバンドをフックします。

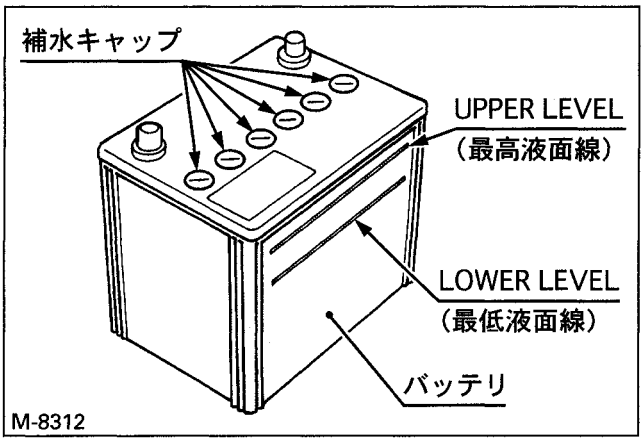
補水が必要なバッテリの場合
(補水が不要なバッテリの説明と異なる部分の説明です。)

◆点検・補水

危　険

バッテリには補水不要なタイプと補水が必要なバッテリの2種類があります。補水が必要なバッテリについては，以下の事を守ってください。
＊バッテリは液面がLOWER(最低液面線)以下になったままで使用や充電をしないでください。
LOWER以下で使用を続けると電池内部の部位の劣化が促進され，バッテリの寿命を縮めるばかりでなく，爆発の原因となることがあります。
すぐにUPPER LEVELとLOWER LEVELの間に補水してください。
＊バッテリ液が身体や衣服に付かないようにしてください。付着したときは，すぐに水で洗い流してください。電解液(希硫酸)によってヤケドすることがあります。

バッテリの状態を点検し，異常があれば処置します。
(1)バッテリ液の量を点検し，**"UPPER LEVEL"**(最高液面線)と**"LOWER LEVEL"**(最低液面線)の間に液量があるか確認し，不足しているときは補水キャップを外して補水します。



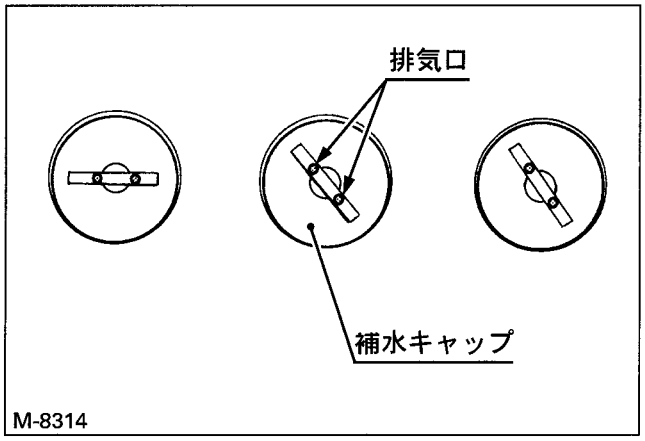
重　要

＊バッテリ液が不足して極板が空気中に露出しますと，バッテリの寿命は著しく短くなります。
＊精製水を多く入れすぎるとこぼれ出て，機体を傷めます。必ず液面線内に入れてください。
＊バッテリ液を補充する場合は，必ず精製水を補充してください。希硫酸・井戸水・泥水などは絶対に入れないでください。
＊バッテリに精製水を入れ過ぎないでください。液もれするおそれがあります。

(2)補水キャップの排気口にゴミなどが付着しているときは掃除してください。

重　要

＊排気口をふさぎますと，バッテリ内部で発生するガスによりバッテリの内圧が上がり，破損する原因となります。



◆補充電・交換

警　告

＊補充電中は補水キャップ全てを取外して行ないますので裸火は近づけないでください。引火爆発するおそれがあります。

❶補充電を行なうときは，平たんで風通しの良い場所を選んで補水キャップ全て取外した状態で行ないます。また，充電は，バッテリの⊕を充電器の⊕側に，バッテリの⊖を充電器の⊖側にそれぞれ接続して，普通の充電方法で行なってください。

補　足

＊急速充電を行なったときは，作業後必ず補充電を行なってください。

❷補充電が終わると補水キャップを全て取付けてください。

■電気配線とヒューズの点検・交換

注　意

＊配線コード被覆の損傷やコネクタ(端子)の接触不良によるろう電やショート(短絡)は火災の原因となります。

◆各配線コードの点検・交換

各配線コードのコネクタ(端子)の接続状態を点検し，ゆるみや外れがあるときは確実に差込んでください。また，被覆の損傷状態を点検し，被覆が破れているときは，販売店へ連絡して交換してください。

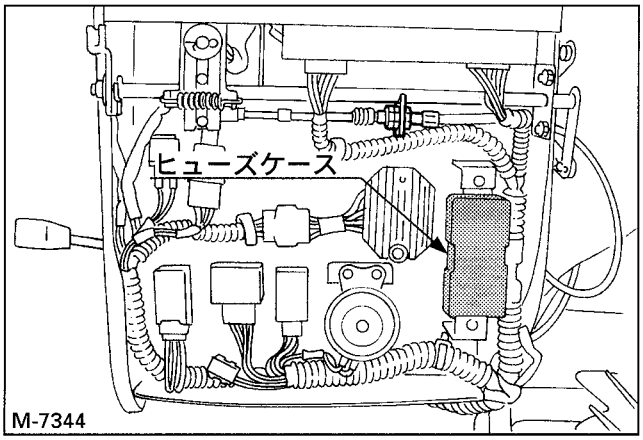
◆各ヒューズの交換

ヒューズ切れによる異常が発生したときは，ヒューズを交換してください。

重　要

＊ヒューズを交換してもすぐ切れてしまう場合は，針金や銀紙などで代用せず，購入先に連絡してください。

❶フロントカバーを外します
❷ヒューズケースのふたを外します。
❸ヒューズを外します。
❹切れたものと同容量のヒューズと交換します。



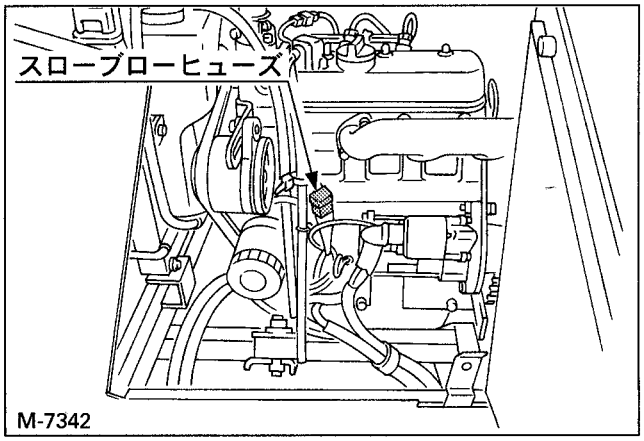
受けもっている回路	容量	備考
マイコン，AES	10A	
レギュレータ，ホーン，燃料ポンプ	10A	
こぎ深さモータ	20A	
ライトフラッシャ	15A	
方向ソレノイド	20A	J2D仕様,J3·J4·J5·J6各HD仕様
マイコン	10A	
刈取りスライドモータ	20A	J3·J4·J5·J6·R216S
結束機	20A	結束機付

補　足

＊予備ヒューズはケースの裏側に，10A，15A，20A，が各1本入っております。

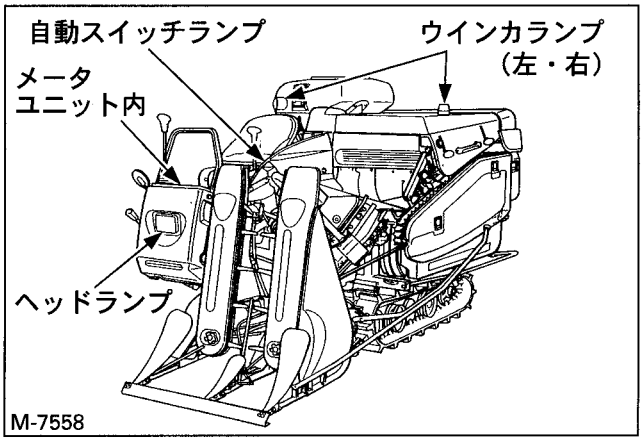
◆スローブローヒューズの点検・交換

スローブローヒューズは，過電流が流れたときに各配線が損傷しないように保護するためのものです。エンジンがかからないときは点検し，切れているときは付属部品の中にある予備のヒューズ(50A)と交換してください。



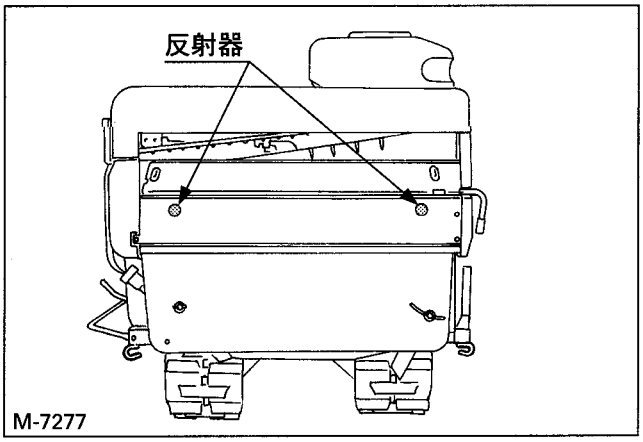
■ランプ(電球)の点検・交換

球切れがないか点検し，切れているときは交換してください。



■反射器の点検・交換

汚れや破損がないか点検し，掃除又は，交換を行なってください。



■パッカのトルクリミッタの調整

トルクリミッタは右側のパッカに取付けてあり，パッカに過負荷がかかるとクラッチがスリップし，パッカの回転を止めて機械の破損を防止する安全装置です。パッカの分解掃除や交換を行なったときは必ず調整してください。

◆調整

❶刈刃ケース後方の窓からレンチを差込んでナットをゆるめます。

❷手でいっぱいに締付けたあと，レンチで1.5回転締付けます。

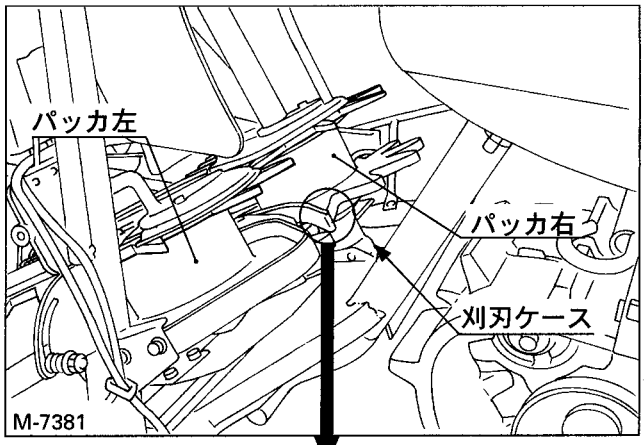
補　足

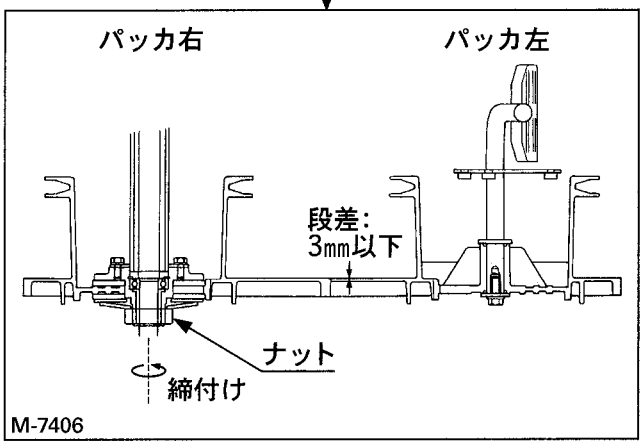
＊スリップ時のトルクは，98～128N・m(10～13kgf・m)です。

❸パッカの左と右の段差を測定し，３㎜以下であれば正常です。

重　要

＊3㎜以上段差があるときは，わら詰まりやパッカ部の損傷の原因となりますので，購入先へ連絡してください。





■刈取スライドの点検・注油
【J3・J4・J5・J6・R216S】

注　意

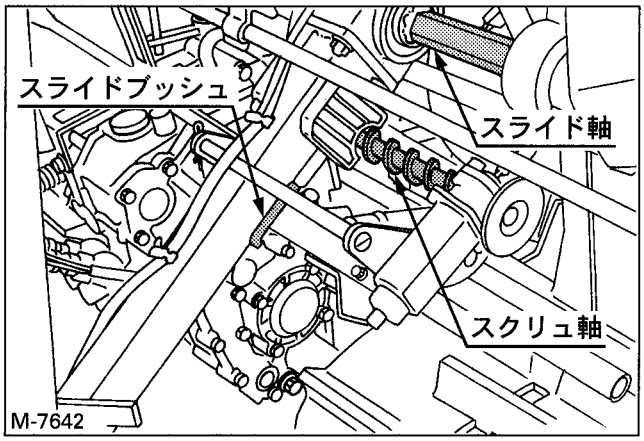
＊平たんな場所で，刈取下降ロックをして必ずエンジンを停止してください。

刈取部を地面から約５～10cm上げたあとエンジンを停止します。そのあと，刈取下降ロックレバーを**“ロック”**位置にし，スイッチキーを**“入”**位置にしてください。

◆点検

刈取部をスライドスイッチで**左⟷右**に動かして，スライドする時間が正常時(約６秒以内)より遅いときは，スライド装置各部に注油してください。

◆注油箇所



重　要

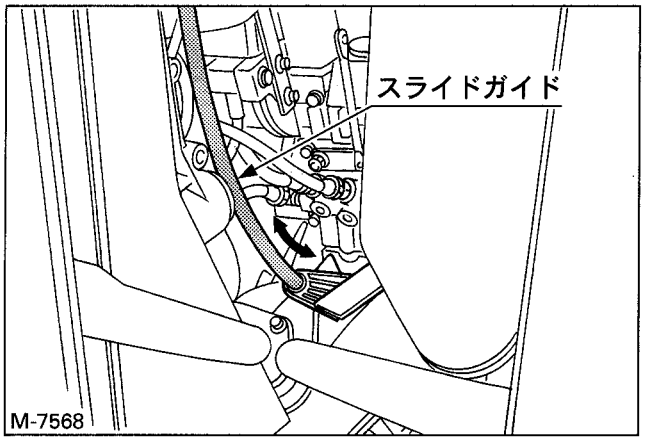
＊スライドを連続して５往復以上しないでください。また，スライドが停止したら，スイッチからすぐ手を離してください。モータが加熱し故障の原因になります。

■スライドガイドの点検・注油
【J2・J3・J4・J5・J6・R216S】

◆点検

スイッチキーを**“入”**位置にしたあと，手動こぎ深さスイッチを**“浅”⟷“深”**に動かすと，供給搬送部が**上⟷下**します。このとき，動きが停まったり遅いと感じたときはスライドガイドに注油してください。

◆注油箇所



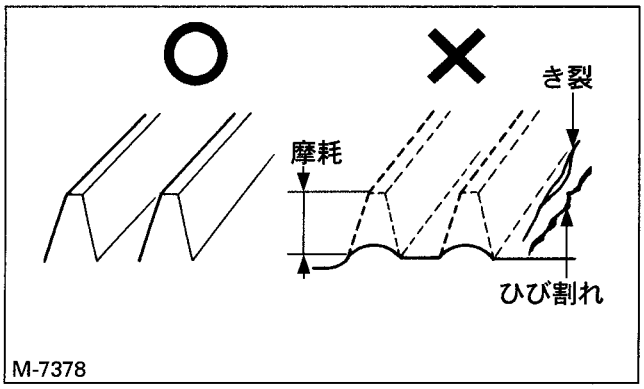
■クローラの点検・調整

注　意

＊平たんな場所で，必ずエンジンを停止して行なってください。

◆点検

クローラのラグが摩耗していたり，き裂やひび割れが入っているときは購入先へ連絡して早目に交換してください。また，クローラのたわみが大きいときは張り調整を行なってください。



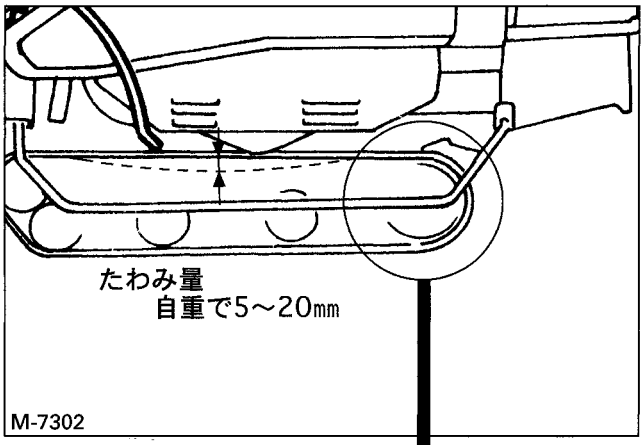
◆調整

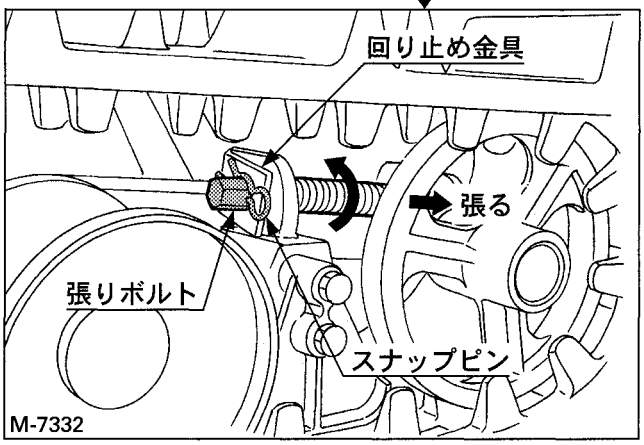
クローラのたわみ量を，自重で５～20㎜に調整します。

❶エンジンを始動し，機体を約１m後進させてエンジンを停止します。

❷クローラ後部にある張りボルトの回り止め金具を，スナップピンを抜いて取外します。

❸張りボルトを左に回してクローラを張りながら，クローラを上・下させて，たわみ量を調整します。





❹左，右両方共に行ない調整後は，回り止め金具を取付けてスナップピンを差込みます。

重　要

＊クローラを張り過ぎると車軸の折損の原因になります。

＊クローラがゆるみ過ぎると脱輪したりスプロケット及び芯金が早期に摩耗することがあります。初期伸びがあるため初期20時間目に増し張りしてください。

■吐出口ブーツの点検・交換

吐出口ブーツが破損したときは交換してください。

◆交換

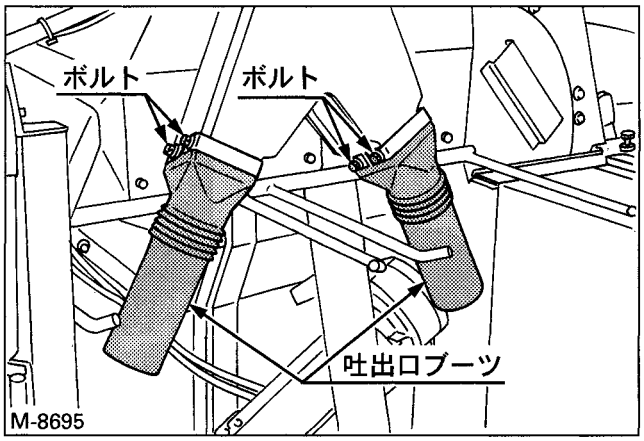
【J1】

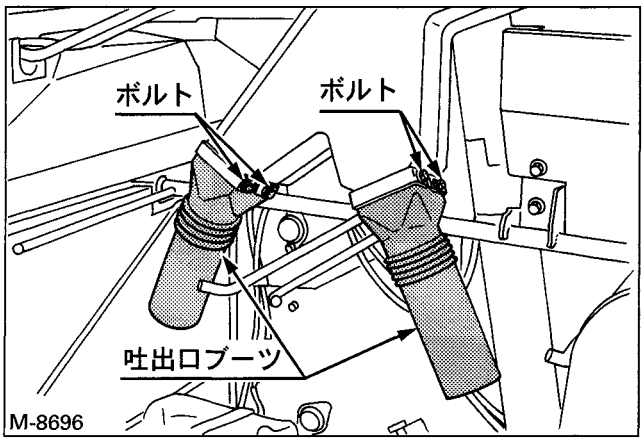
❶ブーツを取付けているボルト左，右各２本を外します。

❷破損したブーツを取外し，新しいブーツを取付けます。

補　足

＊ブーツを取付けるとき，ブーツの取付け方向を間違えないでください。





重　要

＊ブーツは必ずクボタ純正のものを使用してください。

【J2・J3・J4・J5・J6】

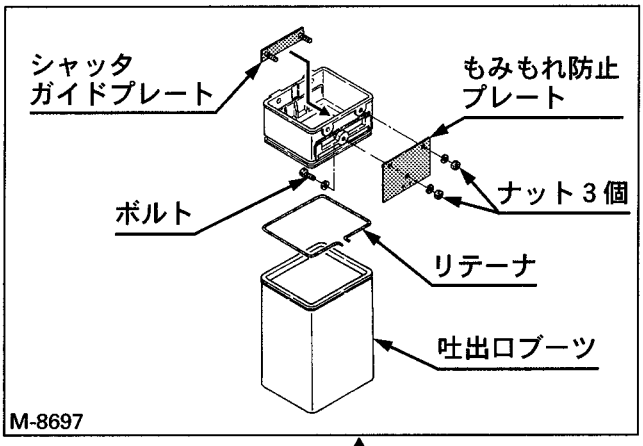
❶もみもれ防止プレートを取付けているボルト，シャッタガイドプレートとナットをそれぞれ取外し，プレートを外します。

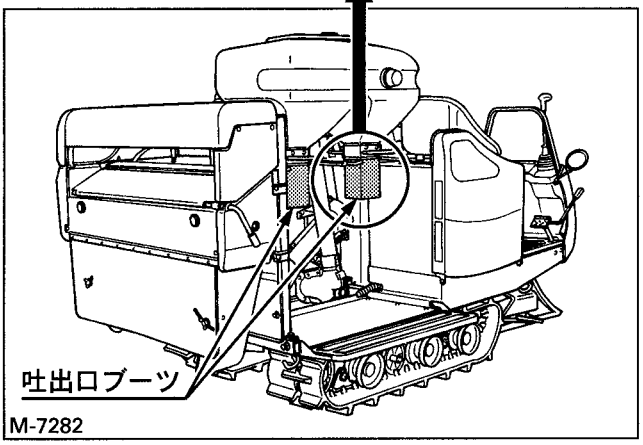
❷リテーナを外して，吐出口ブーツを取外します。

❸破損したブーツを取外し，新しいブーツを取付けます。

補　足

＊ブーツを取付けるとき，ブーツの取付け方向を間違えないでください。





重　要

＊ブーツは必ずクボタ純正のものを使用してください。

刈取作業後の手入れ

刈取作業が終わったあとは，機械の点検・整備を怠らず翌日又は，翌年の刈取作業に備えてください。

■毎日の作業後

注　意

＊機体に本機カバーをかけるときは，エンジン・マフラが冷えてからかけてください。停止直後にカバーをかけると火災のおそれがあります。

❶平たんな場所にコンバインを停めます。

❷機体各部のわらくずを取除いたあと，必要なときは各部に注油を行ないます。（**各部の掃除と注油のしかた**の項参照）

❸刈取部を地面に接地させます。

❹メインスイッチのスイッチキーを抜取ります。

❺本機カバーをかけます。

■長期格納時

刈取のシーズンが終了して翌年まで長期間使用しない場合は，格納する前の各部の点検・整備を念入りに行なってください。

◆各部の掃除・注油と補修

機体を平たんな場所に停めて下記事項を行なってください。

●各部に付着した泥などの汚れをきれいに水洗いし，乾いた布で水分をふき取ってください。

●各回転部分や切刃部・ベルト・チェーンなどに巻付いた雑草やわらくずを，完全に取除いてください。

重　要

＊機体を洗う場合は，電装部品に水がかからないようにしてください。

補　足

＊各部にもみやわらくずが残っていると，ネズミの巣になったり，配線部をかじられて，故障の原因となるのできれいに取除いてください。

＊各チェーン，各回転部分や摩擦しゅう動部分には，さびが発生しないようにじゅうぶん注油してください。

＊塗料のはげた所には補修塗料を塗って，さびが発生しないようにしてください。

◆ラジエータ冷却水

注　意

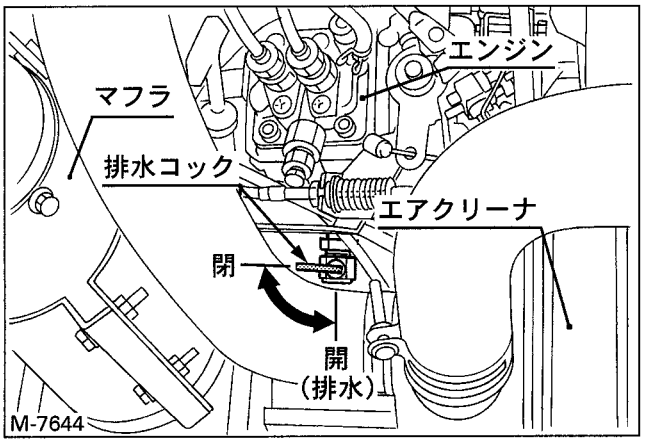
＊ラジエータキャップやリザーブタンクは，エンジン運転中及び停止直後に開けると，熱湯が噴出することがありますので，停止後じゅうぶん冷えてからにしてください。

ラジエータ冷却水は冬期のエンジン凍結割れを防止するため，排水又は，不凍液(ロングライフクーラント)を清水に混ぜた冷却水を入れておいてください。

●排水しておくとき

❶ラジエータ及びリザーブタンクの冷却水を排水します。(**ラジエータ冷却水の点検・交換**の項参照)

❷エンジンに取付けている排水コックを開いてエンジンの冷却水を排出します。



❸ラジエータキャップは締付けますが，排水コックは開けたままにし，ラジエータキャップに**水なし**と書いた札を掛けておいてください。

●不凍液を入れておくとき

冷却水の補給・交換を行なって，ラジエータ及びリザーブタンクには，不凍液の混ざった適正な混合比の冷却水を規定量入れておきます。(**ラジエータ冷却水の点検・交換**の項参照)

重　要

＊冷却水には，不凍液(ロングライフクーラント)を適正量入れ(混合比は最高でも50%以下)，よく水と混ぜ合せてからお使いください。
(ラジエータ容量……4.0L)

＊不凍液の混合比を誤ると，冬期には冷却水の凍結，夏期にはエンジンの故障やラジエータの破損の原因になります。

＊不凍液を使用する場合は，ラジエータ保浄剤を投入しないでください。不凍液には防錆剤が入っていますので，保浄剤を混入するとエンジン部品に悪影響を与えます。

＊クボタ不凍液(ロングライフクーラント)の有効使用期間は2年間です。必ず２年で交換してください。

◆バッテリ

危　険

＊保管や持運びの際にバッテリに火気を近づけたり，ショートさせると爆発の危険がありますので注意してください。

注　意

＊バッテリを点検するときには，エンジンを停止し，メインスイッチを"切"にしてください。

長期間使用しない場合は，できるだけバッテリを機体から取外してください。また，以下の点に注意して保管してください。

●保管前に点検し，必要に応じて補充電を行なってください。(バッテリ液補水タイプは，補水してから補充電を行なってください。)

●バッテリは保管中でも自己放電するので夏は１カ月，冬は２カ月に１回それぞれ点検し，必要に応じて補充電を行なってください。

●次のような場所に保管してください。

(1)直射日光が当たらない(温度が低く変化の少ない)乾燥している場所

(2)雨露が少なく，水没のおそれのない場所

(3)バッテリの有害なガスや液，紛じんの発生が起こらない場所

機体に取付けている場合は，⊖側のケーブルを必ず取外してください。

4. 各レバー・その他

点検・整備が終わったあと，納屋などに停めておくときは刈取部を地面に接地させて，下記事項を行なってください。

●デバイダカバーを取付けたあと，分草かんを収納します。

●**【J3・J4・J5・J6】**は補助デッキを折りたたみ，収納します。

●アクセルレバーをいっぱい戻して(**"🐢"**位置)止めておいてください。

●各作業クラッチ(刈取・脱こく)レバーは**"切"**位置にしておいてください。

●メインスイッチのスイッチキーは，必ず抜取って保管してください。

●本機カバーをかけます。

コンバインの不調と処置

次のようなトラブルが起ったら！ ページ

水温ランプが点滅しブザーが鳴った 98

ビービーと断続ブザーが鳴る 99

ビービーと断続ブザーが鳴ってエンジンが止まる 99

こぎ残りがでる 100

もみの飛散が多い 100

選別が悪くなった 101

わらが切れなくなった 102

刈取部(パッカ)で詰まる 103

警 告

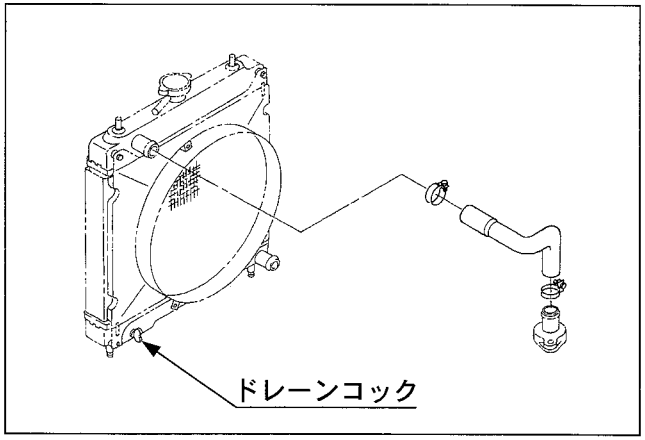
＊各部の調整，点検，交換などを行なうときは，エンジンを必ず止めてから行なってください。

注 意

＊各クラッチは，“切”にしてください。
＊エンジン始動時は合図をし，安全を確認してください。
＊運転中及び停止直後は，ラジエータキャップを絶対に開けないでください。またオーバヒートなどの高温時は，約5分間エンジンだけを動かしたあと，エンジンを停止し，30分以上経過するまでエンジンカバーを開けないでください。熱湯が噴出したり，高温部でヤケドするおそれがあります。
＊刈刃やカッタの清掃時は刃部に注意してください。
＊燃料やオイルがこぼれた場合は，火気に注意しきれいにふき取ってください。

水温ランプが点滅しブザーが鳴った

●エンジンがオーバヒート(過熱)している。

すぐにすること	原　因	点検箇所	処　置	参照ページ
●刈取作業を中止して，エンジンを止める。	防じんあみ，又はラジエータフィンがわらくずなどで目詰まりしている。	防じんあみ	●防じんあみをブラシなどで掃除する。	71
		ラジエータフィン	●圧縮空気か水道水で，フィンを傷つけないように掃除する。	71
	冷却水が不足している。	ラジエータ リザーブタンク	●清水をラジエータ給水口まで補給する。 ●清水をリザーブタンクの**"H"**(上限)まで補給する。 ●ドレーンコックから冷却水がもれていないか点検する。  	68，96
	エンジンオイルが不足している。	オイルゲージ	●上限近くまで，補給する。	65
		エンジンオイル フィルタカートリッジ	●エンジンオイルフィルタカートリッジの交換時期になっていれば交換する。	72
	ファンベルトがゆるんでいる。	ファンベルトのたわみ	●ダイナモの取付けボルトをゆるめ，ダイナモを手で引っ張りながらベルトの増張りを行なう。 ●ベルトが損傷しているときは新品と交換する。	70

ビービーと断続ブザーが鳴る

すぐにすること		原　因	点検箇所	処　置	参照ページ
●刈取作業を中止して，操作パネルの表示をみる。 **重　要** ＊ブザーが鳴ったままで作業を続けるとトラブルの原因になります。	モミランプが点滅している。	ホッパが満杯。	ホッパ	●もみ袋を交換又は，もみを排出する。	40
	負荷ランプが点滅している。	負荷がかかりすぎている。	センサアーム(穂先センサ)	●こぎ深さ調節位置が適正か確認する。	34
			主変速レバー	●作業速度を一段落す。	7
			こぎ室送じん調節レバー	●こぎ室送じん調節レバーを**“標準”**又は**“開”**にする。	45
		こぎ室，１番スクリュ，２番スクリュなどに詰まりがある。	こぎ室 １番スクリュ ２番スクリュ	●詰まりがあれば取除く。	57

ビービーと断続ブザーが鳴ってエンジンが止まる

●エンジン自動停止装置が働いている。

すぐにすること		原　因	点検箇所	処　置	参照ページ
●刈取，脱こくクラッチレバーを**“切”**にする。 ●主変速レバーを**“N”**(中立)にする。 ●メインスイッチを**“切”**にする。	カッタランプが点滅している。	排わら搬送チェーンが詰まっている。	搬送部	●搬送部(フィードチェーン終端部，排わら搬送部)にわらが詰まっていないか点検し，詰まりがあれば取除く。	56
		カッタ部が詰まっている。	カッタ部	●カッタの切換えカバーを開いて，わらを取除いてください。 ●カッタの刃が摩耗していないか点検し，摩耗している場合は交換する。	57,85
		結束作業においてビルにひもが巻付いているか，又はひも切れ，ひもの消費。**【結束機付】**	結節部 結束ひも	●結節部にひも，わらなどが巻付いていないか点検し，巻付いていれば取除く。 ●ひもがなければ補充する。	—
		結束部が詰まっている。**【結束機付】**	結束部	●結束部にわらが詰まっていないか点検し，詰まりがあれば取除く。	—

こぎ残りがでる

すぐにすること	原　因	点検箇所	処　置	参照ページ
●刈取作業を中止し，搬送部にある作物を流しきる。	こぎ深さ調節が浅い。	微調整レバー	●センサアームの調節で，脱こく機入口の**“こぎ深さ指示(▼)マーク”**の指示の位置に穂先を合せる。	34
	脱こくの回転数が低い。	回転表示	●回転計を見ながら，アクセルレバーで**“作業セット”**位置にする。	33

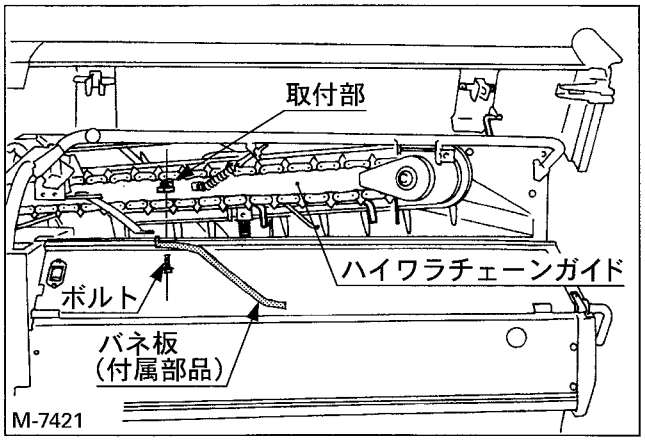
もみの飛散が多い

すぐにすること	原　因	点検箇所	処　置	参照ページ
●刈取作業を中止して，搬送部にある作物を流しきる。	脱こく回転数が高い。	回転表示	●回転数を見ながら，アクセルレバーで**“作業セット”**位置にする。	33
	チャフ(選別板のすきま)を閉めすぎている。	チャフ調節レバー	**【SR-J1・J2】** ●チャフ調節レバーを**“開”**の方向へ調節する。 **【SR-J3・J4・J5・J6・R216S】** ●モミの量により自動的に調節されていますが，飛散が悪い場合はチャフ調節レバーを**“開”**の方向に調節する。	46
	排じん調節板が**“下”**になっている。	排じん調節板	●排じん調節板を上げる。	45
	こぎ室送じん弁が開きすぎ。	こぎ室送じん調節レバー	●こぎ室送じん調節レバーを**“閉”**の方へ調節する。	45

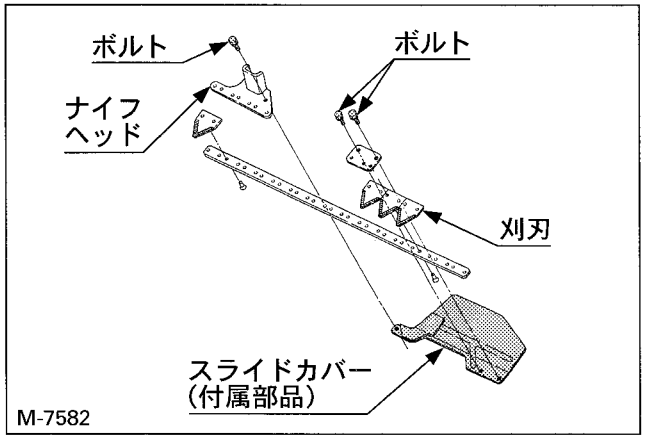
選別が悪くなった

現　象	原　因	点検箇所	処　置	参照ページ
[稲] ●小枝梗が多い。 ●穂切が多い。 [麦] ●のげが取れない。 ●桴が取れない。 (脱皮しない)	エンジン回転数が低い。 こぎ室送じんが開きすぎている。	回転計 こぎ室送じん調節レバー	●回転計をみながら，アクセルレバーで**“作業セット”**位置にする。 ●こぎ室送じん調節レバーを**“閉”**の方へ調節する。 (この場合，少し能率が下がる。)	33 45
	チャフ(選別板のすきま)が開きすぎている。	チャフ調節レバー	**【SR-J1・J2】** ●チャフ調節レバーを**“閉”**の方向へ調節する。 **【SR-J3・J4・J5・J6・R216S】** ●モミの量により自動的に調節されていますが，選別が悪い場合はチャフ調節レバーを**“閉”**の方向に調節する。	46
[稲・麦] ●切わら・ゴミが入る。	エンジン回転数が低い。	回転計 トウミ風路	●回転計をみながら，アクセルレバーで**“作業セット”**位置にする。 ●わらくずを取除く。	33
	チャフ(選別板のすきま)が開きすぎている。	チャフ調節レバー	**【SR-J1・J2】** ●チャフ調節レバーを**“閉”**の方向へ調節する。 **【SR-J3・J4・J5・J6・R216S】** ●モミの量により自動的に調節されていますが，選別が悪い場合はチャフ調節レバーを**“閉”**の方向に調節する。	46
[稲・麦] ●こく粒のいたみが多い。	エンジン回転数が高い。 こぎ室送じん弁が閉めすぎ。	回転計 こぎ室送じん調節レバー	●回転計をみながら，アクセルレバーで**“作業セット”**位置にする。 ●こぎ室送じん調節レバーを**“開”**の方へ調節する。	33 45
	チャフ(選別板のすきま)が閉めすぎている。	チャフ調節レバー	**【SR-J1・J2】** ●チャフ調節レバーを**“開”**の方向へ調節する。 **【SR-J3・J4・J5・J6・R216S】** ●モミの量により自動的に調節されていますが，いたみが多い場合はチャフ調節レバーを**“開”**の方向に調節する。	46

わらが切れなくなった

すぐにすること	原　因	点検箇所	処　置	参照ページ
●刈取作業を中止して，エンジンを止める。	カッタの刃が切れない。	カッタの刃	●カッタ刃が摩耗していないか点検し，摩耗している場合は交換する。	85
	こぎ深さが深くなりすぎている。	手動こぎ深さスイッチ	●センサアーム(微調整レバー)の調節で脱こく機入口の**“こぎ深さ指示(▼)マーク”**の指示の位置に穂先を合わせる。	34
	カッタ刃のすき間が広い。	刃のすき間	●すき間の調節	85
	わらが，カッタフレームの右側に乗る。	排わら搬送部	●付属部品に入っているバネ板を取付部にあるボルトを外して取付ける。 	—

刈取部(パッカ)で詰まる

すぐにすること	原　因	点検箇所	処　置	参照ページ
●刈取作業を中止して，エンジンを止める。	株元搬送通路に泥やわらくずがたまっている。 (湿田や倒伏作物，雑草の多いほ場で刈取り作業を行なったとき，搬送通路が泥やわらくずでふさがる。)	刈刃の後方やパッカ下部などの搬送通路	●搬送通路に泥やわらくずがたまっている場合は，刈刃に注意して泥やわらくずを取除く。 ●付属部品のスライドカバーを刈刃に取付ける。 ◆取付けかた ❶刈刃を取外します。(**刈刃の点検・調整**の項参照) ❷スライドカバーに取付けているボルト３本を取外し，下図のように刈刃とナイフヘッドにボルト３本で取付けます。  **重　要** ＊ボルトは，付属品以外は使用しないでください。 **補　足** ＊作業前に株元通路や刈刃ケース横などにあるわらくずを必ず取除いてください。	—

付　表

主要諸元

農機型式名			R9701	
商品名			SR-J1	
区分			K	KW
機体寸法	全長(mm)		2660	
	全幅(mm)		1420	
	全高(mm)		1460	
機体質量〔重量〕(kg)			680	690
エンジン	型式名		Z402-C	
	種類		水冷4サイクル2気筒立形ディーゼル	
	総排気量(L{cc})		0.4{400}	
	出力／回転速度(kW{PS}／rpm)		6.3{8.5}／2800	
	使用燃料		ディーゼル軽油	
	燃料タンク容量(L)		14	
	始動方式		セルモータ式	
	バッテリ(V・Ah)		12・27	
走行部	クローラ 幅×接地長(mm)		280×950	330×950
	クローラ 中心距離(mm)		740	730
	クローラ 平均接地圧(kPa{kgf/cm²})		12.6 {0.13}	10.8 {0.11}
	最低地上高(mm)		140	145
	変速方式		油圧シフト	
	変速段数		前進9段・後進3段	
	走行速度(m／s)〔エンジン定格回転速度時〕	前進	低：0.12　0.19　0.24 中：0.21　0.34　0.45 高：0.50　0.81　1.07	
		後進	低：0.14　中：0.24　高：0.57	
	旋回方式		ブレーキターン	
刈取部	刈取り条数(条)		2	
	刈幅〔デバイダ先端間隔〕(mm)		795～845	
	刈取装置形式		往復動刃式	
	刃幅(mm)		750	
	変速段数(段)		2	
	こぎ深さ調節方式		電動モータ式	
脱こく部	脱こく方式		下こぎ・単胴・軸流式	
	こぎ胴	径×幅(mm)	390×430	
	こぎ胴	回転速度(rpm)	510	
	2番還元方式		スクリュ式	
	揺動板	幅×長さ(mm)	440×970	
	選別方式		揺動・圧風・全幅吸引	

農機型式名			R9701	
商品名			SR-J1	
区分			K	KW
こく粒処理部		口数	2	
排わら処理装置		工場出荷仕様	●75㎜切断カッタ：S-10〔標準切断刃〕 ●35㎜切断カッタ：SS-15〔標準切断刃〕	
		ディーラオプション	●カッタ後部ドロッパ：D-15	
諸装置	自動化装置	自動こぎ深さ制御	○	
		自動方向制御	—	
		自動エンジン停止装置	○	
	集中注油装置		○〔手動〕	
	警報装置		負荷，水温，オイル，もみ満杯，カッタ，排わら詰まり	
適応作物範囲〔全長〕(㎜)			550～1200	
倒伏適応性(度)			追刈り：85度以下・向刈り：70度以下	
作業能率〔計算値〕(a/h)			8〈中：3速〉～2〈低：1速〉	

＊この主要諸元は改良のため予告なく変更することがあります。

農機型式名			R9701			
商品名			SR-J2			
区分			K	KW	D	DW
機体寸法	全長(mm)		2660			
	全幅(mm)		1420			
	全高(mm)		1530			
機体質量〔重量〕(kg)			690	700	690	700
エンジン	型式名		Z402-C			
	種類		水冷4サイクル2気筒立形ディーゼル			
	総排気量(L{cc})		0.4{400}			
	出力／回転速度(kW{PS}／rpm)		6.3{8.5}／2800			
	使用燃料		ディーゼル軽油			
	燃料タンク容量(L)		14			
	始動方式		セルモータ式			
	バッテリ(V・Ah)		12・27			
走行部	クローラ 幅×接地長(mm)		280×950	330×950	280×950	330×950
	クローラ 中心距離(mm)		740	730	740	730
	クローラ 平均接地圧(kPa{kgf/cm²})		12.7 {0.13}	10.9 {0.11}	12.7 {0.13}	10.9 {0.11}
	最低地上高(mm)		140	145	140	145
	変速方式		油圧シフト			
	変速段数		前進9段・後進3段			
	走行速度(m／s)〔エンジン定格回転速度時〕	前進	低：0.13 0.21 0.27 中：0.23 0.38 0.50 高：0.56 0.90 1.19			
		後進	低：0.15 中：0.27 高：0.63			
	旋回方式		ブレーキターン			
刈取部	刈取り条数(条)		2			
	刈幅〔デバイダ先端間隔〕(mm)		795～845			
	刈取装置形式		往復動刃式			
	刃幅(mm)		750			
	変速段数(段)		2			
	こぎ深さ調節方式		電動モータ式			
脱こく部	脱こく方式		下こぎ・単胴・軸流式			
	こぎ胴	径×幅(mm)	390×430			
	こぎ胴	回転速度(rpm)	510			
	2番還元方式		スクリュ式			
	揺動板	幅×長さ(mm)	440×970			
	選別方式		揺動・圧風・全幅吸引			

農機型式名			R9701			
商品名			SR-J2			
区分			K	KW	D	DW
こく粒処理部	ホッパ	容量(L{袋})	100{2}〔1袋約50L〕			
		口数	2			
排わら処理装置	工場出荷仕様		●50㎜切断カッタ：S-15〔標準切断刃〕 ●35㎜切断カッタ：SS-15〔標準切断刃〕			
	ディーラオプション		●カッタ後部ドロッパ：D-15			
諸装置	自動化装置	自動こぎ深さ制御	○			
		自動方向制御	—		○	
		自動エンジン停止装置	○			
	集中注油装置		○〔手動〕			
	警報装置		負荷，水温，オイル，もみ満杯，カッタ，排わら詰まり			
適応作物範囲〔全長〕(㎜)			550～1200			
倒伏適応性(度)			追刈り：85度以下・向刈り：70度以下			
作業能率〔計算値〕(a/h)			9〈中：3速〉～2〈低：1速〉			

＊この主要諸元は改良のため予告なく変更することがあります。

農機型式名			R9701							
商品名			SR-J3							
区分			D	DW	DLW	DLW2	HD	HDW	HDLW	SLW
機体寸法	全長(mm)		2660							2630
	全幅(mm)		1420							
	全高(mm)		1530							1600
機体質量〔重量〕(kg)			700	710	720	740	700	710	720	780
エンジン	型式名		Z482-C-2							
	種類		水冷4サイクル2気筒立形ディーゼル							
	総排気量(L{cc})		0.479{479}							
	出力／回転速度(kW{PS}／rpm)		7.7{10.5}／2900							
	使用燃料		ディーゼル軽油							
	燃料タンク容量(L)		14							
	始動方式		セルモータ式							
	バッテリ(V・Ah)		12・27							
走行部	クローラ	幅×接地長(mm)	280×950	330×950	330×1030	400×1030	280×950	330×950	330×1030	400×1015
		中心距離(mm)	740	730		800	740	730		800
		平均接地圧(kPa{kgf/cm²})	12.9 {0.13}	11.1 {0.11}	10.4 {0.11}	8.8 {0.09}	12.9 {0.13}	11.1 {0.11}	10.4 {0.11}	9.8 {0.10}
	最低地上高(mm)		140	145		150	140	145		220
	変速方式		油圧シフト							
	変速段数		前進9段・後進3段							
	走行速度(m／s)〔エンジン定格回転速度時〕	前進	低： 0.15 0.25 0.33 中： 0.28 0.46 0.60 高： 0.67 1.09 1.43							
		後進	低：0.18 中：0.32 高：0.76							
	旋回方式		ブレーキターン							
刈取部	刈取り条数(条)		2							
	刈幅〔デバイダ先端間隔〕(mm)		795～845							
	刈取装置形式		往復動刃式							
	刃幅(mm)		750							
	変速段数(段)		2							
	こぎ深さ調節方式		電動モータ式							
	刈取横スライド量(mm)		135							125
脱こく部	脱こく方式		下こぎ・単胴・軸流式							
	こぎ胴	径×幅(mm)	390×430							
		回転速度(rpm)	510							
	2番還元方式		スクリュ式							
	揺動板	幅×長さ(mm)	440×970							
	選別方式		揺動・圧風・全幅吸引							

農機型式名			R9701							
商品名			SR-J3							
区分			D	DW	DLW	DLW2	HD	HDW	HDLW	SLW
こく粒処理部	ホッパ	容量(L{袋})	100{2}〔1袋約50L〕							
		口数	2							
排わら処理装置	工場出荷仕様		●50㎜切断カッタ：S-15〔標準切断刃〕 ●35㎜切断カッタ：SS-15〔標準切断刃〕**【SLW仕様除く】** ●カッタ後部標準結束機：NK-15SY**【SLW仕様除く】** ●カッタ後部ストンパ結束機：NK-15SR**【SLW仕様除く】**							
	ディーラオプション		●単体標準結束機：NK-15Y　●単体ストンパ結束機：NK-15R ●カッタ+標準結束機：SK-15Y　●カッタ+単体ストンパ結束機：SK-15R ●カッタ後部ドロッパ：D-15　●標準結束機後部寄せ装置：YNK-2							
諸装置	自動化装置	自動こぎ深さ制御	○							
		自動方向制御	—				○		—	
		自動エンジン停止装置	○							
	刈取スライド装置		○〔電動〕							
	集中注油装置		○〔手動〕							
	警報装置		負荷，水温，オイル，もみ満杯，カッタ，排わら詰まり，結束ひも切れ							
適応作物範囲〔全長〕(㎜)			550～1300							
倒伏適応性(度)			追刈り：85度以下・向刈り：70度以下							
作業能率〔計算値〕(a/h)			11〈中：3速〉～3〈低：1速〉							

＊この主要諸元は改良のため予告なく変更することがあります。

＊結束機又は，カッタ＋結束機は，DLWN・HDLWN仕様以外装着できません。

農機型式名			R9701						
商品名			SR-J4						
区分			D	DW	DLW	DLW2	HD	HDW	HDLW
機体寸法	全長(mm)		2660						
	全幅(mm)		1480						
	全高(mm)		1590						
機体質量〔重量〕(kg)			720	730	740	760	720	730	740
エンジン	型式名		D662-C-2						
	種類		水冷4サイクル3気筒立形ディーゼル						
	総排気量(L{cc})		0.656{656}						
	出力／回転速度(kW{PS}／rpm)		8.8{12}／2600						
	使用燃料		ディーゼル軽油						
	燃料タンク容量(L)		14						
	始動方式		セルモータ式						
	バッテリ(V・Ah)		12・27						
走行部	クローラ 幅×接地長(mm)		280×950	330×950	330×1030	400×1030	280×950	330×950	330×1030
	クローラ 中心距離(mm)		740	730		800	740	730	
	クローラ 平均接地圧(kPa{kgf/cm²})		13.3 {0.14}	11.4 {0.12}	10.7 {0.11}	9.0 {0.09}	13.3 {0.14}	11.4 {0.12}	10.7 {0.11}
	最低地上高(mm)		140	145			140	145	
	変速方式		油圧シフト						
	変速段数		前進9段・後進3段						
	走行速度(m／s)〔エンジン定格回転速度時〕	前進	低： 0.18 0.28 0.37 中： 0.32 0.52 0.68 高： 0.76 1.23 1.62						
		後進	低：0.20 中：0.36 高：0.87						
	旋回方式		ブレーキターン						
刈取部	刈取り条数(条)		2						
	刈幅〔デバイダ先端間隔〕(mm)		795～845						
	刈取装置形式		往復動刃式						
	刃幅(mm)		750						
	変速段数(段)		2						
	こぎ深さ調節方式		電動モータ式						
	刈取横スライド量(mm)		135						
脱こく部	脱こく方式		下こぎ・単胴・軸流式						
	こぎ胴	径×幅(mm)	390×430						
		回転速度(rpm)	510						
	2番還元方式		スクリュ式						
	揺動板	幅×長さ(mm)	440×970						
	選別方式		揺動・圧風・全幅吸引						

農機型式名			R9701						
商品名			SR-J4						
区分			D	DW	DLW	DLW2	HD	HDW	HDLW
こく粒処理部	ホッパ	容量(L{袋})	130{約2.5}〔1袋約50L〕						
		口数	2						
排わら処理装置	工場出荷仕様		●50㎜切断カッタ：S-15〔標準切断刃〕 ●35㎜切断カッタ：SS-15〔標準切断刃〕 ●カッタ後部標準結束機：NK-15SY　●カッタ後部ストンパ結束機：NK-15SR						
	ディーラオプション		●単体標準結束機：NK-15Y　●単体ストンパ結束機：NK-15R ●カッタ+標準結束機：SK-15Y　●カッタ+単体ストンパ結束機：SK-15R ●カッタ後部ドロッパ：D-15　●標準結束機後部寄せ装置：YNK-2						
諸装置	自動化装置	自動こぎ深さ制御	○						
		自動方向制御	—				○		
		自動エンジン停止装置	○						
	刈取スライド装置		○〔電動〕						
	集中注油装置		○〔手動〕						
	警報装置		負荷，水温，オイル，もみ満杯，カッタ，排わら詰まり，結束ひも切れ						
適応作物範囲〔全長〕(㎜)			550～1300						
倒伏適応性(度)			追刈り：85度以下・向刈り：70度以下						
作業能率〔計算値〕(a/h)			13〈中：3速〉～3〈低：1速〉						

＊この主要諸元は改良のため予告なく変更することがあります。

＊結束機又は，カッタ＋結束機は，DLWN・HDLWN仕様以外装着できません。

農機型式名		R9701							
商品名		SR-J5							
区分		D	DW	DLW	DLW2	HD	HDW	HDLW	SLW
機体寸法	全長(mm)	2660							2630
	全幅(mm)	1480							
	全高(mm)	1590							1660
機体質量〔重量〕(kg)		720	730	740	760	720	730	740	800
エンジン	型式名	D722-C-5							
	種類	水冷4サイクル3気筒立形ディーゼル							
	総排気量(L{cc})	0.719{719}							
	出力／回転速度(kW{PS}／rpm)	9.6{13}／2600							
	使用燃料	ディーゼル軽油							
	燃料タンク容量(L)	14							
	始動方式	セルモータ式							
	バッテリ(V・Ah)	12・27							
走行部	クローラ 幅×接地長(mm)	280×950	330×950	330×1030	400×1030	280×950	330×950	330×1030	400×1050
	クローラ 中心距離(mm)	740	730		800	740	730		800
	クローラ 平均接地圧(kPa{kgf/cm²})	13.3 {0.14}	11.4 {0.12}	10.7 {0.11}	9.0 {0.09}	13.3 {0.14}	11.4 {0.12}	10.7 {0.11}	9.8 {0.10}
	最低地上高(mm)	140	145		150	140	145		200
	変速方式	油圧シフト							
	変速段数	前進9段・後進3段							
	走行速度(m／s)〔エンジン定格回転速度時〕 前進	低： 0.19 0.31 0.41 中： 0.35 0.57 0.75 高： 0.84 1.36 1.79							
	走行速度(m／s)〔エンジン定格回転速度時〕 後進	低：0.22 中：0.40 高：0.95							
	旋回方式	ブレーキターン							
刈取部	刈取り条数(条)	2							
	刈幅〔デバイダ先端間隔〕(mm)	795～845							
	刈取装置形式	往復動刃式							
	刃幅(mm)	750							
	変速段数(段)	2							
	こぎ深さ調節方式	電動モータ式							
	刈取横スライド量(mm)	135							125
脱こく部	脱こく方式	下こぎ・単胴・軸流式							
	こぎ胴 径×幅(mm)	390×430							
	こぎ胴 回転速度(rpm)	510							
	2番還元方式	スクリュ式							
	揺動板 幅×長さ(mm)	440×970							
	選別方式	揺動・圧風・全幅吸引							

農機型式名			R9701							
商品名			SR-J5							
区分			D	DW	DLW	DLW2	HD	HDW	HDLW	SLW
こく粒処理部	ホッパ	容量(L{袋})	130{約2.5}〔1袋約50L〕							
		口数	2							
排わら処理装置	工場出荷仕様		●50㎜切断カッタ：S-15〔標準切断刃〕 ●35㎜切断カッタ：SS-15〔標準切断刃〕**【SLW仕様除く】** ●カッタ後部標準結束機：NK-15SY**【SLW仕様除く】** ●カッタ後部ストンパ結束機：NK-15SR**【SLW仕様除く】**							
	ディーラオプション		●単体標準結束機：NK-15Y　●単体ストンパ結束機：NK-15R ●カッタ+標準結束機：SK-15Y　●カッタ+単体ストンパ結束機：SK-15R ●カッタ後部ドロッパ：D-15　●標準結束機後部寄せ装置：YNK-2							
諸装置	自動化装置	自動こぎ深さ制御	○							
		自動方向制御	—				○		—	
		自動エンジン停止装置	○							
	刈取スライド装置		○〔電動〕							
	集中注油装置		○〔手動〕							
	警報装置		負荷，水温，オイル，もみ満杯，カッタ，排わら詰まり，結束ひも切れ							
適応作物範囲〔全長〕(㎜)			550～1300							
倒伏適応性(度)			追刈り：85度以下・向刈り：70度以下							
作業能率〔計算値〕(a/h)			14〈中：3速〉～3〈低：1速〉							

＊この主要諸元は改良のため予告なく変更することがあります。

＊結束機又は，カッタ＋結束機は，DLWN・HDLWN仕様以外装着できません。

農機型式名			R9701		
商品名			SR-J6		
区分			DLW	DLW2	HDLW
機体寸法	全長(mm)		2660		
	全幅(mm)		1480		
	全高(mm)		1590		
機体質量〔重量〕(kg)			750	770	750
エンジン	型式名		D782-C-2		
	種類		水冷4サイクル3気筒立形ディーゼル		
	総排気量(L{cc})		0.778{778}		
	出力／回転速度(kW{PS}／rpm)		11{15}／2600		
	使用燃料		ディーゼル軽油		
	燃料タンク容量(L)		14		
	始動方式		セルモータ式		
	バッテリ(V・Ah)		12・27		
走行部	クローラ 幅×接地長(mm)		330×1030	400×1030	330×1030
	クローラ 中心距離(mm)		730	800	730
	クローラ 平均接地圧(kPa{kgf/cm²})		10.8 {0.11}	9.2 {0.09}	10.8 {0.11}
	最低地上高(mm)		150	155	150
	変速方式		油圧シフト		
	変速段数		前進9段・後進3段		
	走行速度(m／s)〔エンジン定格回転速度時〕	前進	低：0.20 0.33 0.44 中：0.37 0.61 0.80 高：0.90 1.45 1.91		
		後進	低：0.23 中：0.43 高：1.01		
	旋回方式		ブレーキターン		
刈取部	刈取り条数(条)		2		
	刈幅〔デバイダ先端間隔〕(mm)		795～845		
	刈取装置形式		往復動刃式		
	刃幅(mm)		750		
	変速段数(段)		2		
	こぎ深さ調節方式		電動モータ式		
	刈取横スライド量(mm)		135		
脱こく部	脱こく方式		下こぎ・単胴・軸流式		
	こぎ胴	径×幅(mm)	390×430		
	こぎ胴	回転速度(rpm)	510		
	2番還元方式		スクリュ式		
	揺動板	幅×長さ(mm)	440×970		
	選別方式		揺動・圧風・全幅吸引		

農機型式名			R9701		
商品名			SR-J6		
区分			DLW	DLW2	HDLW
こく粒処理部	ホッパ	容量(L{袋})	130{約2.5}〔1袋約50L〕		
		口数	2		
排わら処理装置	工場出荷仕様		●50㎜切断カッタ：S-15〔標準切断刃〕 ●35㎜切断カッタ：SS-15〔標準切断刃〕 ●カッタ後部標準結束機：NK-15SY　●カッタ後部ストンパ結束機：NK-15SR		
	ディーラオプション		●単体標準結束機：NK-15Y　●単体ストンパ結束機：NK-15R ●カッタ+標準結束機：SK-15Y　●カッタ+単体ストンパ結束機：SK-15R ●カッタ後部ドロッパ：D-15　●標準結束機後部寄せ装置：YNK-2		
諸装置	自動化装置	自動こぎ深さ制御	○		
		自動方向制御	—		○
		自動エンジン停止装置	○		
	刈取スライド装置		○〔電動〕		
	集中注油装置		○〔手動〕		
	防じんカバー		○		
	警報装置		負荷，水温，オイル，もみ満杯，カッタ，排わら詰まり，結束ひも切れ		
適応作物範囲〔全長〕(㎜)			550～1300		
倒伏適応性(度)			追刈り：85度以下・向刈り：70度以下		
作業能率〔計算値〕(a/h)			15〈中：3速〉～4〈低：1速〉		

＊この主要諸元は改良のため予告なく変更することがあります。

＊結束機又は，カッタ＋結束機は，DLWN・HDLWN仕様以外装着できません。

付属部品

次の部品が付属していますのでお調べください。

＊保証書	1	
＊取扱説明書	1	
＊本機カバー	1	
＊小物部品	1セット	
＊デバイダ	1式	
＊デバイダカバー	1	
＊もみ袋	2	J1を除く
＊スローブローヒューズ(50A)	1	
＊バネ板(102ページ参照)	1	J1を除く
＊スライドカバーアッシ(103ページ参照)	1	J1を除く
＊工具		
工具袋	1	J1, J3SLW, J5SLWを除く
10－12スパナ	1	J1, J3SLW, J5SLWを除く
12－14スパナ	1	J1, J3SLW, J5SLWを除く
17－19スパナ	1	J1, J3SLW, J5SLWを除く
⊕⊖ドライバ	1	J1, J3SLW, J5SLWを除く
プライヤ	1	J1, J3SLW, J5SLWを除く
油差し	1	J3SLW, J5SLWを除く
＊じょうご(ビニールホース付)	1	
＊給油パイプ	1	

オプション(別売品)
(純正品を使いましょう)

◆刈取部

■スイスイデバイダ

品　番	品　名
5H290-00000	SRM-Jスイスイデバイダ

◆脱こく部

■作業灯

"脱こく部入口"と"もみ袋部"を照明する作業灯です。

品　番	品　名
5H215-9201-0	ランプ，アッシ(サギョウトウ)

■キャノピ【J2・J3・J4・J5・J6・R216S】

日よけ，雨よけ装置です。

品　番	品　名
5H292-00000	CP-J3キャノピ

◆排わら処理部

■カッタ後付けドロッパ

品　番	品　名
57256-00000	D-15 ドロッパ

■単体標準結束機

【J3・J4・J5・J6・R216S】

品　番	品　名
57178-00000	NK-15Y

※LWN仕様のみ

■単体ストンパ結束機

【J3・J4・J5・J6・R216S】

品　番	品　名
57183-00000	NK-15R

※LWN仕様のみ

■カッタ+標準結束機

【J3・J4・J5・J6】

品　番	品　名
57905-00000	SK-15Y

※LWN仕様のみ

■カッタ+ストンパ結束機

【J3・J4・J5・J6】

品　番	品　名
57909-00000	SK-15R

※LWN仕様のみ

■カッタ後部標準結束機【R216S】

品　番	品　名
57965-00000	NK-15SY

※LWN仕様のみ

■カッタ後部ストンパ結束機【R216S】

品　番	品　名
57989-00000	NK-15SR

※LWN仕様のみ

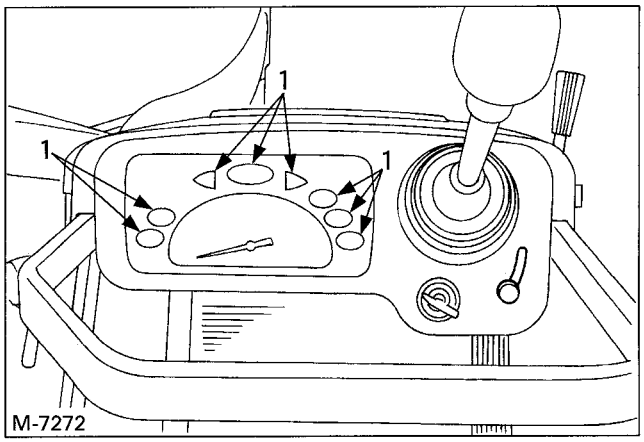
■標準結束機後部寄せ装置

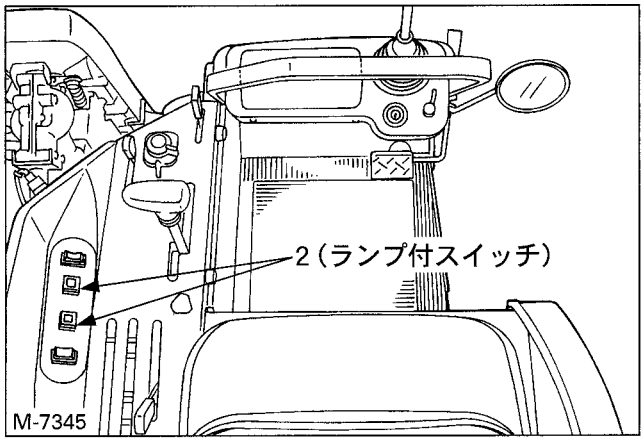
【J3・J4・J5・J6・R216S】

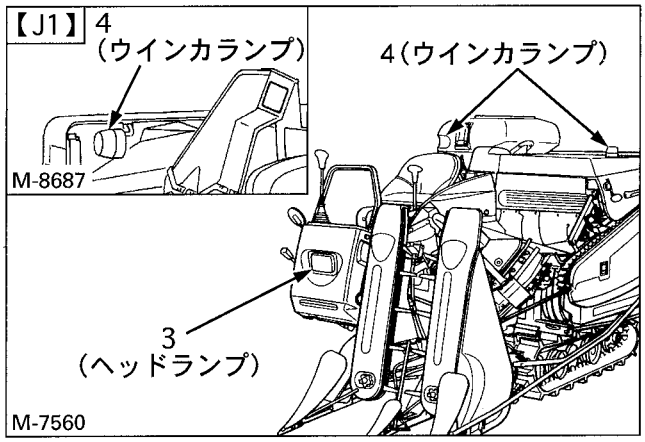
品　番	品　名
57857-00000	YNK-2

消耗部品
(純正部品を使いましょう)

◆ランプ(電球)

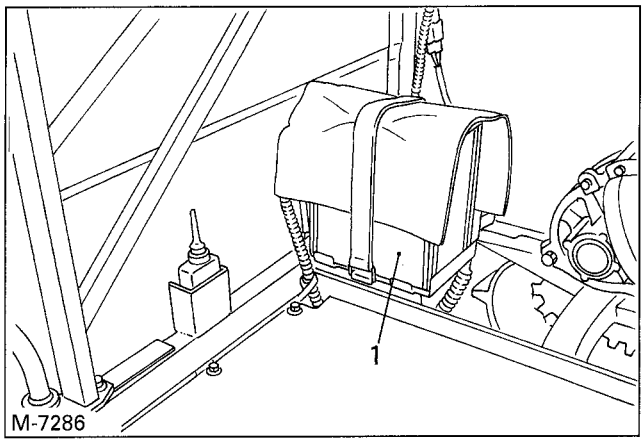






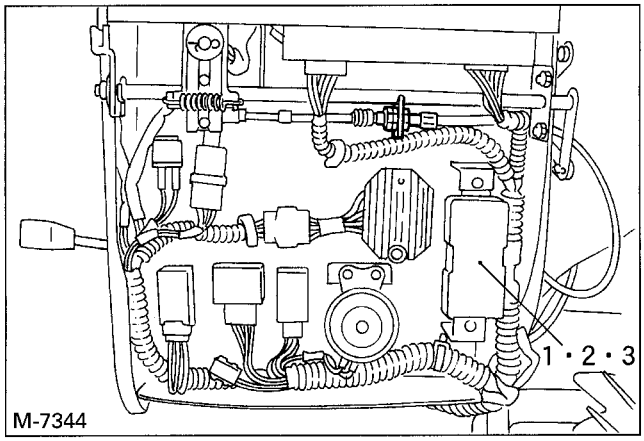
図番	品　　名	品　　番	対象型式
1	バルブ	52300-4142-0	全型式
2	ランプバルブ	5H215-4121-0	
3	ランプバルブ	5H215-4172-0	
4	ランプバルブ	36200-7517-0	

◆バッテリ



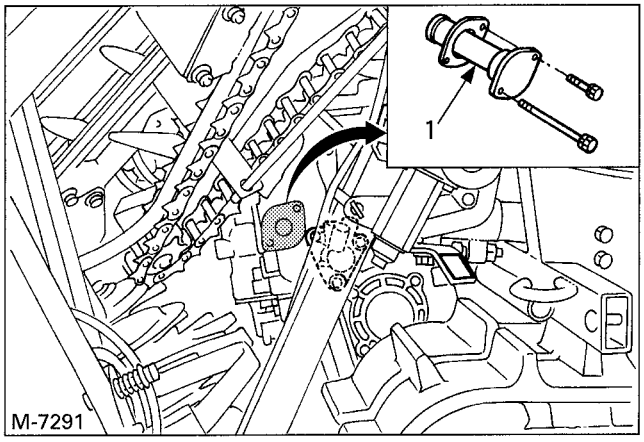
図番	品　　名	品　　番	対象型式
1	バッテリ(34B19L-MF)	5H215-4191-0	全型式

◆ヒューズ



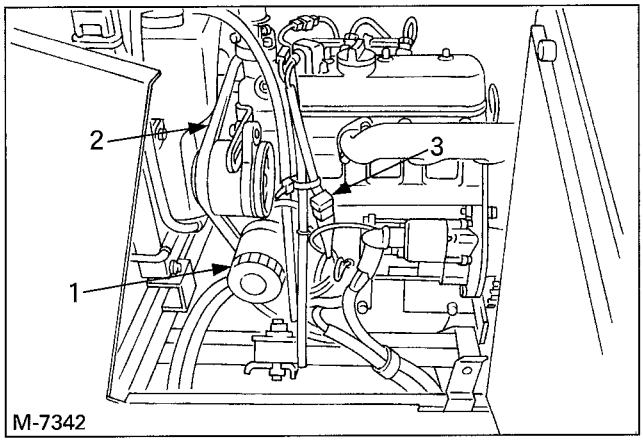
図番	品　　名	品　　番	対象型式
1	10Aオートヒューズ	36730-7555-0	全型式
2	15Aオートヒューズ	35820-7556-0	
3	20Aオートヒューズ	36919-5665-0	

◆ミッションオイルフィルタ



図番	品　　名	品　　番	対象型式
1	オイルフィルタ	59240-1531-0	全型式

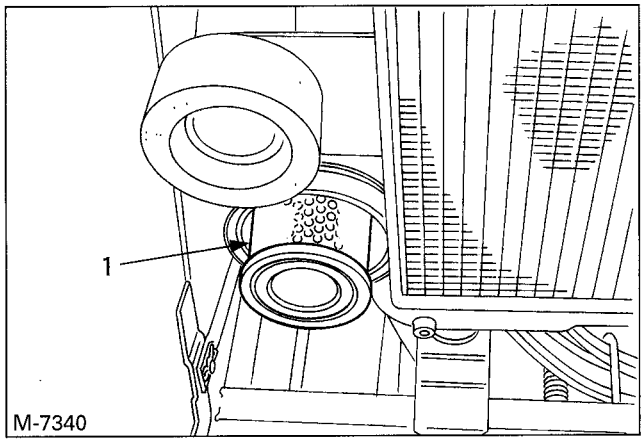
◆オイルフィルタカートリッジ
◆ファンベルト
◆スローブローヒューズ



M-7342

図番	品　　名	品　　番	対象型式
1	フィルタ(オイル, カートリッジ)	15853-9917-0	全型式
2	34.5ブイベルト	15881-9701-0	J1·J2·J3·J4
	Vベルト(35.0)	16883-9701-0	J5·J6·R216S
3	スローブローヒューズ	34670-3453-0	全型式

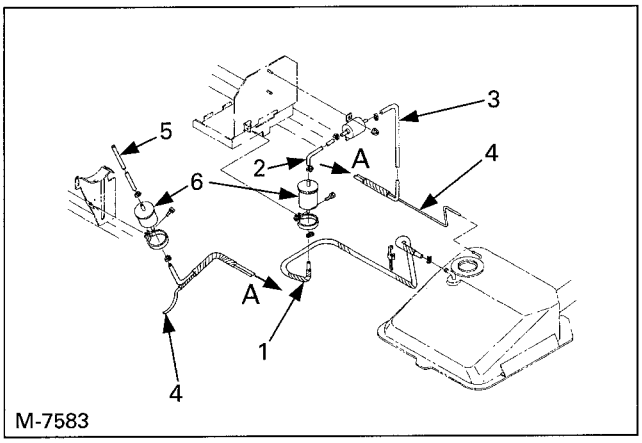
◆エアクリーナエレメント



M-7340

図番	品　　名	品　　番	対象型式
1	エレメント, アッシ	6A100-8263-0	全型式

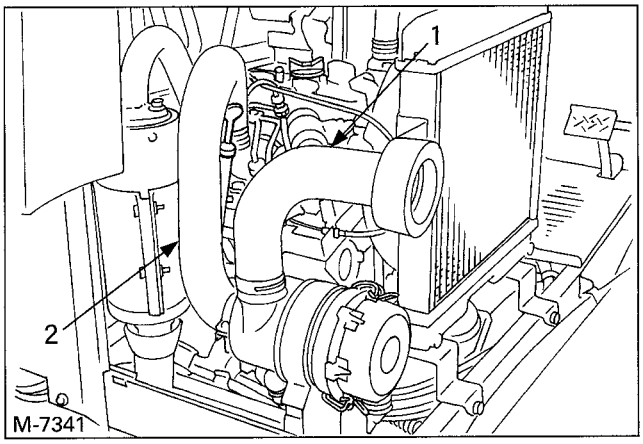
◆フューエルパイプ
◆フューエルフィルタアッシ



M-7583

図番	品　　名	品　　番	対象型式
1	フューエルチューブ	09661-70750	全型式
2	フューエルチューブ	09661-70110	
3	フューエルチューブ	09661-71500	
4	フューエルチューブ	09661-42000	
5	フューエルチューブ	09661-70220	
6	フューエルフィルタアッシ	12581-4301-2	

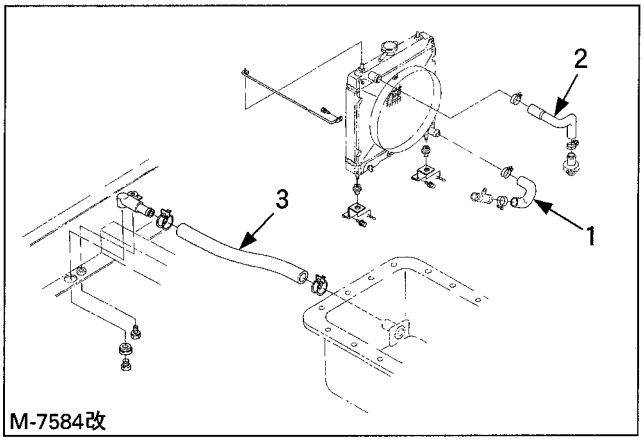
◆インレットパイプ



M-7341

図番	品　　名	品　　番	対象型式
1	チューブ (インレットパイプ1)	5H215-2542-2	J1·J2·J3
		5H235-2542-2	J4·J5·J6·R216S
2	チューブ (インレットパイプ2)	5H215-2543-3	J1·J2·J3
		5H235-2543-0	J4·J5·J6·R216S

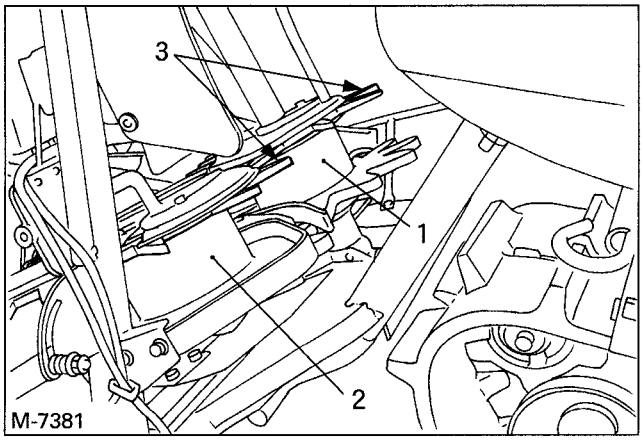
◆ラジエータホース，オイルドレーンゴムホース



図番	品名	品番	対象型式
1	ホース(ウオータパイプ1)	52170-2539-0	全型式
2	ホース(ウオータパイプ2)	52170-2544-0	
3	チューブ(ハイユ)	52170-2591-0	J1・J2・J3
		5H235-2591-0	J4・J5・J6・R216S

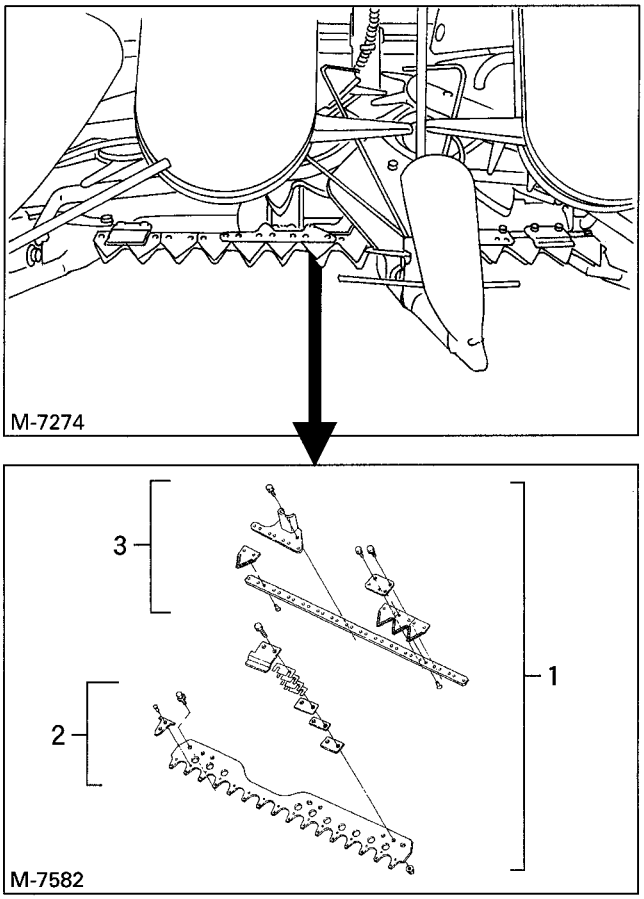
◆パッカ

◆補助搬送(突起付)ベルト



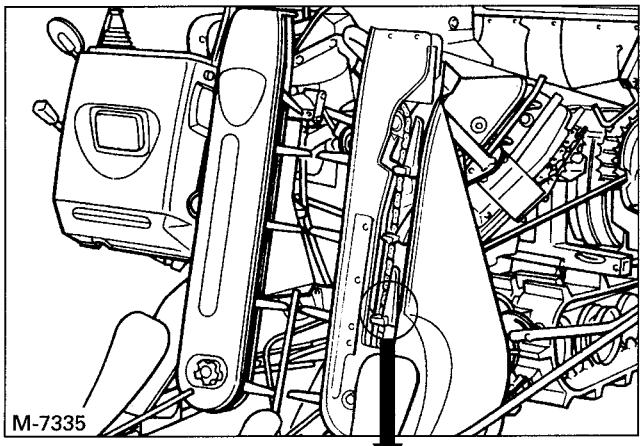
図番	品名	品番	対象型式
1	パッカ (R)	5H215-6121-0	全型式
2	パッカ (L)	5H215-6115-0	
3	ベルト(32.トッキ)	5H215-6181-0	

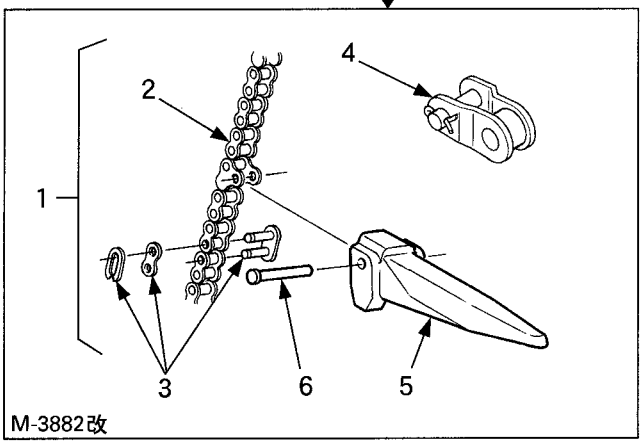
◆刈刃

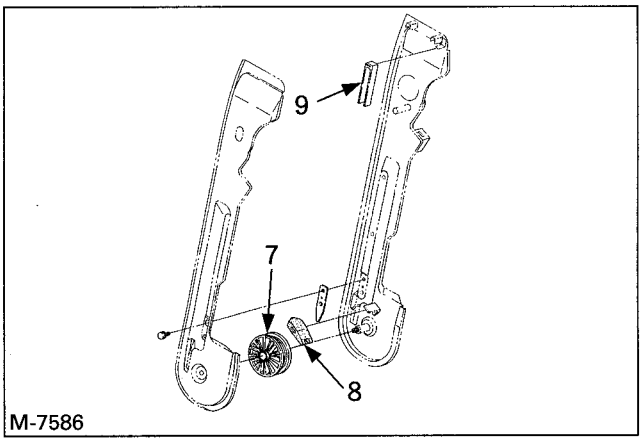


図番	品名	品番	対象型式
1	刈刃アッシ	5H215-5820-0	全型式
2	受刃コンプ	5H215-5830-0	
3	刈刃コンプ	5H215-5840-0	

◆引起しチェーン
◆引起し110ローラ・ゴム

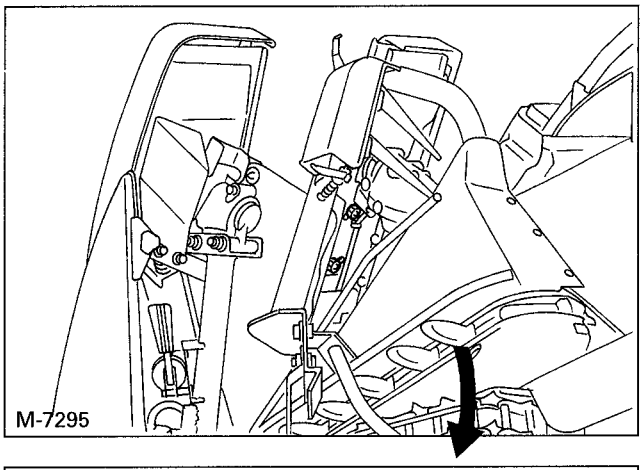


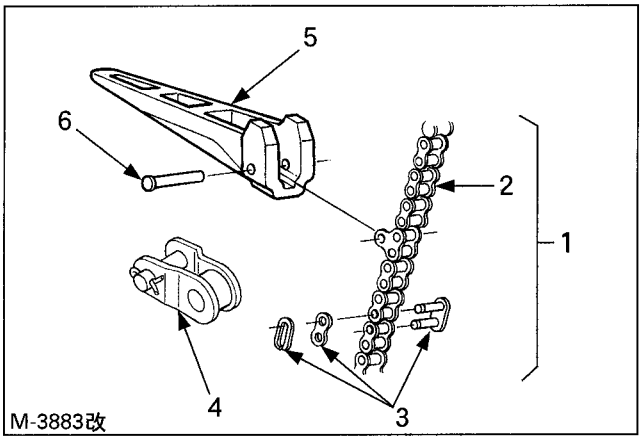




図番	品名	品番	対象型式
1	チェーン，アッシ(ヒキオコシ)	5H215-5301-0	全型式
2	チェーン(ヒキオコシ)	5H215-5320-0	
3	チェーンツギテ(415M)	5H215-9241-0	J1·J2·J3
	415チェーンツギテ	55411-4644-0	J4·J5·J6·R216S
4	415オフセット(半コマ)ツギテ	55411-9241-0	全型式
5	引起し爪	56713-5422-0	
6	爪取付ピン	56713-5431-2	
7	110ローラ	52300-5313-0	
8	ゴム(ツメオコシ)	5H215-5328-0	
9	ゴム(ツメアタリ)	5H215-5333-0	

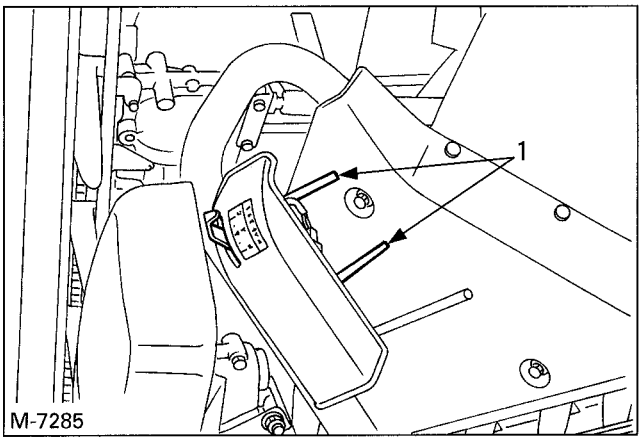
◆株元穂先チェーン





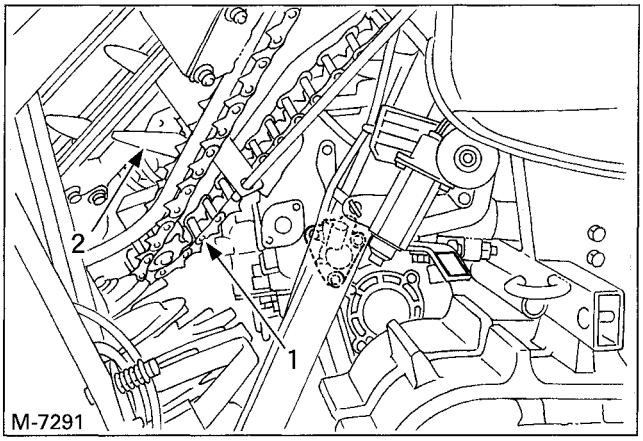
図番	品名	品番	対象型式
1	チェーン，コンプ(ホサキ)	5H215-6670-0	全型式
2	チェーン，アッシ(ホサキ)	5H215-6680-0	
3	415Mチェーンツギテ	5H215-9241-0	
4	415Mオフセット(半コマ)ツギテ	55411-9241-0	
5	搬送爪	55411-6362-0	
6	穂先爪ピン	56713-5431-2	

◆穂先センサ



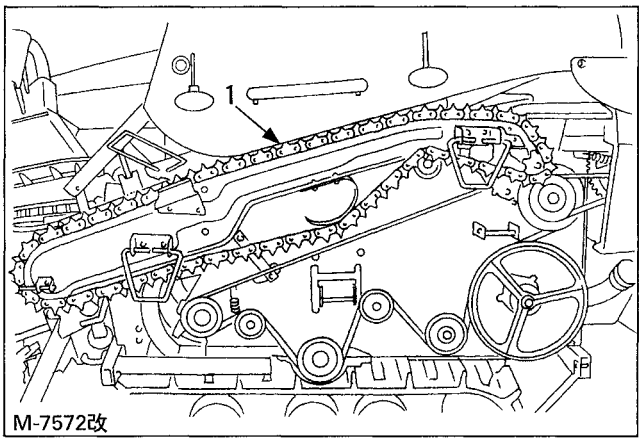
図番	品名	品番	対象型式
1	センサ，アッシ(ホサキ)	5H215-7530-0	全型式

◆供給株元チェーン
◆株元センサ



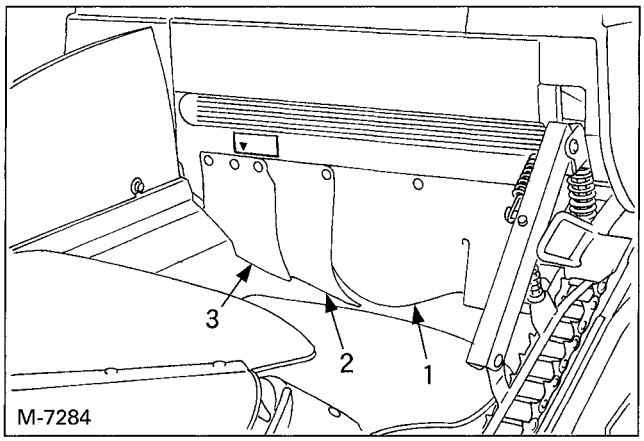
図番	品名	品番	対象型式
1	チェーンアッシ(キョウキュウ)	5H215-6620-0	全型式
2	ホサキセンサアッシシタ	56713-9560-0	

◆フィードチェーン



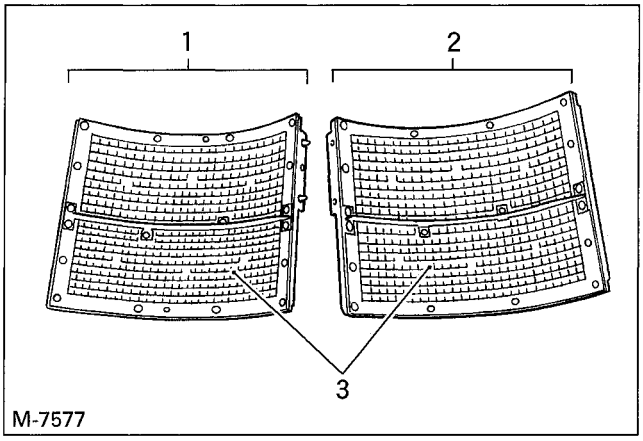
図番	品名	品番	対象型式
1	チェーン(フィード,85L)	53696-4212-0	全型式

◆脱こく入口ハンプ



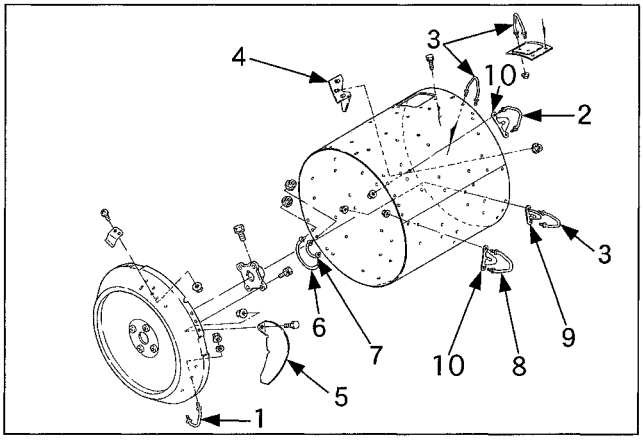
図番	品名	品番	対象型式
1	パンプ(1, フロント)	53696-6121-0	全型式
2	パンプ(2, フロント)	53696-6122-0	
3	パンプ(3, フロント)	53696-6123-0	

◆樹脂受あみ



図番	品名	品番	対象型式
1	コンケーブ,アッシ(1)	53696-2101-0	J1·J2·J3
		53698-2101-0	J4·J5·J6·R216S
2	コンケーブ,アッシ(2)	53696-2102-0	J1·J2·J3
		53698-2102-0	J4·J5·J6·R216S
3	コンケーブ(9+11.5)	53696-2122-0	J1·J2·J3
	コンケーブ(10+11.5+13)	53698-2122-0	J4·J5·J6·R216S

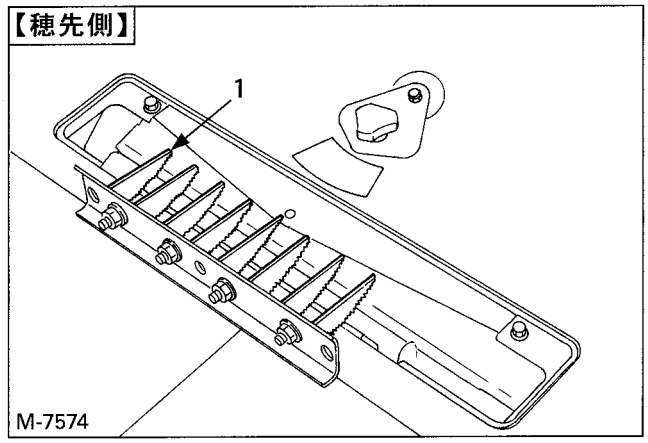
◆こぎ歯



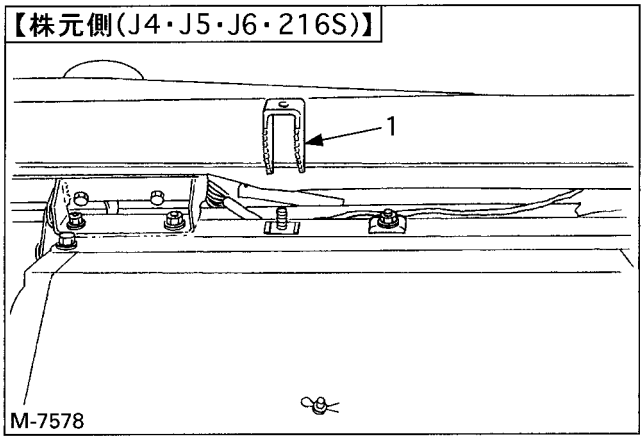
図番	品名	品番	対象型式
1	ダイ1セイソシ	53582-7212-0	全型式
2	ダイ2ホキョウシ	53582-7217-0	
3	ナミハ	53582-7219-0	
4	プレート(コキハ)	53696-2215-0	
5	イタセイソシ	53567-2145-0	
6	ダイ3セイソシ	53582-7214-0	
7	ダイ3セイソシ ショウ	53514-7215-0	
8	ダイ1ホキョウシ	53582-7216-0	
9	イタホキョウシ	53567-2146-0	
10	イタコキハ	53567-2147-0	

◆わら切刃

【穂先側】



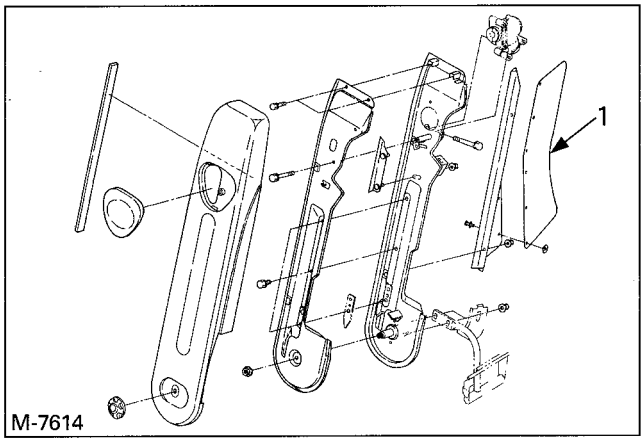
【株元側(J4・J5・J6・216S)】



図番	品　　名	品　　番	対象型式
1	ワラキリハ	53567-1319-0	全型式

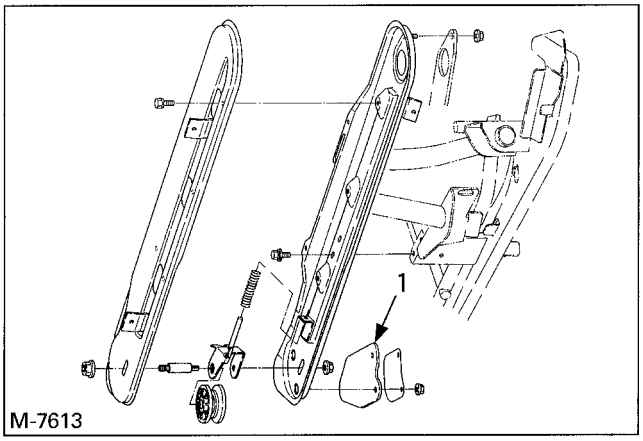
◆ハンプ

●引起しフレーム左側



図番	品　　名	品　　番	対象型式
1	ハンプ(1.アンナイ)	5H215-5329-0	全型式

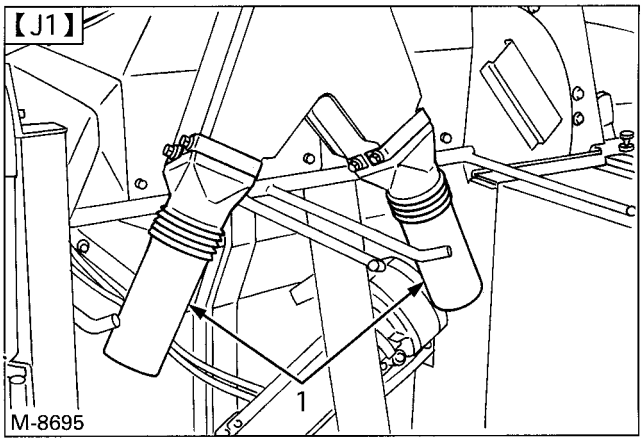
●供給穂先フレーム



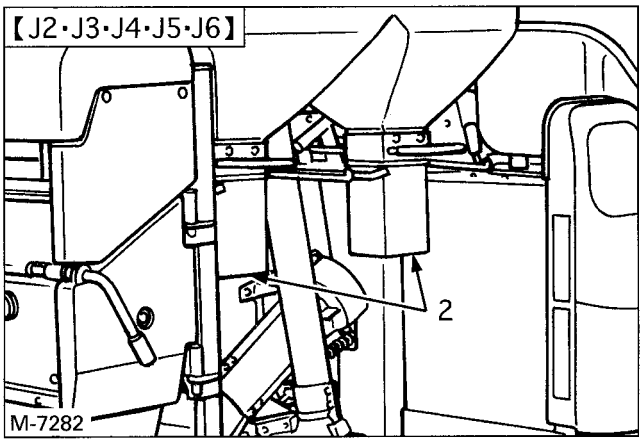
図番	品　　名	品　　番	対象型式
1	ハンプ(ホサキ)	5H215-6685-0	全型式

◆吐出口ブーツ

【J1】

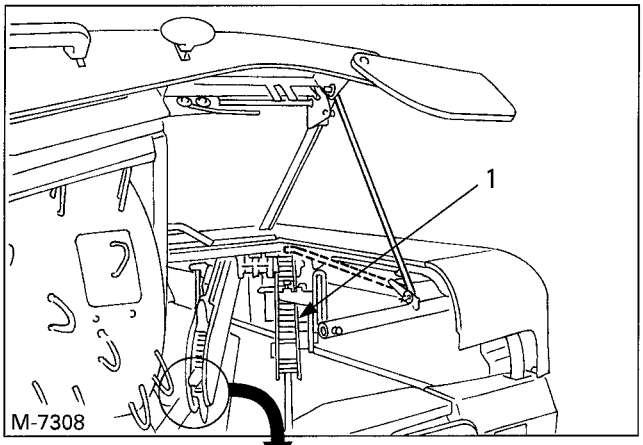


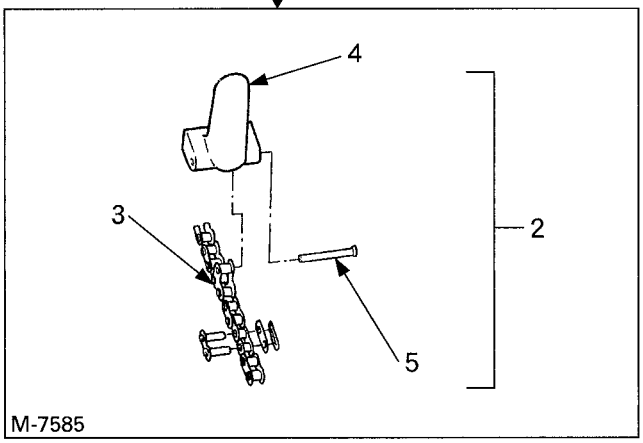
【J2・J3・J4・J5・J6】



図番	品　　名	品　　番	対象型式
1	ブーツ	53694-5514-0	J1
2	ブーツ(ホッパ)	53696-5323-0	J2・J3・J4・J5・J6

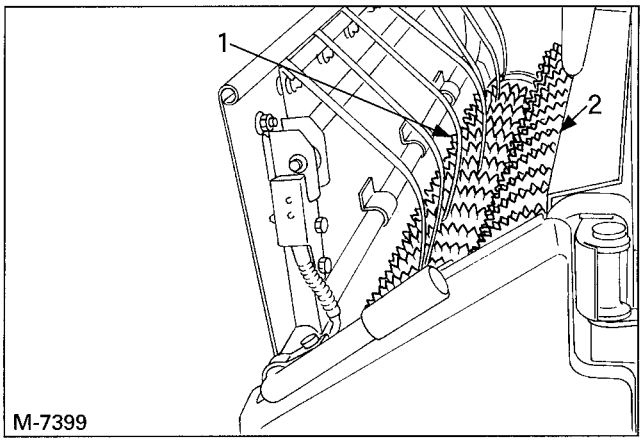
◆排わら株元チェーン
◆排わら穂先チェーン





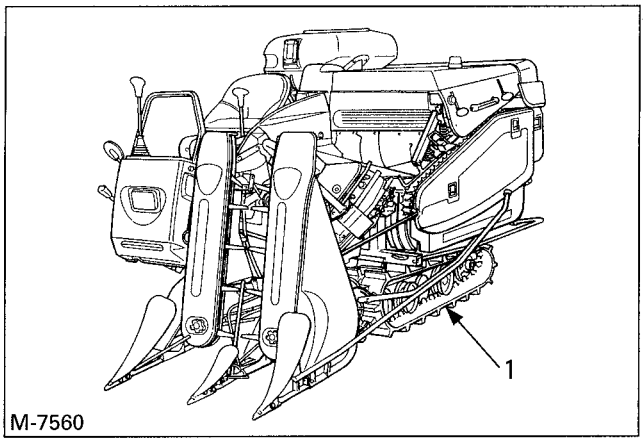
図番	品名	品番	対象型式
1	チェーン(ハイワラ)	53696-4319-0	全型式
2	チェーン,アッシ(ハイワラホサキツメ)	53696-4340-0	
3	チェーン,アッシ(ハイワラホサキ)	53696-4341-0	
4	搬送爪	53961-4421-0	
5	穂先爪ピン	55411-6363-0	

◆カッタ刃



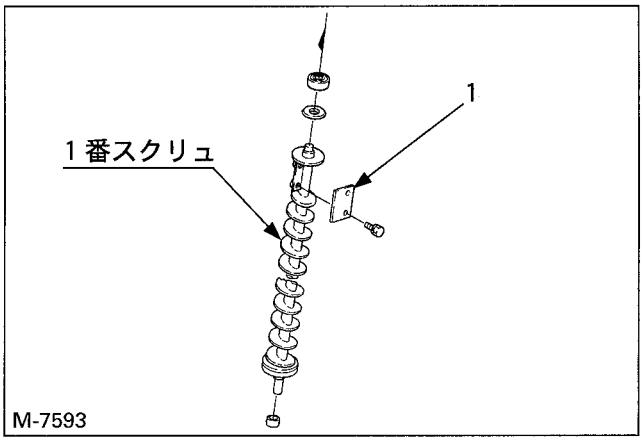
図番	品名	品番	対象型式
1	セツダンバ(130)	57775-2223-0	全型式
2	ロータ(130, ギヤ)	57764-2115-0	

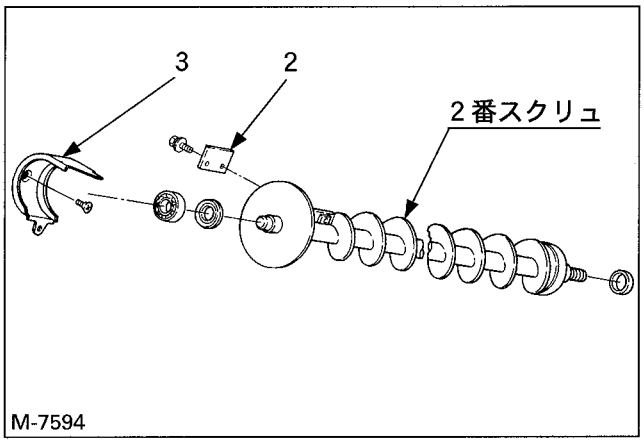
◆クローラ



図番	品名	品番	対象型式
1	クローラ(280－34)	5H215-2151-0	標準
	クローラ(330－34)	5H216-2151-0	W
	クローラ(330－36)	5H217-2151-0	LW
	クローラ(400－36)	5H213-2151-0	W2

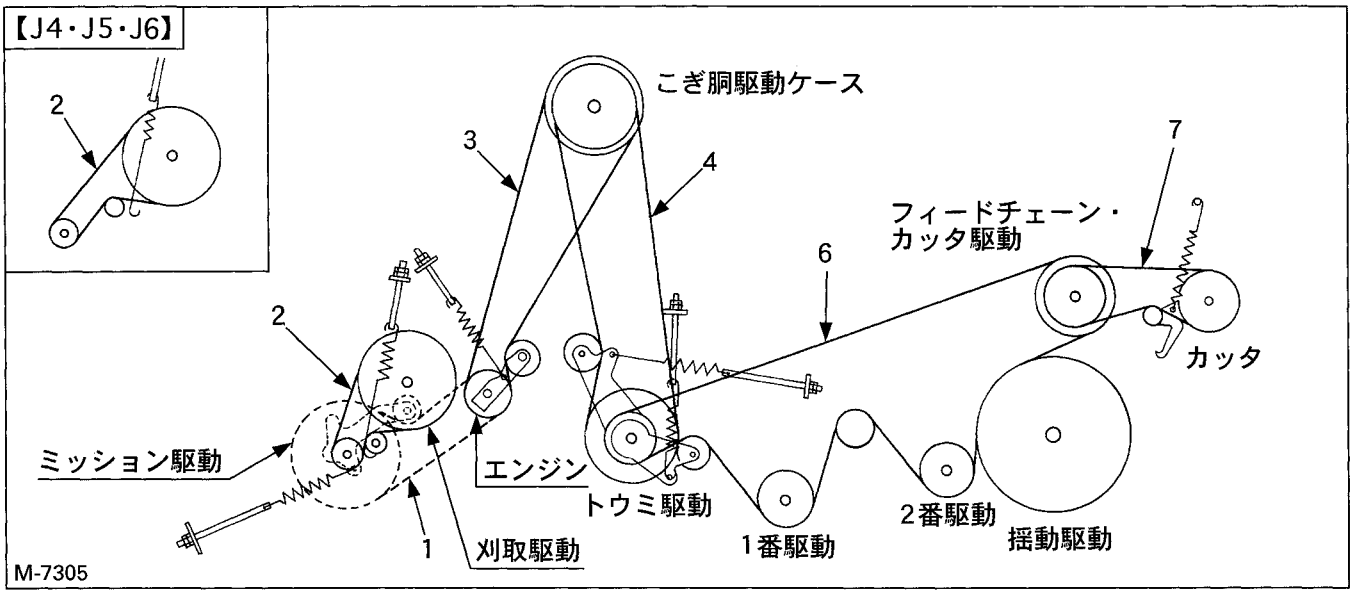
◆1・2番ハネ
◆2番ライナ

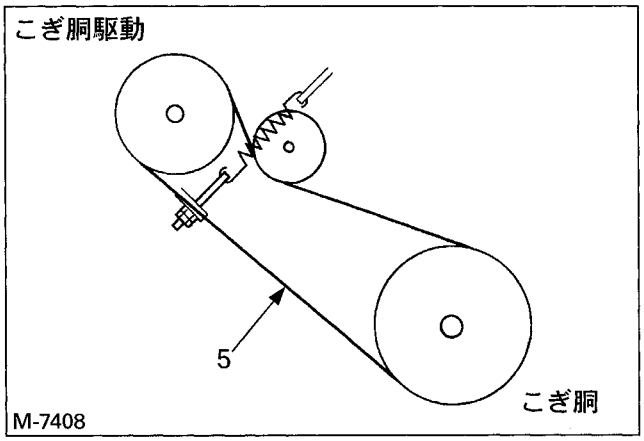




図番	品名	品番	対象型式
1	プレート(1バンハネ)	53696-5212-0	J2・J3・J4・J5・J6・R216S
2	プレート(2バンハネ)	53696-3152-0	全型式
3	カナグ(2, 2バンライナ)	53696-3158-2	

■ベルト関係





	図番	品　　名	品　　番	対象型式
刈取部周辺 運転席・	—	ファンベルトは121ページ参照		
	1	Vベルト(B41)	5H200-1145-0	J1・J2
		Vベルト(B42)	5H215-1145-0	J3
		Vベルト(B42)	5H249-1145-0	J3SLW
		Vベルト(B39)	5H225-1145-0	J4・R216S
		Vベルト(B40)	5H235-1145-0	J5・J6
	2	Vベルト(A30)	5H249-1275-0	J3SLW
		Vベルト(A33)	5H215-1275-0	J1・J2・J3・R216S
		Vベルト(A37)	5H259-1275-0	J5SLW
		Vベルト(A38)	5H235-1275-0	J4・J5・J6
カッタ部周辺 脱こく部・	3	Vベルト(特B76)	5H215-1215-0	J1・J2・J3
		Vベルト(特C76)	5H235-1215-0	J4・J5・J6・R216S
	4	Vベルト(特B76)	53696-6512-0	全型式
	5	Vベルト(特C50)	53696-6513-0	J1・J2・J3
			53698-6513-0	J4・J5・J6・R216S
	6	Vベルト(特B108)	53696-6514-0	全型式
	7	Vベルト(特B39)	57764-4119-0	

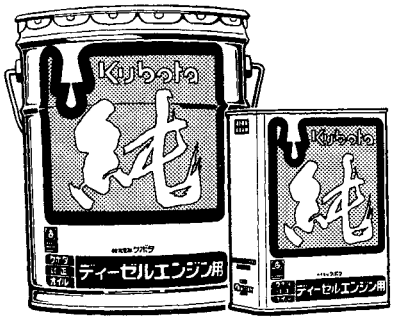
クボタ純オイル

■オイルは クボタ純オイル をお使いください。

オイルは，コンバインの開発研究から生まれたクボタ純オイルを，必ずお使いください。
市販のオイルをご使用になりますと，あなたの大切なコンバインの寿命を縮めることがあります。

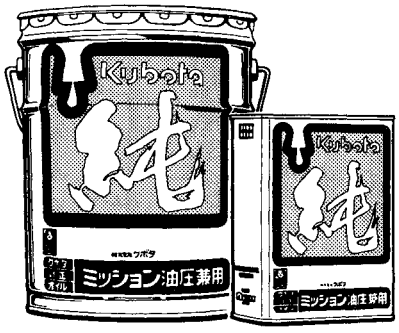
お買求めは，販売店またはＪＡ農協へご用命ください。

●D30又はD10W30（ディーゼルエンジン用）



Z-1025　20ℓ　4ℓ

●M80B（ミッション油圧兼用）

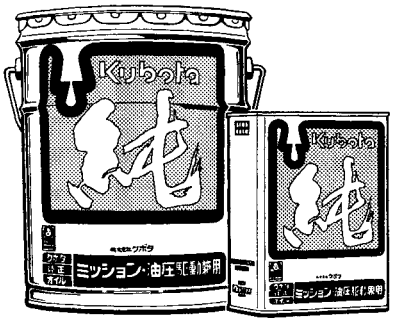


Z-1024　20ℓ　4ℓ

●M90（一般ミッション・各ギヤ用）

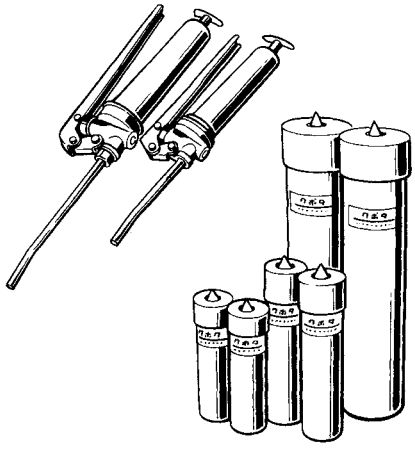
Z-1023　20ℓ　4ℓ

●スーパーUDT（油圧駆動・ミッション油圧兼用）



Z-1021　20ℓ　4ℓ

■クボタスペアグリース



Z-1026　60　100　400

修理・取扱い・手入れなどでご不明の点はまず，購入先へ　ご相談ください

おぼえのため，記入されると便利です

購入先名　　担当　　電話（　　）　　ー		
ご購入日	型式名	区分
車台番号(製造番号)	エンジン型式　　エンジン番号	

万一購入先でご不明の点がございましたら，下記にお問合わせください。

株式会社クボタ

機械札幌事務所：電(011)662-2121　〒063-0061　札幌市西区西町北16丁目１番１号
機械東日本事務所：電(048)862-1121　〒338-0832　さいたま市浦和区西堀５丁目２番36号
機械西日本事務所：電(0722)41-8506　〒590-0806　堺市緑ヶ丘北町１丁１番36号
機械福岡事務所：電(092)606-3161　〒811-0213　福岡市東区和白丘２丁目２番76号

クボタ機械サービス株式会社

本社営業技術部：電(0722)41-8092　〒590-0823　堺市石津北町64番地
北海道営業技術推進部：電(011)662-2121　〒063-0061　札幌市西区西町北16丁目１番１号
秋田営業技術推進部：電(0188)45-1601　〒011-0901　秋田市寺内字大小路207-54
仙台営業技術推進部：電(022)384-5162　〒981-1221　名取市田高字原182番地の１
東京営業技術推進部：電(048)862-1124　〒338-0832　さいたま市浦和区西堀５丁目２番36号
新潟営業技術推進部：電(025)285-1261　〒950-0992　新潟市上所上１丁目14番15号
金沢営業技術推進部：電(0762)75-1121　〒924-0038　松任市下柏野町956-１
名古屋営業技術推進部：電(0586)24-5111　〒491-0031　一宮市観音町１番地の１
大阪営業技術推進部：電(0722)41-8550　〒590-0806　堺市緑ヶ丘北町１丁１番36号
米子営業技術推進部：電(0859)33-5011　〒683-0804　米子市米原７丁目１番１号
岡山営業技術推進部：電(086)279-4511　〒703-8216　岡山市宍甘275番地
高松営業技術推進部：電(0878)74-5091　〒769-0102　香川県綾歌郡国分寺町国分字向647-３
福岡営業技術推進部：電(092)606-3725　〒811-0213　福岡市東区和白丘２丁目２番76号
熊本営業技術推進部：電(096)357-6181　〒861-4147　熊本県下益城郡富合町大字廻江846-１

株式会社クボタアグリ東日本

東北系統推進部：電(0188)45-1601　〒011-0901　秋田市寺内字大小路207-54
関東・甲信越系統推進部：電(048)862-1124　〒338-0832　さいたま市浦和区西堀５丁目２番36号

株式会社クボタアグリ西日本

中部・近畿系統推進部：電(0722)41-8550　〒590-0806　堺市緑ヶ丘北町１丁１番36号
中四国系統推進部：電(0878)74-5091　〒769-0102　香川県綾歌郡国分寺町国分字向647-３

株式会社クボタアグリ九州

九州系統事業推進部：電(092)606-3725　〒811-0213　福岡市東区和白丘２丁目２番76号

SR-J1・J2・J3・J4・J5・J6・R216S
AF．△．13－15．20．AK

安全はクボタの願い

このマークは「お客様」「ディーラ」「クボタ」の三者
が一体となって安全宣言を行うための統一マークです。

株式会社クボタ

本　社　　大阪市浪速区敷津東１丁目２番47号　　〒556-8601

品番 5H235－8542－5

Kubota